

平成13年度(財)社会安全研究財団助成調査研究報告書

青少年の人間関係に関する 調査研究報告書

2002年3月

青少年人間関係調査研究会

(代表 矢島正見)

目次

第I部 調査の概要

1. 調査実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・横山 実 (1)
2. 調査結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・横山 実 (4)

第II部 調査結果

1. 家庭環境 (問B)、生活習慣 (問C)、コミュニケーション能力 (問F)・・・丸 秀康 (13)
2. 交友関係 (問D)、近隣関係 (問E)・・・・・・・・・・・・中條晋一郎 (21)
3. 性格特性 (問G)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・加藤弘通 (27)
4. マナー違反 (問H)、他者の視線 (問I)、恥の意識と注意されたとき
の行動 (問J)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・横山 実 (45)
5. 規範意識 (問K)、逸脱行動 (問L)・・・・・・・・・・・・梅澤秀監 (54)
6. 学校適応状況 (問M)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山本 功 (65)
7. 作業仮説の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・横山 実 (102)

第III部 付録

1. 調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(111)
2. 基礎集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(117)

第 I 部 調査の概要

第1章 調査概要

I. 調査実施概要

私たちの青少年人間関係調査研究会は、矢島正見の呼びかけによって組織された。矢島は青少年問題の専門家として、これまで多くの研究業績をあげているが、今回は、現代社会において青少年がどのような人間関係を持っているのか、そして、それが非行やマナー違反行動といった逸脱行動の背景としてどれほどの重要性があるのか、という問題意識をもち、研究会を組織した。呼びかけに呼応した共同研究者は、この問題意識を共有して調査を行った。この調査は、矢島の以下のような理論仮説に基づいて、実施されたのである。

1. 理論仮説

平成13年の成人式は、式場のおしゃべりが新聞をにぎわせた。大学でも講義中のおしゃべりに悩まされているのが現状である。街では、地べたにべったりと座り込む若者たち、電車内で平気に化粧をする女の子たち、そして人が見ていようがかまわずタバコを吸う未成年の若者たち。

これらの青少年に共通することは、他人の目を気にしていない、ということである。言い換えれば、他者は自分にとってどうでもよい存在、ということである。狭い日本、第三者はどこにいても存在する。にもかかわらず、今の青少年にとっては、その第三者は配慮する・気配りする存在になっていない。それゆえに、人前で何をしようと、一向に恥という自己規制が湧いてこないのである。

矢島は、こうした状況を「ヨソ様の喪失」として位置づけている。人は第三者に対しては「ヨソ様」と「ヨソ者」に分けて、自己との関係付けをする。このヨソ様こそ、「世間」を構成し、「世間体」という行動規範を形成し、その規範から外れた際には、「恥」というペナルティを人に与えるのである。

しかし、ヨソ者は世間を構成しない。ヨソ者に対しては、人は世間体を気にする必要がない。よって何をしても恥を感じることはない。「旅の恥はかき捨て」である。

また、ヨソ様に対しては共感性をもつことがない。よって、ヨソ者に同情することもないし、気に食わないヨソ者であれば、排除しても暴力を行使しても、仲間（ミウチ）や尊敬する人（ヨソ様）は大事にし、助言にはよく耳を傾けるが、ヨソ者の助言はムカつくだけである。そしてヨソ者にムカついたら、プツンして当たり前である。

こう考えると、第三者に対しての人間関係において「ヨソ者の喪失（世間体の喪失、恥の喪失）」という時代状況が青少年全般に蔓延し、そのなかで、平気で逸脱し、人を傷つけるという非行が出現している、という理論仮説を提示することができる。

今までの非行調査では、非行少年の人間関係ではミウチに視点が集中していた。つまり、仲間、親、きょうだい、教師、等である。しかし、この仮説では、親しいミウチではなく、第三者に対しての人間関係に視点を当てる。このことは、親しい人間関係の問題が原因で非行に走るという従来の考えから脱却し、第三者に対しての人間関係において世間を喪失させているから非行に走る、という新しい視座を設定するということである。

2. 調査の企画および実施

青少年人間関係調査研究会の構成員である調査者たちは、矢島の上記の理論仮説について議論した後、平成13年7月から質問票作成の作業にとりかかった。そして、数回の会合を開いて、調査票を検討した。また、その作業と平行して、調査対象校を選定して、それぞれの学校に調査の協力を依頼した。そのような準備の後で、平成13年10月から11月にかけて、中学校9校、高等学校6校において調査を実施したのである。

3. 調査方法

1) 調査対象の選定

大都市には、匿名性という地域特性があるので、他人をヨソ者視する度合いは、農村地域よりも高いと思われる。その観点から、今回の調査では、東京とその周辺の地域を調査対象地に選定した。調査を依頼する学校は、男女共学の公立学校とした。学校の選定にあたっては、厳密なサンプリングが出来なかったけれども、代表性を大きく損なわないように注意した。調査協力の依頼をして、最終的に調査を実施できた学校は、中学校が9校（東京都が4校、神奈川県が5校）、高等学校が6校（東京都が4校、茨城県が2校）であった。

2) 質問票による調査方法

調査対象校に事前に調査について説明して、調査票を郵送した。調査対象校では、2年のクラス担任教師に、授業時において、そのクラスの全生徒に調査票を配布してもらった。その上で、無記名の質問紙法による教室内の集団調査を実施してもらった。調査に際しては、秘密保持のために、生徒には、調査票を記入した後、配布した封筒に入れて密封の上、提出してもらった。

3) 分析対象のサンプル数

分析にあたっては、無回答が多いなどという不適切な調査票を除いた。その結果、分析の対象としたサンプル数は、中学生が1001名（男子が510名、女子が491名）、高校生が547名（男子が260名、女子が287名）である。中学生と高校生では、サンプル数に大きな違いがあるので、分析は、両者別々に行うことにした。

サンプル数

中学生男子	510
中学生女子	491
高校生男子	260
高校生女子	287
全体	1548

4. 調査実施者

本調査に携わった者は、以下の通りである。

調査研究委員

- | | |
|---------|----------------|
| 代表 矢島正見 | (中央大学文学部教授) |
| 麦島文夫 | (元帝京大学文学部教授) |
| 横山 実 | (國學院大學法学部教授) |
| 山本 功 | (淑徳大学社会学部専任講師) |
| 丸 秀康 | (國學院大學兼任講師) |
| 梅澤秀監 | (東京都立羽田高等学校教諭) |

作業調査委員

- | | |
|-------|------------------|
| 加藤弘通 | (中央大学大学院博士後期課程) |
| 中條晋一郎 | (國學院大學大学院博士後期課程) |

なお、本報告書の執筆分担は、以下の通りである（研究代表者の矢島は、病気のために、執筆できなかったが、理論仮説の文章は、矢島が執筆したものである）。

I 部

1. 調査実施概要・・・横山実
2. 調査結果概要・・・横山実

II 部

1. 家庭環境（問B）、生活習慣（問C）、コミュニケーション能力（問F）・・・丸秀康
2. 交友関係（問D）、近隣関係（問E）・・・中條晋一郎
3. 性格特性（問G）・・・加藤弘通
4. マナー違反（問H）、他者の視線（問I）、恥の意識と注意されたときの行動（問J）
・・・横山実
5. 規範意識（問K）、逸脱行動（問L）・・・梅澤秀監
6. 学校適応状況（問M）・・・山本功
7. 作業仮説の検証・・・横山実

本調査は、財団法人社会安全研究財団より助成金を頂いて実施しました。社会安全研究財団からのご援助に対して、厚くお礼申し上げます。また、調査の実施にあたって、協力していただいた中学校および高等学校の教師の方々、さらには、関係機関の方々に、心からお礼申し上げます。

第2章 調査結果概要

第II部では、調査結果が詳細に分析されるが、ここでは、主要な調査結果の概要を指摘しておきたい。

家庭環境（問B）では、中学生も高校生も、「親（保護者）は自分のことをわかってくれている」と思っているのは、40%強に過ぎず、残りの40%が、わかっているかどうか「どちらとも言えない」と回答していた（図1）。「家庭の雰囲気はあたたかい」と回答したものが、6割弱にとどまっていることを考えると、青少年と家庭や親との結びつきは、かならずしも強固であるとはいえないようである。また、「親のことを考えると悪いことができない」という問に対する回答が、中学生で47%、高校生で57%にとどまった（図2）。現在は、親や家庭へのポンド（絆）が薄れて、それらが逸脱行動への抑止力になりえない状況になっているのかもしれない。

図1 親（保護者）は自分のことをわかってくれている

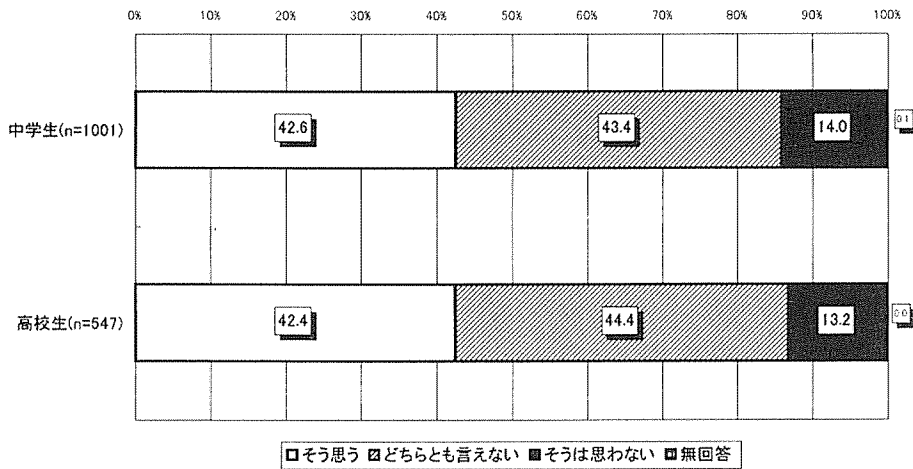
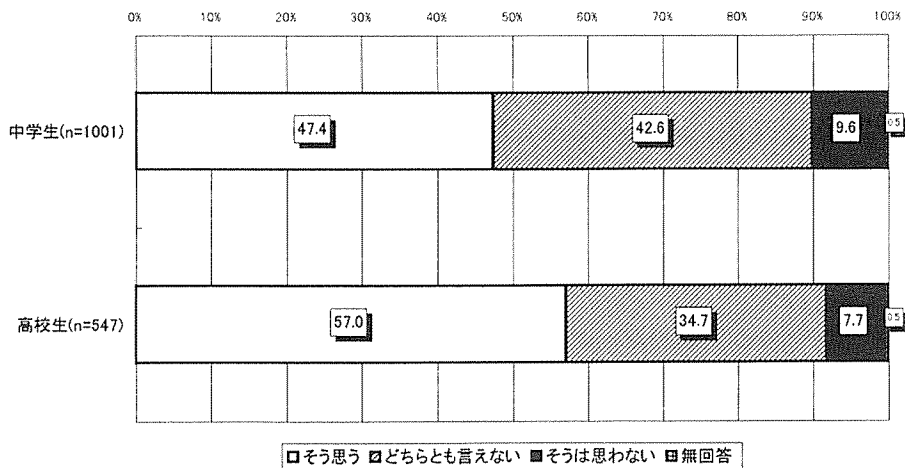
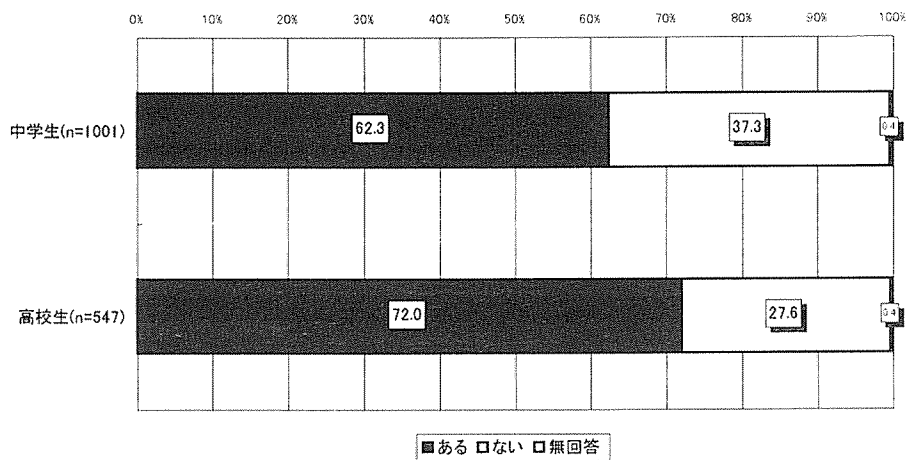


図2 親（保護者）のことを考えると悪いことはできない



生活習慣に関する問Cでは、「ファッションや流行を気にすることがある」中学生および高校生が、それぞれ62.3%と72.0%を占めていた(図3)。今は大量生産・大量消費の時代なので、産業界では、ファッションや流行を創出して、商品の売り込みにしよぎを削っている。しかも、その創出は、発達したマスメディアによって、広告という形で巧みに行われている。その主たるターゲットになっているのが、青少年である。彼らは、自分たちがそのように操縦されているとは気づかずに、ファッションや流行を追い求めているのである。リースマンが既に指摘したように、青少年の多くは、他人指向型であることがうかがわれる。

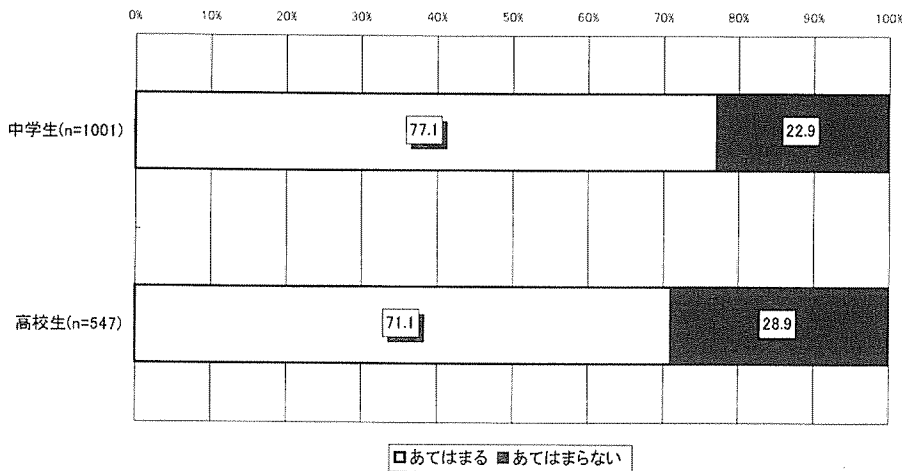
図3 ファッションや流行を気にすることが



現代社会では、青少年にとって、仲間集団 (peer group) が重要である。友人との交友関係を聞いたのが、問Dである。私たちの調査でも、「悩みを相談できる親友がいる」中学生および高校生は、それぞれ、77.0%および81.9%を占めていた。また、青少年は、成長するにつれて、異性との交際を始めるようになる。「特定の異性と交際したことがある」と回答した中学生は、27.4%にとどまっていたが、高校生では60.5%と、過半数を超えていたのである。

大都市は、匿名の社会であり、近隣関係が希薄であるといわれている。私たちは、大都市とその周辺に住んでいる青少年を対象にして、調査を実施したのであるが、彼らはどのような近隣関係を持っているのであろうか。それをたずねた問Eをみると、「近所の顔見知りの人には必ずあいさつする」中学生および高校生の割合は、それぞれ77.1%と71.7%となっていた(図4)。また、「町内会(自治会)や商店街主催の祭りや行事によく行く」中学生および高校生は、それぞれ56.8%と36.4%であった。このような結果から判断すると、中学生も高校生も、近隣関係を喪失しているとは、必ずしもいえないようである。

図4 近所の顔見知りの人には必ずあいさつする

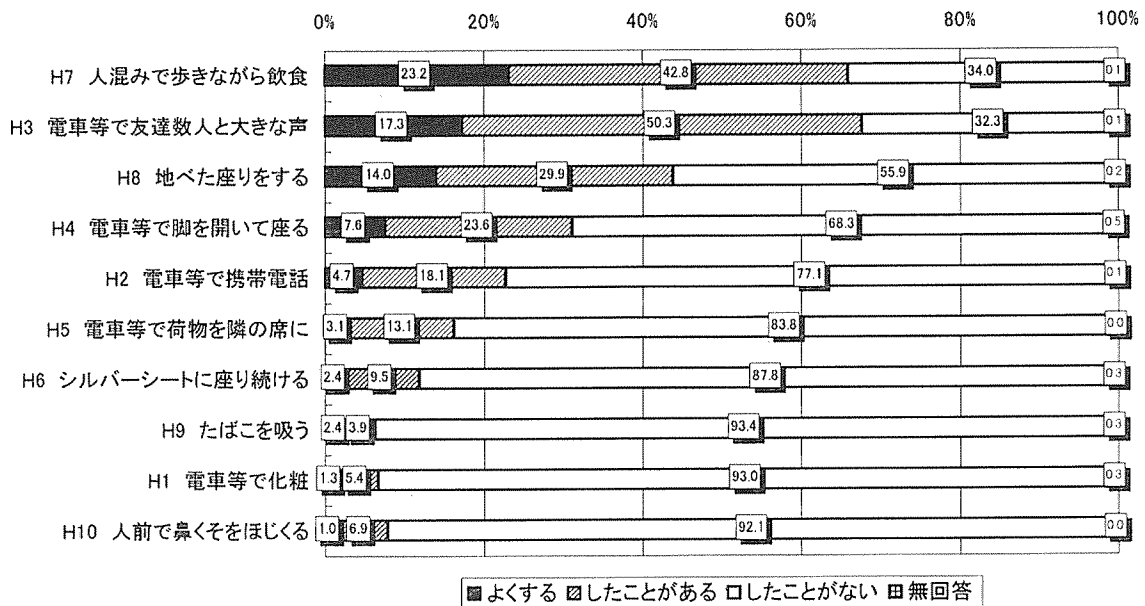


問Fは、コミュニケーション能力についてたずねている。現代の青少年は、どのようなコミュニケーション能力を持っているのであろうか。国際化の進展に伴って、日本人は、欧米人に比べてコミュニケーション能力が劣っていると、いわれるようになってきている。そこで、学校教育においても、「伝える」能力を伸ばすよう、主張されるようになってきている。今の青少年は、自分のコミュニケーション能力をどのようにとらえているのであろうか。私たちの調査結果をみると、「知らない人とでも、すぐに会話を始めることができる」と回答した中学生および高校生は、それぞれ40.6%と40.8%で、過半数を下回っていた。また、「自分の感情や気持ちを、言葉で伝えることができる」と回答した者も、それぞれ55.2%と54.6%で、過半数をこえて上回ったに過ぎなかった。青少年のコミュニケーション能力の向上は、今後も、叫び続けられることであろう。

問Gでは、調査対象者の性格特性を分析している。中学生と高校生を比べると、高校生の方が、神経質であり、自己顕示性が高く、友人関係への過剰適応（友達のためなら、学校や先生、周りの人に迷惑をかけてもしかたないと思っている）が高いという結果が出ている。男女別でみると、男子は、劣等感や非協調性、攻撃性が高く、女子の場合には、社会的外向性、共感性が高いという結果が出ている。

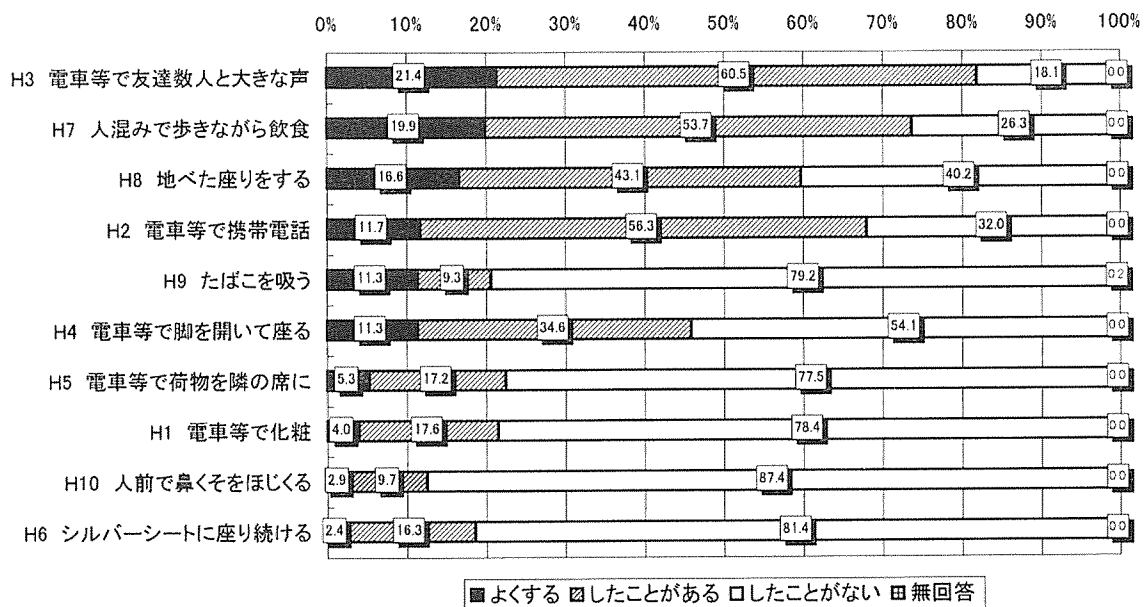
問Hでは、不特定多数の人がいる場所で、他者をヨソ者視して、その視線を気にしないでマナー違反と思われる行動をどの程度行ったことがあるかをたずねている。マナー違反行動を「よくする」青少年は多くなく、その最も高い割合は、「人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりする」中学生および高校生の23.2%と19.9%、「電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をする」中学生および高校生の17.3%と21.4%であった。「よくする」の回答が次に多かったのは、「電車内や路上、通路などで地べた座りをする」であり、中学生が14.0%、高校生が16.6%であった。地べた座りは、近年、よく見かけられるようになり、それは、青少年が他者の視線を気にしなくなってきた証拠とされている。不特定多数の人がいるところでの地べた座りは、可視性が高いので、それは、青少年の間で大流行しているように見える。しかし、私たちの調査結果では、中学生の55.9%、高校生の40.2%が、地べた座りを「したことがない」と、回答していたのである。なお、「知らない人の見ているところで、たばこを吸う」のを「よくする」と回答した者が、中学生で2.4%、高校生で11.3%いたことが注目される（図5-1、図5-2）。

図5-1 マナー違反行動(中学生)



※図5-1のそれぞれの問いの質問文は簡略化してある。

図5-2 マナー違反行動(高校生)

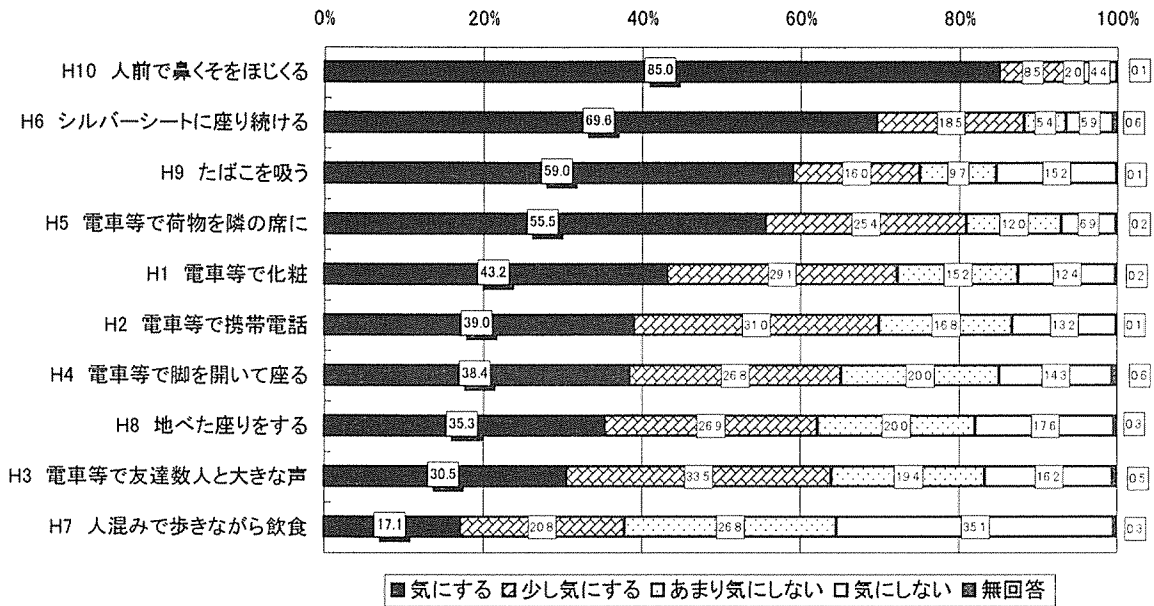


※図5-2のそれぞれの問いの質問文は簡略化してある。

マナー違反行動と思われる行動を、もし回答者自身が行ったならば、他人の視線を気にするかどうかをたずねたのが、問Iである。この問Iは、私たちの調査の眼目であり、「他者の視線を気にしない青少年は、第三者をヨソ者視している」と仮定して作成されたのである。他者の視線を「気にする」と回答した者の割合が最も高かったのは、「人前で鼻くそをほじくる」であり、中学生で85.0%、高校生で78.1%であった。現在の青少年は、身づくりいや身奇麗さに気配りしているためか、人前で鼻

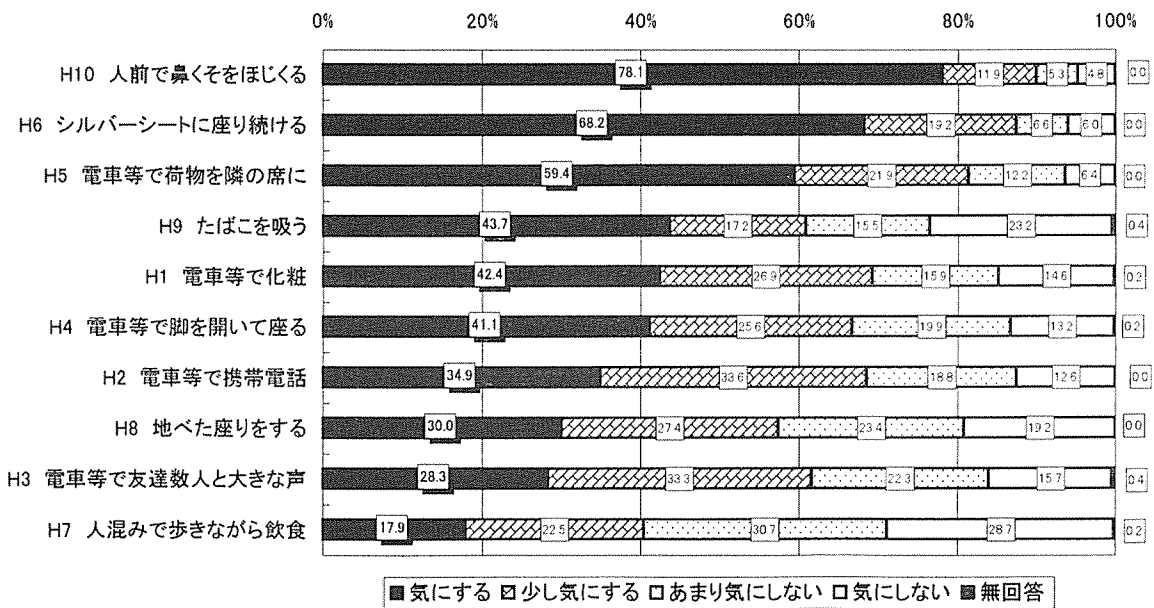
くそをほじくることを、特に気にするようである。中学生および高校生の両方ともに、他者の視線を「気にする」者の割合が50%を超えていたのは、「目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続ける」と「混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置く」であった。この二つの行動は、両方ともに、他者に迷惑をかけるので、他者の視線を気にするのであろう。次いで割合が高かったのは、「知らない人の見ているところで、たばこを吸う」であり、中学生が59.0%、高校生が43.7%であった(図6-1、図6-2)。

図6-1 他者の視線(中学生)



※図6-1のそれぞれの問いの質問文は簡略化してある。

図6-2 他者の視線(高校生)



※図6-2のそれぞれの問いの質問文は簡略化してある。

恥の意識をたずねる問J1および問J2では、もし回答者が「たばこを吸っている」ときに（問J1）、あるいは、もし「電車内で友達数人と大きな声で話をしている」ときに（問J2）、第三者に見られて、恥を感じるかをたずねている。「とても恥ずかしい」の割合が一番高かったのは、近所の顔見知りの人に見られるときであり、中学生で49.4%、高校生で31.6%であった。他方、知らない大人の人に見られるときのその割合は、低かった。つまり、ヨソ様の視線は気にするが、ヨソ者の視線は気にしないという、矢島の理論仮説が、検証されたのである（図7-1、図7-2）。

図7-1 たばこを吸っているのを見られたら(中学生)

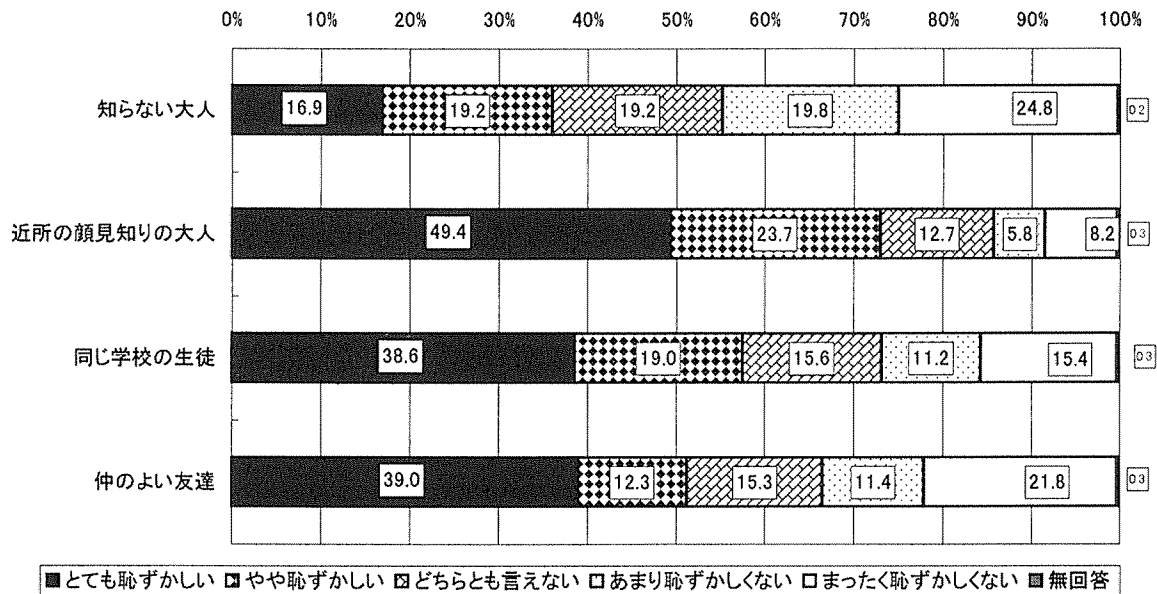
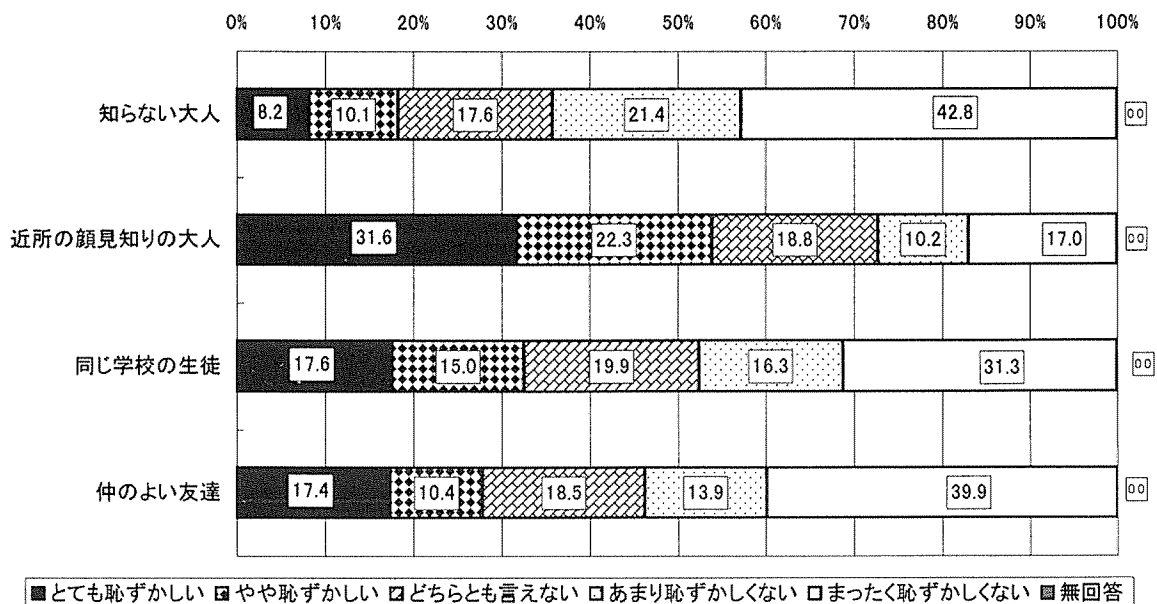


図7-2 たばこを吸っているのを見られたら(高校生)



問J3と問J4では、もし回答者が「たばこを吸っている」ときに、あるいは、もし「電車内で友達数人と大きな声で話をしている」ときに、第三者から注意されたら、どうすると思うかを聞いている。「あやまってやめる」の割合が一番高かったのは、仲のよい友達に注意される場合であり、中学生も高校生も6割弱であった。「むかついてもんくを言う」の割合が最も高かったのは、たばこを吸っているときに、同じ学校の生徒に注意される場合であり、中学生で15.6%、高校生で19.4%であった。青少年は、ヨソ者である知らない大人に注意されるときも、反発することがある。「むかついてもんくを言う」の回答は、中学生も高校生も約13%であった。それに対して、近所の顔見知りの大人の人に注意されて「むかついてもんくを言う」者は、3~5%ほどであった。

問Kでは、回答者と同じくらいの人が、逸脱とおもわれる行動をした場合、それを許容するか否かを聞いている。中学生について、「してはいけない」の回答が70%を超えているものについて、それを高いもの順に並べると、1.店の品物を万引きする(89.2%)、2.いやがらせの電話を繰り返しかける(85.9%)、3.友達が万引きをした物をもらったり買ったりする(80.7%)、4.自分の家の金をだまって使う(79.9%)、5.タバコを吸う(78.9%)、6.学校のを、わざと壊したり傷つける(77.6%)、7.放置されている自転車を、勝手に乗る(74.2%)、8.友達をいじめたり、仲間外れにしたりする(70.4%)であった。高校生について、その順番をみると、1.いやがらせの電話を繰り返しかける(91.4%)、2.店の品物を万引きする(87.0%)、3.メールを使って、他人の悪口を言いふらす(82.3%)、4.自分の家の金をだまって使う(81.0%)、5.友達をいじめたり、仲間外れにしたりする(80.8%)、6.学校のを、わざと壊したり傷つける(80.3%)、7.友達が万引きをした物をもらったり買ったりする(72.0%)であった。「店の品物を万引きする」が高い比率であったことは、それが典型的な刑法犯なので、予想されるものであった。しかし、「いやがらせの電話を繰り返しかける」が、万引きと並んで、高い割合を示したのは意外であった。今は、携帯電話が普及しており、電話によるコミュニケーションが活発化しているため、それだけに、いやがらせの電話への拒否反応が、高くなっているのであろうか。

他方、「してもよい」の回答が10%を超えたのは、中学生の場合では、1.深夜に盛り場を遊び回る(19.3%)、2.酒を飲む(17.2%)、3.特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない(14.9%)、4.家族にうそをついて外泊する(13.1%)、5.タバコを吸う(10.7%)であった。高校生の場合には、1.酒を飲む(38.9%)、2.深夜に盛り場を遊び回る(32.0%)、3.特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない(30.0%)、4.タバコを吸う(27.4%)、5.家族にうそをついて外泊する(25.8%)であった。これらの行動は、青少年が行った場合には、法律違反、虞犯行為あるいは不良行為として、警察の補導対象になりうるのであるが、それへの許容が、少なからずみられたのである。特に、高校生の場合に、3割前後の者が許容していたのは、注目される。

問Lでは、各種の逸脱行動をしたことがあるかを、たずねている。なお、過去1年間というような期間の限定をしないでたずねているので、他の同種の調査結果よりも、割合が高くなっているのに注意していただきたい。「したことがある」の回答が30%を超えているものは、中学生では、1.酒を飲む(53.2%)、2.友達をいじめたり、仲間外れにしたりする(49.3%)、3.他人を殴る(43.3%)であった。高校生の場合は、1.酒を飲む(76.1%)、2.特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない(46.1%)、3.友達をいじめたり、仲間外れにしたりする(39.5%)、4.タバコを吸う(36.6%)、5.深夜に盛り場を遊び回る(33.6%)、5.他人を殴る(33.6%)、7.店の品物を万引きする(31.3%)、8.家族にうそをついて外泊する(30.3%)であった。「友達をいじめたり、仲間外れにしたりする」と「他人を殴る」を除くと、高校生の方が、割合は高くなっていた(図8-1、図8-2)。

図8-1 逸脱行動(中学生)

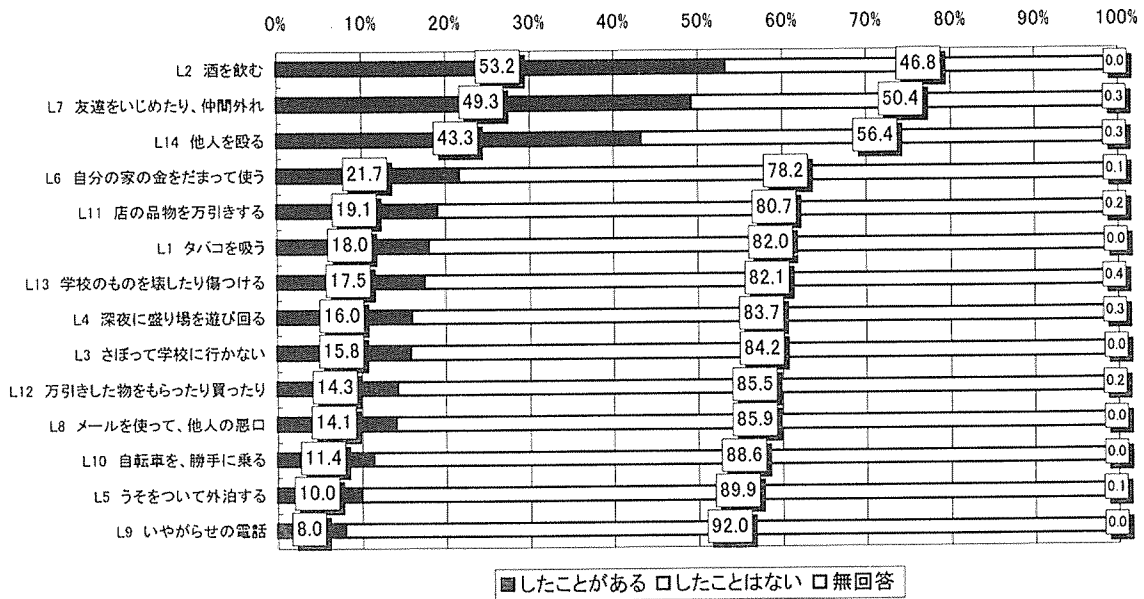
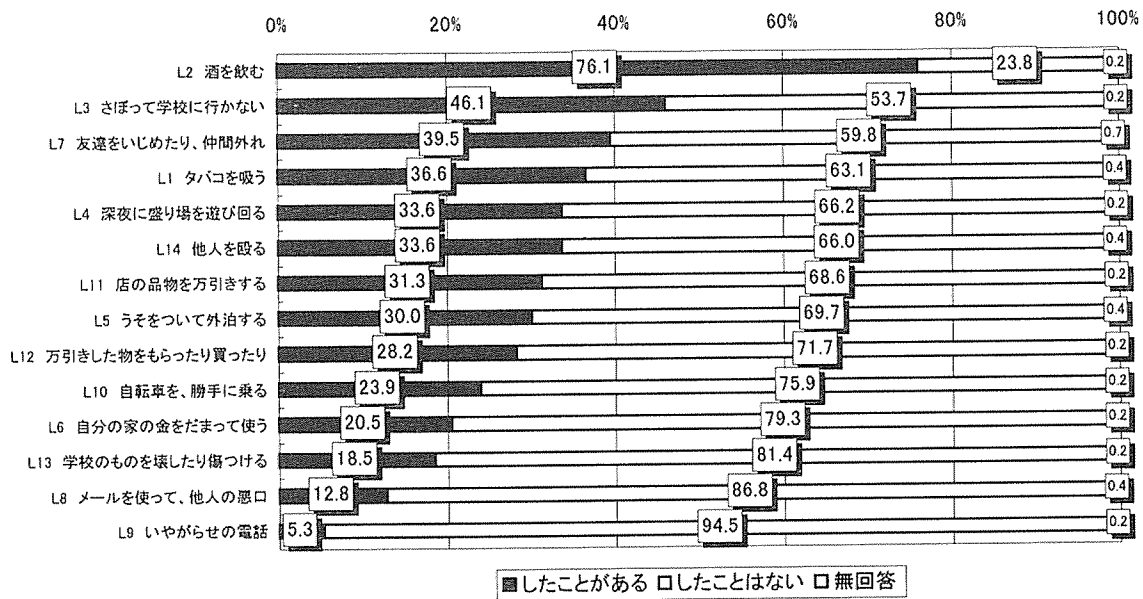


図8-2 逸脱行動(高校生)

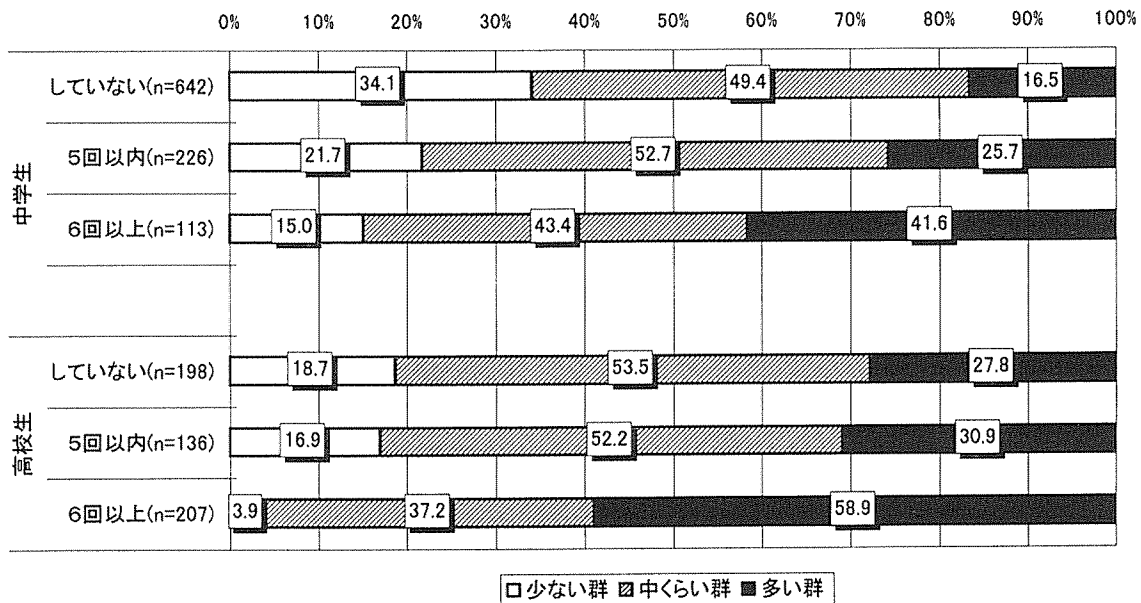


問Mでは、学校適応状況についてたずねている。「学校はたのしい」と回答した者は、中学生で51.2%、高校生で40.0%であった。学校の放課後の部活動に「積極的に参加している」と「いちおう参加している」の割合は、それぞれ、中学生では55.7%と26.7%、高校生では34.7%と15.5%であった。高校生の約半分は、部活動に参加していなかったのである。この調査結果から、おそらく、高校生よりも中学生の方が、学校に適応しているといえるであろう。

次に、学校適応状況(問M)を軸にして、マナー違反行動(問H)、他者の視線(問I)および逸脱行動(問L)の回答との間で、クロス表を作成して、その分析を行っている。その結果では、学校へ

の適応状況がよくない群において、マナー違反行動が多く、他者の視線を気にせず、逸脱行動が多くなる傾向がみられる。成績が悪いと評価している生徒ほど、また、遅刻回数が多い生徒ほど、マナー違反行動が多く、他者の視線を気にせず、逸脱行動が目立っていたのである（図9）。

図9 遅刻回数とマナー違反行動



矢島は、この調査に際して、作業仮説の命題を提示した。そこで、最後に、それらの命題が、調査結果によって検証されたかどうか、分析されている。その分析によると、命題「d. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、第三者から受ける恥の度合いが低い」、命題「e. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、逸脱の度合いが高い」、命題「f. 第三者から受ける恥の度合いが低い者は、逸脱の度合いが高い」のいずれも、検証されたのである。また、規範意識が低い青少年は、第三者をより一層ヨソ者視してその視線を気にせず、第三者に逸脱行動を見られても恥の意識を持たず、不特定多数の人がいるところでより多くマナー違反を行い、逸脱行動も多く行う傾向がみられたのである。これらの命題は、私たちの常識ではあるが、これが調査結果によって裏づけられたのは、貴重であろう。

第Ⅱ部 調査結果

第1章 家庭環境、生活習慣、コミュニケーション能力の分析

1. 家庭環境について

(1)各設問の分析

問Bは、家庭環境、すなわち、第一次集団である「家族」に対する中高生の意識を把握するものである。この年齢層はいわゆる思春期であり、親から精神的自立を開始する時期であるとともに、親を客観的にとらえ始める時期でもある。

問B 1「親(保護者)は自分のことをわかってきている」では、「そう思う」と回答した者が、男女、学校を問わず40%強となっている。一方、「そうは思わない」という回答では、中学生男子が11.8%、高校生男子が11.9%であったのに対し、中学生女子が16.3%、高校生女子が14.3%となっており、男女差がわずかながらみられるものの、ほとんど違いは見られない。

問B 2「家庭のふんいきはあたたかい」では、男女、学校を問わず50~60%が「そう思う」と回答している。細かくみると、もっとも低い高校生男子で54.2%、ついで中学生男子で55.1%、次に中学生女子で58.7%、もっとも高い高校生女子は61.3%となっている。ここでは、男女差がわずかながらみられるものの、ほとんど違いは見られない。一方、「そうは思わない」のポイントを見ると、ここを選択した者は、中学生男子が8.2%、高校生男子が5.4%、中学生女子が11.0%、高校生女子が6.3%である。中学生女子のポイントがわずかながら他よりも高くなっている。

問B 3「親(保護者)のことを考えると、悪いことはできない」で、「そう思う」と回答した者は、中学生男子で44.9%、高校生男子で55.8%、中学生女子で49.9%、高校生女子で58.2%となっている。だいたい50%前後であるが、男女ともに中学生より高校生の方が高くなっている。この問いは、親との精神的なボンド(きずな)が非行抑止効果を高めるとの仮説を実証する上で有用である。しかし、ここで注意すべきは回答者が何をもって「悪いこと」と考えたかである。回答者の逸脱観の違いが反映しているとも考えられる。たとえば、校則違反を考えた場合、中学と高校とでは全く異なった状況であろう。現在でも校則による規制を受けることの多い中学生は校則違反程度の社会的にみれば軽微なものも「悪いこと」と捉えているとも考えられる。一方、校則による種々の規制が死文化しつつある高校では、校則違反自体がいまや存在しにくいのではないだろうか。

問B 4「親(保護者)とは話をしにくい」で、「そう思う」を選んだ者が中学生男子で10.0%、高校生男子で10.0%、中学生女子で7.9%、高校生女子で6.6%となっており、男女差が多少みられるものの、ほとんど違いはみられない。ところで、男子では中学生と高校生のポイントが同じであったが、「そうは思わない」を選んだ者をみると、中学生男子が62.2%なのに対し高校生男子は52.7%となっており、高校生男子の方が明らかに低くなっている。

(2)他者の視線と家庭環境

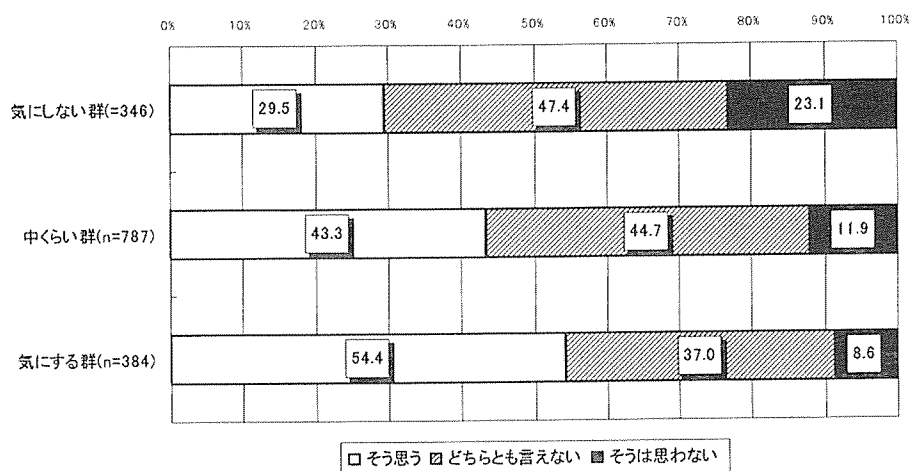
家庭環境(問B)と「他者の視線」意識との関係をもてみたい。

ここで用いる「他者の視線」スコア尺度は、調査票の問Iの各設問で、「気にする」に40点、「少し気にする」に30点、「あまり気にしない」に20点、「気にしない」に10点の点数を与え、無回答を欠損値としてスコア化し、そのスコアの四分位点を取り、上位4分の1を他者の視線を「気にする群」、下位4分の1を「気にしない群」、中間の2分の1を「中くらい群」と位置づけたものである。詳細は、本報告書の第4章第2節を参照いただきたい。

問B 1 「親(保護者)は自分のことをわかってきている」について、「そう思う」と回答した者は、「気にしない群」では29.5%、「中くらい群」では43.3%、「気にする群」では54.4%となっており、「どちらとも言えない」と回答した者は「気にしない群」では47.4%、「中くらい群」では44.7%、「気にする群」では37.0%となっており、「そうは思わない」と回答した者は「気にしない群」では23.1%、「中くらい群」では11.9%、「気にする群」では8.6%となっている(図1-1-1)。

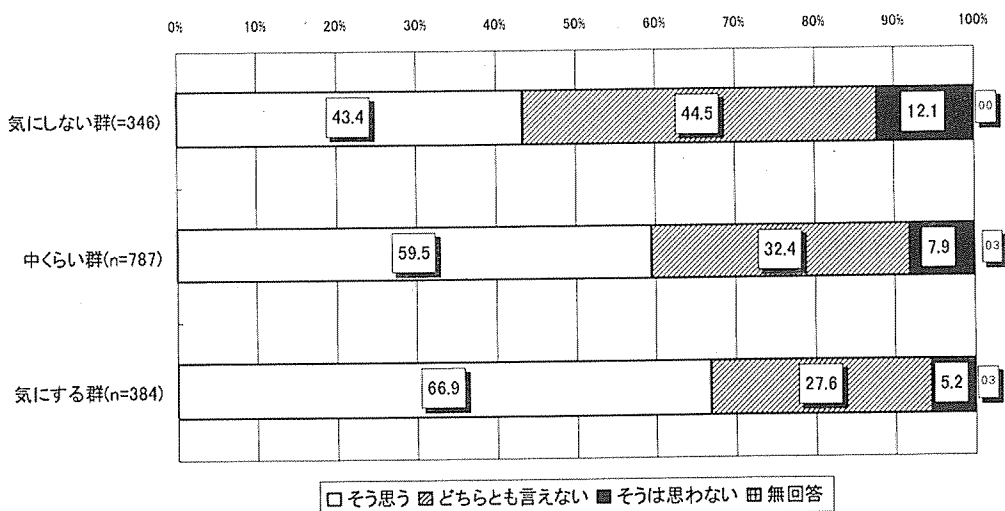
これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致する。すなわち、親とのボンド(きずな)の意識を強く持つ者ほど他者の視線を気にする傾向にあり、ボンドの意識の強くない者は他者の視線も気にしない傾向にあると言えよう。

図1-1-1 他者の視線と「親は自分のことをわかってきている」



問B 2 「家庭のふんいきはあたたかい」について「そう思う」と回答した者は「気にしない群」では43.4%、「中くらい群」では59.5%、「気にする群」では66.9%となっており、「どちらとも言えない」と回答した者は「気にしない群」では44.5%、「中くらい群」では32.4%、「気にする群」では27.6%となっており、「そうは思わない」と回答した者は「気にしない群」では12.1%、「中くらい群」では7.9%、「気にする群」では5.2%となっている(図1-1-2)。

図1-1-2 他者の視線と「家庭のふんいきはあたたかい」

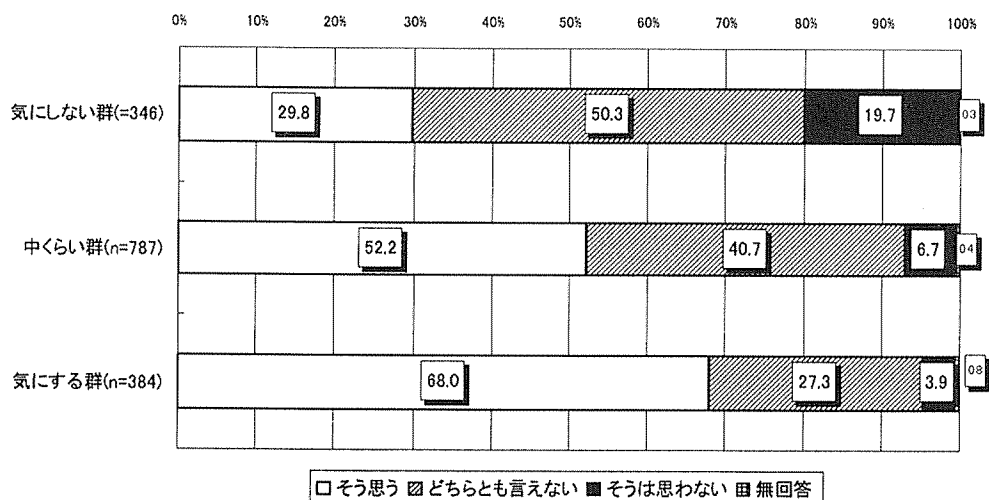


これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致する。総じて家庭の雰囲気にあたたかさを感じている者が多いものの、やはり、家庭のあたたかさを感じている者ほど他者の視線を気にするし、あたたかさを感じていない者ほど他者の視線を気にしない傾向にあると言える。

問B3「親(保護者)のことを考えると、悪いことはできない」について「そう思う」と回答した者は「気にしない群」では29.8%、「中くらい群」では52.2%、「気にする群」では68.0%となっており、「どちらとも言えない」と回答した者は「気にしない群」では50.3%、「中くらい群」では40.7%、「気にする群」では27.3%となっており、「そうは思わない」と回答した者は「気にしない群」では19.7%、「中くらい群」では6.7%、「気にする群」では3.9%となっている(図1-1-3)。

これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致する。だが、高校生男子に少し特徴的な面が表れた。「気にしない群」で「そう思う」と回答した者のポイントを見ると、中学生男子26.5%、中学生女子24.0%、高校生男子41.7%、高校生女子28.3%となっており、高校生男子のポイントだけが目立って高い。高校生男子による他者の視線を気にしない振る舞いに関しては、親とのポンド(きずな)が必ずしも抑止効果をあげていないということになる。

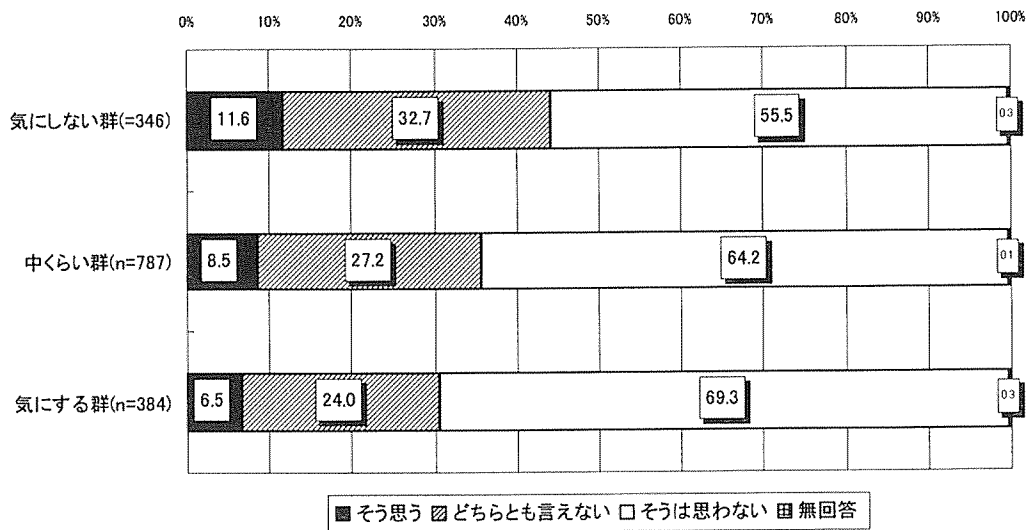
図1-1-3 他者の視線と「親のことを考えると、悪いことはできない」



問B4「親(保護者)とは話をしにくい」について「そう思う」と回答した者は「気にしない群」では11.6%、「中くらい群」では8.5%、「気にする群」では6.5%となっており、「どちらとも言えない」と回答した者は「気にしない群」では32.7%、「中くらい群」では27.2%、「気にする群」では24.0%となっており、「そうは思わない」と回答した者は「気にしない群」では55.5%、「中くらい群」では64.2%、「気にする群」では69.3%となっている(図1-1-4)。これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致するが、高校生女子で「そうは思わない」と回答した者は、「気にしない群」では69.8%、「中くらい群」では66.9%、「気にする群」では67.5%となっており、全体および他の学校別男女別の場合と、逆の傾向がみられる。結論としては、やはり親とのポンドが強いほど他者の視線を気にする傾向にあるといえる。高校生女子については、他者の視線を気にしない者でもわりと「親しい」親子関係にあるのかもしれない。他者の視線を気にしないような振る舞いを平気のできる娘を親が許容し受け入れているのであろうか。あるいは、親子関係も他者との関係と同様のものとなっているということであろうか。

以上より、家庭とのポンド(きずな)が強い者ほど、他者の視線を気にする傾向にあるといえよう。

図1-1-4 他者の視線と「親とは話をしにくい」



2. 生活習慣について

(1) 各設問の分析

問Cは、日常生活において、生活時間を自律的に管理できているかを問うものである。

問C1「朝ご飯を食べずに学校に行くこと」で「ある」と回答した者は、中学生男子が27.5%、高校生男子が38.8%、中学生女子が28.7%、高校生女子が36.2%となっており、中学生と高校生とで明らかな違いがみられ、男女ともに高校生の方が高くなっている。ただし、これは通学距離および時間の問題も考慮する必要はあろう。中学生が自宅から徒歩で通学している場合が多いのに対して、高校生は電車通学により通学距離も長くなっている者もいるから、そのような場合、家を出発する時間もおのずと早くなるため、朝食をとらないことも多くなろう。なお、通学距離および時間の質問はしていない。

問C2「おこづかいが足りず、親にせびること」で、「ある」と回答した者は、中学生男子で39.4%、高校生男子で51.9%、中学生女子で54.6%、高校生女子で45.6%となっており、男女別にみた場合、男子では、高校生男子が中学生男子より明らかに高くなっているのに対し、一方、女子では、中学生女子が高校生女子より明らかに高くなっている。ポイントを単純に並べると、中学生男子、高校生女子、高校生男子、中学生女子の順に高くなっている。高校生ならアルバイトの機会もあるので、学校差が出てくるものと思ったが、そうではなかった。では、男女差が出ているかという点、そうでもない。中学生女子のポイントがもっとも高くなっているのは、おしゃれに目覚め始めて買いたいものが多いにもかかわらず、アルバイトの機会もないからだとは考えられる。よくわからないのは、今の時代、一番小遣いを使いそうな高校生女子が低くなっているという点である。なお、ここでの回答で注意しなければならないのは、「ない」という回答の意味であり、二つの意味がある。一つは「足りない」のだが「親にはせびらない」という意味であり、もう一つは「足りている」から「せびらない」という意味である。この点は区別して聞いていない。

問C3「衝動買いをすること」については、「ある」と回答した者が、中学生男子で37.3%、高校生男子が60.8%、中学生女子が57.2%、高校生女子が70.7%となっている。これを学校別にみると、「ある」と回答した中学生が47.1%、高校生が66.0%となっており、高校生のポイントが明らかに高くな

っている。また、中学、高校それぞれに男女別にみた場合、それぞれ明らかに女子の方が高くなっている。中学生男子のポイントの低さと高校生女子のポイントの高さがここでの特徴といえる。

問C4「ファッションや流行を気にする」では、「ある」と回答した者が、中学生男子で44.3%、高校生男子で58.8%、中学生女子で81.1%、高校生女子で84.0%となっている。

中学生より高校生の方が高くなっているほか、男子よりも女子の方が明らかに高くなっている。

問C5「ピアスをしたこと」について、「ある」と回答した者が、中学生男子で1.8%、高校生男子で22.3%、中学生女子で6.3%、高校生女子で43.6%となっている。男女差、学校差が著しく現れた。

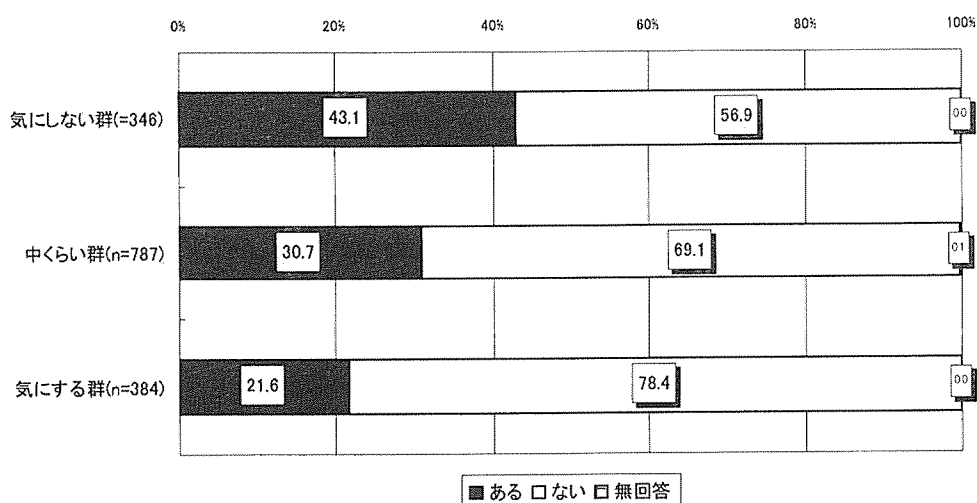
問C6「髪の毛を脱色したり、染めたりしたこと」とは、要するに「茶髪」のことであるが、ここで「ある」と回答した者が、中学生男子で15.9%、高校生男子で51.9%、中学生女子で26.1%、高校生女子で67.2%となっている。男女差が明らかに出ているほか、学校差も明らかに出ている。これは、ファッションに対する親および学校の許容の度合いが反映していると考えられる。特に、親からも学校からも行動を厳しく規制されているであろう中学生女子の4人に1人が茶髪にしたことがある点は注目に値する。

(2)他者の視線と生活習慣

生活習慣の確立(問C)と「他者の視線」意識との関係のみてみたい。

問C1「朝ご飯を食べずに学校に行くこと」について「ある」と回答した者は「気にしない群」では43.1%、「中くらい群」では30.7%、「気にする群」では21.6%となっており、「ない」と回答した者は「気にしない群」では56.9%、「中くらい群」では69.1%、「気にする群」では78.4%となっている(図1-2-1)。これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致する。朝きちんと起きて学校に行く者(自己管理のしっかりしている者)、あるいは、親に起こされ食事をして学校に送り出される者(朝起こしてくれる親がいる者)、いずれにせよ、これらの者は他者の視線を気にする傾向にあるし、朝きちんと起きられない者、あるいは、子どもの起床時間に無関心な親を持つ者は、他者の視線を気にしない傾向にあるといえる。

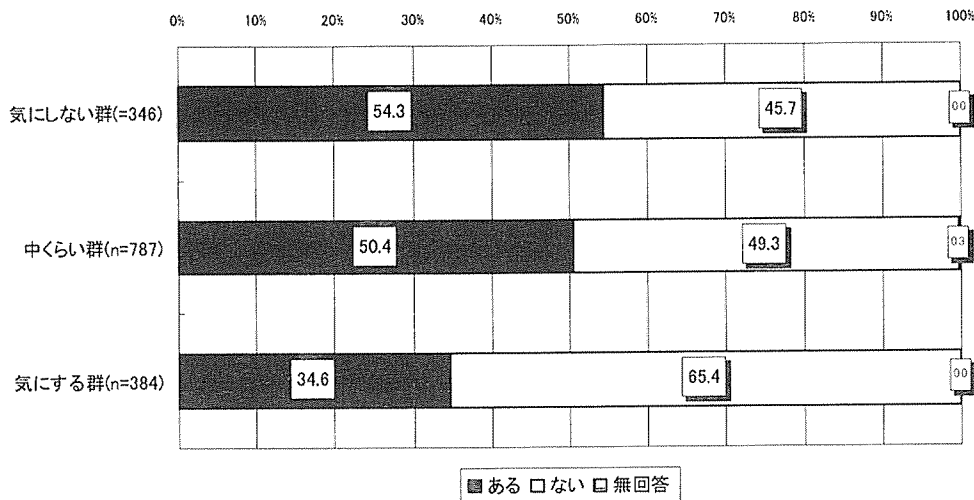
図1-2-1 他者の視線と「朝ご飯を食べずに学校に行くこと」



問C2「おこづかいが足りず、親にせびること」について「ある」と回答した者は「気にしない群」では54.3%、「中くらい群」では50.4%、「気にする群」では34.6%となっており、「ない」と回答した者は「気にしない群」では45.7%、「中くらい群」では49.3%、「気にする群」では65.4%となってい

る（図1-2-2）。これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致する。親に小遣いをせびる者ほど他者の視線を気にしないし、せびらない者ほど他者の視線を気にする傾向にある。ただし、中学生男子のうち、他者の視線を「気にしない」者で、「ある」と回答した者は43.4%、「ない」と回答した者が56.6%となり、また、高校生女子のうち、他者の視線を「気にしない」者で、「ある」と回答した者は45.3%で、「ない」と回答した者が54.7%となっており、ポイントが少々逆転している。

図1-2-2 他者の視線と「おこづかいが足りず、親にせびること」



問C3「衝動買いをすること」について「ある」と回答した者は「気にしない群」では56.9%、「中くらい群」では55.7%、「気にする群」では46.9%となっており、「ない」と回答した者は「気にしない群」では42.8%、「中くらい群」では43.7%、「気にする群」では52.9%となっている。衝動買いをしてしまうか抑えられるかも、要するに自己管理の問題である。衝動買いをする傾向にある者ほど他者の視線は気にしないし、抑える傾向にある者ほど他者の視線を気にするということがいえる。ただし、学校別男女別にみた場合、基本的には上記の傾向をもつものの、中学生男子は全体に衝動買いをしない傾向にあり、高校生になると衝動買いをする傾向にある。とりわけ、高校生女子の場合は、この傾向がどの群にも見られる。これは、中学生と高校生とでは生活行動範囲が異なるし、消費傾向および経験も異なることから、出てきたものであると考えられる。

問C4「ファッションや流行を気にする」について「ある」と回答した者は「気にしない群」では74.0%、「中くらい群」では68.7%、「気にする群」では52.6%となっており、「ない」と回答した者は「気にしない群」では25.4%、「中くらい群」では30.7%、「気にする群」では47.4%となっている。最先端の流行を追う傾向にある者、すなわち、流行に振り回される可能性の高い者ほど他者の視線は気にしない傾向にある。ただし、女子はファッションや流行を気にする傾向にあり、どの群でも「ある」と回答した者のポイントが圧倒的に高くなっている。

問C5「ピアスをしたこと」について「ある」と回答した者は「気にしない群」では23.4%、「中くらい群」では13.6%、「気にする群」では8.3%となっており、「ない」と回答した者は「気にしない群」では76.3%、「中くらい群」では86.4%、「気にする群」では91.7%となっている。他者の視線を気にしない者ほど、ピアスの穴をあけている(あけたことがある)といえる。ただし、ピアスの場合、中学生では「ない」ものがどの群でも多いため、ポイント差はわずかであるが、高校生ではこの傾向がはっきりと表れている。

問C6「髪の毛を脱色したり、染めたりしたこと」について「ある」と回答した者は「気にしない群」では52.3%、「中くらい群」では32.8%、「気にする群」では23.2%となっており、「ない」と回答した者は「気にしない群」では47.4%、「中くらい群」では67.2%、「気にする群」では76.8%となっている。他者の視線を気にしない者ほど「茶髪」にする傾向があるといえる。

以上より、生活管理、金銭感覚、ファッションといった点で、自己管理のしっかりしている者ほど、他者の視線を気にする傾向にあるといえよう。

3. コミュニケーション能力について

(1) 各設問の分析

問Fでは、対人関係およびコミュニケーションについてたずねた。

問F1「知らない人とでも、すぐに会話を始めることができる」では、「あてはまる」と回答した者が、中学生男子が36.1%、高校生男子が36.9%、中学生女子が45.2%、高校生女子が44.3%となっており、男女差がややみられる。

問F2「気まずいことがあった相手と、上手に仲直りができる」では、「あてはまる」と回答した者が、中学生男子が52.4%、高校生男子が46.2%、中学生女子が56.8%、高校生女子が46.7%となっており、多少学校差が見られる。

問F3「自分の感情や気持ちを、言葉で伝えることができる」では、「あてはまる」と回答した者が、中学生男子が53.9%、高校生男子が55.4%、中学生女子が56.6%、高校生女子が51.6%となっており、学校差、男女差にこれといった特徴はみられない。

問F4「何か失敗したときに、すぐにあやまることができる」では、「あてはまる」と回答した者が、中学生男子が73.5%、高校生男子が73.1%、中学生女子が74.1%、高校生女子が72.1%となっており、学校差、男女差にこれといった特徴はみられない。

問F5「他人が怒っているときに、うまくなだめることができる」では、「あてはまる」と回答した者が、中学生男子が38.4%、高校生男子が44.2%、中学生女子が46.8%、高校生女子が48.4%となっており、中学生男子が少々低くなっている。

(2) 他者の視線とコミュニケーション能力

コミュニケーション能力(問F)と「他者の視線」意識との関係をもてみたい。

問F1「知らない人とでも、すぐに会話を始めることができる」について「あてはまる」と回答した者は「気にしない群」では45.4%、「中くらい群」では39.6%、「気にする群」では38.3%となっており、「あてはまらない」と回答した者は「気にしない群」では54.6%、「中くらい群」では60.4%、「気にする群」では61.5%となっている。これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致する。他者の視線を気にする者ほど、知らない人とは話を始められない傾向にあるといえる。

問F2「気まずいことがあった相手と、上手に仲直りができる」について「あてはまる」と回答した者は「気にしない群」では47.1%、「中くらい群」では52.6%、「気にする群」では54.2%となっており、「あてはまらない」と回答した者は「気にしない群」では52.3%、「中くらい群」では46.8%、「気にする群」では45.8%となっている。他者の視線を気にする者ほど、対人関係を修復するように努め、それに自信を持つ傾向にある。逆に言うと、他者の視線を気にしない者は、対人関係自体をさほど重視していないとも考えられる。ただし、いくつか特徴的な傾向がみられた。まず、中学生男子

はどの群も「あてはまる」者と「あてはまらない」者がおおよそ半々で、群による特徴がみられなかった。また、高校生女子では「気にする群」でも「あてはまらない」と回答した者が54.2%となり、「あてはまる」と回答した者より多くなった。全体でも中学生より高校生の方が「あてはまらない」と回答した者が多くなっている。これは、高校生になってコミュニケーション能力が低下したからだというよりも、対人関係が希薄になり必ずしも修復する必要のない場合が多くなっているからだと考えられる。

問F3「自分の感情や気持ちを、言葉で伝えることができる」について「あてはまる」と回答した者は「気にしない群」では50.3%、「中くらい群」では55.3%、「気にする群」では58.3%となっており、「あてはまらない」と回答した者は「気にしない群」では49.1%、「中くらい群」では44.1%、「気にする群」では41.7%となっている。これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致するが、中学生女子についてはどの群も60%弱が「あてはまる」と回答している。総じて、他者の視線を気にする者ほど、言語によるコミュニケーション能力に自信をもっていることになる。自己の所属する社会に対し自分の考えを伝える必要性を感じているからである。逆に言えば、他者の視線を気にしない者は、自己の考えを伝える必要性を感じていないといえる。

問F4「何か失敗したときに、すぐにあやまることができる」について「あてはまる」と回答した者は「気にしない群」では66.5%、「中くらい群」では74.3%、「気にする群」では78.9%となっており、「あてはまらない」と回答した者は「気にしない群」では33.2%、「中くらい群」では25.5%、「気にする群」では20.8%となっている。これを学校別男女別にみた場合にもこの傾向に合致する。他者の視線を気にする者は、自らの失敗によって生じる対人関係の悪化を早期に修復しようとするのがわかる。これも、逆を言えば、他者の視線を気にしない者は、状況を修復する必要性を感じない傾向にあるといえる。

問F5「他人が怒っているときに、うまくなだめることができる」について「あてはまる」と回答した者は「気にしない群」では38.2%、「中くらい群」では45.0%、「気にする群」では48.4%となっており、「あてはまらない」と回答した者は「気にしない群」では61.0%、「中くらい群」では54.5%、「気にする群」では51.3%となっている。これを学校別男女別にみた場合にもおおむねこの傾向に合致する。他者の視線を気にする者ほど、集団内の悪化した状況を修復しようとする傾向にあり、それに自信をもっているということがわかる。

以上より、他者の視線を気にする者ほど、他者とのコミュニケーションを重視し、その能力に自信を持っていることがわかる。また、他者の視線を気にしない者ほど、コミュニケーションの必要性を感じていない傾向にあり、対人関係を修復する必要性を感じていない傾向にあると考えられる。要するに、他者の視線を気にしない者は、所属する集団自体を重視せず、当然、その周縁部である「ヨソ様」の存在も意識していない。すなわち、自己以外はすべて「ヨソ者」であるという意識であるといえよう。

第2章 青少年の交友関係と近隣関係

この章では、交友関係（問D）及び近隣関係（問E）の質問への回答を、学校別・男女別にみていく。

1. 青少年の交友関係についての分析（問D）

問Dは、青少年の交友関係を把握するための調査項目で、5つの項目からなり、回答者は、「あてはまる」「あてはまらない」のいずれかを選択する。理論仮説に示したとおり、人は第三者に対して「ヨソ様」「ヨソ者」に分けて、自己との関係づけをはかるが、先に「ヨソ様の喪失」と位置づけた現在の青少年においては、身近な第三者をどのように位置づけるのだろうか。問Dでは、その中で「友人」をどのように位置づけるのかをさぐることを目的としている。

(1) 悩みを相談できる親友の有無

問D 1は、悩みを相談できる親友がいるかどうかをたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が77.1%、高校生が81.9%であった。男女別で見ると、中学生・高校生とも、女子の方が「あてはまる」と回答する率が高かった（表2-1-1）。

表 2-1-1 悩みを相談できる親友がいるか (％)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数 (人)
中学生男子	68.6	30.6	0.8	100.0	510
中学生女子	85.7	13.8	0.4	100.0	491
高校生男子	74.6	25.4	0.0	100.0	260
高校生女子	88.5	11.1	0.3	100.0	287
全体	78.7	20.8	0.5	100.0	1548

(2) 友人宅への訪問状況

問D 2は、よく友達の家遊びに行くかどうかをたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が58.7%であったのに対して、高校生は42.6%であった。また、男女別で見ると、中学生男子で「あてはまる」と答えたのは68.6%であったが、高校生男子では49.2%であった。女子で「あてはまる」と回答しているのは、中学生女子が48.5%、高校生女子が36.6%であり、男子よりも低い（表2-1-2）。

問D 1では、男子よりも女子の方が「親友がいる」と回答しているが、問D 2では、女子は男子よりも「友人の家遊びに行かない」傾向があるといえる。友人と遊んだりおしゃべりしたりする場所は、家の中ではなく、学校内やファストフードの店などの外出時が多いということになるのかもしれない。特に高校生は、お互いに他地域から通学している可能性も広がるため、遠くの友人宅へ行くよりは、遊びもかねて外出先や下校途中に、友人との時間を過ごすことが多いのかも知れない。

表 2-1-2 よく友達の家遊びに行くか (％)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	68.6	31.2	0.2	100.0	510
中学生女子	48.5	51.5	0.0	100.0	491
高校生男子	49.2	50.8	0.0	100.0	260
高校生女子	36.6	63.4	0.0	100.0	287
全体	53.0	46.9	0.1	100.0	1548

(3) 人気のある方かどうかの自己評価

問D 3は、自分がクラスで人気のある方かどうかをたずねたものである。中学生、高校生ともに、「あてはまる」との回答は少なく、それぞれ、19.9%、15.5%であり、男女別についても特段の差はなかった(表 2-1-3)。

表 2-1-3 クラスで人気のある方か (％)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	20.6	77.5	2.0	100.0	510
中学生女子	19.1	75.6	5.3	100.0	491
高校生男子	17.3	81.5	1.2	100.0	260
高校生女子	13.9	82.9	3.1	100.0	287
全体	18.3	78.6	3.1	100.0	1548

(4) メール友達の有無

問D 4は、メールだけの知り合い、いわゆる「メル友」がいるかどうかをたずねたものである。中学生、高校生ともに「あてはまる」との回答は少なく、それぞれ、15.5%、25.8%であった。「メール」のやりとりは、主に携帯電話のメール機能によるものが多いと思われるが、中学生では携帯電話を持つ割合が少ないと考えられるため、メールだけの知り合いができる可能性も低くなるのであろう。しかし、男女別で見ると、中学生では、7.8%の男子が「あてはまる」と答えているが、女子では23.4%となっており、約2割の中学生女子に「メル友」がいることになる。また高校生は男女に差がなく、「あてはまる」と回答したのは、男女ともに25.8%であった(表 2-1-4)。

表 2-1-4 メールだけの知り合いがいるか (％)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	7.8	92.0	0.2	100.0	510
中学生女子	23.4	76.2	0.4	100.0	491
高校生男子	25.8	74.2	0.0	100.0	260
高校生女子	25.8	73.9	0.3	100.0	287
全体	19.1	80.6	0.3	100.0	1548

(5) 異性との交際経験

問D 5は、特定の異性と交際したことがあるかどうかをたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が27.4%であったのに対して、高校生が60.5%であった。男女別で見ると、「あてはまる」と答えたのは、男子よりも女子の方が多かった。中学生では男子が24.1%、女子が30.8%であったが、高校生では男子が53.8%、女子が66.6%であった（表2-1-5）。

表 2-1-5 特定の異性と交際したことがあるか (%)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	24.1	74.7	1.2	100.0	510
中学生女子	30.8	68.0	1.2	100.0	491
高校生男子	53.8	45.4	0.8	100.0	260
高校生女子	66.6	33.4	0.0	100.0	287
全体	39.1	60.0	0.9	100.0	1548

2. 青少年の近隣関係についての分析

問Eは、青少年と近所の大人との関係を把握するための調査項目で、6つの項目からなり、回答者は、「あてはまる」「あてはまらない」のいずれかを選択する。問Dは、青少年が、身近な第三者である「友人」をどのように位置づけるかを調査したものであったが、問Eでは、同様に身近な第三者である「近所の大人」をどのように位置づけるのかをさぐることを目的としている。

(1) あいさつの有無

問E 1は、近所の顔見知りの人にあいさつするかどうかをたずねたものである。これについては、中学生、高校生ともに7割強の人が「あてはまる」と答えている。男女別についてはあまり差がなかったが、若干女子の方が「あてはまる」との回答率が高かった（表2-2-1）。高校生男子であいさつをするとの回答は65.0%であったが、この年頃の男子は、きちんとあいさつをするということに気恥ずかしさを覚えるものであり、それが表れたのかもしれない。しかしながら、人間関係が希薄であるといわれる首都圏の青少年の7割強が、あいさつをするという回答を示したのは意外であった。

表 2-2-1 近所の顔見知りの人には必ずあいさつするか (%)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	74.5	25.5	0.0	100.0	510
中学生女子	79.8	20.2	0.0	100.0	491
高校生男子	65.0	35.0	0.0	100.0	260
高校生女子	76.7	23.3	0.0	100.0	287
全体	75.0	25.0	0.0	100.0	1548

(2)となり近所との関係

問E 2は、家から5分ほど歩いていると、知っている大人によく会うかどうかについてたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が36.9%、高校生が34.6%であり、過半数を下回った。男女別については差がなかった(表2-2-2)。「5分ほど歩く」程度の「となり近所」に、知りあいの大人がいる人はそれほど多くはないようである。これは、青少年の家族を含めて、近所づきあいがあまり緊密なものではないということも示しているのかもしれない。

表 2-2-2 家から5分ほど歩いていると、知っている大人によく会うか (%)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	33.3	66.7	0.0	100.0	510
中学生女子	40.5	59.1	0.4	100.0	491
高校生男子	35.4	64.2	0.4	100.0	260
高校生女子	33.8	65.5	0.7	100.0	287
全体	36.0	63.6	0.3	100.0	1548

(3)近所の人に怒られた経験

問E 3は、今までに悪いことをして近所の人に怒られたことがあるかどうかについてたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が33.8、高校生が34.4%であり、過半数を下回った。男女別でみると、男子は、中学生、高校生とも約4割が「あてはまる」と回答しているが、女子でそのように回答したのは、中学生が26.3%、高校生が25.1%であった(表2-2-3)。近所の目に届く所では、女子は悪いことをしないのかもしれない。あるいはそれが発覚していても、許したり見逃したりしているのかもしれない。

一昔前の子どもは、近所の軒先の柿をどろぼうし、その家のカミナリオヤジにおこられたりした。近所の大人たちは、どこの子どもが悪さしたのかわかっており、子どもを諭して家に帰したあとは何もなかった。現在、特に都会では、近所にどのような人が住んでいるのかよく分からない。いたずらの対象であった軒先の柿も見あたらなくなった。子どもたちはいたずら半分にスーパーなどで万引をして、警察の手に委ねられるのである。ただし、回答結果をみると、男子では、約4割の人が「おこられたことがある」と答えているし、近所の大人との「距離」が遠くなったとまでいえないかもしれない。

表 2-2-3 今までに悪いことをして近所の人に怒られたことがあるか (%)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	41.0	58.6	0.4	100.0	510
中学生女子	26.3	72.9	0.8	100.0	491
高校生男子	44.6	55.4	0.0	100.0	260
高校生女子	25.1	74.9	0.0	100.0	287
全体	34.0	65.6	0.4	100.0	1548

(4)顔見知りかどうかの実感

問E 4は、近所の人々は自分がどこの家の子どもか知らない、と思うかどうかをたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が14.2%、高校生が21.2%であり、大方の人が、近所の人々とは顔見知りであるということがわかる。男女別についてはあまり差がなかったが、特に、高校生男子で「あてはまる」との回答が22.7%あった(表2-2-4)。問E 2の回答結果と合わせて考えると、青少年の実感としては、近所とのつきあいはそれほど緊密とはいえないものなのだろう。

表 2-2-4 近所の人々は自分がどこの家の子どもか知らない (%)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	15.1	84.3	0.6	100.0	510
中学生女子	13.2	85.9	0.8	100.0	491
高校生男子	22.7	76.9	0.4	100.0	260
高校生女子	19.9	79.1	1.0	100.0	287
全体	16.7	82.6	0.7	100.0	1548

(5)ラジオ体操への参加経験

問E 5は、小学生の頃、夏休みに近所で集まって行われるラジオ体操に必ず参加したかどうかをたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が46.3%であったのに対して、高校生が54.7%であった。男女別では、中学生、高校生とも、女子の方が「あてはまる」との回答が若干多かった(表2-2-5)。近所の人達とおこなうラジオ体操は、夏休みの恒例行事ではなくなってきているのであろうか。

表 2-2-5 小学生のころ、夏休みは必ずラジオ体操に参加したか (%)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	45.7	54.1	0.2	100.0	510
中学生女子	46.8	53.2	0.0	100.0	491
高校生男子	51.5	48.5	0.0	100.0	260
高校生女子	57.5	42.5	0.0	100.0	287
全体	49.2	50.7	0.1	100.0	1548

(6)近所の祭り・行事に対する関心度

問E 6は、近所の祭りや行事によく行くかどうかをたずねたものである。「あてはまる」との回答は、中学生が56.8%であったのに対して、高校生が36.4%であった。男女別についてはあまり差がなかった(表2-2-6)。年齢と共に交友関係が広がるにつれて、行動範囲もまた、近隣の地域社会から徐々に広がっていくということを、回答結果は表しているのではないだろうか。

表 2-2-6 町内会(自治会)や商店街主催の祭りや行事によく行くか (％)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	58.4	41.6	0.0	100.0	510
中学生女子	55.2	44.2	0.6	100.0	491
高校生男子	39.6	60.0	0.4	100.0	260
高校生女子	33.4	66.6	0.0	100.0	287
全体	49.6	50.1	0.3	100.0	1548

以上を概観すると、青少年の多くは、近所の知り合いの大人に会ったらあいさつをし(問E1)、近所の大人は自分が何者かだいたい分かっている(問E4)、ということが示されている。しかしながら、悪いことをして怒られた経験(問E3)や、町内の祭りや行事への関わり方(問E5・E6)の回答結果をみると、近所の大人たちとの関係は、さほど緊密なさそうである。

第3章 性格特性

この章では、中高生の性格特性の特徴と、性格特性と他者の視線、逸脱行動との関連について分析していく。以下、性格特性の特徴、それと他者の視線、逸脱行動との関連を順にみていく。

1. 性格特性

(1) 質問項目の概要

性格特性項目は、柳井春夫・柏木繁男・国生理枝子が作成した新性格検査（1987）から 8 因子 24 項目を引用、2 項目を独自に作成し、計 26 項目からなる尺度を使用した。得られたデータ全体に因子分析（バリマクス回転）をおこなった結果、9 因子が抽出された（表 3-1-1）。

表 3-1-1 性格特性項目の因子分析の結果

因子名	項目
神経質	G1. ちょっとしたことが気になる G2. いやなことはすぐに忘れるほうだ G3. 失敗するといつまでもくよくよ考える
劣等感	G4. 自分はつまらない人間だ G5. 自分の考えは何かまちがっている気がする G6. 自信を持っている*
社会的外向性	G8. 誰とでも気さくに話せる G9. 話し好きである
活動性	G10. 動作はきびきびしている G11. 何かと先頭にたって働くほうだ G12. 何事にも積極的に取り組む
自己顕示性	G13. 注目の的になりたい G14. 何につけての人より目立ちたい G15. 人が自分を認めてくれないと不満だ
共感性	G16. 気の毒な人をみると、すぐに同情するほうだ G17. 他人の苦しみがよくわかる G18. 困っている人をみると、すぐに助けてあげたくなる
非協調性	G19. 世の中の人、人のことなどかまわないと思っている G20. 親友でも本当に信用することはできない G21. 自分さえよければいいと思う
攻撃性	G22. 人にとやかく言われると、必ず言い返す G23. 失礼なことをされると黙っていない G24. 意見が合わないと、相手を批判したくなる
友人関係への 過剰適応	G25. 友達のためなら、学校や先生に迷惑をかけてもしかたがない G26. 友達のためなら、周りの人達に迷惑をかけてもしかたがない

*：逆転項目

前8因子に関しては、柳井・柏木・国生（1987）の解釈に従い、最後の因子に関してのみ、その項目内容から「友人関係への過剰適応」因子と命名した。なお G7 は本来、社会的外向性因子に含まれる項目であるが、ワーディングにミスがあったため、今回の分析からは除外した。

因子分析とは、さまざまな種類の項目があるとき、同質の内容を問うている項目どうしをまとめ、その内容を因子という形で表す方法である（例えば、G1, 2, 3 は、項目自体はそれぞれ違う聞き方をしているが、その内容から3つとも神経質さを測っていると考えられる。したがって、これら3つの項目は、神経質さを測っているということで、「神経質」因子としてまとめることができる）。したがって、因子が違うということは、違う内容を測っているということであり、因子ごとに分析する必要がある。以下では各因子ごとに学校別・男女別に分析していく。

(2) 学校別・男女別の性格特性の特徴

ここでは中学生・高校生、男子、女子の性格特性に関する全般的な傾向を分析する。

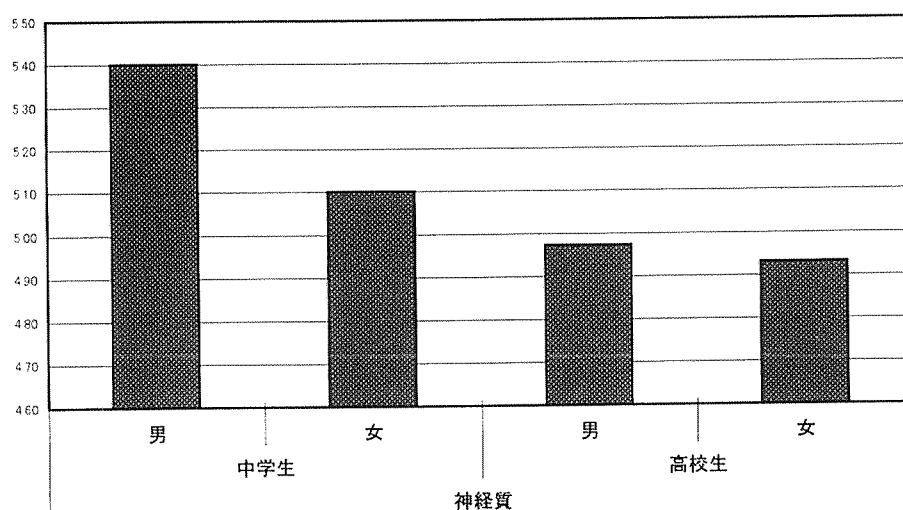
1) 神経質

まずこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-2）。ここでは得点が低いほど、「神経質であること」をあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間において有意な差がえられた（ $F(1,1534)=11.44, p < .01$ ）。つまり、高校生のほうが中学生に比べ神経質である傾向にある。男女差については差はみられなかった。

表 3-1-2 学校別・男女別神経質因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	5.40	1.69	510
	女	5.10	1.70	490
高校生	男	4.97	1.57	260
	女	4.93	1.59	286

図 3-1-1 学校別・男女別神経質因子得点の平均値



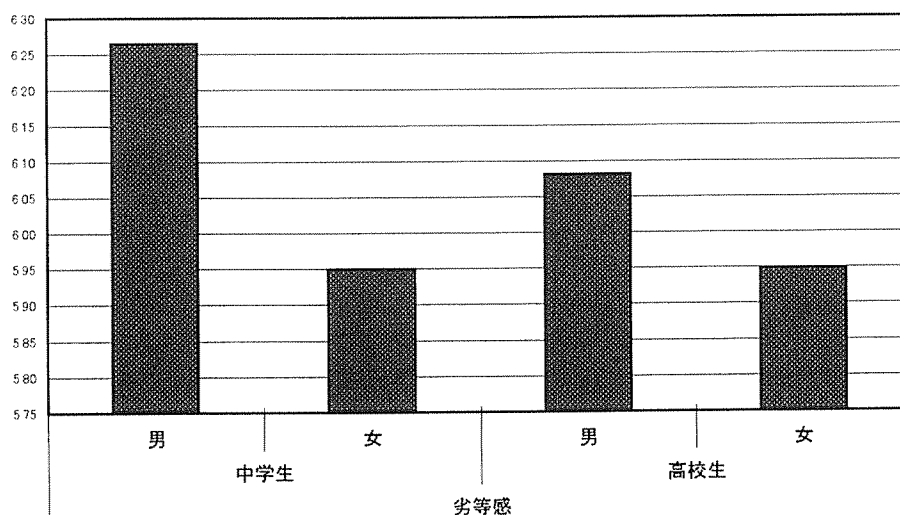
2) 劣等感

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-3）。ここでも得点が低いほど、「劣等感が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間においては有意な差がえられなかったが、男女間において有意な差がえられた ($F(1,1534)=7.24, p.<.01$)。つまり、男子よりも女子のほうが、劣等感を抱えているといえる（図 3-1-2）。

表 3-1-3 学校別・男女別劣等感因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	6.26	1.58	510
	女	5.95	1.54	490
高校生	男	6.08	1.57	260
	女	5.95	1.58	286

図 3-1-2 学校別・男女別劣等感因子得点の平均値



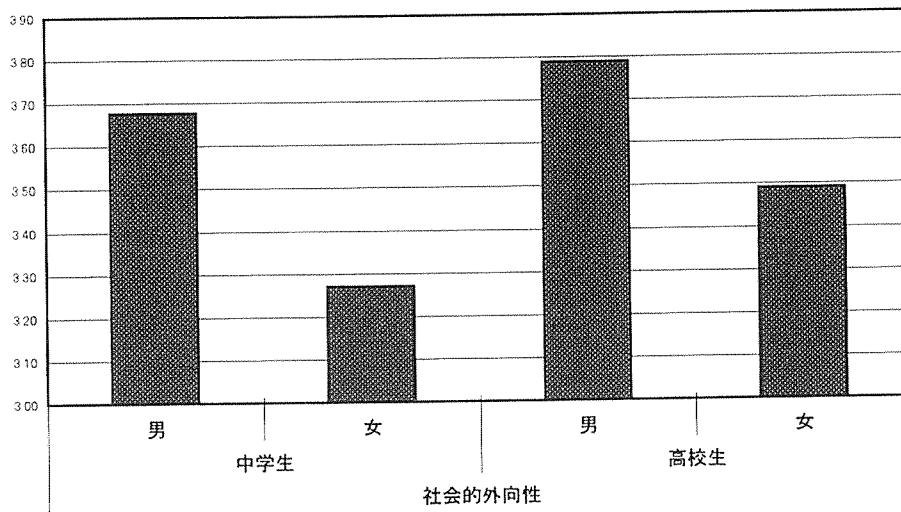
3) 社会的外向性

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-4）。ここでも得点が低いほど、「社会的外向性が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間、男女間においてともに、有意な差がえられた ($F(1,1534)=5.65, p.<.05$; $F(1,1534)=25.54, p.<.001$)。つまり、高校生より中学生のほうが社会的外向性が高く、男子より女子のほうが社会的外向性が高いといえる（図 3-1-3）。

表 3-1-4 学校別・男女別社会的外向性因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	3.68	1.28	510
	女	3.27	1.26	490
高校生	男	3.79	1.55	260
	女	3.49	1.21	286

図 3-1-3 学校別・男女別社会的外向性因子得点の平均値



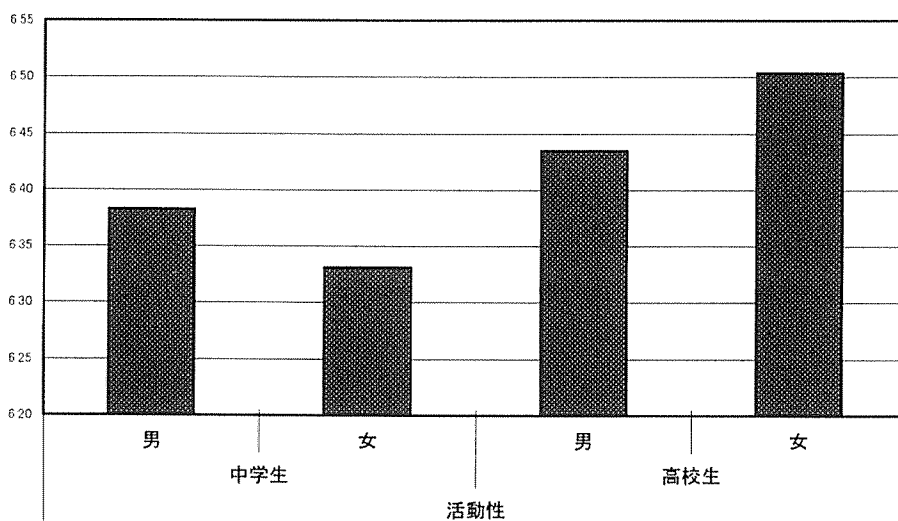
4) 活動性

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-5）。こ
こでも得点が低いほど、「活動性が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散
分析をおこなった結果、学校間においても男女間においても有意な差はえられなかった。つまり、中
学生、高校生においても、男子、女子においても活動性に関しては、差はないといえる（図 3-1-4）。

表 3-1-5 学校別・男女別活動性因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	6.38	1.65	510
	女	6.33	1.62	490
高校生	男	6.43	2.14	260
	女	6.50	1.71	286

図 3-1-4 学校別・男女別の活動性因子得点の平均値



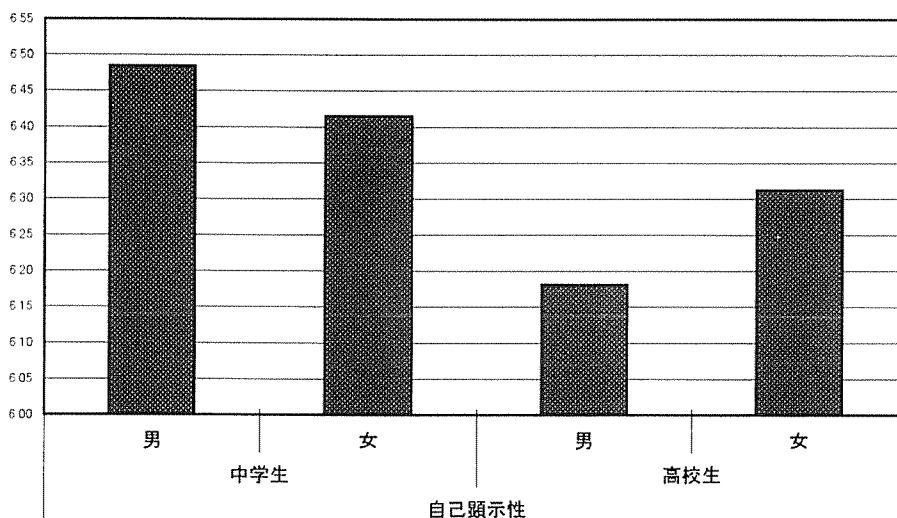
5) 自己顕示性

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-6）。ここでも得点が低いほど、「自己顕示性が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間において有意な差がえられ ($F(1,1534)=4.28, p.<.05$)、男女間においては有意な差はえられなかった。つまり、中学生よりも高校生のほうが、自己顕示性が高いといえる（図 3-1-5）。

表 3-1-6 学校別・男女別自己顕示性因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	6.48	1.79	510
	女	6.41	1.82	490
高校生	男	6.18	1.97	260
	女	6.31	1.87	286

図 3-1-5 学校別・男女別自己顕示性因子得点の平均値



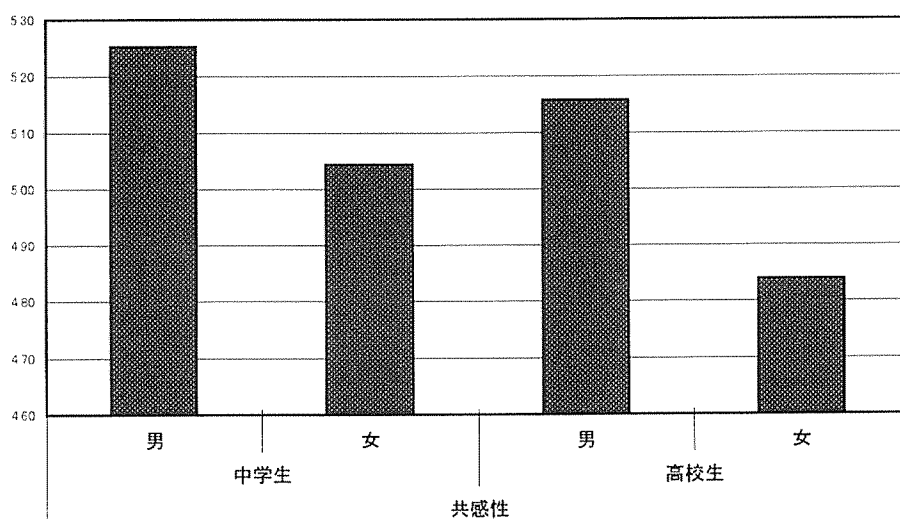
6) 共感性

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-7）。ここでも得点が低いほど、「共感性が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間において有意な差はえられず、男女間において有意な差がえられた（ $F(1,1534)=9.10, p.<.01$ ）。つまり、男子よりも女子のほうが、共感性が高いといえる（図 3-1-6）。

表 3-1-7 学校別・男女別共感性因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	5.25	1.59	510
	女	5.04	1.79	490
高校生	男	5.16	1.70	260
	女	4.84	1.41	286

図 3-1-6 学校別・男女別共感性因子得点の平均値



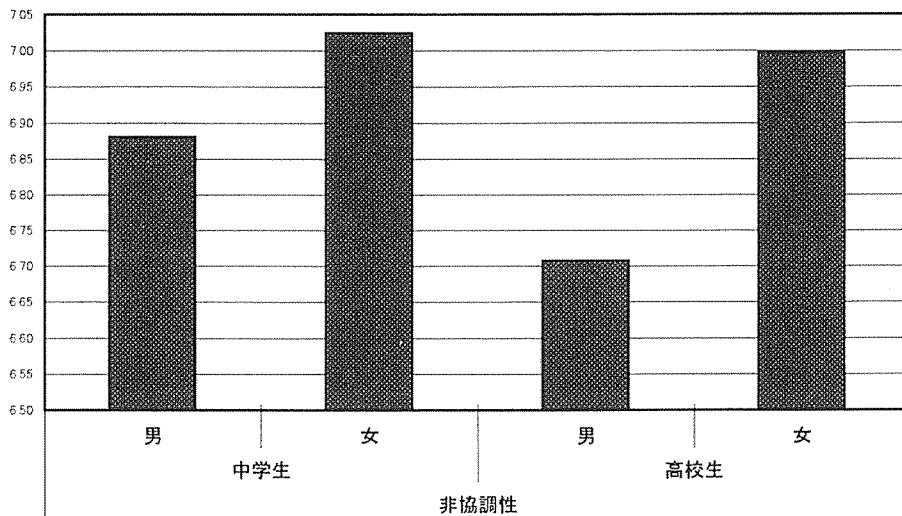
7) 非協調性

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-8）。ここでも得点が低いほど、「共感性が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間において有意な差はえられず、男女間において有意な差がえられた（ $F(1,1534)=6.21, p.<.05$ ）。つまり、女子よりも男子のほうが非協調的であるといえる（図 3-1-7）。

表 3-1-8 学校別・男女別非協調性因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	6.88	1.57	510
	女	7.02	1.58	490
高校生	男	6.71	2.00	260
	女	7.00	1.43	286

図 3-1-7 学校別・男女別の非協調性因子得点の平均値



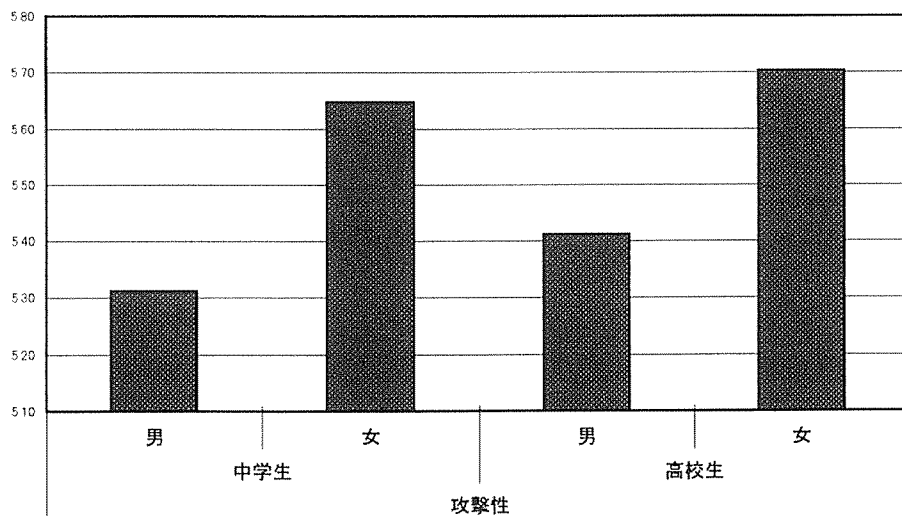
8) 攻撃性

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-9）。ここでも得点が低いほど、「攻撃性が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間において有意な差はえられず、男女間において有意な差がえられた（ $F(1,1534)=11.20, p.<.01$ ）。つまり、女子よりも男子のほうが攻撃性が高いといえる（図 3-1-8）。

表 3-1-9 学校別・男女別攻撃性因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	5.31	1.85	510
	女	5.65	1.83	490
高校生	男	5.41	1.65	260
	女	5.70	1.54	286

図 3-1-8 学校別・男女別攻撃性因子得点の平均値



9) 友人関係への過剰適応

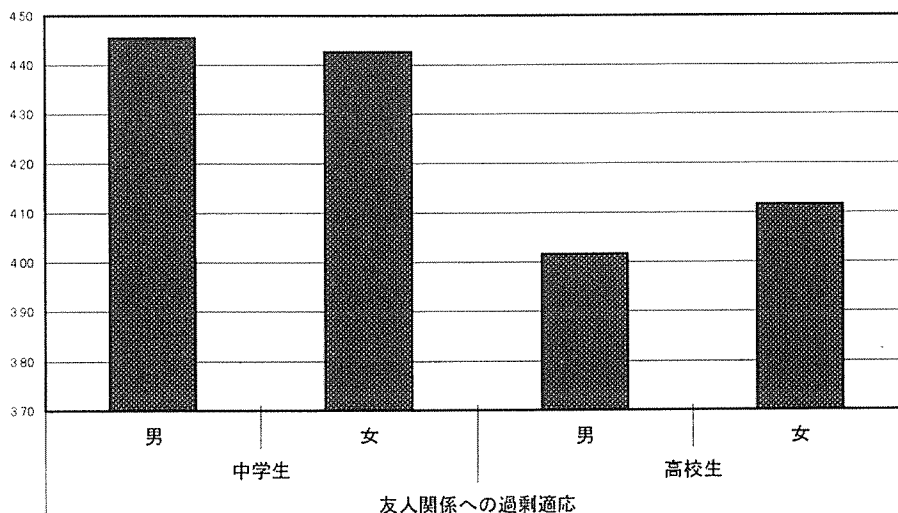
この因子は、今回の調査で新たに作成した項目からなる因子である。児童期後期から思春期に際して、大人からの影響力が減る一方で、友人からの影響力が増えることはよく指摘されることであるが、友人との関係で人（大人）に「迷惑をかける」ということについて、中学・高校生がどのように思っているのか、中学・高校生で発達の違いがあるのかを調べるために、今回付け加えた。

同様にこの因子に含まれる項目の得点を合計し、学校別・男女別に平均値を求めた（表 3-1-10）。ここでも得点が低いほど、「友人への過剰適応が高い」ことをあらわしている。学校別×男女別の二元配置の分散分析をおこなった結果、学校間において有意な差がえられ ($F(1,1534)=22.49, p<.001$)、男女間において有意な差がえられなかった。つまり、中学生より高校生のほうが友人のためなら、学校や先生、周りの人に迷惑をかけてもしかたないと思っている（図 3-1-9）。

表 3-1-10 学校別・男女別友人関係への過剰適応因子得点の平均値

学校	性別	平均値	標準偏差	N
中学生	男	4.45	1.40	510
	女	4.43	1.65	490
高校生	男	4.02	1.53	260
	女	4.12	1.28	286

図 3-1-9 学校別・男女別友人関係への過剰適応因子得点の平均値



2. 性格特性と他者の視線

ここでは、性格特性と他者の視線の関係について分析する。分析に先立って、性格特性項目（G項目）の各因子と他者の視線項目（I項目）に関して、中央値を基準に四分位点を取り、上位25%、下位25%、そして中上位25%と中下位25%は加算して中位50%とし全体を上位・中位・下位と3分割した。その後、性格特性項目と他者の視線項目をクロス集計にかけ、カイ二乗検定をおこなった。その結果、全9因子中、神経質・共感性・非協調性・攻撃性・友人関係への過剰適応の5因子で統計的に有意な値をえた。以下では、性格特性の各因子ごとに、カイ二乗検定で有意な値がえられたもののみについて分析していく。

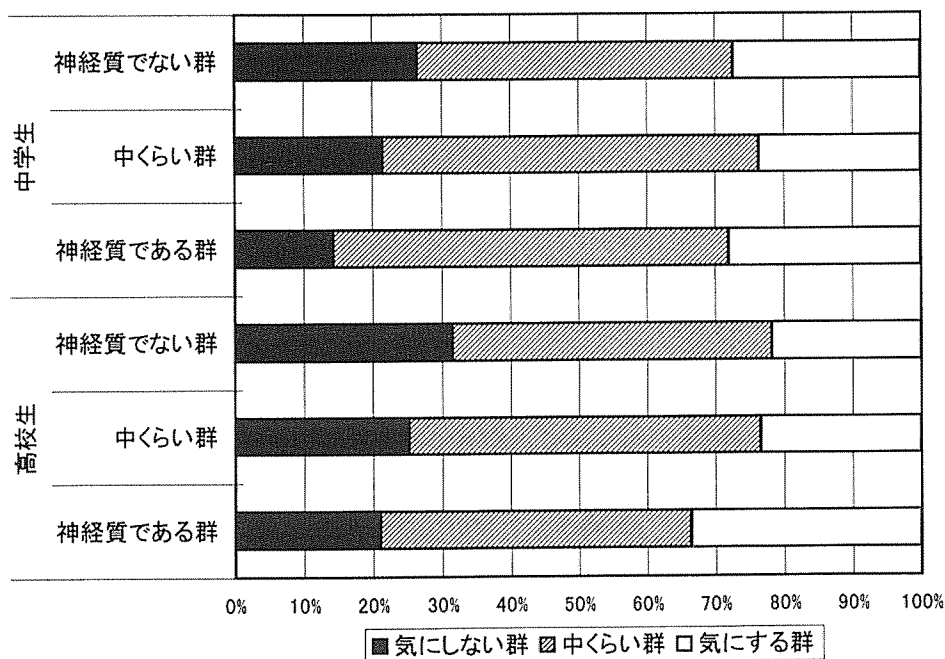
(1)神経質

神経質さの程度と他者の視線を気にする程度は、男女別で傾向が異なる。表の 3-2-1 からわかるように、男子においては、神経質であればあるほど、他者の視線を気にしないという者が減少する傾向にあり、中学生男子ではカイ二乗検定において、1%水準で有意な差がみられる。高校生男子においても、神経質であるほど、他者の視線を気にしないという者が減少し、気にするという者が増えているが、統計的に有意な値ではない。

表 3-2-1 学校別・因子別神経質因子と他者の視線 (%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	神経質である群	10.5	65.8	23.7	100.0	76
	中くらい群	22.0	51.9	26.1	100.0	291
	神経質でない群	31.3	39.7	29.0	100.0	131
	小計	22.7	50.8	26.5	100.0	498
中学生女子	神経質である群	17.2	51.1	31.1	100.0	99
	中くらい群	20.9	58.2	20.9	100.0	273
	神経質でない群	20.6	54.2	25.2	100.0	107
	小計	20.0	55.9	24.0	100.0	479
高校生男子	神経質である群	23.2	50.0	26.8	100.0	56
	中くらい群	32.5	47.4	20.1	100.0	154
	神経質でない群	45.7	37.0	17.4	100.0	46
	小計	32.8	46.1	21.1	100.0	256
高校生女子	神経質である群	19.0	41.3	39.7	100.0	63
	中くらい群	18.9	54.9	26.3	100.0	175
	神経質でない群	17.4	56.5	26.1	100.0	46
	小計	18.7	52.1	29.2	100.0	284

図 3-2-1 神経質と他者の視線



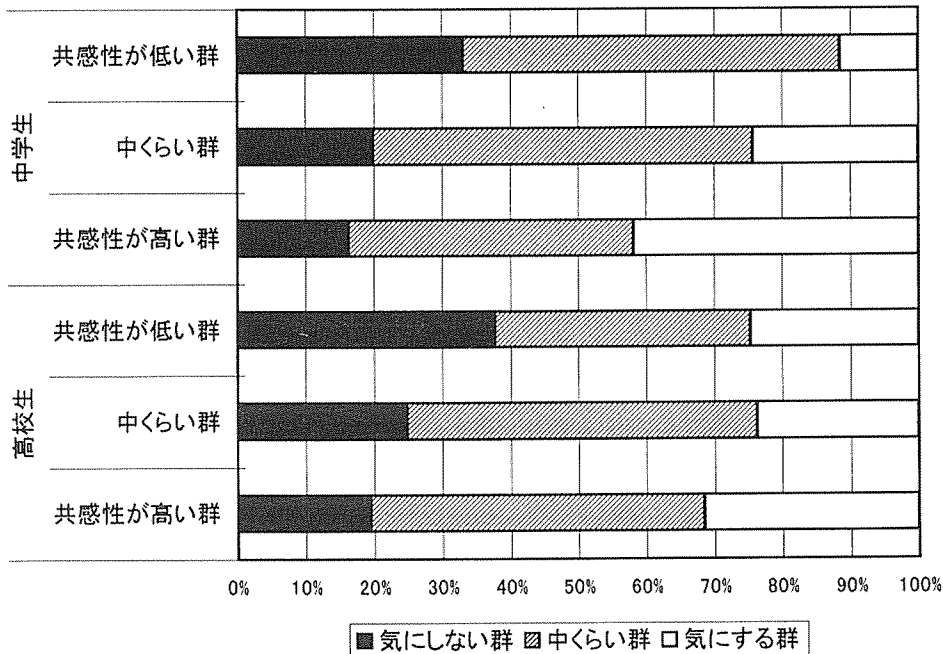
(2) 共感性

共感性の高さの程度と他者の視線の関係は、共感性が高いほど、他者の視線を気にしないという者が減り、他者の視線を気にするという者が増える関係にある(図3-2-2)。中学生男女、高校生男女いずれにもこの傾向はみられるが、カイ二乗検定をおこなった結果、統計的に有意なのは、中学生男子(0.1%水準)、中学生女子(0.1%水準)、高校生男子(5%水準)で、高校生女子の傾向は統計的に有意ではない。

表 3-2-2 学校別・男女別共感性因子と他者の視線 (%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	高い群	11.8	42.1	46.1	100.0	76
	中くらい群	21.6	52.7	25.7	100.0	334
	低い群	36.4	51.1	12.5	100.0	88
	小計	22.7	50.8	26.5	100.0	498
中学生女子	高い群	19.8	41.7	38.5	100.0	96
	中くらい群	18.2	59.2	22.6	100.0	314
	低い群	29.0	60.9	10.1	100.0	69
	小計	20.0	55.9	24.0	100.0	479
高校生男子	高い群	24.5	46.9	28.6	100.0	49
	中くらい群	32.9	50.0	17.1	100.0	170
	低い群	43.2	27.0	29.7	100.0	37
	小計	32.8	46.1	21.1	100.0	256
高校生女子	高い群	15.3	50.8	33.9	100.0	59
	中くらい群	17.6	52.8	29.5	100.0	193
	低い群	31.25	50	18.75	100	32
	小計	18.7	52.1	29.2	100.0	284

図 3-2-2 共感性と他者の視線



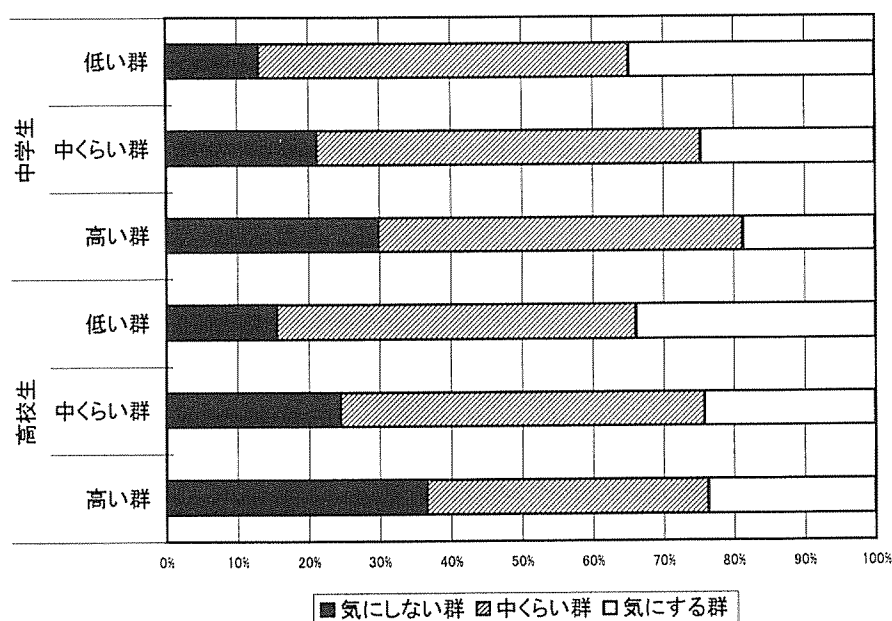
(3)非協調性

非協調性の高さの程度と他者の視線を気にする程度は、非協調的である者ほど、他者の視線を気にしない者が多く、協調的な者ほど他者の視線を気にするという傾向がみられる(表3-2-3)。そこでカイ二乗検定をおこなったところ、特に男子において、統計的に有意な差がみられた(中学生男子, 1%水準; 高校生男子, 5%水準)。女子にかんしては、同様の傾向がみられるものの、統計的に有意ではなかった。

表3-2-3 学校別・男女別非協調性因子と他者の視線 (%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	高い群	34.7	46.3	18.9	100.0	95
	中くらい群	20.4	53.7	25.9	100.0	328
	低い群	17.3	44.0	38.7	100.0	75
	小計	22.7	50.8	26.5	100.0	498
中学生女子	高い群	23.7	57.9	18.4	100.0	76
	中くらい群	22.1	54.6	23.3	100.0	317
	低い群	9.3	59.3	31.4	100.0	86
	小計	20.0	55.9	24.0	100.0	479
高校生男子	高い群	45.9	29.5	24.6	100.0	61
	中くらい群	30.8	49.1	20.1	100.0	159
	低い群	19.4	61.1	19.4	100.0	36
	小計	32.8	46.1	21.1	100.0	256
高校生女子	高い群	18.8	59.4	21.9	100.0	32
	中くらい群	19.8	53.0	27.2	100.0	217
	低い群	11.4	40.0	48.6	100.0	35
	小計	18.7	52.1	29.2	100.0	284

図3-2-3 非協調性と他者の視線



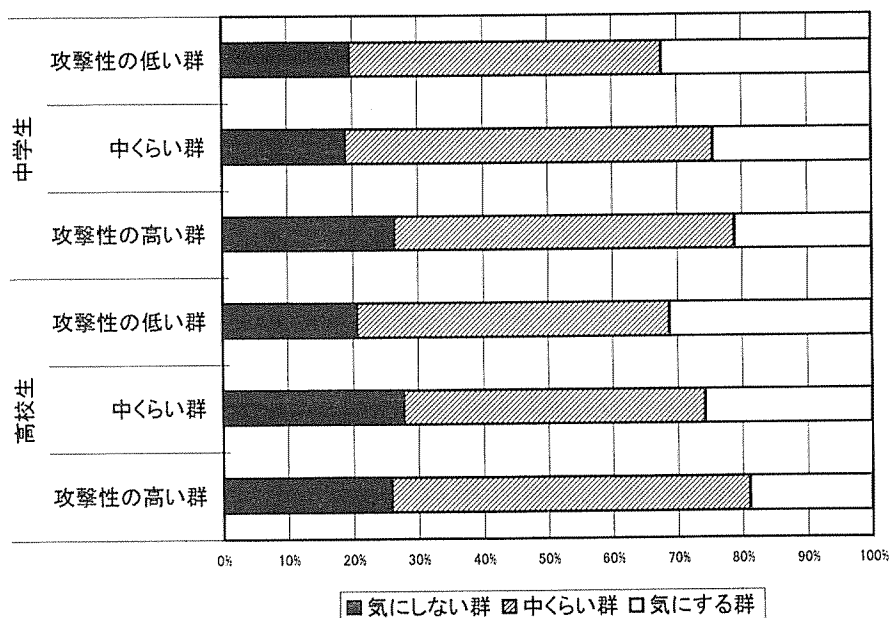
(4) 攻撃性

攻撃性の高さの程度と他者の視線を気にする程度は、女子において、攻撃性が高い者ほど、他者の視線を気にしない者が増え、攻撃性の低い者ほど、他者の視線を気にする者が増える傾向にある（表3-2-4）。カイ二乗検定をおこなったところ、中学生女子において、0.1%水準で差がみられた。高校生女子においては統計的に有意な値はえられなかった。

表 3-2-4 学校別・男女別攻撃性因子と他者の視線 (%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	高い群	25.0	50.6	24.4	100.0	172
	中くらい群	20.9	51.1	28.0	100.0	225
	低い群	22.8	50.5	26.7	100.0	101
	小計	22.7	50.8	26.5	100.0	498
中学生女子	高い群	28.3	55.1	16.5	100.0	127
	中くらい群	16.8	62.6	20.6	100.0	214
	低い群	17.4	46.4	36.2	100.0	138
	小計	20.0	55.9	24.0	100.0	479
高校生男子	高い群	29.9	50.6	19.5	100.0	77
	中くらい群	38.5	41.9	19.7	100.0	117
	低い群	25.8	48.4	25.8	100.0	62
	小計	32.8	46.1	21.1	100.0	256
高校生女子	高い群	21.2	60.6	18.2	100.0	66
	中くらい群	18.7	50.4	30.9	100.0	139
	低い群	16.5	48.1	35.4	100.0	79
	小計	18.7	52.1	29.2	100.0	284

図 3-2-4 攻撃性と他者の視線



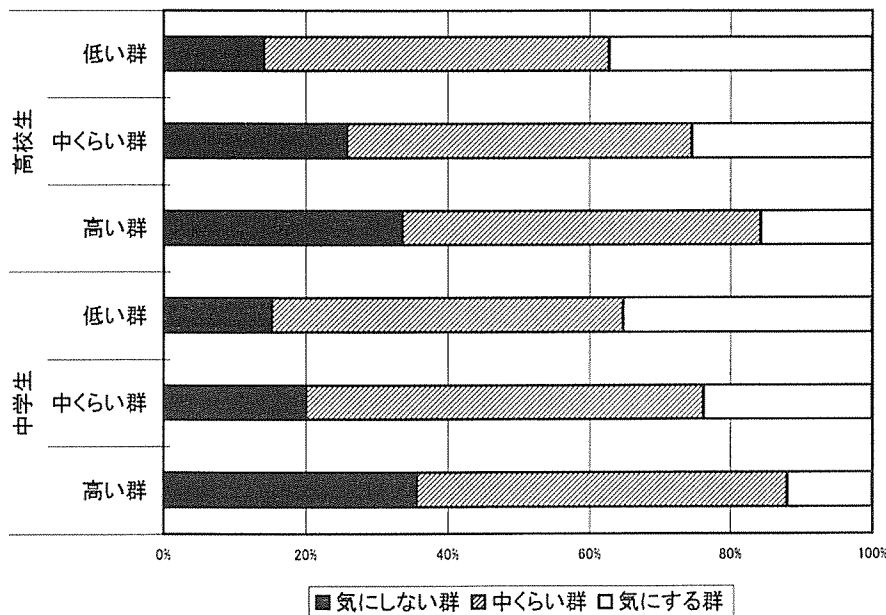
(5) 友人関係への過剰適応

友人関係への過剰適応している程度と他者の視線を気にする程度は、過剰適応している者ほど、他者の視線を気にしない者の割合が増え、過剰適応していない者ほど、他者の視線を気にする者の割合が増える。このことは、学校別にみても、男女別にみてもいえる傾向である（表 3-2-5；図 3-2-5）。カイ二乗検定をおこなった結果、中学生男子は 1%水準で、中学生女子は 0.1%水準で、高校生男子は 1%水準で統計的に有意な差がみられた。高校生女子に関しては統計的に有意な差はみられなかった。

表 3-2-5 学校別・男女別友人関係への過剰適応因子と他者の視線 (%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	高い群	36.3	51.3	12.5	100.0	80
	中くらい群	22.3	51.2	26.5	100.0	260
	低い群	16.5	50.0	33.5	100.0	158
	小計	22.7	50.8	26.5	100.0	498
中学生女子	高い群	35.0	53.4	11.7	100.0	100
	中くらい群	17.4	62.1	20.5	100.0	219
	低い群	14.0	49.0	36.9	100.0	157
	小計	20.0	55.9	24.0	100.0	479
高校生男子	高い群	42.6	48.5	8.8	100.0	68
	中くらい群	32.1	47.9	20.0	100.0	140
	低い群	20.8	37.5	41.7	100.0	48
	小計	32.8	46.1	21.1	100.0	256
高校生女子	高い群	25.0	52.8	22.2	100.0	72
	中くらい群	19.7	49.7	30.6	100.0	147
	低い群	9.2	56.9	33.8	100.0	65
	小計	18.7	52.1	29.2	100.0	284

図 3-2-5 友人関係への過剰適応と他者の視線



以上のことから、性格特性と他者の視線を気にするかということの関係について、次のようなこと

が理解されるだろう。まず全体にいえるとは、共感性が低く、友人関係に過剰適応している者ほど、他者の視線を気にしない傾向があるということである。男女別に検討すると、男子においては、神経質で非協調的である者ほど、他者の視線を気にしない、女子においては、攻撃性が高い者ほど、他者の視線を気にしない傾向がある。したがって、性格特性と他者の視線の関係は、全体としては共感性と友人関係への過剰適応が関係しており、男子においては、神経質と非協調性、女子においては、攻撃性が関係していることが理解できるであろう。

3. 性格特性と逸脱行動

ここでは、性格特性（G項目）と逸脱行動（L項目）の関係についてみていく。つまり、どのような性格特性の違いが、逸脱行動の経験の差をもたらしているのかをみていく。そのために、性格特性の9因子を3分割したものを独立変数に、逸脱行動（L項目）の得点を合計したものを従属変数にし、一元配置の分散分析をおこなった。なお、逸脱行動のL項目に関しては、逸脱行動を「したことがある」に1点を「したことがない」に2点を与えている。したがって、以下に示す平均値の値は、低ければ低いほど、逸脱行動の経験を多くしているということを意味している。

以下、性格特性因子で主効果（性格特性の違いによって逸脱行動の経験に差があるもの）がえられたものについてみていく。

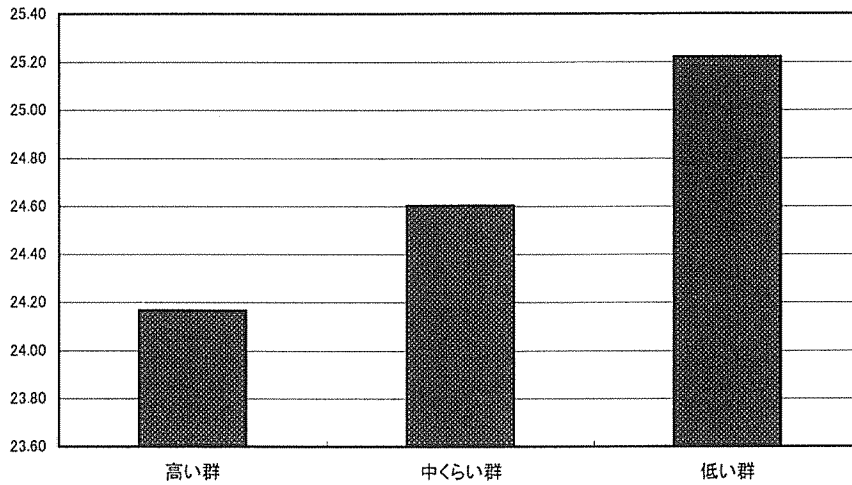
(1) 社会的外向性

社会的外向性因子（高い群・中くらい群・低い群）×逸脱行動で一元配置の分散分析をおこなった結果、1%水準で差がみられた（ $F(2,1545)=5.91, p.<.01$ ）（表3-3-1）。Duncan法による多重比較の結果、社会的外向性の「高い群」、「中くらい群」と「低い群」のあいだに差がみられた（ $\alpha=.05$ ）。つまり、性格特性における社会的外向性が低い者は、高い者や中くらいの者に比べ、逸脱行動の経験を多くしているといえる（図3-3-1）。したがって、社会的外向性に関しては、外向性の程度ではなく、その低さが、逸脱行動と関連していると考えられる。

表 3-3-1 社会的外向性と逸脱行動

	平均値	標準偏差	標準誤差	N
高い群	24.17	3.35	0.17	408
中くらい群	24.60	4.89	0.17	792
低い群	25.22	3.38	0.18	348
合計	24.63	4.23	0.11	1548

図 3-3-1 社会的外向性の程度と逸脱行動



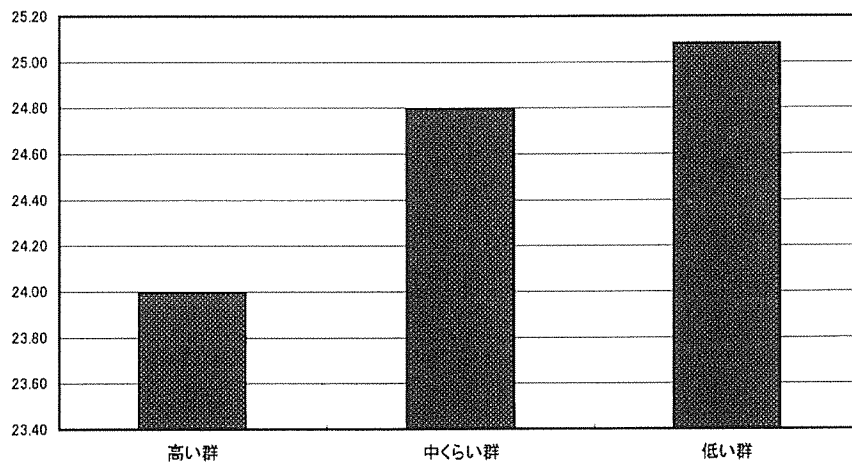
(2) 自己顕示性

同様の手続きで、自己顕示性因子×逸脱行動で一元配置の分散分析をおこなった結果、0.1%水準で差がみられた ($F(2,1545)=8.78, p<.001$) (表 3-3-2)。Duncan 法による多重比較の結果、社会的外向性の「高い群」と「中くらい群」、「低い群」のあいだに差がみられた ($\alpha=.05$)。つまり、性格特性における自己顕示性が高い者は、低い者や中くらいの者に比べ、逸脱行動の経験を多くしているといえる (図 3-3-2)。したがって、自己顕示性に関しても、自己顕示性の程度ではなく、その高さが、逸脱行動と関連していると考えられる。

表 3-3-2 自己顕示性と逸脱行動

	平均値	標準偏差	標準誤差	N
高い群	23.99	3.51	0.16	492
中くらい群	24.79	5.37	0.22	580
低い群	25.08	3.11	0.14	476
合計	24.63	4.23	0.11	1548

図 3-3-2 自己顕示性の程度と逸脱行動



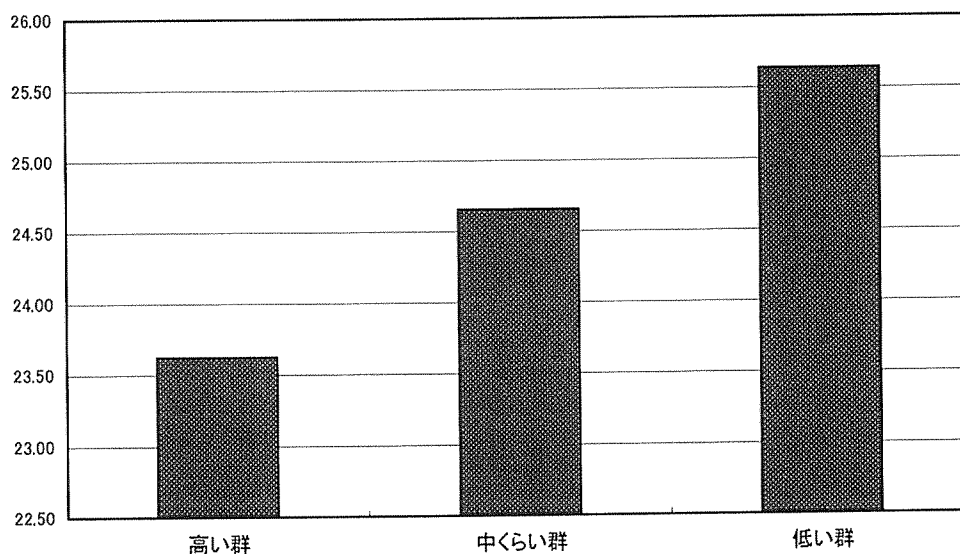
(3)非協調性

同様の手続きで、非協調性因子×逸脱行動で一元配置の分散分析をおこなった結果、0.1%水準で差がみられた ($F(2,1545)=14.59, p.<.001$) (表 3-3-3)。Duncan 法による多重比較の結果、社会的外向性の「高い群」と「中くらい群」と「低い群」のそれぞれのあいだに差がみられた ($\alpha=.05$)。つまり、性格特性における非協調性の高い者ほど、逸脱行動の経験を多くしているといえる (図 3-3-3)。

表 3-3-3 非協調性と逸脱行動

	平均値	標準偏差	標準誤差	N
高い群	23.62	4.02	0.25	268
中くらい群	24.65	4.38	0.14	1042
低い群	25.63	3.44	0.22	238
合計	24.63	4.23	0.11	1548

図 3-3-3 非協調性の程度と逸脱行動



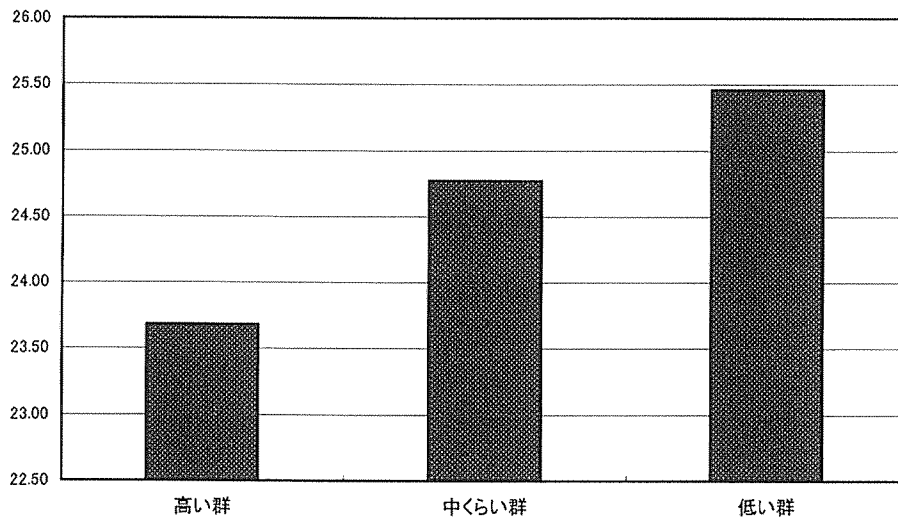
(4)攻撃性

同様の手続きで、攻撃性因子×逸脱行動で一元配置の分散分析をおこなった結果、0.1%水準で差がみられた ($F(2,1545)=19.70, p.<.001$) (表 3-3-4)。Duncan 法による多重比較の結果、攻撃性の「高い群」と「中くらい群」と「低い群」のそれぞれのあいだに差がみられた ($\alpha=.05$)。つまり、性格特性における攻撃性の高い者ほど、逸脱行動の経験を多くしているといえる (図 3-3-4)。

表 3-3-4 攻撃性と逸脱行動

	平均値	標準偏差	標準誤差	N
高い群	23.68	3.72	0.18	449
中くらい群	24.77	5.04	0.19	709
低い群	25.46	2.68	0.14	390
合計	24.63	4.23	0.11	1548

図 3-3-4 攻撃性の程度と逸脱行動



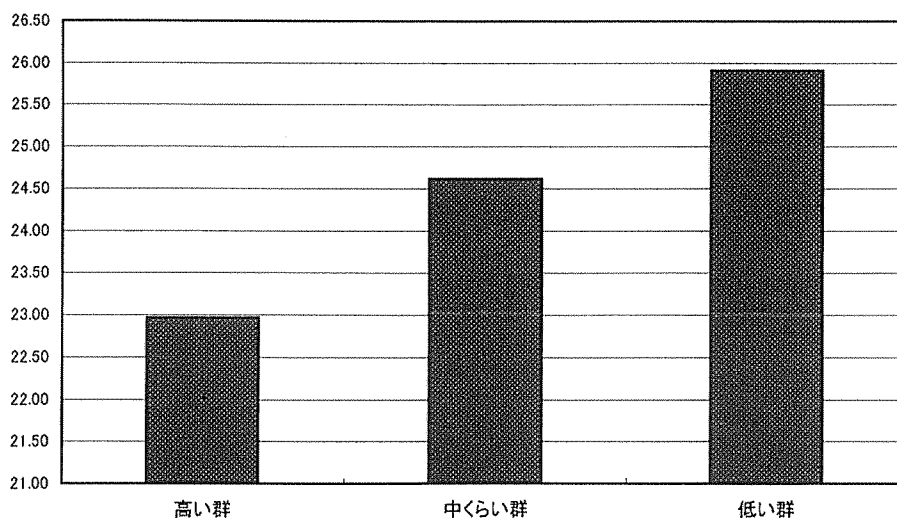
(5) 友人関係への過剰適応

同様の手続きで、友人関係への過剰適応因子×逸脱行動で一元配置の分散分析をおこなった結果、0.1%水準で差がみられた ($F(2,1545)=48.50, p < .001$) (表 3-3-5)。Duncan 法による多重比較の結果、友人関係への過剰適応の「高い群」と「中くらい群」と「低い群」のそれぞれのあいだに差がみられた ($\alpha = .05$)。つまり、友人関係へ過剰適応している者ほど、逸脱行動の経験を多くしているといえる (図 3-3-5)。

表 3-3-5 友人関係への過剰適応と逸脱行動

	平均値	標準偏差	標準誤差	N
高い群	22.96	3.58	0.20	330
中くらい群	24.62	3.17	0.11	783
低い群	25.91	5.67	0.27	435
合計	24.63	4.23	0.11	1548

図 3-3-5 友人関係への過剰適応の程度と逸脱行動



第3章のまとめ

この章では、性格特性を中心に、性格特性と他者の視線と逸脱行動の関係についてみてきた。まず全般的な傾向としては、共感性と友人関係への過剰適応といった性格特性が他者の視線を気にする・気にしないに関係していた。男女別にみると、共感性・友人への過剰適応以外で他者の視線と関係がある性格特性は、男子においては、神経質と非協調性、女子においては、攻撃性であった。つまり、男子は神経質でなく、協調性に欠ける者ほど、他者の視線を気にしないという傾向にあり、女子は攻撃的である者ほど他者の視線を気にしないという傾向がみられた。

次に、性格特性と逸脱行動に関しては、社会的外向性、自己顕示性、非協調性、攻撃性、友人への過剰適応が、逸脱行動の経験の多さに関係していた。社会的外向性と自己顕示性は、単なる量的な程度の差が問題なのではなく、それが低いこと（社会的外向性）や高いこと（自己顕示性）が、逸脱行動の経験の差と関係していた。また、非協調性、攻撃性、友人への過剰適応は、その得点が高い者ほど、逸脱行動を多く経験していた。

以上より本章を通して、もっとも明らかにいえることは、本調査で新たに作成した「友人への過剰適応」という性格特性が、他者の視線、逸脱行動双方と強く関連しているということである。次章以下では、他者の視線と逸脱行動の関係が検討され、他者の視線と逸脱行動に関連性が見いだされると思われるが、そこには、「友人への過剰適応」という性格特性が要因として働いていると考えられる。

第4章 マナー違反行動についての分析

1. マナー違反行動についての分析

(1)各設問の分析

問Hは、経験の次元での青少年における第三者のヨソ者状況を把握するための調査項目で、マナー違反行動についての10個の問いが設けられている。問H1～問H10までの設問は、マナー違反行動と思われるものを取り出して、中学生や高校生が、他人の目を気にすることなく、不特定多数の人がいる場所で、それらの行動をどれだけ行っているかを把握しようとしたものである。それゆえに、私たちの仮説からは、「したことがない」よりも「したことがある」、「したことがある」よりも「よくする」と回答した方が、他人をヨソ者とみなして、平気でそのような行動に出たと解釈する。しかし、個々の設問では、それ以外の視点から回答を解釈することが可能である。以下では、そのような視点も考慮して、回答結果を分析しておきたい。

最初に、「電車やバスの中」という不特定多数の第三者がいる状況で、「化粧する」(問H1)、「携帯電話で話をする」(問H2)、「友達数人と大きな声で話をする」(問H3)、「脚(あし)を大きく開いて座る」(問H4)を、したことがあるかをたずねている。4つの問のいずれでも、中学生に比べて、高校生の方が、「したことがない」の回答が少なくなっている。この結果は、中学生の方が、地元の学校に通うことが多いので、行動範囲が狭く、電車やバスに乗る機会がより少ないことを反映しているであろう。他方、調査の仮説に沿って解釈すると、中学生よりも高校生の方が、より多く第三者をヨソ者視しているので、電車やバスの中でも、他人の眼差しを気にすることなく、化粧をしたり、携帯電話で話をしたり、友達数人と大きな声で話をしたり、脚(あし)を大きく開いて座ったりしているということになる。

問H1は、電車やバスの中での化粧の経験を聞いている。その結果は、中学生では、93.0%が「したことがない」と回答していた。これを男女別で見ると、男子では、「したことがない」の回答が、99.2%に達していた。他方、高校生では、中学生に比べると、「よくする」と「したことがある」の割合が高まっていた。特に、高校の女子では、その割合が、7.3%および32.8%になっていたのである。ジェンダーの社会学によれば、化粧するという行動は、女性特有ではありえない。しかし、伝統的には、化粧の行動は、女性の中で見られる行動であった。最近では、男女という性差の否定の中で、また、化粧品会社の激しい売り込み競争の影響の中で、化粧する男性が増えている。それでも、化粧の行動は、男子の間では、まだ大きな広がりが見られない。これも反映して、中学生および高校生の男子の99%が、電車やバスの中で化粧したことがないと回答していたのであろう。中学生と高校生の女子の場合には、高校生の方で、「よくする」と「したことがある」という回答が高まっていた。これは、先に述べた二つの解釈が当てはまるほかに、中学生の方が、一般に校則が厳しいので、化粧の禁止という行動規範が行き渡っているのを反映しているかもしれない。

問H2は、電車やバスの中で携帯電話で話をした経験を聞いている。中学生では、「したことがない」と回答したものが、77.1%を占めていた。中学生の場合は、親がまだ認めていないためか、携帯電話を持っている者は、44.0%にとどまっている(問M7①)。77.1%と高い割合を示したのは、それをも反映しているであろう。高校生の場合には、「よくする」と「したことがある」の割合が、11.7%と56.3%を占めていた。JRなどは、電車の中で携帯電話を使わないように、PRしている。それにもかかわらず、高校生の3分の2が携帯電話で話をした経験を持っていたのである。男女別でみると、

「よくする」と「したことがある」の合計の割合は、中学生も高校生も女子の方が高くなっている。女子の方が、携帯電話によるおしゃべりをより多く楽しんでいるようであり、その行動は、電車やバスの中でも広く行われているのであろう。

問 H3 は、電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をしたことがあるかを聞いている。「よくする」と「したことがある」の合計の割合は、中学生が 67.6%、高校生が 81.9% で、中学生の方が低かった。男女別では、「よくする」と「したことがある」の合計の割合は、中学生も高校生も女子の方が高くなっている。現在では、女子はしとやかに行動すべきという行動規範が廃れてしまい、女子は、電車やバスという第三者がいる場でも、人目を意識せずに、大声でおしゃべりすることを楽しんでいるようである。

問 H4 は、電車やバスの中で脚（あし）を大きく開いて座ったことがあるかを聞いている。この質問でも、「したことがない」の割合は、中学生の方が高かった。「よくする」と「したことがある」の合計の割合を、男女別で見ると、中学生の場合には、男子が 30.0%、女子が 32.3% であり、高校生の場合には、男子が 58.1%、女子が 34.9% であった。女子の場合には、中学生と高校生とでは、割合がほとんど変わらないのに、男子の場合には、高校生の割合が顕著に高まっていた。近頃の高校生女子は、他人の目を気にしなくなって、電車やバスの中で、平気で脚（あし）を開いて座るといわれているが、実際には、高校生男子の方が、脚（あし）を開いて座ることを経験していたのである。

問 H5 は、混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置いた経験を聞いている。「したことがない」の割合は、中学生が 83.8%、高校生が 77.5% であった。今の青少年は、大きな荷物を持ち歩かないので、「したことがない」の割合が、このように高かったのかもしれない。男女別では、中学生も高校生も、「したことがない」の割合は、ほとんど差がみられなかった。

問 H6 は、目の前に年寄りがいるのに、シルバー・シートに座り続けた経験をたずねている。「したことがない」と回答した割合は、中学生が 87.8%、高校生が 81.4% であった。シルバー・シートではなく、普通の席に座った場合について、この経験を聞いたならば、「したことがない」の割合は、もう少し低かったであろう。男女別では、中学生も高校生も、ほとんど差が見られなかった。

問 H7 は、人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりした経験を聞いている。この行動は、中学生や高校生の間で、かなり広く行き渡っているようである。「よくする」および「したことがある」と回答した者の割合は、それぞれ、中学生が 23.2% と 42.8%、高校生が 19.9% と 53.7% であった。男女別では、中学生男子の方が中学生女子に比べて、「したことがない」の割合は高かった。

問 H8 は、電車内や路上、通路などで地べた座りをした経験を聞いている。青少年の地べた座りは、近年の流行で、上の世代の人からは、青少年が人目をばからなくなった行動として、とらえられているものである。「よくする」と「したことがある」の割合は、それぞれ、中学生が 14.0% と 29.9%、高校生が 16.6% と 43.1% であった。男女別では、「よくする」の割合が、中学生では、男子が 12.0% で女子が 16.1% と女子が若干上回っていたのに対して、高校生では、男子が 21.9% で女子が 11.8% となっており、男子の方が高くなっていた。高校生女子では、高校生男子と同じく、「したことがある」と回答した者は 43% を占めていたのであるが、地べた座りの常習者はより低い割合になっていたのである。

問 H9 は、知らない人の見ているところでたばこを吸うという経験を聞いている。未成年者が喫煙することは、法律で禁じられているので、中学生も高校生も「したことがない」という回答が高い割合を占めていた。それでも、「よくする」と「したことがある」の割合は、それぞれ、中学生が 2.4% と 3.9%、高校生が 11.3% と 9.3% であった。自己申告の調査では、明白な法律違反についての設問に

対しては、正直に回答しない傾向がある。その観点からすると、知らない人の見ているところでよくたばこを吸うと回答した者が、中学生にも 2.4%存在していたことが注目される。男女別では、高校生男子の方が、高校生女子に比べて、「よくする」と「したことがある」の合計の割合が高くなっている。高校生男子では、「よくする」が 14.6%、「したことがある」が 14.2%を占めていたのである。

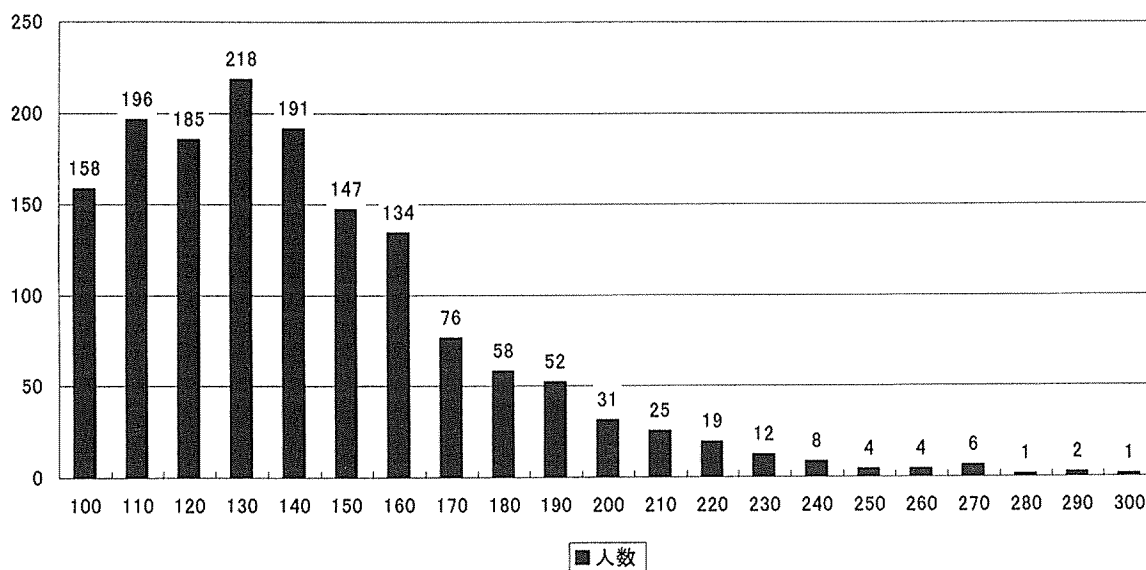
問H10は、人前で鼻くそをほじることをたずねている。「したことがない」と回答した者が、中学生では 92.1%、高校生では 87.4%を占めていた。男女別では、「したことがない」の割合は、中学生も高校生も、女子の方が若干上回っていた。

(2) マナー違反行動の尺度化

以上のように、個々の設問では、いろいろな要因が回答に影響しているのが、ここでは、問H1～問H10の回答が、経験の次元での青少年における第三者のヨソ者状況をはかる指標になっているとみなすことにする。そこで、「よくする」に 30、「したことがある」に 20、「したことがない」に 10 のスコアを与え、問Hの回答を合算して、一つの尺度を作成する（その際に、無回答は欠損値として処理する）。ここでは、経験次元でのヨソ者状況をとらえるための、マナー違反行動スコア尺度（H項目尺度）と名づけ、後に作業仮説を検証する際に使うことにする。

上記の手続きで作成した尺度サンプル数は 1,528 ケースとなり、この尺度の信頼性係数は $\alpha=0.7847$ であった。最大値が 300、最小値が 100 であり、中央値 140、平均値 141.7、標準偏差 33.47 である。マナー違反行動のスコア尺度の分布を図 4-1-1 に示す。左肩上がりの分布になることがわかる。

図4-1-1 マナー違反行動のスコアの分布



さらに、学校別男女別にマナー違反行動のスコア尺度をみてみると、平均値で中学生男子 131.6、中学生女子 139.2、高校生男子 155.1、高校生女子 151.4 となった。中学生よりも高校生の方がマナー違反行動が多い傾向にあることがわかる。また、高校生では男女差はみられないが、中学生では男子よりも女子の方がマナー違反行動がやや多い傾向にある（表 4-1-1）。

表 4-1-1 学校別男女別のマナー違反行動スコアの統計量

統計量

HITOTAL			
中学生男子	度数	有効	501
		欠損値	9
	平均値		131.617
	中央値		130.000
	最頻値		110.0
	標準偏差		29.373
中学生女子	度数	有効	481
		欠損値	10
	平均値		139.189
	中央値		130.000
	最頻値		110.0
	標準偏差		31.391
高校生男子	度数	有効	259
		欠損値	1
	平均値		155.097
	中央値		150.000
	最頻値		150.0
	標準偏差		37.254
高校生女子	度数	有効	287
		欠損値	0
	平均値		151.359
	中央値		140.000
	最頻値		130.0
	標準偏差		33.500

2. 他者の視線についての分析

(1)各設問の分析

問Iは、意識の次元での青少年における第三者のヨソ者状況を把握するための調査項目で、経験次元でのヨソ者状況をしらべるための「マナー違反行動」(問H)に対応した10個の問いが設けられている。問Iでは、「仮定として、もしあなた自身が次のことをしたとしたら、あなたは他人の視線を気にしますか」とたずねている。

問I1は、電車やバスの中で化粧することについてたずねている。「気にする」の割合は、中学生が43.2%、高校生が42.4%で、ほとんど変わりがなかった。男女別で見ると、「気にする」の割合は、中学生では、男子が46.7%で女子が39.5%であり、高校生では、男子が41.9%で女子が42.9%であって、大きな差は見られなかった。

問I2は、電車やバスの中で携帯電話で話をするについて聞いている。「気にする」の割合は、中学生が39.0%で高校生が34.9%であり、中学生が若干高い割合を示していた。男女別で見ると、「気にする」の割合は、中学生では、男子が42.9%で女子が34.8%であり、高校生では、男子が31.9%で女子が37.6%であった。

問I3は、電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をするについて、聞いている。「気にする」の割合は、中学生が30.5%で高校生が28.3%であり、大差なかった。男女別を見ると、「気にする」の割合は、中学の男子が32.7%とやや高いのを除けば、28%とほぼ同じであった。問I1から問I3の設問では、いずれも、中学生男子が一番高い割合を示していたのである。

問I4は、電車やバスで脚(あし)を大きく開いていることについて聞いている。「気にする」の割合は、中学生が38.4%で、高校生が41.1%であり、ほぼ同じであった。男女別で見ると、中学生の場合には、男子が35.1%で女子が41.8%であり、高校生の場合には、男子が28.5%で女子が52.6%であって、いずれも、女子の方が高い割合を示していた。高校生女子の場合には、性的な羞恥心が高まった

ためか、過半数が、電車やバスで脚（あし）を大きく開いた時に他人の視線を気にしていたのである。

問 I5 は、混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置くことについてたずねている。「気にする」の割合は、中学生は 55.5%、高校生は 59.4%であり、いずれも過半数を超えていた。この行動をすると、座りたい人から席を奪うという迷惑をかけるので、より多く他人の視線を「気にする」のかもしれない。男女別では、中学生では、男子が 53.3%で女子が 57.8%であり、大差なかった。高校生では、男子が 50.4%であるのに対して、女子は 67.6%と 3分の2強を占めていたのである。

問 I6 は、目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続けることについて聞いている。中学生では 69.6%、高校生では 68.2%と、7割弱が「気にする」と回答していた。年寄りという弱者に迷惑をかけることになるので、「気にする」の回答が、このように高率になったのであろう。男女別では、中学生では、男子が 69.2%で、女子が 70.1%であり、ほぼ同じであった。高校生の場合には、男子が 60.4%であるのに対して、女子は 75.3%と高率になっていた。

問 I7 は、人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりすることについてたずねている。「気にする」の割合は、中学生が 17.1%で、高校生が 17.9%と、いずれも、他の設問の回答に比べて低率になっている。中学生の 3分の2弱と、高校生の 4分の3弱が、人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりしたことを経験しているので、そのような行為をしても、他人の視線を気にしないのであろう。男女別では、中学生男子が 20.6%、中学生女子が 13.4%、高校生男子が 20.4%、高校生女子が 15.7%であり、中学生も高校生も、男子の方が若干高い割合を示していた。

問 I8 は、電車内や路上、通路などで地べた座りをすることについて聞いている。「気にする」の割合は、中学生が 35.3%、高校生が 30.0%であり、中学生の方が若干高かった。男女別では、「気にする」の割合が、中学生の場合には、男子が 37.6%で女子が 32.8%であり、高校生の場合には、男子が 26.9%で女子が 32.8%であった。女子の場合には、中学生と高校生で、ほとんど割合が変わらなかったのに対して、男子の場合には、高校生の方が 10%も率を低めていたのである。地べた座りをした経験のある男子は、中学生が 39.3%であるのに対して、高校生では 65.0%と高まっている。地べた座りの経験者が増えたので、高校の男子では、「気にする」の割合が低下したのであろう。

問 I9 は、知らない人の見ているところでたばこを吸うことについてたずねている。「気にする」の割合は、中学生が 59.0%であり、高校生が 43.7%であった。喫煙は、未成年者に禁じられているので、「気にする」の割合が高率になることを予想していた。しかし、高校生では、その割合が過半数を下回ったのである。喫煙を指向する高校生にとっては、「知らない人」はヨソ者であり、ヨソ様のように注意したりしない存在なので、彼らの視線をそれほど気にしないのであろう。男女別では、「気にする」の割合が、中学生の場合には、男子が 60.0%、女子が 58.0%と差が見られなかった。高校生の場合には、男子が 35.8%であるのに対して、女子は 50.9%であった。高校生男子の場合、知らない人の見ているところで喫煙したことのある者は、28.8%であったが、隠れて喫煙した経験がある者は、それよりも多いことであろう。より多くの者が喫煙経験者であることを反映して、「気にする」の割合が 35.8%に留まったのであろう。

問 I10 は、人前で鼻くそをほじくることについてたずねている。「気にする」の割合は、中学生が 85.0%、高校生が 78.1%と高率であった。問 I の 10 個の設問のうちで、問 I 10 において「気にする」の割合が一番高かったのは、意外であった。今の青少年は、かっこよさを求めて、身づくろいや清潔であることに大きな関心を示している。だから、鼻くそをほじくることについては、他人の視線をとんでも気にするのであろう。男女別をみると、中学生男子が 81.4%、中学生女子が 88.8%、高校生男子が 71.9%、高校生女子が 83.6%であり、中学生も高校生も、男子より女子の方で、高い割合になって

いた。

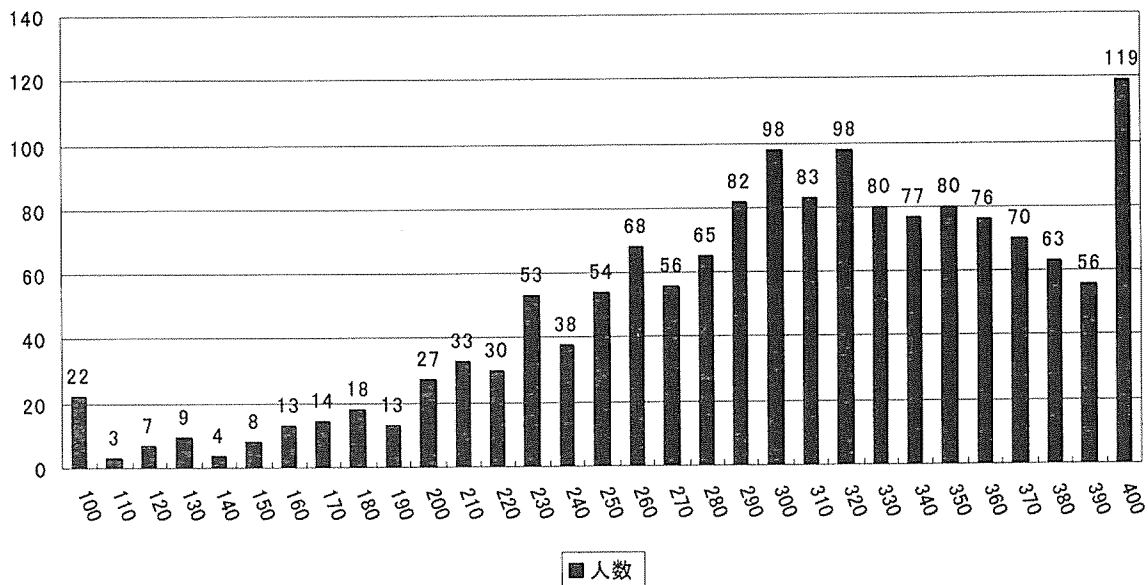
(2)他者の視線の尺度化

経験次元でのヨソ者状況をとらえるための「マナー違反行動」(問H)の各設問と同様に、意識次元でのヨソ者状況をとらえるための「他者の視線」(問I)の個々の設問でも、いろいろな要因が回答に影響している。しかし、ここでも、問I 1～問I10に対する回答が、意識の次元での青少年における第三者のヨソ者状況ををはかる指標になっているとみなすことにする。そこで、「気にする」に40、「少し気にする」に30、「あまり気にしない」に20、「気にしない」に10のスコアを与え、問I 1～問I10の回答を合算して、一つの尺度を作成する(その際に、無回答は欠損値として処理する)。ここでは、それを意識次元でのヨソ者状況をとらえるための、他者の視線スコア尺度(I項目尺度)と名づけ、それに基づいて、後に作業仮説の検証を試みることにする。

上記の手続きで作成した尺度サンプル数は1,517ケースとなり、この尺度の信頼性係数は $\alpha=0.8695$ であった。最大値が400、最小値が100であり、中央値310、平均値302.4、標準偏差69.00である。他者の視線のスコア尺度の分布を図4-2-1に示す。右肩上がりの分布になることがわかる。

また、すべての問いに「気にする」と回答した者が119人(7.8%)おり、突出していることがわかる。この、すべての問いに「気にする」と回答した者は、中学生男子の9.2%、中学生女子の6.7%、高校生男子の8.2%、高校生女子の7.0%である。いずれの属性でも、1割弱こうした青少年がいることになる。

図4-2-1 他者の視線のスコアの分布



学校別・男女別に他者の視線のスコア尺度をみてみると、平均値において中学生男子 303.5、中学生女子 305.4、高校生男子 285.4、高校生女子 310.6 となる(表 4-2-1)。高校生男子が他の群と比べて、他者の視線を気にしない傾向がみられる。

表 4-2-1 学校別男女別の他者の視線スコアの統計量

統計量			
IITOTAL			
中学生男子	度数	有効 欠損値	498 12
	平均値		303.514
	中央値		310.000
	最頻値		400.0
	標準偏差		71.062
中学生女子	度数	有効 欠損値	479 12
	平均値		305.386
	中央値		310.000
	最頻値		300.0
	標準偏差		64.349
高校生男子	度数	有効 欠損値	256 4
	平均値		285.430
	中央値		290.000
	最頻値		300.0
	標準偏差		74.654
高校生女子	度数	有効 欠損値	284 3
	平均値		310.563
	中央値		320.000
	最頻値		320.0
	標準偏差		65.375

3. 恥の意識についての分析

問 J1 と問 J2 では、回答者が、ある行動をしたと想定して、その行動が①「知らない大人の人」、②「近所の顔見知りの大人の人」、③「同じ学校の生徒」、④「仲のよい友達」のそれぞれに見られたら、どう思うかをたずねている。つまり、問 J1 では「たばこを吸っている」という想定で、また、問 J2 では「電車内で友達数人と大きな声で話している」という想定で、その行動を見られたとき、恥ずかしいと思うかを聞いている。以下、「とても恥ずかしい」と「やや恥ずかしい」の合計の割合を、「恥ずかしい」の割合として、分析をしておきたい。

「たばこを吸っている」という想定の間 J1 については、「恥ずかしい」の割合は、中学生の場合には、「近所の顔見知りの大人」「同じ学校の生徒」「仲のよい友達」「知らない大人」について、それぞれの回答は、73.1%、57.6%、51.3%、36.1%であった。高校生の場合は、それぞれの回答が、53.9%、32.6%、27.8%、18.3%であった。中学生より高校生の方が、回答の割合は低率であったが、回答選択肢の順番は、いずれも同じであった。

「電車内で友達数人と大きな声で話をしている」という想定の間 J2 については、「恥ずかしい」の割合は、中学生の場合には、「近所の顔見知りの大人」「知らない大人」「同じ学校の生徒」「仲のよい友達」について、それぞれの回答は、59.9%、34.9%、32.5%、28.2%であった。高校生の場合は、それぞれの回答が、46.8%、27.2%、24.5%、19.2%であった。この質問でも、高校生の方が回答は低率であったが、回答選択肢の順番は同じであった。この結果から、高校生の方が、中学生に比べて、他人の視線を気にしなくなる傾向が存在するように思われる。

問 J1 と問 J2 の回答を比較してみると、両者ともに、一番恥ずかしいと感じるのは、近所の大人に見られたときである。日本人は、恥の文化を抱いているといわれるが、それを喪失しつつあるといわれる青少年でも、ヨソ様である「近所の顔見知りの大人」に、喫煙や大声で話しているところを見られると、恥ずかしいと感じるようである。ブレイスウエイトは、恥の文化が逸脱行動に対して抑止

力を持つと主張しているが、この主張に依拠するならば、ヨソ様の視線は、逸脱行動に対して抑止力をもつと推測される。

喫煙については、「知らない大人」に見られた場合に、恥を一番感じていなかった。ヨソ者の視線は、喫煙の抑止要因として働かないと推測される。他方では、友達数人と大声で話している場合には、「知らない大人」の視線でも、より多く恥ずかしいと感じるようである。「恥ずかしい」の割合は、「同じ学校の生徒」および「仲のよい友達」よりも高かったのである。

「恥ずかしい」の割合は、喫煙についても、友達と大声で話していることについても、「仲のよい友達」より「同じ学校の生徒」の方が高くなっていた。喫煙については、悪さをも一緒にする仲のよい友達と、秘密を共有できると思ひ、その眼差しに対して恥を感じないのであろう。他方、問 J2 に回答する際には、回答者は、仲のよい友達数人と電車内で大声で話し合うことを想定したために、他の仲のよい友達にそれを見られても、特に恥ずかしいと感じないと思ったのであろう。

問 J1 と問 J2 に対する回答は、意識次元での青少年の第三者からの恥の喪失状況をはかる指標になっているとみなすことにする。そこで、「とても恥ずかしい」に 50、「やや恥ずかしい」に 40、「どちらとも言えない」に 30、「あまり恥ずかしくない」に 20、「まったく恥ずかしくない」に 10 のスコアを与え、問 J1 と問 J2 の回答を合算して、一つの尺度を作成する（その際に、無回答は欠損値として処理する）。ここでは、それを意識次元の恥の意識スコア尺度（J1・J2 項目尺度）と名づけ、後に作業仮説を検証する際に使うことにする。

上記の手続きで作成した尺度サンプル数は 1,540 ケースとなり、この尺度の信頼性係数は $\alpha = .9058$ であった。最大値が 400、最小値が 80 であり、中央値 240、平均値 236.2、標準偏差 90.04 である。他者の視線のスコア尺度の分布を図 4-3-1 に示す。分散が大きく、回答者によるばらつきが大きな尺度であることがわかる。また、すべての項目に「まったく恥ずかしくない」と回答した者が 93 人(6.0%)おり、突出している。これは、中学生男子の 5.3%、中学生女子の 3.1%、高校生男子の 11.2%、高校生女子の 7.7%を占める。

図4-3-1 恥の意識スコアの分布

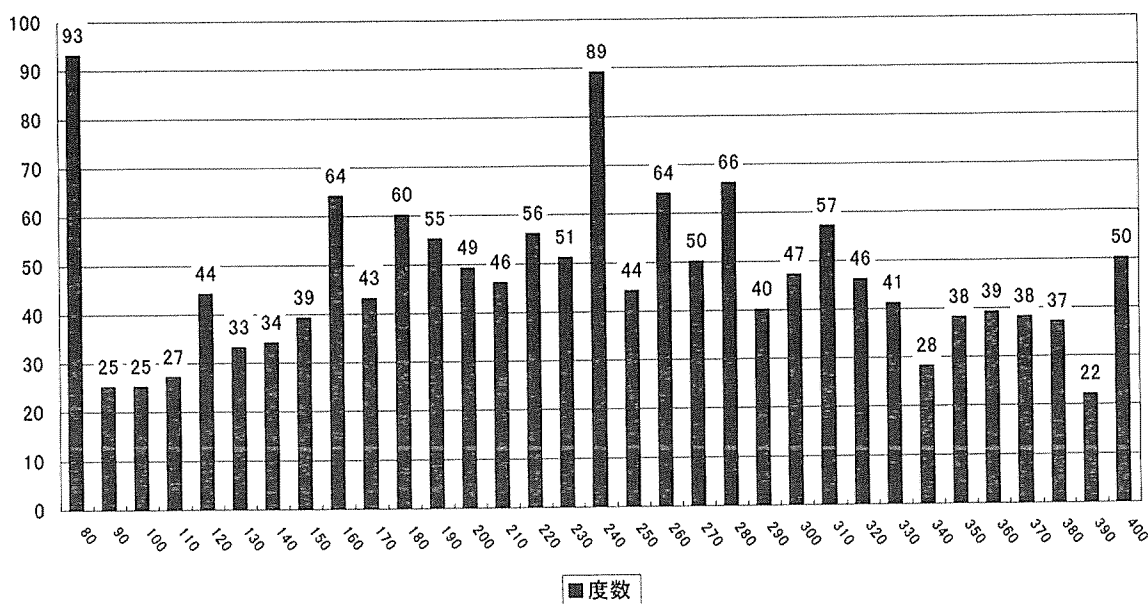


表 4-3-1 学校別・男女別の恥の意識スコアの統計量

統計量

J12TOTAL			
中学生男子	度数	有効	505
		欠損値	5
	平均値		249.228
	中央値		250.000
	最頻値		240.0
	標準偏差		89.520
中学生女子	度数	有効	489
		欠損値	2
	平均値		253.947
	中央値		260.000
	最頻値		260.0
	標準偏差		85.700
高校生男子	度数	有効	260
		欠損値	0
	平均値		194.385
	中央値		190.000
	最頻値		80.0
	標準偏差		82.270
高校生女子	度数	有効	286
		欠損値	1
	平均値		221.084
	中央値		220.000
	最頻値		80.0
	標準偏差		90.638

学校別・男女別に恥の意識スコアをみると、平均値において中学生男子 249.2、中学生女子 253.9、高校生男子 194.4、高校生女子 221.1 となる（表 4-3-1）。中学生よりも高校生の方が恥を感じない傾向にある。男女別では中学生男女に差はないが、高校生では男子の方が女子よりも恥を感じない。

4. 注意されたときの行動についての分析

問 J3 では「たばこを吸っている」という想定で、また、問 J4 では「電車内で友人数人と大きな声で話している」という想定で、その行動をある人に注意されたとき、どうすると思うかをたずねている。以下、「あやまってやめる」の割合に焦点を当てて、分析をしておきたい。

「たばこを吸っている」という想定の間 J3 については、中学生の場合には、「仲のよい友達」「近所の顔見知りの大人」「同じ学校の生徒」「知らない大人」に注意されたら「あやまってやめる」の割合が、それぞれ 62.0%、60.5%、37.2%、33.1%であった。高校生の場合も、回答選択肢の順番は同じで、それぞれの回答の割合は、58.3%、53.7%、33.1%、26.9%であった。

「電車内で友達数人と大きな声で話をしている」という想定の間 J4 については、中学生の場合には、「仲のよい友達」「近所の顔見知りの大人」「同じ学校の生徒」「知らない大人」に注意されたら「あやまってやめる」の割合が、それぞれ 59.0%、56.3%、34.2%、35.4%であった。高校生の場合は、それぞれの回答が、54.7%、51.2%、33.6%、31.1%であった。問 J3 も問 J4 も、中学生より高校生の方が低率であったが、率の差は、問 J1 および問 J2 の場合に比べてわずかであった。

問 J3 と問 J4 の両方とも、「仲のよい友達」や「近所の顔見知りの大人」に注意されたときに、5～6割が「あやまってやめる」と回答していた。問 J1 および問 J2 の分析では、「仲のよい友達」の視線をそれほど気にしていないという結果が出ていた。しかし、「仲のよい友達」の注意は、親身の忠告として受け取られるためか、逸脱行動を抑止する効果が認められるようである。すでに、リースマンなどが、現代社会では、仲間集団（peer group）が青少年に大きな影響力を与えていると唱えているが、この調査結果からも、それがうかがわれる。

他方、「あやまってやめる」の割合は、「同じ学校の生徒」の場合と、ヨソ者である「知らない大人」の場合は、「仲のよい友達」や「近所の顔見知りの大人」よりも、20%ほど低かった。ヨソ者の大人の注意は、逸脱行動をやめさせる効果が低いと推測される。

第5章 規範意識と逸脱行動についての分析

この章では、調査票問Kでたずねている規範意識についての設問と、それに対応した調査票問Lでたずねている逸脱行動について分析していく。

1. 各項目の分析

(1) タバコ

問K 1「タバコを吸う」ことに対して、「してはいけない」と答えた中学生男子は 80.0%、中学生女子は 77.8%、高校生男子は 50.4%、高校生女子は 56.8%であった。

りも高校生の方がタバコに対する許容度が高いことがわかる。

タバコを吸うことに対する規範意識を、次の問L逸脱行動と比較すると、問L 1の「タバコを吸ったことがある」は、中学生男子が 22.2%、中学生女子が 13.6%、高校生男子 43.8%、高校生女子は 30.0%である。高校生男子の割合が多い。

(2) 酒

問K 2の「酒を飲む」ことに対して、「してはいけない」と答えたのは、中学生男子が 56.1%、中学生女子が 54.2%、高校男子が 24.2%、高校女子が 23.7%であった。これに対して高校生男子の 42.3%が「してもよい」と答えた。また、高校生女子の 40.4%が、「いけないことだが場合によってはしてもよい」と答えた。

問L 2を見ると、酒を飲んだことのある者は、中学生男子が 50.2%、中学生女子が 56.4%、高校生男子が 72.7%、高校生女子が 79.1%であった。飲酒に関してこれほど高い割合を示していることに不思議さを感じられる。つまり、タバコの場合は、その場で吸って終わるが、飲酒の場合は酩酊状態等が考えられるので、いつでもどこでも飲酒することはできにくい。すると、1日のうちでは、昼間よりも夜の方が飲酒しやすいはずである。そうであるならば、夜間飲酒をする事のできる状態は、外で飲酒して、家族が寝しずまった頃に帰宅するとか、友人宅に泊まって飲酒する等の場合が考えられる。

(3) 怠学

問K 3の「特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない」という項目に対して、「してはいけない」と答えたのは、中学生男子が 60.0%、中学生女子が 40.3%、高校生男子が 27.3%、高校生女子が 23.0%であった。これに対して、「けないことだが場合によってはしても良い」という回答が多かった。中学生男子は 26.5%であったが、中学生女子は 43.2%、高校生男子は 39.2%、高校生女子は 49.5%であった。学校に行かないことに対する意識は、柔軟であると言える。つまり、学校は必ず行かなければいけない存在ではないと考えているといえる。

しかし、実際の行動は、問L 3をみると、「特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない」ことはしないと答えているのは、中学生男子は 87.3%、中学生女子は 81.1%、高校生男子は 54.2%、高校生女子は 53.3%であった。高校生に較べて中学生の方が割合が高いのは、問K 3の数値に比例していると考えられる。

(4) 深夜徘徊

問K 4は「深夜に盛場を遊び回る」ことに対する規範意識で、これにはバラツキがみられた。「してはいけない」が、中学生男子は 59.0%、中学生女子は 53.8%、高校生男子は 30.8%、高校生女子は 38.7%であった。

高校生男子は、「してもよい」が35.4%、「いけないことだが場合によってはしてもよい」が32.7%であった。高校生男子は、約3割ずつに意識が別れていることがわかる。

問L4の逸脱行動の面から見ると、「深夜に盛場を遊び回る」ことを「したことはない」が、中学生男子は82.2%、中学生女子は85.3%、高校生男子は59.2%、高校生女子は72.5%であった。

このことは、意識としては「深夜に盛場を遊び回る」ことに対してそれほどの罪悪感はないが、実際の生活行動では、「深夜に盛場を遊び回る」ことが少ないことがわかる。

(5)うそをついて外泊

問K5は「家族にうそをついて外泊する」ことについて、「場合によってはしてもよい」と「してもよい」の合計が中学生男子は42.9%、中学生女子は54.1%、高校生男子は71.9%、高校生女子は71.4%であった。

問L5では、「家族にうそをついて外泊」したことはないが中学生男子が90.8%、中学生女子が89.0%、高校生男子が71.5%、高校生女子が67.9%であった。高校生女子の31.4%は「家族にうそをついて外泊」したことがあると答えている。中学生と高校生の差は大きい。

(6)自分の家のお金をだまって使う

問K6は「自分の家の金をだまって使う」ことを「してはいけない」と考えている者の割合は、中学生男子が81.0%、中学生女子が78.8%、高校生男子が76.2%、高校生女子が85.4%であった。

問L6では、「自分の家の金をだまって使う」ことを「したことはない」が多かった。中学生男子は76.7%、中学生女子は79.8%、高校生男子は74.5%、高校生女子は83.6%であった。

(7)いじめ

問K7は「友達をいじめたり、仲間外れにしたりする」ことに対して、全般的に否定的であった。「してはいけない」と答えた割合は、中学生男子が68.8%、中学生女子が72.1%、高校生男子が77.7%、高校生女子が83.6%であった。中学生よりも高校生の方が否定的に考えている。

問L7で、「したことがある」の割合を見ると、中学生男子が49.2%、中学生女子が49.3%、高校生男子が40.4%、高校生女子が38.7%であった。子どもの社会では、いじめや仲間外れは多く存在し、経験することも多いと言える。

(8)メールで悪口

問K8は「メールを使って他人の悪口を言いふらす」ことに対して、「してはいけない」と答えた中学生男子は69.4%、中学生女子は67.0%、高校生男子は76.2%、高校生女子は87.8%であった。中学生と高校生では差があり、さらに、高校生男子と高校生女子との差もみられた。

実際の行動では、問L8で、「したことはない」と答えた割合は、中学生男子が90.0%、中学生女子が81.7%、高校生男子が83.8%、高校生女子が89.5%であった。

中学生の男子・女子ともに、意識と行動との間の差が大きいと言える。

(9)いやがらせの電話

問K9は「いやがらせの電話を繰り返しかける」ことに対して、「してはいけない」と答えた中学生男子は82.4%、中学生女子は89.6%、高校生男子は87.3%、高校生女子は95.1%であった。全般に、否定的な回答が多い。これに対して、実際の行動は、問L9で、「したことはない」と回答した中学生男子が90.6%、中学生女子が93.5%、高校生男子が92.3%、高校生女子が96.5%であった。「いやがらせの電話を繰り返しかける」ことに対して、強く嫌う傾向が見られた。

(10)自転車盗

問K10は「放置されている自転車を、勝手に乗る」ことに対して、「してはいけない」と答えた中

学生男子は 71.2%、中学生女子は 77.4%、高校生男子は 56.2%、高校生女子は 71.4%であった。高校生男子が低い割合を示している。これに対して、行動傾向について、問L10を見ると、「したことはない」と答えた中学生男子が 82.7%、中学生女子が 94.7%、高校生男子が 67.7%、高校生女子が 83.3%であった。3割強の高校男子が実際にやった経験があることがわかった。

(11)万引き

問K11は「店の品物を万引きする」ことに対して、「してはいけない」と答えた割合は、中学生男子が 87.6%、中学生女子が 90.8%、高校生男子が 81.5%、高校生女子が 92.0%であった。犯罪行為に対して、否定的な意識が見られる。実際の行動傾向は、問L11で、「したことはない」と答えたのは中学生男子が 76.1%、中学生女子が 85.5%、高校生男子は 62.3%、高校生女子が 74.2%であった。高校生男子の場合、意識のうえでは否定的であるが、実際の行動では、37.7%の者が万引きをしたことがあると答えている。

この設問では、期間について限定していないため、たとえば、中学生の時に万引きの経験があつて、高校生となった現在、万引きをすることはいけないことであると考えているとしても、問L11では、「したことがある」と回答していると考えられるので、正確なことはわからない。

(12)万引きしたものをもらったり買ったり

問K12は「友達が万引きした物をもらったり買ったりする」ことに対して、「してはいけない」と回答した中学生男子は 79.0%、中学生女子は 82.5%、高校生男子は 61.9%、高校生女子は 81.2%であった。この設問では、女子に較べて男子の方が否定する割合が少なく、中学生男子よりも高校生男子の方が、否定する割合が少ない。実際の行動傾向を問L12でみると、「したことはない」と答えた中学生男子が 81.0%、中学生女子が 90.2%、高校生男子が 61.2%、高校生女子が 81.2%であった。この設問でも、高校生男子の否定する割合が低いことがわかった。万引きをした物をもらったり買ったりすることに対して、高校生男子は抵抗感が薄いようである。

(13)学校内器物損壊

問K13は「学校のを、わざと壊したり傷つける」ことに対して、「してはいけない」と答えた中学生男子は 76.9%、中学生女子は 78.4%、高校生男子は 70.8%、高校生女子は 88.9%であった。

これに対して、実際の行動では、問L13から「したことはない」と答えた中学生男子が 79.4%、中学生女子が 84.9%、高校生男子が 71.9%、高校生女子が 89.9%であった。意識と行動はほぼ同様な割合であった。

(14)他人を殴ること

問K14は「他人を殴る」ことに対して、男子と女子とでは、傾向が大きく異なる。「してはいけない」と答えた中学生男子は 44.1%、高校生男子は 42.7%、中学生女子は 57.0%、高校生女子は 64.5%であった。これに対して、「場合によってはしてもよい」「してもよい」の合計が中学生男子は 55.9%、高校生男子は 56.9%、中学生女子は 42.8%、高校生女子は 35.5%であった。暴力行為に対する意識の違いが明確にみえた。

実際の行動は、問L14の回答から「したことがある」のは男子に多い。中学生男子は 61.0%、高校生男子は 52.3%、中学生女子は 24.8%、高校生女子は 16.7%であった。実際の行動でも、暴力的な行為は女子よりも男子の方に高い割合が見られる。

2. 「してはいけない」の順位の分析

問Kの規範意識に関して、「してはいけない」と回答した項目を、中学生男子、中学生女子、高校生男子、高校生女子について、数値の高い順に並べた。

(1) 中学生男子

表 5-2-1 中学生男子の「してはいけない」割合

K11 店の物を万引きする	87.6%
K9 いやがらせの電話を繰り返しかける	82.4%
K6 自分の家の金をだまって使う	81.0%
K1 タバコを吸う	80.0%
K12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	79.0%
K13 学校のを、わざと壊したり傷つける	76.9%
K10 放置されている自転車を、勝手に乗る	71.2%
K8 メールを使って、他人の悪口を言いふらす	69.4%
K7 友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	68.8%
K3 理由がないのにさぼって学校に行かない	60.0%
K4 深夜に盛場を遊び回る	59.0%
K5 家族にうそをついて外泊する	57.1%
K2 酒を飲む	56.1%
K14 他人を殴る	44.1%

中学生男子が、「してはいけない」と回答した割合が50%を越えた項目は、14項目中13項目であった。他の者に較べて、規範意識が高いと言える。

(2) 中学生女子

表 5-2-2 中学生女子の「してはいけない」割合

K11 店の物を万引きする	90.8%
K9 いやがらせの電話を繰り返しかける	89.6%
K12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	82.5%
K6 自分の家の金をだまって使う	78.8%
K13 学校のを、わざと壊したり傷つける	78.4%
K1 タバコを吸う	77.8%
K10 放置されている自転車を、勝手に乗る	77.4%
K7 友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	72.1%
K8 メールを使って、他人の悪口を言いふらす	67.0%
K14 他人を殴る	57.0%
K2 酒を飲む	54.2%
K4 深夜に盛場を遊び回る	53.8%
K5 家族にうそをついて外泊する	45.4%
K3 理由がないのにさぼって学校に行かない	40.3%

中学生女子が、「してはいけない」と回答した割合が50%を越えた項目は、14項目中12項目であった。これは、中学生男子に次いで高い割合を示している。

(3) 高校生男子

表 5-2-3 高校生男子の「してはいけない」割合

K9いやがらせの電話を繰り返しかける	87.3%
K11 店の物を万引きする	81.5%
K7友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	77.7%
K6自分の家の金をだまって使う	76.2%
K8メールを使って、他人の悪口を言いふらす	76.2%
K13 学校のを、わざと壊したり傷つける	70.8%
K12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	61.9%
K10 放置されている自転車を、勝手に乗る	56.2%
K1タバコを吸う	50.4%
K14 他人を殴る	42.7%
K4深夜に盛場を遊び回る	30.8%
K5家族にうそをついて外泊する	27.3%
K3理由がないのにさぼって学校に行かない	27.3%
K2酒を飲む	24.2%

高校生男子が、「してはいけない」と回答した割合が50%を越えた項目は、14項目中9項目であった。これは、一番低い割合を示している。

(4) 高校生女子

表 5-2-4 高校生女子の「してはいけない」割合

K9いやがらせの電話を繰り返しかける	95.1%
K11 店の物を万引きする	92.0%
K13 学校のを、わざと壊したり傷つける	88.9%
K8メールを使って、他人の悪口を言いふらす	87.8%
K6自分の家の金をだまって使う	85.4%
K7友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	83.6%
K12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	81.2%
K10 放置されている自転車を、勝手に乗る	71.4%
K14 他人を殴る	64.5%
K1タバコを吸う	56.8%
K4深夜に盛場を遊び回る	38.7%
K5家族にうそをついて外泊する	28.6%
K2酒を飲む	23.7%
K3理由がないのにさぼって学校に行かない	23.0%

高校生女子が、「してはいけない」と回答した割合が50%を越えた項目は、14項目中10項目であった。二番目に低い割合を示している。

(5) 小括

問Kの規範意識では、4者が共通に「してはいけない」と回答した項目のうち、上位2項目は、「K9いやがらせの電話を繰り返しかける」と「K11店の物を万引きする」ことであった。

また、下位の回答（「してはいけない」と答えた割合の低い項目）は、高校生男子が「酒を飲む」であったが、他の3者は「K3理由がないのにさぼって学校に行かない」であった。

3. 「したことはない」の順位の分析

問1の逸脱行動に関して、「したことはない」と回答した項目を、中学生男子、中学生女子、高校生男子、高校生女子について、数値の高い順に並べた。

(1)中学生男子

表 5-3-1 中学生男子の「したことはない」割合

L5家族にうそをついて外泊する	90.8%
L9いやがらせの電話を繰り返しかける	90.6%
L8メールを使って、他人の悪口を言いふらす	90.0%
L3理由がないのにさぼって学校に行かない	87.3%
L10 放置されている自転車を、勝手に乗る	82.7%
L4深夜に盛場を遊び回る	82.2%
L12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	81.0%
L13 学校のを、わざと壊したり傷つける	79.4%
L1タバコを吸う	77.8%
L6自分の家の金をだまって使う	76.7%
L11 店の物を万引きする	76.1%
L7友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	50.6%
L2酒を飲む	49.8%
L14 他人を殴る	39.0%

中学生男子が、「したことはない」と答えた項目のうち、50%以下の項目は、「L2酒を飲む 49.8%」と「L14 他人を殴る 39.0%」の2項目であった。

(2)中学生女子

表 5-3-2 中学生女子の「したことはない」割合

L10 放置されている自転車を、勝手に乗る	94.7%
L9いやがらせの電話を繰り返しかける	93.5%
L12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	90.2%
L5家族にうそをついて外泊する	89.0%
L1タバコを吸う	86.4%
L11 店の物を万引きする	85.5%
L4深夜に盛場を遊び回る	85.3%
L13 学校のを、わざと壊したり傷つける	84.9%
L8メールを使って、他人の悪口を言いふらす	81.7%
L3理由がないのにさぼって学校に行かない	81.1%
L6自分の家の金をだまって使う	79.8%
L14 他人を殴る	74.5%
L7友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	50.3%
L2酒を飲む	43.6%

中学生女子が、「したことはない」と答えた項目のうち、50%以下の項目は、「L2酒を飲む 43.6%」の1項目だけであった。

(3)高校生男子

表 5-3-3 高校生男子の「したことはない」割合

L9いやがらせの電話を繰り返しかける	92.3%
L8メールを使って、他人の悪口を言いふらす	83.8%
L6自分の家の金をだまって使う	74.6%
L13 学校のを、わざと壊したり傷つける	71.9%
L5家族にうそをついて外泊する	71.5%
L10 放置されている自転車を、勝手に乗る	67.7%
L11 店の物を万引きする	62.3%
L12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	61.2%
L4深夜に盛場を遊び回る	59.2%
L7友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	58.8%
L1タバコを吸う	56.2%
L3理由がないのにさぼって学校に行かない	54.2%
L14 他人を殴る	47.3%
L2酒を飲む	27.3%

高校生男子が、「したことはない」と答えた項目のうち、50%以下の項目は、「L14 他人を殴る 47.3%」と「L2 酒を飲む 27.3%」との2項目だった。

(4)高校生女子

表 5-3-4 高校生女子の「したことはない」割合

L9いやがらせの電話を繰り返しかける	96.5%
L13 学校のを、わざと壊したり傷つける	89.9%
L8メールを使って、他人の悪口を言いふらす	89.5%
L6自分の家の金をだまって使う	83.6%
L10 放置されている自転車を、勝手に乗る	83.3%
L14 他人を殴る	82.9%
L12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	81.2%
L11 店の物を万引きする	74.2%
L4深夜に盛場を遊び回る	72.5%
L1タバコを吸う	69.3%
L5家族にうそをついて外泊する	67.9%
L7友人をいじめたり、仲間外れにしたりする	60.6%
L3理由がないのにさぼって学校に行かない	53.3%
L2酒を飲む	20.6%

高校生女子が、「したことはない」と答えた項目のうち、50%以下の項目は、「L2 酒を飲む 20.6%」の1項目だった。

(5)小括

「したことはない」と答えた項目のうち、上位にあるのが、「L9いやがらせの電話を繰り返しかける」であった。

4. 規範意識と逸脱行動のズレの分析

この節では、どのようなことにおいて、青少年の規範意識と逸脱行動がずれているのかを分析する。

調査票で規範意識をたずねている問いKの回答である「1 してはいけない」「2 いけないことだが場合によってはしてもよい」「3 してもよい」の数値をそのまま得点として用い、無回答を欠損値とする。また、逸脱行動をたずねている問いLの「したことがある」に3点を与え、「したことがない」に0点を与え、無回答を欠損値とする。その差をとり、新たにKLという変数を作成した。その変数の意味は、以下のようになる。

問K(規範)－ 問L(逸脱行動) = 新変数KL(両者のズレ)

- 3 － 0(経験なし) = 3 (してもよいと思うが、経験はない)
- 2 － 0(経験なし) = 2 (場合によってはよいと思うが、経験はない)
- 1 － 0(経験なし) = 1 (してはいけないと思い、経験はない)
- 3 － 3(経験あり) = 0 (してよいと思い、経験もある)
- 2 － 3(経験あり) = -1 (場合によってはよいと思い、経験もある)
- 1 － 3(経験あり) = -2 (してはいけないと思うが、経験がある)

上記の操作の結果を、表 5-4-1 に示す。「-2」の割合の高いもの順に並べかえてある。

表 5-4-1 規範意識と行動のズレ (％)

	-2の割合	-1の割合	0の割合	1の割合	2の割合	3の割合	平均値	人数(人)
KL7 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする	26.4	16.5	3.1	47.9	5.4	0.7	-0.08	1538
KL11 店の品物を万引きする	16.1	4.3	3.0	72.4	2.9	1.4	0.46	1543
KL2 酒を飲む	14.3	24.4	22.7	29.9	6.5	2.2	-0.03	1543
KL14 他人を殴る	11.4	22.6	6.0	40.5	17.5	2.1	0.36	1541
KL6 自分の家の金をだまって使う	10.9	7.7	2.8	69.6	7.3	1.8	0.60	1542
KL1 タバコを吸う	8.5	6.0	10.0	61.6	7.2	6.6	0.73	1543
KL12 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	8.0	6.5	4.7	69.7	7.8	3.2	0.73	1543
KL13 学校のを、わざと壊したり傷つける	7.1	7.0	3.7	71.7	8.6	1.9	0.74	1540
KL10 放置されている自転車を、勝手に乗る	4.6	6.5	4.8	66.3	14.3	3.6	0.90	1544
KL3 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない	4.1	10.8	11.6	37.3	27.5	8.7	0.99	1544
KL8 メールを使って、他人の悪口を言いふらす	4.0	6.2	3.6	69.4	13.9	3.0	0.92	1544
KL9 いやがらせの電話を繰り返しかける	3.1	2.2	1.7	85.0	6.2	1.8	0.94	1543
KL4 深夜に盛り場を遊び回る	2.5	7.2	12.5	46.5	19.9	11.3	1.08	1539
KL5 家族にうそをついて外泊する	2.4	7.2	7.5	40.9	31.9	10.2	1.23	1541

規範意識と行動とのズレで、とりわけ注目すべきものは、「してはいけない」と思っているにもかかわらず、経験があるもの、すなわち、両者のズレのスコアが「-2」のものであろう。「してはいけないと思うが、経験がある」というものである。「友達をいじめたり、仲間外れ」が26.4%でもっとも多い。ついで「店の品物を万引き」16.1%、「酒を飲む」14.3%、「他人を殴る」11.4%となる。

5. 規範意識の尺度化

ここでは、問いK1～K14が規範意識を測定する指標となっているものと位置づけ、その尺度化を試みる。「してはいけない」に30点、「いけないことだが場合によってはしてもよい」に20点、「してもよい」に10点を与え、無回答は欠損値とし、K1～K14の回答を合算し、尺度を作成し、規範意識スコア尺度と名づけ、後に作業仮説を検証する際に使うこととする。

上記の手続きで作成した規範意識尺度のサンプル数は1,534ケースであり、この尺度の信頼性係数は $\alpha=.8937$ であった。最大値が420、最小値が140、中央値370、平均値357.5、標準偏差58.60である。規範意識スコアの分布を図5-5-1に示す。概して右肩上がりの（つまり、規範意識が高い方向での）分布になることがわかる。

図5-5-1 規範意識のスコアの分布

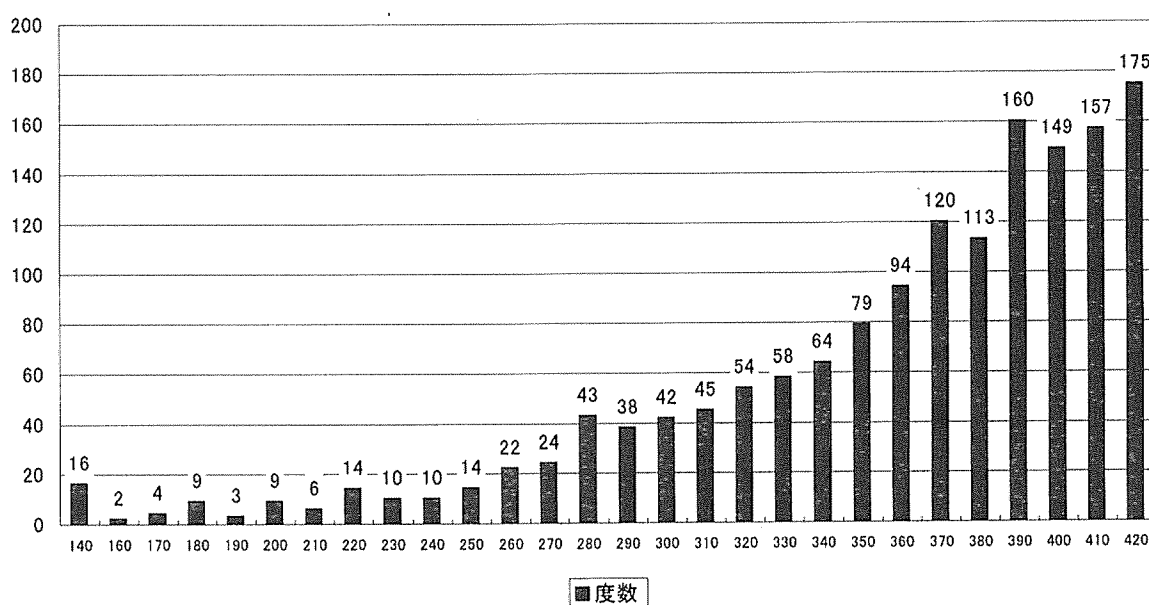


表 5-5-1 学校別・男女別の規範意識スコアの統計量

統計量			
KTOTAL	度数	有効 欠損値	
中学生男子	度数	有効 欠損値	508 2
	平均値		363.209
	中央値		390.000
	最頻値		420.0
	標準偏差		62.253
中学生女子	度数	有効 欠損値	483 8
	平均値		364.534
	中央値		380.000
	最頻値		410.0
	標準偏差		55.911
高校生男子	度数	有効 欠損値	256 4
	平均値		335.273
	中央値		340.000
	最頻値		390.0 ^a
	標準偏差		61.081
高校生女子	度数	有効 欠損値	287 0
	平均値		355.575
	中央値		360.000
	最頻値		390.0
	標準偏差		48.498

a. 多重モードがあります。最小値が表示されます。

さらに、学校別男女別に規範意識スコアをみると、平均値で中学生男子 363.2、中学生女子 364.5、高校生男子 335.3、高校生女子 355.6 となる（表 5-5-1）。

高校生男子は、他の属性の青少年と比べて規範意識が低い傾向にある。

6. 逸脱行動の尺度化

ここでは、問いL1～L14が逸脱行動を測定する指標となっているものと位置づけ、その尺度化を試みる。「したことがある」に1点を、「しとことはない」に0点を与え、無回答は欠損値とし、L1～L14の回答を合算し、尺度を作成し、逸脱行動スコア尺度と名づけ、後に作業仮説を検証する際に使うこととする。

上記の手続きで作成した逸脱行動スコアのサンプル数は1,528ケースであり、この尺度の信頼性係数は $\alpha=.8107$ であった。最大値が14、最小値が0、中央値3、平均値3.6、標準偏差3.10である。規範意識スコアの分布を図5-6-1に示す。最頻値を2（つまり、問いLの中で2つを「したことがある」者）として、左肩上がりの（つまり、「したことがない」方向にふくらんだ）分布になることがわかる。

図5-5-1 逸脱行動のスコアの分布

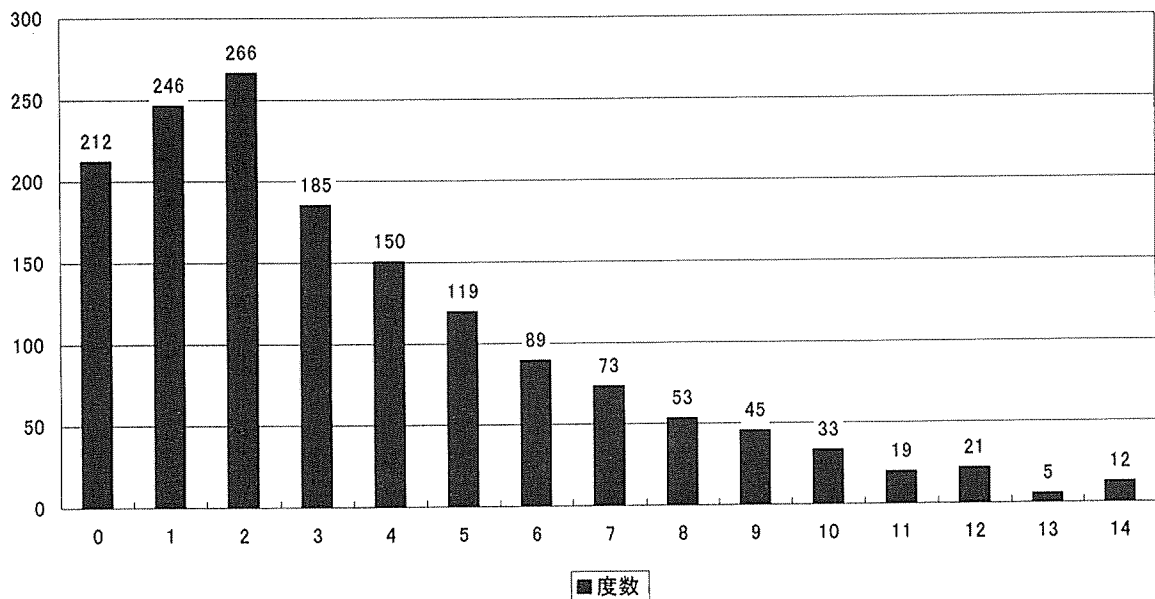


表 5-6-1 学校別・男女別の逸脱行動スコアの統計量

統計量		LTOTAL 逸脱行動得点	
中学生男子	度数	有効	506
		欠損値	5
	平均値		3.45
	中央値		3.00
	最頻値		2
	標準偏差		3.09
中学生女子	度数	有効	483
		欠損値	8
	平均値		2.75
	中央値		2.00
	最頻値		1
	標準偏差		2.54
高校生男子	度数	有効	257
		欠損値	3
	平均値		5.09
	中央値		5.00
	最頻値		0
	標準偏差		3.63
高校生女子	度数	有効	283
		欠損値	4
	平均値		3.70
	中央値		3.00
	最頻値		2
	標準偏差		2.97

学校別男女別に逸脱行動スコアをみみると、平均値において中学生男子3.5、中学生女子2.8、高校生男子5.1、高校生女子3.7となる（表5-6-1）。

高校生男子がもっとも逸脱行動が多く、ついで高校生女子と中学生男子が同水準で並び、中学生女子がもっとも逸脱行動が少ないことがわかる。

第6章 学校適応状況

この章では、主に学校への適応状況と青少年の他者観、マナー違反行動、逸脱行動との関連を分析していく。

1. 学校適応

(1) 学校別・性別の学校適応状況

「学校はたのしいですか」という設問に対し、たのしい・どちらでもない・たのしくないの3択で回答をえた。「たのしい」という回答は中学生 51.2%、高校生 40.0%となっており、逆に「たのしくない」という回答は中学生 14.0%、高校生 20.3%となる。高校生の方が学校をたのしくないと感じている傾向にある。

学校別・男女別にみると、「たのしい」という回答においては中学生男子 52.2%、中学生女子 50.3%と、中学生での男女差はみられない。高校生男子では 42.3%、高校生女子 38.0%と、高校生においても男女の違いはみられない(表 6-1-1)。

表 6-1-1 学校をたのしいと感じるか (％)

	たのしい	どちらでもない	たのしくない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	52.2	33.5	14.1	0.2	100.0	510
中学生女子	50.3	35.6	13.8	0.2	100.0	491
高校生男子	42.3	36.2	21.2	0.4	100.0	260
高校生女子	38.0	41.5	19.5	1.0	100.0	287
全体	47.3	36.1	16.2	0.4	100.0	1548

(2) 学校適応状況とマナー違反行動

ここで、学校適応状況と、先に分析した、調査票の問いHでたずねたマナー違反行動をスコア化したものとの関連を分析していく。まず問いHについて、「よくする」に 30 点、「したことがある」に 20 点、「したことがない」に 10 点を与え、無回答を欠損値とし、合算してスコア化した。ついでこのスコアの四分位点をとり、上位 4 分の 1 をマナー違反行動の「多い群」、下位 4 分の 1 を「少ない群」、中間の 2 分の 1 を「中くらい群」としたものである。

図 6-1-1 は、学校適応状況とマナー違反行動との関連を中高別に表したものである。図の白い部分がマナー違反行動の「少ない群」、アミの部分「中くらい群」、黒い部分が「多い群」である。学校が「たのしい」者と「どちらでもない」者との間に差はみられないが、この両者と「たのしくない」者との間に、違いがあることがわかる。マナー違反行動が多い群に注目すると、中学生においては「たのしい」者 20.8%、「どちらでもない」者 18.6%となるが、「たのしくない」者では 32.4%となる。高校生においては「たのしい」34.7%、「どちらでもない」41.5%、「たのしくない」50.5%となる。すなわち、学校への適応状況がよくない群において、マナー違反行動多い傾向がうかがえる。

さらに、学校別・男女別に分析したものが、表 6-1-2 である。マナー違反行動が多い群に注目し、学校が「たのしい」者と「たのしくない」者との差をみると、中学生男子では「たのしい」16.4%、「たのしくない」31.4%と 15.0 ポイントの差がみられる。中学生女子では「たのしい」25.5%、「た

のしくない」33.3%で7.8ポイント差が、高校生男子では「たのしい」37.3%、「たのしくない」52.7%で15.4ポイント差がみられ、高校生女子では「たのしい」32.1%、「たのしくない」48.2%で16.1ポイント差となる。学校別・男女別に分析しても、概して、学校適応状況がよくない生徒ほど、マナー違反行動が多い傾向にあることがわかる。

図6-1-1 学校適応状況とマナー違反行動

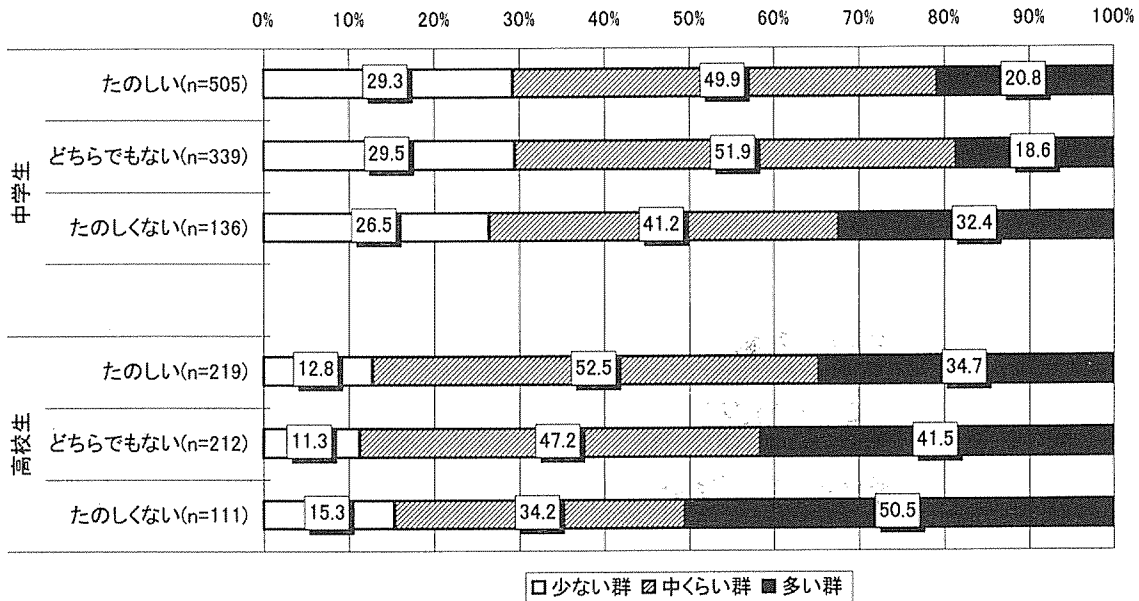


表 6-1-2 学校適応とマナー違反行動

(%)

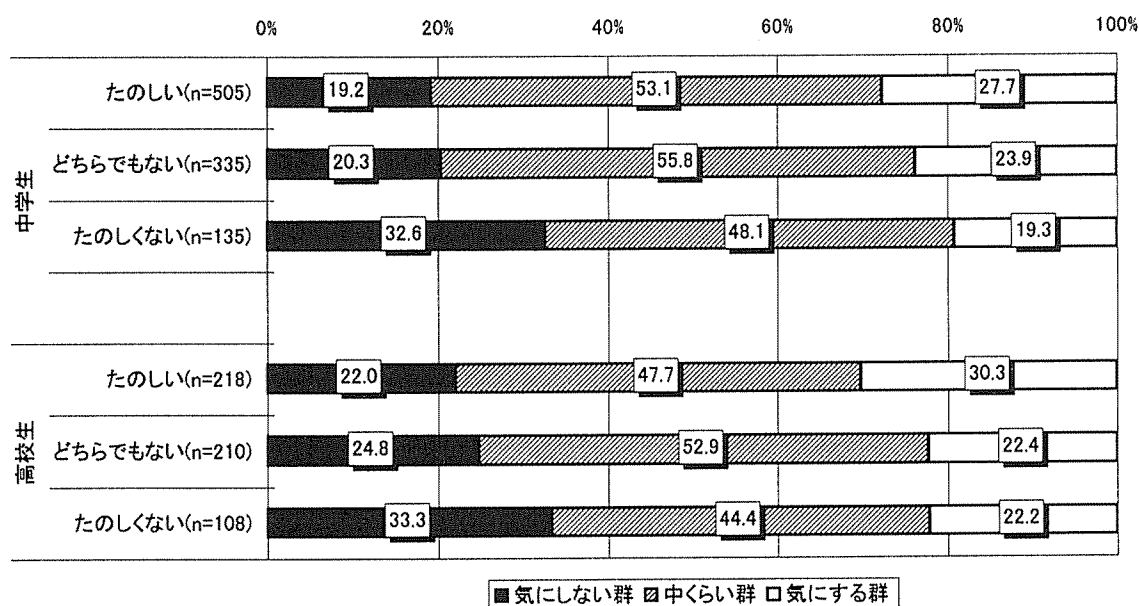
学校種別	学校適応状況	少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	たのしい	32.4	51.1	16.4	100.0	262
	どちらでもない	34.5	52.4	13.1	100.0	168
	たのしくない	32.9	35.7	31.4	100.0	70
	小計	33.2	49.4	17.4	100.0	500
中学生女子	たのしい	25.9	48.6	25.5	100.0	243
	どちらでもない	24.6	51.5	24.0	100.0	171
	たのしくない	19.7	47.0	33.3	100.0	66
	小計	24.6	49.4	26.0	100.0	480
高校生男子	たのしい	16.4	46.4	37.3	100.0	110
	どちらでもない	16.1	35.5	48.4	100.0	93
	たのしくない	16.4	30.9	52.7	100.0	55
	小計	16.3	39.1	44.6	100.0	258
高校生女子	たのしい	9.2	58.7	32.1	100.0	109
	どちらでもない	7.6	56.3	36.1	100.0	119
	たのしくない	14.3	37.5	48.2	100.0	56
	小計	9.5	53.5	37.0	100.0	284

(3) 学校適応と他者の視線

ついで、学校適応状況と、調査票の問いIでたずねた他者の視線をスコア化したものとの関連を分析する。スコア化の手続きは、前述の問いHと同様である。図6-1-2をご覧ください。図の黒い部分が、他者の視線を「気にしない群」、アミの部分「中くらい群」、白い部分が「気にする群」である。

他者の視線を「気にしない群」に注目すると、中学生においては学校が「たのしい」19.2%、「どちらでもない」20.3%、「たのしくない」32.6%となる。高校生においては、「たのしい」22.0%、「どちらでもない」24.8%、「たのしくない」33.3%となる。概して、学校への適応状況がよくないほど、他者の視線を気にしない傾向にあることがわかる。

図6-1-2 学校適応状況と他者の視線



ついで、学校別・男女別に学校適応状況と他者の視線を気にするかどうかをみていく。表6-1-3をご覧ください。

「気にしない群」に注目して見ていく。中学生男子においては、学校が「たのしい」と他者の視線を「気にしない群」が20.7%、「たのしくない」と36.6%で15.9ポイント差となる。中学生女子では「たのしい」17.6%、「たのしくない」28.1%で10.5ポイント差がみられ、高校生男子では「たのしい」28.4%、「たのしくない」38.9%で10.5ポイント差、高校生女子では「たのしい」15.6%、「たのしくない」27.8%となり、12.2ポイント差がみられた。学校別・男女別に分析しても、概して学校がたのしいと他者の視線を「気にする群」が多く、学校がたのしくない「気にしない群」が多いことがわかる。

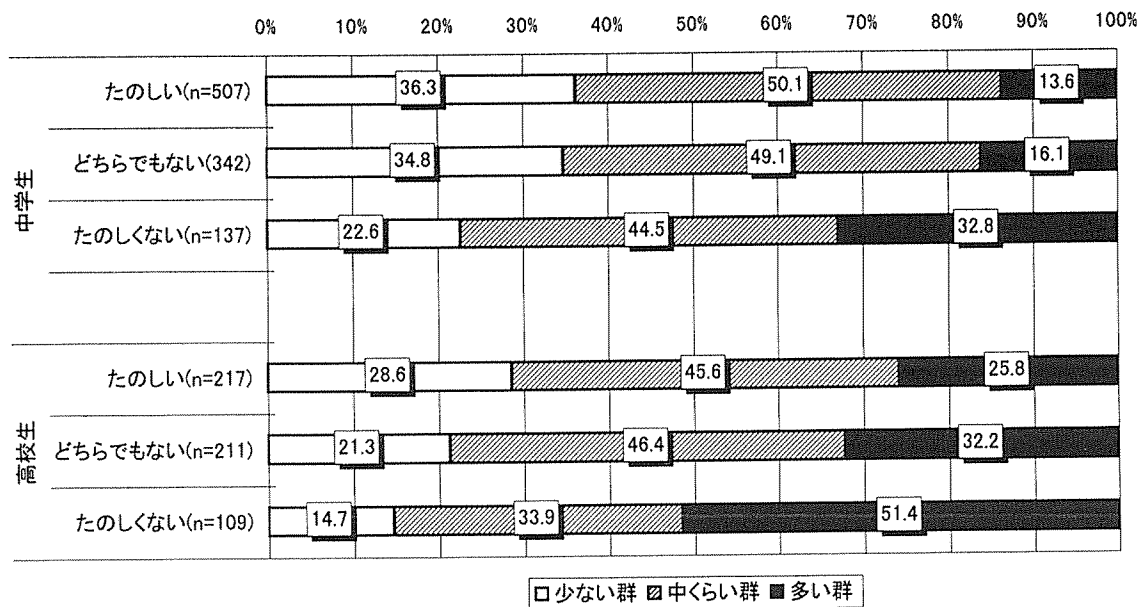
表 6-1-3 学校適応状況と他者の視線

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	たのしい	20.7	49.8	29.5	100.0	261
	どちらでもない	20.0	54.5	25.5	100.0	165
	たのしくない	36.6	46.5	16.9	100.0	71
	小計	22.7	50.9	26.4	100.0	497
中学生女子	たのしい	17.6	56.6	25.8	100.0	244
	どちらでもない	20.6	57.1	22.4	100.0	170
	たのしくない	28.1	50.0	21.9	100.0	64
	小計	20.1	55.9	24.1	100.0	478
高校生男子	たのしい	28.4	43.1	28.4	100.0	109
	どちらでもない	34.8	48.9	16.3	100.0	92
	たのしくない	38.9	46.3	14.8	100.0	54
	小計	32.9	45.9	21.2	100.0	255
高校生女子	たのしい	15.6	52.3	32.1	100.0	109
	どちらでもない	16.9	55.9	27.1	100.0	118
	たのしくない	27.8	42.6	29.6	100.0	54
	小計	18.5	52.0	29.5	100.0	281

(4)学校適応と逸脱行動

この項では学校適応と、調査票の問いしでたずねた逸脱行動をスコア化したものとの関連を分析していく。図 6-1-3 をご覧いただきたい。

図6-1-3 学校適応状況と逸脱行動



図の白い部分は逸脱行動が「少ない群」、アミの部分は「中くらい群」、黒い部分が「多い群」である。逸脱行動が「多い群」に注目すると、中学生においては、学校が「たのしい」13.6%、「どちらで

もない」と16.1%、「たのしくない」と32.8%となっている。高校生においては、「たのしい」25.8%、「どちらでもない」32.2%、「たのしくない」51.4%となる。中高ともに、学校適応状況がよいほど逸脱行動が少なく、学校適応状況がよくないと逸脱行動が多くなる傾向にあることがわかる。

学校適応状況と逸脱行動について、学校別・男女別に表したものが表6-1-4である。逸脱行動が「多い群」に注目して分析していく。中学生男子においては、学校が「たのしい」と逸脱行動が「多い群」17.4%、「たのしくない」と38.6%であり、その差は21.2ポイントである。中学生女子においては「たのしい」9.5%、「たのしくない」26.9%で17.4ポイントの差がみられ、高校生男子では「たのしい」39.1%、「たのしくない」54.7%で15.6ポイント差、高校生女子では「たのしい」12.1%、「たのしくない」48.2%で36.1ポイント差となる。学校別・男女別に分析しても、学校適応状況がよくないと逸脱行動が多くなることがわかる。

表 6-1-4 学校適応状況と逸脱行動

		少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	たのしい	30.7	51.9	17.4	100.0	264
	どちらでもない	32.9	48.8	18.2	100.0	170
	たのしくない	20.0	41.4	38.6	100.0	70
	小計	30.0	49.4	20.6	100.0	504
中学生女子	たのしい	42.4	48.1	9.5	100.0	243
	どちらでもない	36.6	49.4	14.0	100.0	172
	たのしくない	25.4	47.8	26.9	100.0	67
	小計	38.0	48.5	13.5	100.0	482
高校生男子	たのしい	26.4	34.5	39.1	100.0	110
	どちらでもない	14.0	44.1	41.9	100.0	93
	たのしくない	13.2	32.1	54.7	100.0	53
	小計	19.1	37.5	43.4	100.0	256
高校生女子	たのしい	30.8	57.0	12.1	100.0	107
	どちらでもない	27.1	48.3	24.6	100.0	118
	たのしくない	16.1	35.7	48.2	100.0	56
	小計	26.3	49.1	24.6	100.0	281

2. 学校の成績

(1) 学校別・男女別の成績の自己評価

「成績はクラスでどのくらいですか」とたずね、よいほう・ふつう・わるいほうの3択で答えてもらった。中学生は「よいほう」との回答が16.1%、「ふつう」45.2%、「わるいほう」38.5%であった。高校生は「よいほう」18.5%、「ふつう」45.9%、「わるいほう」35.1%であった。

学校別・男女別に示したものが、表6-2-1である。

表 6-2-1 成績の自己評価

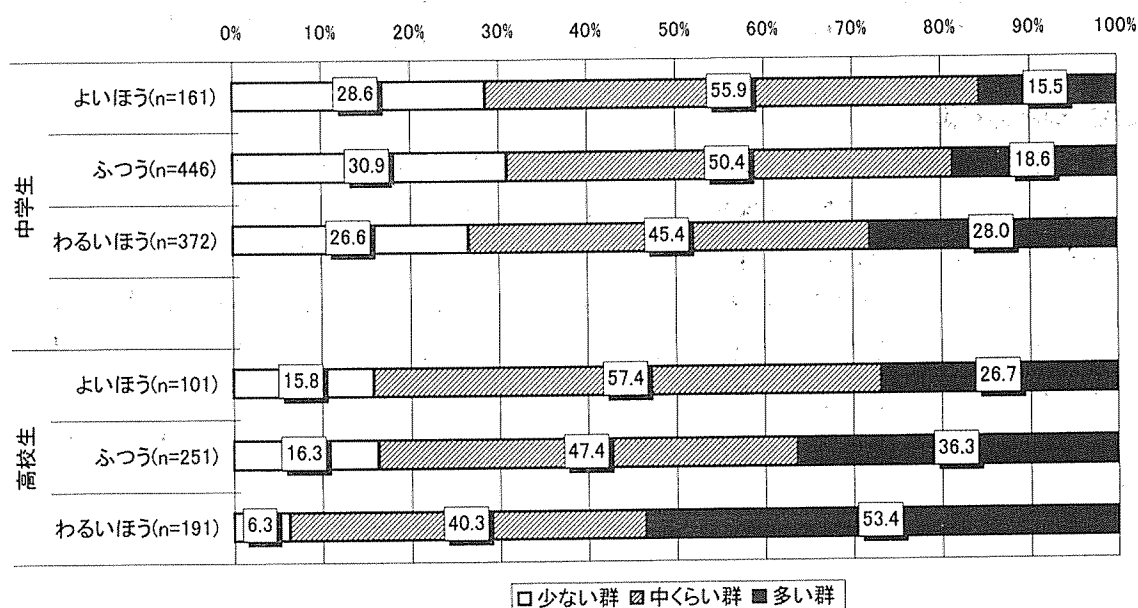
(%)

	よいほう	ふつう	わるいほう	無回答	合計	人数 (人)
中学生男子	17.8	40.6	41.4	0.2	100.0	510
中学生女子	14.3	49.9	35.4	0.4	100.0	491
高校生男子	17.3	44.6	37.7	0.4	100.0	260
高校生女子	19.5	47.0	32.8	0.7	100.0	287
全体	16.9	45.4	37.3	0.4	100.0	1548

(2)成績とマナー違反行動

この項では、学校の成績の自己評価とマナー違反行動の関係について分析する。図 6-2-1 をごらんいただきたい。図の白い部分がマナー違反行動の「少ない群」、アミの部分「中くらい群」、黒い部分が「多い群」である。多い群に注目すると、中学生では成績が「よいほう」15.5%、「ふつう」18.6%、「わるいほう」28.0%である。高校生では、「よいほう」26.7%、「ふつう」36.3%、「わるいほう」53.4%であり、中高ともに成績が悪いと評価している生徒ほど、マナー違反行動が多い傾向にある。

図6-2-1 成績とマナー違反行動



つづいて、学校別・男女別にみていこう。表 6-2-1 をご覧いただきたい。マナー違反行動の「多い群」に注目すると、中学生男子においては、「よいほう」13.2%、「わるいほう」13.1%と両者に差はみられないが、「わるいほう」では 23.6%と、前2者と約 10 ポイントの差がみられる。以下同様に、「よいほう」と「わるいほう」の差に注目していくと、中学生女子においては「よいほう」18.6%、「わるいほう」33.1%と 14.5 ポイント差があり、高校生男子においては「よいほう」33.3%、「わるいほう」53.6%と 20.3 ポイント差、高校生女子においては「よいほう」21.4%、「わるいほう」53.2%と 31.8 ポイント差である。学校別・男女別にみて、いずれも成績がわるいほど、マナー違反行動が多い傾向にあることがわかる。

表 6-2-2 成績とマナー違反行動 (%)

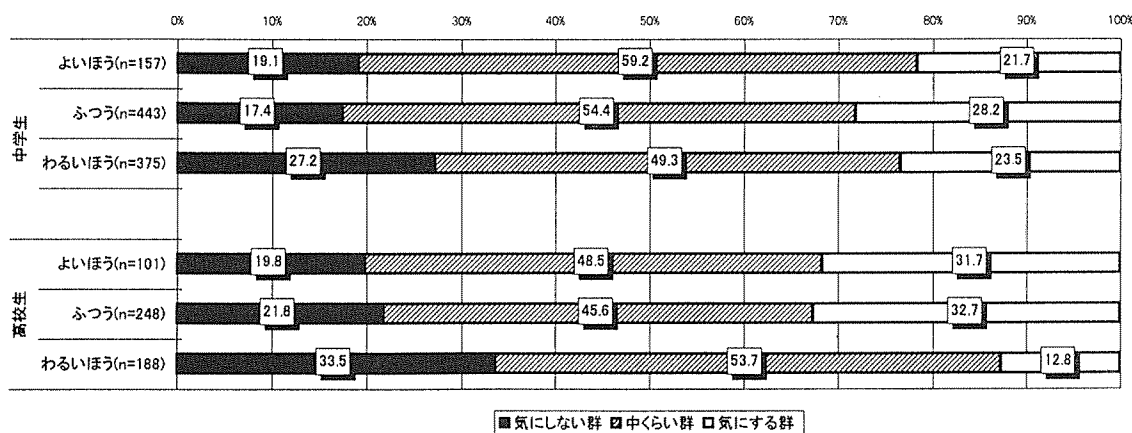
		少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	よいほう	33.0	53.8	13.2	100.0	91
	ふつう	37.4	49.5	13.1	100.0	206
	わるいほう	29.1	47.3	23.6	100.0	203
	小計	33.2	49.4	17.4	100.0	500
中学生女子	よいほう	22.9	58.6	18.6	100.0	70
	ふつう	25.4	51.3	23.3	100.0	240
	わるいほう	23.7	43.2	33.1	100.0	169
	小計	24.4	49.5	26.1	100.0	479
高校生男子	よいほう	22.2	44.4	33.3	100.0	45
	ふつう	19.8	38.8	41.4	100.0	116
	わるいほう	9.3	37.1	53.6	100.0	97
	小計	16.3	39.1	44.6	100.0	258
高校生女子	よいほう	10.7	67.9	21.4	100.0	56
	ふつう	13.3	54.8	31.9	100.0	135
	わるいほう	3.2	43.6	53.2	100.0	94
	小計	9.5	53.7	36.8	100.0	285

(3)成績と他者の視線

この項では、成績と他者の視線を気にするかどうかとの関連を分析する。図 6-2-2 をごらんいただきたい。図の黒い部分が、他者の視線を「気にしない群」、アミの部分が「中くらい群」、白い部分が「気にする群」である。「気にしない群」に注目すると、中学生においては成績が「よいほう」19.1%、「ふつう」17.4%、「わるいほう」27.2%となり、前二者の間に差はみられないが、前二者と「わるいほう」との間にやや違いがある。高校生においては「よいほう」19.8%、「ふつう」21.8%、「わるいほう」33.5%であり、中学生と同様の傾向にある。

すなわち、成績が「わるいほう」と自己評価する生徒は、他者の視線を気にしない傾向にあることがわかる。

図6-2-2 成績と他者の視線



つづいて、学校別・男女別に分析していく。表 6-2-3 は、成績と他者の視線の関係を学校別・男女別に表したものである。

表 6-2-3 成績と他者の視線

(%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	よいほう	20.2	55.1	24.7	100.0	89
	ふつう	16.3	54.0	29.7	100.0	202
	わるいほう	30.1	45.6	24.3	100.0	206
	小計	22.7	50.7	26.6	100.0	497
中学生女子	よいほう	17.6	64.7	17.6	100.0	68
	ふつう	18.3	54.8	27.0	100.0	241
	わるいほう	23.7	53.8	22.5	100.0	169
	小計	20.1	55.9	24.1	100.0	478
高校生男子	よいほう	17.8	53.3	28.9	100.0	45
	ふつう	32.2	42.6	25.2	100.0	115
	わるいほう	41.1	46.3	12.6	100.0	95
	小計	32.9	45.9	21.2	100.0	255
高校生女子	よいほう	21.4	44.6	33.9	100.0	56
	ふつう	12.8	48.1	39.1	100.0	133
	わるいほう	25.8	61.3	12.9	100.0	93
	小計	18.8	51.8	29.4	100.0	282

基本的にまず、他者の視線を「気にしない群」に注目して分析していく。中学生男子においては、成績が「よいほう」20.2%、「わるいほう」30.1%と9.9ポイントの差がみられる。中学生女子においては「よいほう」17.6%、「わるいほう」23.7%で6.1ポイント差であり、違いはみられない(カイニ乗検定におけるp値は0.288であり、統計的有意差もみられない)。高校生男子においては、「よいほう」17.8%、「わるいほう」41.1%と23.3ポイント差である。高校生女子では「よいほう」21.4%、「わるいほう」25.8%と差がないようにみえるが、成績が「ふつう」群において12.8%と低い値を示しており、直線的な関係になっていない。また、高校生女子の「気にする群」に着目しても、「ふつう」群において39.1%と、「よいほう」の33.9%、「わるいほう」の12.9%よりも高い割合を示している。

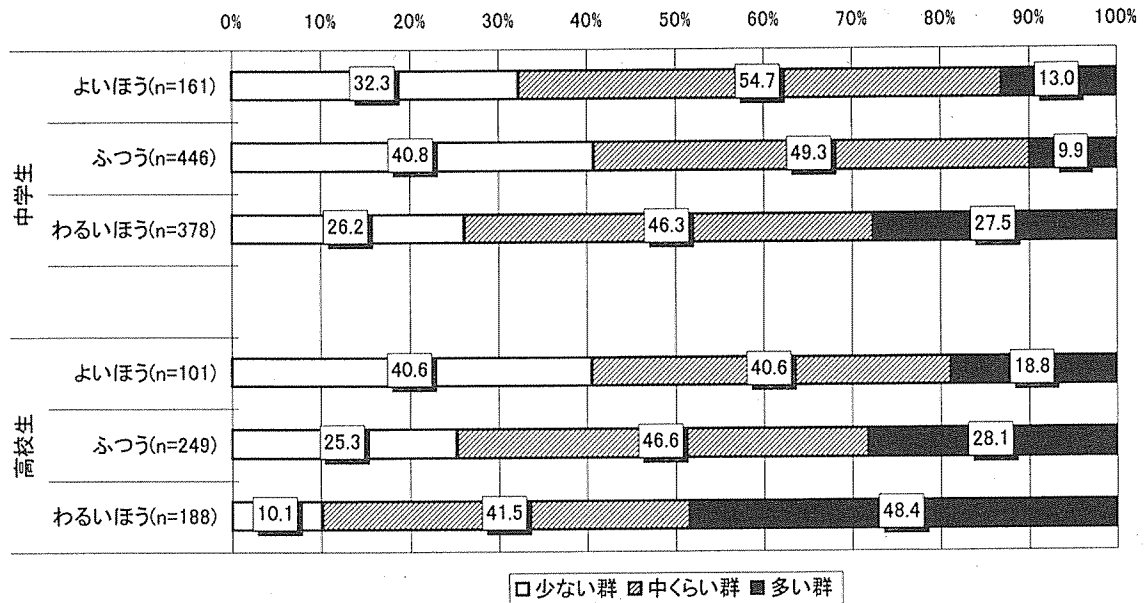
男子の場合は成績と他者の視線との間に直線的な関係がみられるが、女子の場合は必ずしもそうはなっておらず、なんらかのジェンダーバイアスがあることが想定される。男子にとっての「他人の視線」と、女子にとってのそれは意味を異にするものがあるであろう。

(4)成績と逸脱行動

この項では学校適応と、調査票の問いLでたずねた逸脱行動をスコア化したものとの関連を分析していく。図 6-2-3 をご覧いただきたい。図の白い部分は逸脱行動が「少ない群」、アミの部分は「中くらい群」、黒い部分が「多い群」である。逸脱行動の「多い群」に注目すると、中学生では「よいほう」13.0%、「ふつう」9.9%と差はないが、「わるいほう」では27.5%となる。高校生においては「よいほう」18.8%、「ふつう」28.1%、「わるいほう」48.4%となり、成績の自己評価がわるくなるほど逸

脱行動もめだってくるのがわかる。

図6-2-3 成績と逸脱行動



成績と逸脱行動との関連を、学校別・男女別に分析したものが表 6-2-4 である。逸脱行動が「多い群」に注目して、学校別・男女別に分析していくと、中学生男子においては成績が「よいほう」15.4%、「ふつう」11.2%、「わるいほう」32.4%となり、成績が「わるいほう」と自己評価している生徒は、前二者よりも逸脱行動が多い傾向にあることがわかる。

以下同様に、中学生女子では「よいほう」10.0%、「ふつう」8.8%、「わるいほう」21.6%となって

表 6-2-4 成績と逸脱行動

		(%)			合計	人数(人)
		少ない群	中くらい群	多い群		
中学生男子	よいほう	31.9	52.7	15.4	100.0	91
	ふつう	35.9	52.9	11.2	100.0	206
	わるいほう	22.7	44.9	32.4	100.0	207
	小計	29.8	49.6	20.6	100.0	504
中学生女子	よいほう	32.9	57.1	10.0	100.0	70
	ふつう	45.0	46.3	8.8	100.0	240
	わるいほう	30.4	48.0	21.6	100.0	171
	小計	38.0	48.4	13.5	100.0	481
高校生男子	よいほう	40.0	28.9	31.1	100.0	45
	ふつう	18.1	44.0	37.9	100.0	116
	わるいほう	10.5	33.7	55.8	100.0	95
	小計	19.1	37.5	43.4	100.0	256
高校生女子	よいほう	41.1	50.0	8.9	100.0	56
	ふつう	31.6	48.9	19.5	100.0	133
	わるいほう	9.7	49.5	40.9	100.0	93
	小計	26.2	49.3	24.5	100.0	282

おり、男子と同じく成績が「わるいほう」と自己評価している生徒は、前二者よりも逸脱行動が多い。高校生男子においては「よいほう」31.1%、「ふつう」37.9%、「わるいほう」55.8%であり、中学生男女と同様の傾向にある。高校生女子では「よいほう」8.9%、「ふつう」19.5%、「わるいほう」40.9%となっており、成績と逸脱行動との間に直線的な関係がみられる。

3. 進学希望

(1) 学校別・男女別の進学希望

調査票M3の設問において、「あなたは学校をどこまで続けるつもりですか」と進学希望をたずねている。選択肢は「中学校まで」「高校まで」「短大・専門学校まで」「大学まで」「わからない」の5択である。

進学希望について学校・男女別に表したものが表6-3-1である。中学生男子と中学生女子を比較すると、「高校まで」という希望は男子22.2%、女子17.5%と差はみられないが、「短大・専門学校まで」においては男子11.6%、女子27.1%であり、15.5ポイントの差で女子の希望割合が高い。これとは逆に、「大学まで」を希望する中学生は男子42.7%、女子32.4%であり、男子の方が10.3ポイント高く、進学希望においてジェンダーバイアスがあることがみてとれる。

高校生では「高校まで」が男子16.9%、女子15.7%、「短大・専門学校まで」が男子15.4%、女子23.7%、「大学まで」が男子50.0%、女子46.7%となっており、中学生ほど明確な違いはみられない。これは、高校生はすでに選抜されて学力が同程度の生徒が集められるため、大きな性差がみられなくなるのであろう。なお、高校生で0.4%（1人）、「中学まで」との回答があるが、中退を考えていることも想定できるので、欠損値とせずにそのまま残して分析対象とした。

表6-3-1 進学希望

(%)

	中学校まで	高校まで	短大・専門学校まで	大学まで	わからない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	1.6	22.2	11.6	42.7	21.8	0.2	100.0	510
中学生女子	1.0	17.5	27.1	32.4	21.8	0.2	100.0	491
高校生男子	0.4	16.9	15.4	50.0	16.9	0.4	100.0	260
高校生女子	0.0	15.7	23.7	46.7	13.2	0.7	100.0	287
全体	0.9	18.6	19.4	41.4	19.4	0.3	100.0	1548

(2) 進学希望とマナー違反行動

進学希望とマナー違反行動との関連を表したものが図6-3-1である。なお、「中学校まで」という回答と無回答は少数であるため、省略してある。図の白い部分がマナー違反行動の「少ない群」、アミの部分が「中くらい群」、黒い部分が「多い群」である。「多い群」に注目すると、中学生においては進学希望が「高校まで」33.5%、「短大・専門学校まで」25.4%、「大学まで」12.7%と、上位の学歴を希望する者ほどマナー違反行動が少なくなる傾向にある。高校生においては、「高校まで」51.7%、「短大・専門学校まで」44.4%、「大学まで」30.3%となっており、中学生と同様の傾向にあるが、「わからない」と態度を保留している生徒においてマナー違反行動の多い者が56.8%と最多であることが注目される。

図6-3-1 進学希望とマナー違反行動

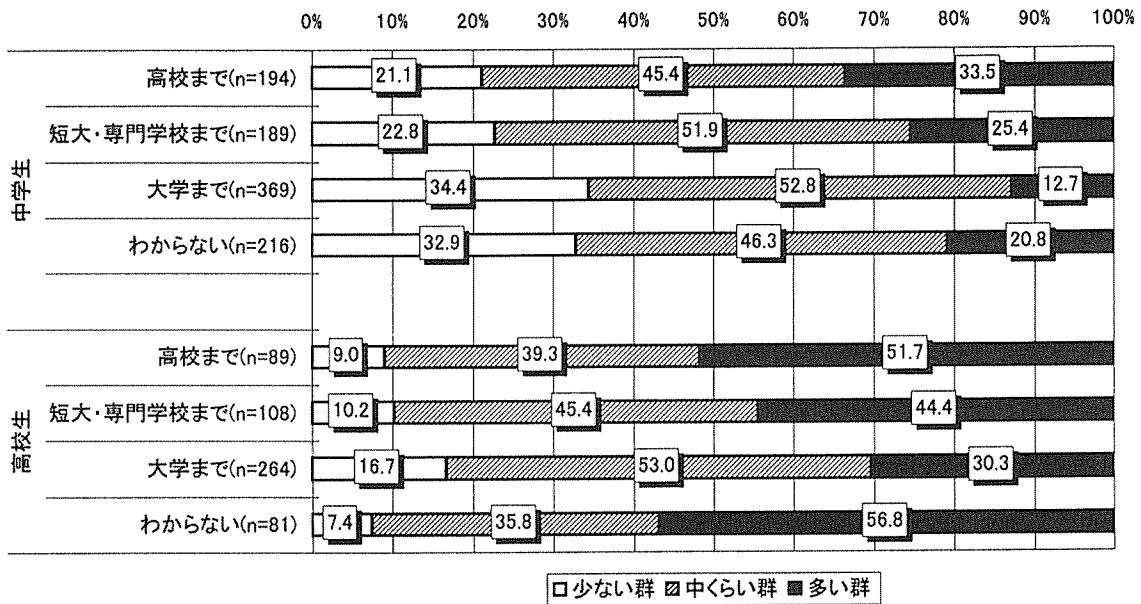


表 6-3-2 進学希望とマナー違反行動

(%)

		少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	高校まで	24.5	46.4	29.1	100.0	110
	短大・専門学校まで	27.6	53.4	19.0	100.0	58
	大学まで	37.2	52.1	10.7	100.0	215
	わからない	38.2	47.3	14.5	100.0	110
	小計	33.5	49.9	16.6	100.0	493
中学生女子	高校まで	16.7	44.0	39.3	100.0	84
	短大・専門学校まで	20.6	51.1	28.2	100.0	131
	大学まで	30.5	53.9	15.6	100.0	154
	わからない	27.4	45.3	27.4	100.0	106
	小計	24.6	49.5	25.9	100.0	475
高校生男子	高校まで	6.8	40.9	52.3	100.0	44
	短大・専門学校まで	12.5	37.5	50.0	100.0	40
	大学まで	23.1	43.1	33.8	100.0	130
	わからない	9.3	25.6	65.1	100.0	43
	小計	16.3	38.9	44.7	100.0	257
高校生女子	高校まで	11.1	37.8	51.1	100.0	45
	短大・専門学校まで	8.8	50.0	41.2	100.0	68
	大学まで	10.4	62.7	26.9	100.0	134
	わからない	5.3	47.4	47.4	100.0	38
	小計	9.5	53.7	36.8	100.0	285

この進学希望とマナー違反行動の関連を学校別・男女別に表したものが表 6-3-2 である。

マナー違反行動の「多い群」に注目して分析していく。中学生男子においては、進学希望が「高校まで」29.1%、「短大・専門学校まで」19.0%、「大学まで」10.7%となっており、より上位の学歴を希望する生徒ほどマナー違反行動が少ない傾向にある。中学生女子も同様であり、「高校まで」39.3%、「短大・専門学校まで」28.2%、「大学まで」15.6%である。高校生男子では「高校まで」52.3%、「短大・専門学校まで」50.0%、「大学まで」33.8%となる。高校生女子においては、「高校まで」51.1%、「短大・専門学校まで」41.2%、「大学まで」26.9%となる。

中高生男女いずれにおいても、より上位の学歴を希望している生徒ほど、マナー違反行動が少ない傾向がみとれる。

(3) 進学希望と他者の視線

図 6-3-2 は、進学希望と他者の視線との関連を表したものである。「中学校まで」という回答と無回答は少数であるため、省略してある。図の黒い部分が他者の視線を「気にしない群」、アミの部分が「中くらい群」、白い部分が「気にしない群」である。

他者の視線を「気にしない群」に注目すると、中学生においては、進学希望が「高校まで」で 29.4%、「短大・専門学校まで」で 23.9%、「大学まで」で 10.7%、「わからない」という回答の生徒で 28.0%となっている。大学までの進学を希望する生徒は、これ以外の3つの類型にくらべ、他者の視線を「気にしない群」の割合が半分に満たないことがわかる。高校生においては、「高校まで」33.7%、「短大・専門学校まで」27.1%、「大学まで」19.2%、「わからない」35.4%であり、ほぼ中学生と同型になる。

図6-3-2 進学希望と他者の視線

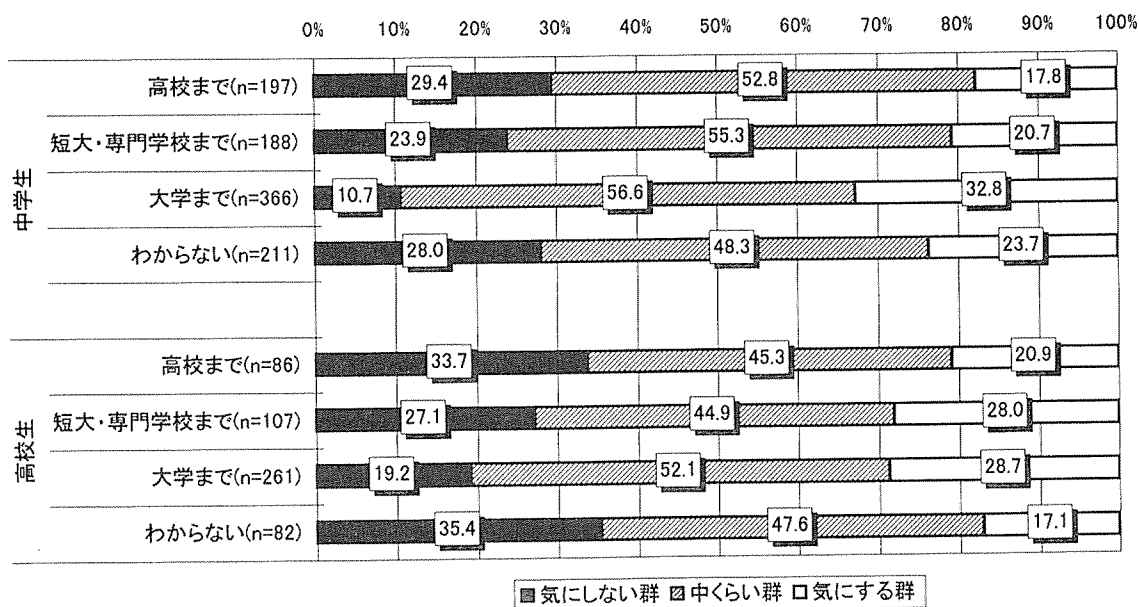


表 6-3-3 は、進学希望と他者の視線について、学校別・男女別に表したものである。

他者の視線を「気にしない群」に注目して分析していく。中学生男子においては、進学希望が「高校まで」36.0%、「短大・専門学校まで」23.7%、「大学まで」11.4%、「わからない」26.9%となっており、より高い学歴を希望する生徒ほど、他者の視線を「気にしない」割合が少なくなっていく。

中学生女子においては「高校まで」20.9%、「短大・専門学校まで」24.0%、「大学まで」9.7%、「わ

からない」29.1%となっており、直線的な関係にはなっていない。まず、進学希望について態度を保留している「わからない」という回答群が、最も「気にしない群」の割合が高い。ついで「短大・専門学校まで」>「高校まで」>「大学まで」という順序になっている。この、中学生における男女の反応の異なり方は興味深い。学歴の持つ意味、学歴への志向のジェンダーバイアスが如実にみられる知見であるように思われる。すなわち、「大学まで」進学を希望する生徒が最も他者の視線に配慮を示すのは男子と同様であるが、「短大・専門学校まで」の学歴が必ずしも上位の学歴を意味するわけではないのではないか。その内実はモラトリアム志向であり、むしろ「高校まで」と自らの進学を自ら制限する女子生徒の方が、他者のまなざしをよきにつけあしきにつけ内面化しており、その結果が自発的な学歴の断念なのではないだろうか。

高校生男子においては、「高校まで」44.2%、「短大・専門学校まで」33.3%、「大学まで」28.1%、「わからない」36.4%となっており、中学生男子と同様に高学歴志向であるほど他者の視線を「気にしない群」の割合が少なくなっていくが、「高校まで」「短大・専門学校まで」のサンプル数がそれぞれ43人、39人と少なく、カイ二乗検定による統計的有意差はみられない。

高校生女子においては、「高校まで」23.3%、「短大・専門学校まで」23.5%と、両者の間に差はみられないが、「大学まで」では10.5%と10数ポイント差で前二者との間に違いがみられる。これは、中高男女の全ての属性の生徒に共通する傾向である。「わからない」は34.2%となっており、進学希望の態度を保留しているものにおいてもっとも高い「気にしない群」の割合がみられた。

表 6-3-3 進学希望と他者の視線

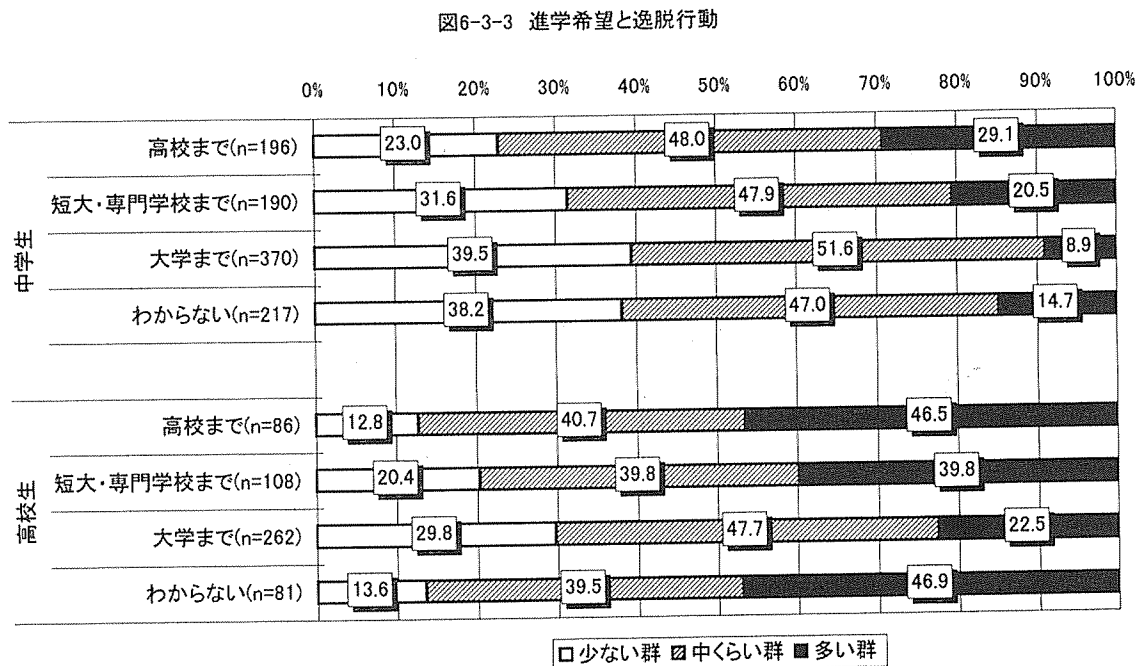
(%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	高校まで	36.0	45.0	18.9	100.0	111
	短大・専門学校まで	23.7	54.2	22.0	100.0	59
	大学まで	11.4	53.6	35.1	100.0	211
	わからない	26.9	52.8	20.4	100.0	108
	小計	21.9	51.5	26.6	100.0	489
中学生女子	高校まで	20.9	62.8	16.3	100.0	86
	短大・専門学校まで	24.0	55.8	20.2	100.0	129
	大学まで	9.7	60.6	29.7	100.0	155
	わからない	29.1	43.7	27.2	100.0	103
	小計	19.9	56.0	24.1	100.0	473
高校生男子	高校まで	44.2	37.2	18.6	100.0	43
	短大・専門学校まで	33.3	41.0	25.6	100.0	39
	大学まで	28.1	49.2	22.7	100.0	128
	わからない	36.4	47.7	15.9	100.0	44
	小計	33.1	45.7	21.3	100.0	254
高校生女子	高校まで	23.3	53.5	23.3	100.0	43
	短大・専門学校まで	23.5	47.1	29.4	100.0	68
	大学まで	10.5	54.9	34.6	100.0	133
	わからない	34.2	47.4	18.4	100.0	38
	小計	18.8	51.8	29.4	100.0	282

(4)進学希望と逸脱行動

図 6-3-3 は、進学希望と逸脱行動との関連を表したものである。逸脱行動の「多い群」に注目すると、中学生においては、進学希望が「高校まで」29.1%、「短大・専門学校まで」20.5%、「大学まで」8.9%、「わからない」14.7%となっており、概してより高い学歴を希望している生徒ほど、逸脱行動が少ない傾向にあることがわかる。

高校生においては、「高校まで」46.5%、「短大・専門学校まで」39.8%、「大学まで」22.5%、「わからない」46.9%となっており、中学生と似た傾向にはあるが、「わからない」という回答の生徒の逸脱行動の多さが目をひく。



学校別・男女別に集計したものを表 6-3-4 に示している。逸脱行動の「多い群」に注目して分析していく。

中学生男子においては、進学希望が「高校まで」33.9%、「短大・専門学校まで」23.7%、「大学まで」11.7%、「わからない」18.9%となっており、より高い学歴を希望する生徒ほど、逸脱行動が少なくなっていく傾向にある。

中学生女子においては、「高校まで」22.6%、「短大・専門学校まで」19.1%と、この両群の差はみられない。「大学まで」では 5.1%と、前二者との間と断絶して、逸脱行動が少なくなる。「わからない」では 10.4%であった。

高校生男子においては、「高校まで」51.2%、「短大・専門学校まで」57.5%、「大学まで」34.6%、「わからない」50.0%となっている。統計的有意差はみられないが、「短大・専門学校まで」を希望する生徒において最も逸脱行動がみられるという点は興味深い、サンプル数が 40 人と少ない。

高校生女子においては、「高校まで」42.2%、「短大・専門学校まで」29.4%、「大学まで」10.6%と、直線的な関係にある。高学歴志向の生徒ほど、逸脱行動が少ない傾向にあると言える。「わからない」は 43.2%であった。

表 6-3-4 進学希望と逸脱行動

(%)

		少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	高校まで	20.5	45.5	33.9	100.0	112
	短大・専門学校まで	22.0	54.2	23.7	100.0	59
	大学まで	36.0	52.3	11.7	100.0	214
	わからない	34.2	46.8	18.9	100.0	111
	小計	30.4	49.8	19.8	100.0	496
中学生女子	高校まで	26.2	51.2	22.6	100.0	84
	短大・専門学校まで	35.9	45.0	19.1	100.0	131
	大学まで	44.2	50.6	5.1	100.0	156
	わからない	42.5	47.2	10.4	100.0	106
	小計	38.4	48.4	13.2	100.0	477
高校生男子	高校まで	14.6	34.1	51.2	100.0	41
	短大・専門学校まで	20.0	22.5	57.5	100.0	40
	大学まで	21.5	43.8	34.6	100.0	130
	わからない	13.6	36.4	50.0	100.0	44
	小計	18.8	37.6	43.5	100.0	255
高校生女子	高校まで	11.1	46.7	42.2	100.0	45
	短大・専門学校まで	20.6	50.0	29.4	100.0	68
	大学まで	37.9	51.5	10.6	100.0	132
	わからない	13.5	43.2	43.2	100.0	37
	小計	26.2	49.3	24.5	100.0	282

4. 学校の部活動

(1) 部活動参加状況

表 6-4-1 は、調査票 M4 の設問で「学校の放課後の部活動に参加していますか」という問いを提示し、「積極的に参加している」「いちおう参加している」「参加していない」と3つの選択肢でたずねた結果である。「参加していない」割合をみると、中学生で2割弱、高校生では5割前後となっており、中学生の方がより部活動にコミットしていることがわかる。また、「積極的に参加している」割合をみると中学生では5割から6割弱、高校生では3割から4割弱となっており、積極さにおいても中学生の方が部活動により積極的な関わりをもっていることがわかる。ただし、「いちおう参加している」という回答の割合が中学生は高校生の約2倍となっている。すなわち、中学生では名目的に参加している者も少なからずいるということであろう。

表 6-4-1 部活動参加状況

(%)

	積極的に参加している	いちおう参加している	参加していない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	58.8	23.5	17.6	0.0	100.0	510
中学生女子	52.5	29.9	16.5	1.0	100.0	491
高校生男子	37.3	14.6	47.7	0.4	100.0	260
高校生女子	32.4	16.4	50.2	1.0	100.0	287
全体	48.3	22.7	28.4	0.6	100.0	1548

(2)部活動とマナー違反行動

図 6-4-1 は、部活動とマナー違反行動の関係を表したものである。マナー違反行動の「多い群」に注目してみると、中学生においては「積極的に参加している」18.4%、「いちおう参加している」25.0%「参加していない」26.8%となっており、大きな差はみられない。

高校生においては、「積極的に参加」36.5%、「いちおう参加」31.8%、「参加していない」46.3%となっており、部活動に参加していない生徒がややマナー違反行動の多い傾向にある。

図6-4-1 部活動とマナー違反行動

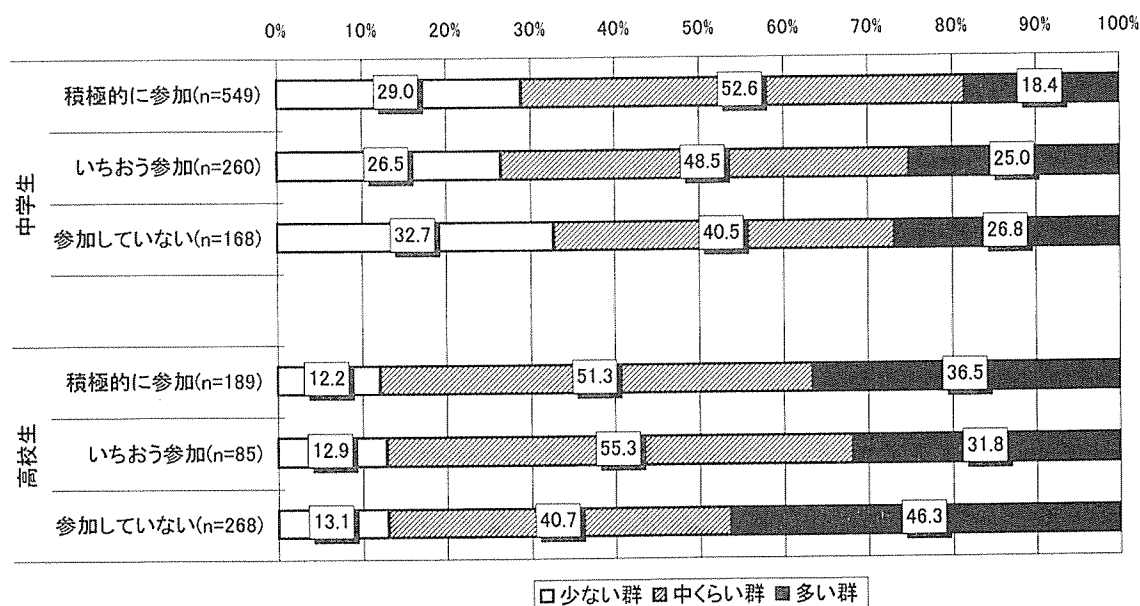


表 6-4-2 部活動とマナー違反行動

(%)

		少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	積極的に参加している	29.7	55.7	14.5	100.0	296
	いちおう参加している	32.2	45.8	22.0	100.0	118
	参加していない	47.1	32.2	20.7	100.0	87
	小計	33.3	49.3	17.4	100.0	501
中学生女子	積極的に参加している	28.1	49.0	22.9	100.0	253
	いちおう参加している	21.8	50.7	27.5	100.0	142
	参加していない	17.3	49.4	33.3	100.0	81
	小計	24.4	49.6	26.1	100.0	476
高校生男子	積極的に参加している	12.5	45.8	41.7	100.0	96
	いちおう参加している	18.4	44.7	36.8	100.0	38
	参加していない	18.5	32.3	49.2	100.0	124
	小計	16.3	39.1	44.6	100.0	258
高校生女子	積極的に参加している	11.8	57.0	31.2	100.0	93
	いちおう参加している	8.5	63.8	27.7	100.0	47
	参加していない	8.3	47.9	43.8	100.0	144
	小計	9.5	53.5	37.0	100.0	284

表 6-4-2 は、部活動とマナー違反行動との関係について学校別・男女別に表したものである。中学生男子においては、マナー違反行動の「多い群」では違いがみられない。だが、「少ない群」に注目すると、部活動に「参加していない」生徒が 47.1%であり、「積極的に参加している」29.7%、「いちおう参加している」32.2%よりも 20 ポイント近く多くなっている。そもそも中学生は電車などの利用機会が高校生より少ないであろうが、中学生男子のこの傾向は、中学生女子や高校生と比べて、特異ではある。

5%水準で統計的有意差がみられるのは中学生男子（1%水準で有意）のみであり、中学生女子、高校生男子、高校生女子では有意差はない。

(3)部活動と他者の視線

図 6-4-2 は、部活動と他者の視線の関連を表したものである。他者の視線を「気にしない群」に注目すると、中学生においては、「積極的に参加」16.7%、「いちおう参加」25.4%、「参加していない」29.6%となっており、部活動に参加していない生徒は、やや他者の視線を気にしない傾向がみられる。

高校生も同様の傾向にみえるが、統計的有意差はない。

図6-4-2 部活動と他者の視線

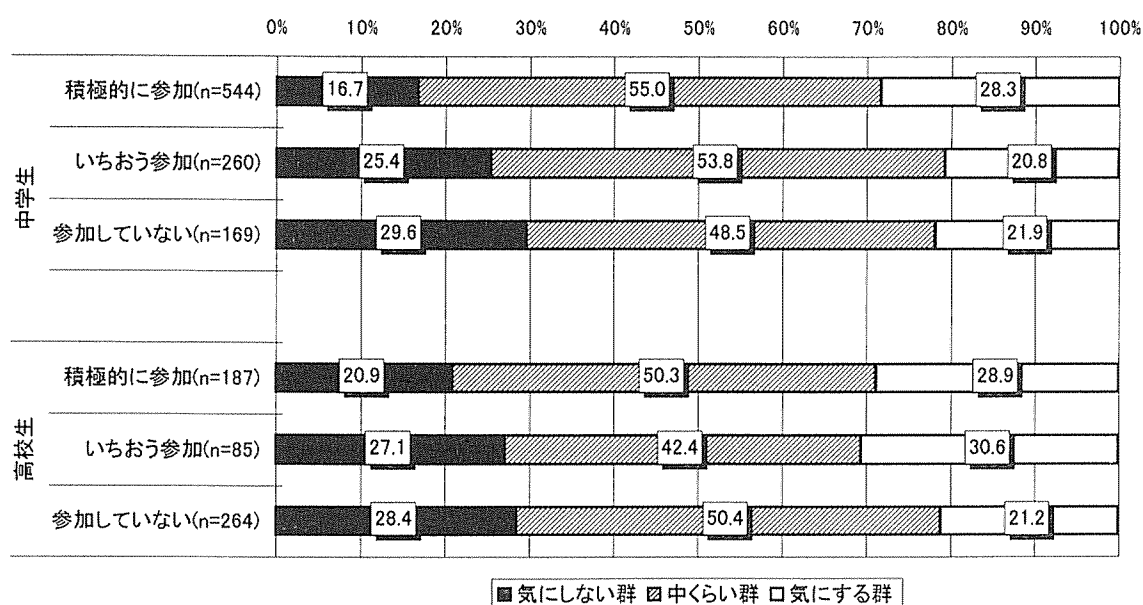


表 6-4-3 は、部活動と他者の視線について、学校別・男女別に集計したものである。他者の視線を「気にしない群」に注目して分析していく。

中学生男子においては、「積極的に参加」18.8%、「いちおう参加」26.3%、「参加していない」30.7%と、部活動へのコミットメントが低くなるほど他者の視線を気にしなくなるような結果となっている（ただし、統計的有意差はない）。

中学生女子においては、「積極的に参加」14.3%、「いちおう参加」24.6%、「参加していない」28.4%と、中学生男子と同様に、部活動へのコミットメントが低くなるほど他者の視線を気にしなくなる傾向がある。

高校生男子においては、ほとんど差がみられない。部活動と他者の視線との関連はないようである。

「積極的に参加」30.5%、「いちおう参加」39.5%、「参加していない」32.8%であった。統計的有意差もみられない。

高校生女子においては、中学生男女と同様に、部活動に参加している生徒ほど他者の視線を気にしない者の割合が低くなる傾向がみられた。「積極的に参加」10.9%、「いちおう参加」17.0%、「参加していない」24.6%であった。

高校生男子のみが両者の関連がみられず、特異な結果を示しているが、中学生男女、高校生女子においては同様の傾向にあると言えよう。

表 6-4-3 部活動と他者の視線 (％)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	積極的に参加している	18.8	52.7	28.4	100.0	292
	いちおう参加している	26.3	50.8	22.9	100.0	118
	参加していない	30.7	44.3	25.0	100.0	88
	小計	22.7	50.8	26.5	100.0	498
中学生女子	積極的に参加している	14.3	57.5	28.2	100.0	252
	いちおう参加している	24.6	56.3	19.0	100.0	142
	参加していない	28.4	53.1	18.5	100.0	81
	小計	19.8	56.4	23.8	100.0	475
高校生男子	積極的に参加している	30.5	49.5	20.0	100.0	95
	いちおう参加している	39.5	34.2	26.3	100.0	38
	参加していない	32.8	46.7	20.5	100.0	122
	小計	32.9	45.9	21.2	100.0	255
高校生女子	積極的に参加している	10.9	51.1	38.0	100.0	92
	いちおう参加している	17.0	48.9	34.0	100.0	47
	参加していない	24.6	53.5	21.8	100.0	142
	小計	18.9	52.0	29.2	100.0	281

(4) 部活動と逸脱行動

図 6-4-3 は、部活動と逸脱行動スコアとの関連を示したものである。逸脱行動の「多い群」に注目すると、中学生においては「積極的に参加」12.7%、「いちおう参加」21.2%、「参加していない」25.1%となっており、部活動へのコミットメントが低いほど、逸脱行動が多いものの割合が増える傾向にある。ただし、部活動に参加していない中学生は逸脱行動の「少ない群」も 38.0%と 3 群の中で最多であり、必ずしも部活動への不参加が逸脱に直結するというわけではなく、むしろ逸脱行動の多い者と少ない者に大きく分化している。部活動に参加していない生徒の放課後の過ごし方（例えば、塾通いなど）をより詳細に調査する必要がある。

高校生においては、部活動に参加していない者で逸脱行動の「多い群」が 43.0%と、多の 2 群の 2 倍近くになっている。

図6-4-3 部活動と逸脱行動

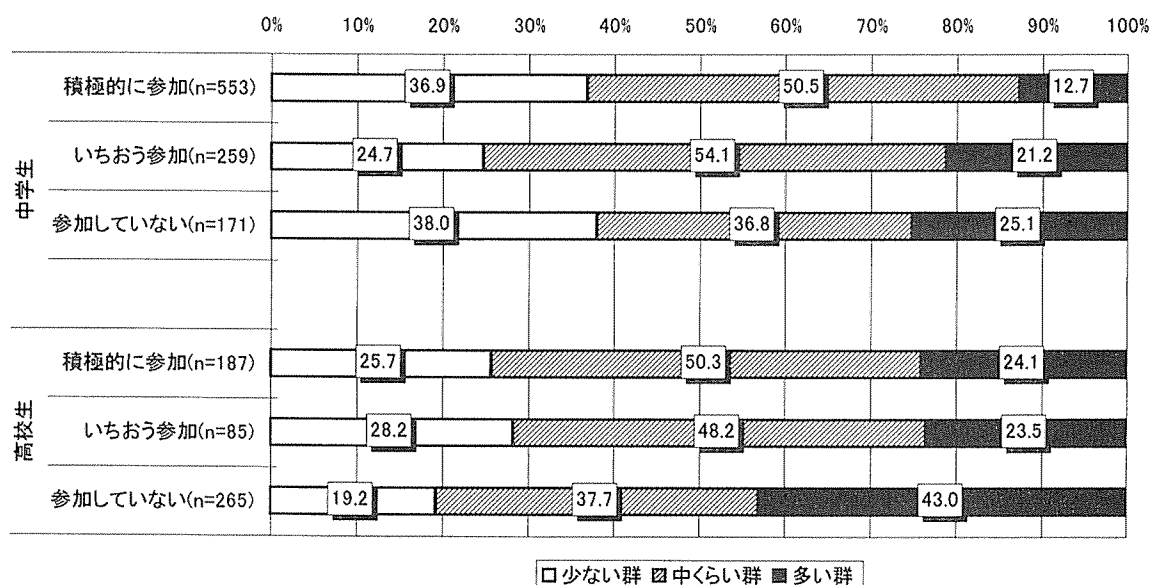


表 6-4-4 部活動と逸脱行動

(%)

		少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	積極的に参加している	31.5	53.0	15.4	100.0	298
	いちおう参加している	18.8	53.0	28.2	100.0	117
	参加していない	38.9	33.3	27.8	100.0	90
	小計	29.9	49.5	20.6	100.0	505
中学生女子	積極的に参加している	43.1	47.5	9.4	100.0	255
	いちおう参加している	29.6	54.9	15.5	100.0	142
	参加していない	37.0	40.7	22.2	100.0	81
	小計	38.1	48.5	13.4	100.0	478
高校生男子	積極的に参加している	18.6	41.2	40.2	100.0	97
	いちおう参加している	18.4	47.4	34.2	100.0	38
	参加していない	19.8	31.4	48.8	100.0	121
	小計	19.1	37.5	43.4	100.0	256
高校生女子	積極的に参加している	33.3	60.0	6.7	100.0	90
	いちおう参加している	36.2	48.9	14.9	100.0	47
	参加していない	18.8	43.1	38.2	100.0	144
	小計	26.3	49.5	24.2	100.0	281

表 6-4-4 は、部活動と逸脱行動の関連を、学校別・男女別に表したものである。

中学生男子においては、両者は直線的な関係になっていない。逸脱行動の「多い群」に注目すると、「積極的に参加」15.4%、「いちおう参加」28.2%、「参加していない」27.8%となっており、積極的に部活動にコミットメントしている生徒は、そうでない後二者と比べて逸脱行動が少ないようにもみ

える。だが、逆に逸脱行動の「少ない群」に注目すると、「積極的に参加」31.5%、「いちおう参加」18.8%、「参加していない」38.9%となっており、部活動に参加していない生徒は逸脱行動の少ない者も多いことがわかる。最後に部活動に「参加していない者」をみると、程度を問わず参加しているものはともに53.0%であるが、「参加していない」ものは33.3%と、約20ポイント低くなっている。なお、カイ二乗検定では0.1%水準で有意差がみられる。ようするに、部活動に参加していない中学生男子はそれゆえに逸脱行動が多いとも低いとも議論することはできないのであり、分化しているのである。

より詳細に分析するために、三分割した逸脱行動スコアを用いず、もとの逸脱行動スコア（最小値0、最大値14）の平均値を以下に提示する。これら3群に対して一元配置の分散分析を行った結果、 $F(2,502)=5.635, p.<.01$ で有意な差がみられた。TukeyのHSD法による多重比較の結果、「積極的に参加群」と「いちおう参加」群との間、「積極的に参加群」と「参加していない群」との間に有意差が示された（ $\alpha=.05$ ）。

したがって、中学生男子においては、部活動への積極的なコミットメントは逸脱行動へのコントロール要因となっているとみなすことができる。ただし、参加していない生徒はその他の2群と比べて標準偏差が大きいところからも、逸脱行動が多い生徒と少ない生徒に分化する傾向にあるとみるべきであろう。

	平均値(人数)	標準偏差
積極的に参加	3.06 (n=298)	2.65
いちおう参加	4.04 (n=117)	3.16
参加していない	3.99 (n= 90)	4.07

中学生女子においても、部活動と逸脱行動との関連は単純ではない。逸脱行動の多い群に注目すると、「積極的に参加」9.4%、「いちおう参加」15.5%、「参加していない」22.2%と、積極的な参加はコントロール要因となっているように見える。だが、「少ない群」に注目すると、「積極的に参加」43.1%、「いちおう参加」29.6%、「参加していない」37.0%となっている。「中くらい群」をみると、参加している中学生女子は5割前後なのに対し、参加していない生徒は4割である。こうした観察結果から、やはり男子と同じように、部活動への積極的なコミットメントは逸脱行動のコントロール要因となっているが、参加していない生徒が逸脱行動が多いというわけではなく、むしろ分化の程度が大きいということになる。

高校生男子においては、部活動と逸脱行動との関連はあまりはっきりしない。「少ない群」ではまったく差がみられない。「多い群」では「積極的に参加」40.2%、「いちおう参加」34.2%、「参加していない」48.8%と、逸脱行動の多い者の割合が多い。ただし、統計的有意差は示されなかった。

高校生女子は、比較的明確な傾向が示された。逸脱行動の「多い群」に注目すると、「積極的に参加」6.7%、「いちおう参加」14.9%、「参加していない」38.2%と、部活動に参加していない高校生女子において高い逸脱行動の出現割合がみられる。また、逸脱行動の「少ない群」に注目しても、「積極的に参加」33.3%、「いちおう参加」36.2%と両群には差がみられず、「参加していない」と18.8%となる。したがって、高校生女子に関しては、部活動がストレートに逸脱行動のコントロール要因となっているとみてよいだろう。

5. 遅刻回数

(1)遅刻回数

調査票M5の設問において、「いまの学年になってから遅刻を何回くらいしましたか。病気などの特別の場合を除きます」とたずねた。選択肢は、以下の5択である。「ぜんぜんしていない」「5回以内」「6回から10回」「11回から20回」「21回以上」。

「5回以内」から「21回以上」までを足し上げて、1回以上でも遅刻のある割合を算出すると、中学生男子 37.6%、中学生女子 32.4%、高校生男子 63.9%、高校生女子 61.9%となる。中学生では3割から4割弱、高校生では6割が遅刻経験がある。

また、「21回以上」遅刻があるという回答に注目すると、中学生では男子 3.9%、女子 1.8%とわずかであるが、高校生では男子 15.8%、女子 12.5%と、1割強に達する。実に10人にひとり以上が、21回以上遅刻しているわけである。中学生と高校生で著しく異なることがわかる。

表 6-5-1 遅刻回数

(%)

	していない	5回以内	6回から 10回	11回から 20回	21回以上	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	62.4	23.5	7.8	2.4	3.9	0.0	100.0	510
中学生女子	67.4	22.4	4.9	3.3	1.8	0.2	100.0	491
高校生男子	35.4	23.5	12.7	11.9	15.8	0.8	100.0	260
高校生女子	36.9	26.1	13.2	10.1	12.5	1.0	100.0	287
全体	54.7	23.6	8.7	5.7	6.8	0.4	100.0	1548

(2)遅刻とマナー違反行動

前項での分析結果をふまえて、遅刻回数について以下のように3区分する。「していない」群および「5回以内」群はそのまま独立のカテゴリーとし、「6回から10回」と「11回から20回」「21回以上」の3つを統合し、「6回以上群」とする。

この3群をもって、遅刻回数とマナー違反行動の状況について分析していく。先に、遅刻については中高の違いが大きいことを確認したので、中高別に遅刻回数とマナー違反行動との関連を示した。図 6-5-1 をごらんいただきたい。マナー違反行動の「多い群」に注目すると、中学生では遅刻を「していない」16.5%、「5回以内」25.7%、「6回以上」41.6%となる。高校生では「していない」27.8%、「5回以内」30.9%、「6回以上」58.9%となる。中高ともに、遅刻回数が増えるにしたがって、マナー違反行動も多くなる傾向になる。

表 6-5-2 は、遅刻回数とマナー違反行動との関連を、学校別・男女別に表したものである。「していない」「5回以内」「6回以上」の順番に、マナー違反行動の「多い群」の割合を掲げると、以下のようになる。中学生男子 12.4%、20.8%、34.8%。中学生女子 20.5%、31.1%、51.1%。高校生男子 33.7%、29.5%、62.5%。高校生女子 22.6%、32.0%、55.3%。中高男女いずれの属性であっても、遅刻回数が多くなるほどマナー違反行動も多くなる傾向にあることがわかる。

図6-5-1 遅刻回数とマナー違反行動

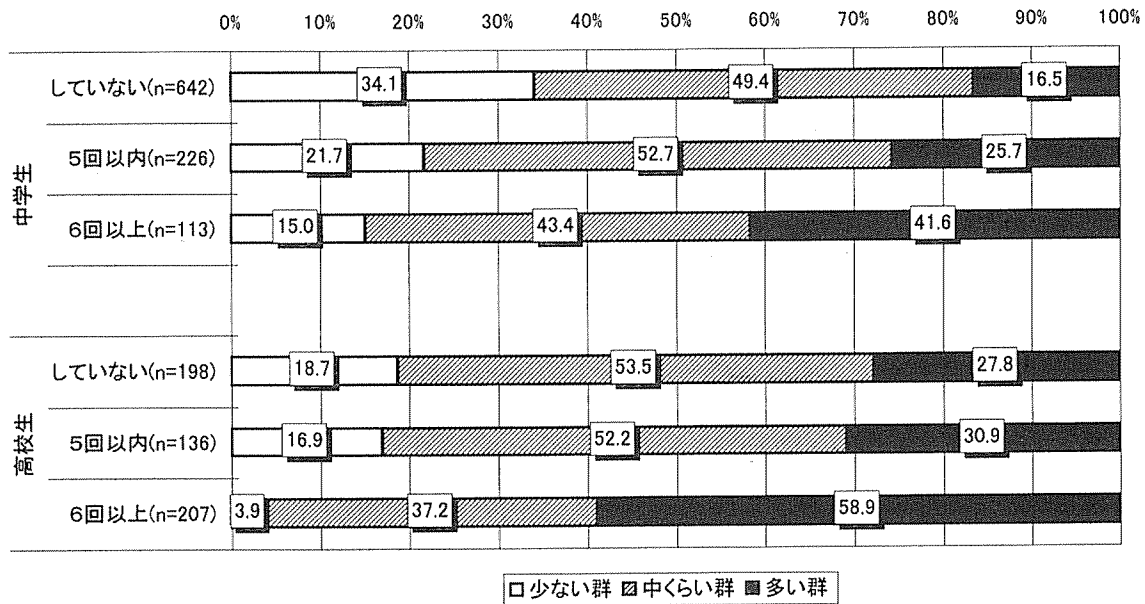
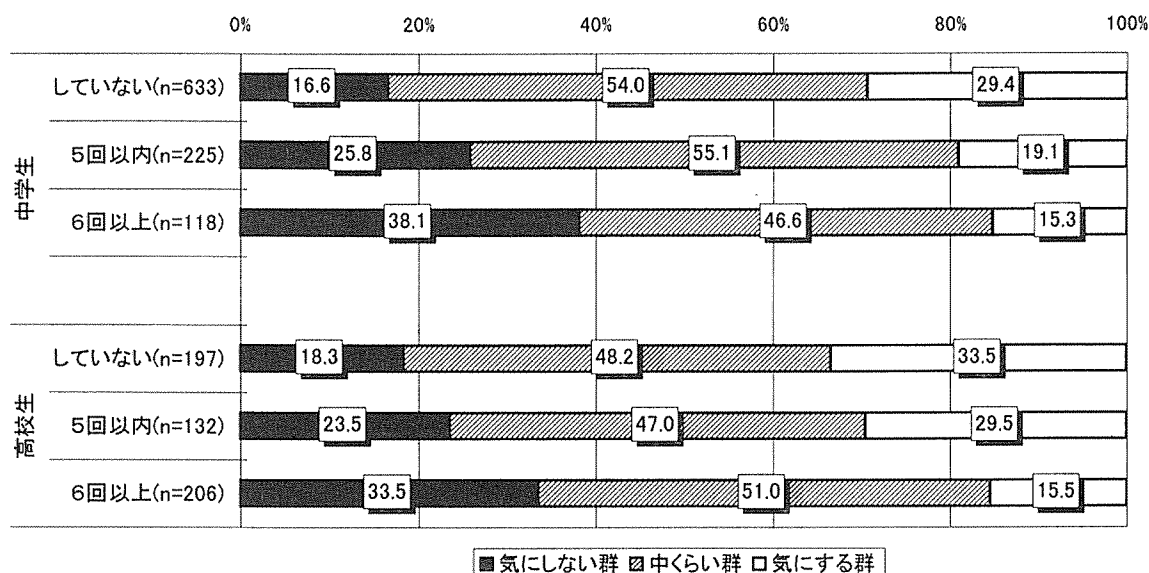


表 6-5-2 遅刻回数とマナー違反行動

		遅刻回数			合計	人数(人)
		少ない群	中くらい群	多い群		
中学生男子	していない	39.7	47.9	12.4	100.0	315
	5回以内	25.8	53.3	20.8	100.0	120
	6回以上	16.7	48.5	34.8	100.0	66
	小計	33.3	49.3	17.4	100.0	501
中学生女子	していない	28.7	50.8	20.5	100.0	327
	5回以内	17.0	51.9	31.1	100.0	106
	6回以上	12.8	36.2	51.1	100.0	47
	小計	24.6	49.6	25.8	100.0	480
高校生男子	していない	22.8	43.5	33.7	100.0	92
	5回以内	27.9	42.6	29.5	100.0	61
	6回以上	3.8	33.7	62.5	100.0	104
	小計	16.3	39.3	44.4	100.0	257
高校生女子	していない	15.1	62.3	22.6	100.0	106
	5回以内	8.0	60.0	32.0	100.0	75
	6回以上	3.9	40.8	55.3	100.0	103
	小計	9.2	53.9	37.0	100.0	284

(3)遅刻回数と他者の視線 前項で用いた遅刻回数の3区分をここでも利用し、遅刻回数と他者の視線との関連を分析していく。図6-5-2は、遅刻回数と他者の視線の関連を中高別に表したものである。他者の視線を「気にしない群」に注目すると、中学生においては、遅刻を「していない」16.6%、「5回以内」25.8%、「6回以上」38.1%となる。高校生においては、「していない」18.3%、「5回以内」23.5%、「6回以上」33.5%となる。遅刻回数が増えるほど、他者の視線を気にしない者増える。

図6-5-2 遅刻回数と他者の視線



	していない	5回以内	6回以上
中学生男子	18.3%	24.8%	38.6%
中学生女子	14.9%	26.9%	37.5%
高校生男子	27.2%	28.8%	39.8%
高校生女子	10.5%	19.2%	27.2%

表 6-5-3 は、遅刻回数と他者の視線について、学校別・男女別に表したものである。左に「気にしない群」の割合を提示する。中高男女いずれの属性においても、遅刻が多くなるほど、他者の視線を気にしない者の割合も多くなっていくことがわかる。高校生男子は、統計的有意差はない。

表 6-5-3 遅刻回数と他者の視線

(%)

		気にしない群	中くらい群	気にする群	合計	人数(人)
中学生男子	していない	18.3	51.4	30.2	100.0	311
	5回以内	24.8	53.8	21.4	100.0	117
	6回以上	38.6	42.9	18.6	100.0	70
	小計	22.7	50.8	26.5	100.0	498
中学生女子	していない	14.9	56.5	28.6	100.0	322
	5回以内	26.9	56.5	16.7	100.0	108
	6回以上	37.5	52.1	10.4	100.0	48
	小計	19.9	56.1	24.1	100.0	478
高校生男子	していない	27.2	46.7	26.1	100.0	92
	5回以内	28.8	44.1	27.1	100.0	59
	6回以上	39.8	46.6	13.6	100.0	103
	小計	32.7	46.1	21.3	100.0	254
高校生女子	していない	10.5	49.5	40.0	100.0	105
	5回以内	19.2	49.3	31.5	100.0	73
	6回以上	27.2	55.3	17.5	100.0	103
	小計	18.9	51.6	29.5	100.0	281

(4)遅刻回数と逸脱行動

この項で前々項、前項と同様に3区分した遅刻回数カテゴリーを用いて、遅刻回数と逸脱行動との関連を分析していく。

図6-5-3は、中高別に遅刻回数と逸脱行動との関連を表したものである。逸脱行動の「多い群」に注目して分析すると、中学生においては遅刻を「していない」12.5%、「5回以内」15.1%、「6回以上」47.1%となる。高校生においては、「していない」12.2%、「5回以内」25.2%、「6回以上」59.5%となる。中高いずれにおいても、遅刻回数の多い生徒ほど、逸脱行動も多い傾向にある。

表6-5-4は、学校別・男女別に、遅刻と逸脱行動の関連を表したものである。逸脱行動の「多い群」の数値を以下に示す。

	していない	5回以内	6回以上
中学生男子	16.8%	17.8%	41.7%
中学生女子	7.9%	12.1%	55.3%
高校生男子	20.7%	34.4%	68.9%
高校生女子	4.8%	17.6%	50.0%

中高男女いずれの属性においても、遅刻回数が増えるほど逸脱行動の多い者の割合が増えることがわかる。「6回以上」の遅刻経験者は、中学生男子では4割が、高校生男子では7割弱が逸脱行動が多い者となる。なお、中高男女いずれも、カイ二乗検定の結果0.1%水準で有意差がみとめられる。

図6-5-3 遅刻回数と逸脱行動

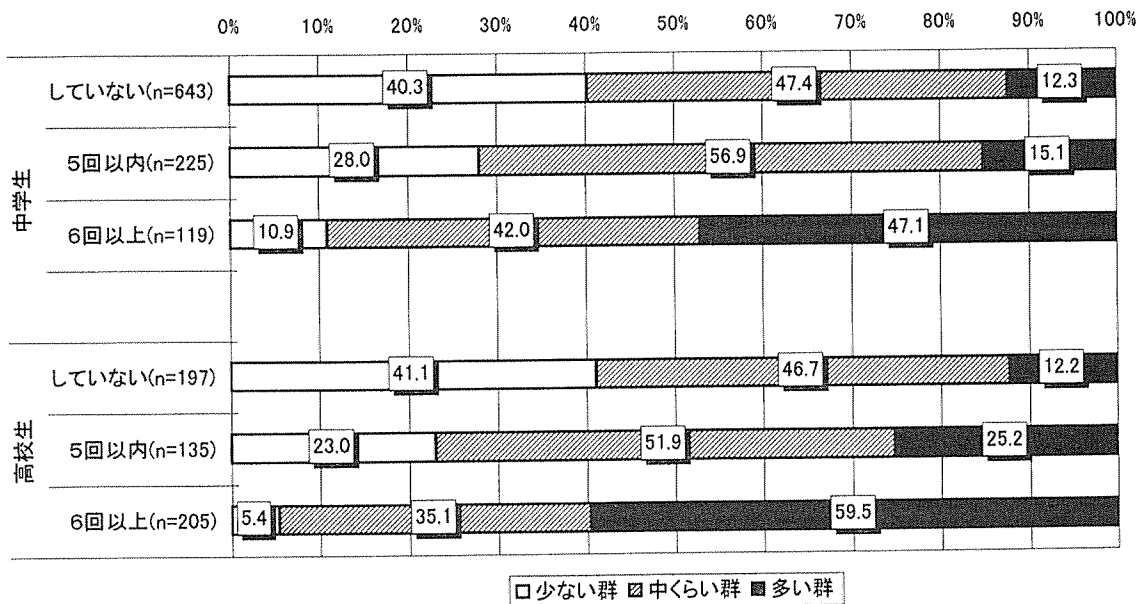


表 6-5-4 遅刻回数と逸脱行動

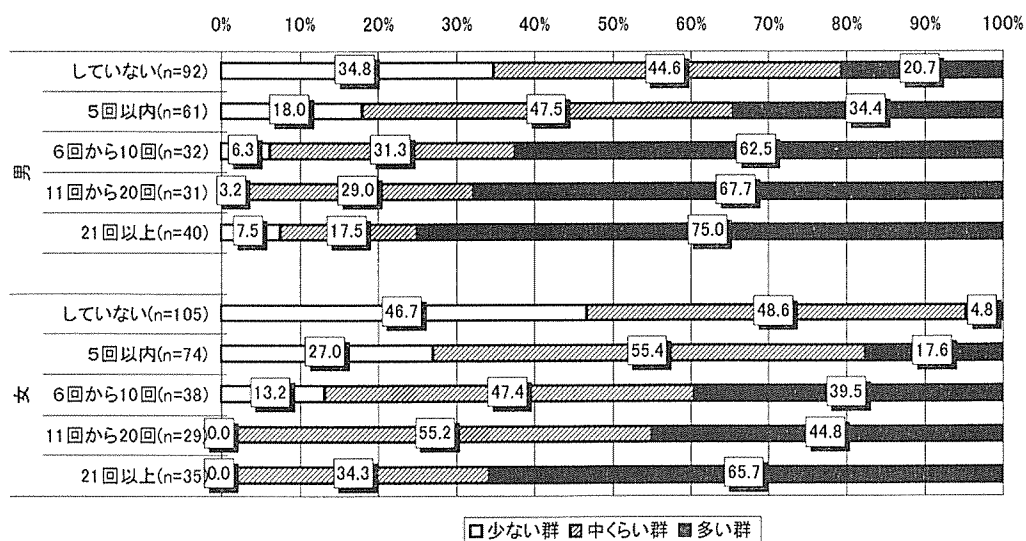
(%)

		少ない群	中くらい群	多い群	合計	人数(人)
中学生男子	していない	34.9	48.3	16.8	100.0	315
	5回以内	28.8	53.4	17.8	100.0	118
	6回以上	9.7	48.6	41.7	100.0	72
	小計	29.9	49.5	20.6	100.0	505
中学生女子	していない	45.4	46.6	7.9	100.0	328
	5回以内	27.1	60.7	12.1	100.0	107
	6回以上	12.8	31.9	55.3	100.0	47
	小計	38.2	48.3	13.5	100.0	482
高校生男子	していない	34.8	44.6	20.7	100.0	92
	5回以内	18.0	47.5	34.4	100.0	61
	6回以上	5.8	25.2	68.9	100.0	103
	小計	19.1	37.5	43.4	100.0	256
高校生女子	していない	46.7	48.6	4.8	100.0	105
	5回以内	27.0	55.4	17.6	100.0	74
	6回以上	4.9	45.1	50.0	100.0	102
	小計	26.3	49.1	24.6	100.0	281

(5) 高校生の遅刻と逸脱行動

本節第1項でみたように、高校生においては「6回から10回」「11回から20回」「21回以上」という回答もそれぞれ1割以上みられた。そこで、ここで高校生に関しては情報を縮減することなく、遅刻回数と逸脱行動との関連を分析してみたい。図6-5-4は、その結果を示したものである。男女いずれも、遅刻回数が多くなるにしたがって、逸脱行動も多くなっていくことがわかる。とりわけ、5回以内にとどまっている生徒と、6回以上の生徒との間に、約2倍にひらきがあることが注目される。男女いずれも、カイ二乗検定の結果0.1%水準で有意差がみとめられる。

図6-5-4 高校生の遅刻と逸脱行動



さて、以上の分析で、遅刻回数と逸脱行動との間に強い関連がみられることが明らかになった。では、どのような逸脱行動が、遅刻回数と強い関連があるのかをみていきたい。そこで、逸脱行動スコアを用いず、問いでたずねた個別の設問（それぞれ、「ある」「ない」の2件法）と、本節で最初に作成した遅刻回数3区分カテゴリーを用いて、男女別にクロス集計を行った。そのクロス集計のカイ二乗検定の結果を表6-5-5に示す。

は0.1%水準で、**は1%水準で、*は5%水準で、+は10%水準で統計的に意味のある関連がみられることを示す。すなわち、が付されている項目において、遅刻と当該の逸脱行動との間に最も強い関連があるということであり、ついで、**、*、+の順に関連がみられるということである。空欄は統計的に意味のある関連が見られない項目である。

表6-5-5 高校生の遅刻回数と逸脱行動の有意水準

	男	女	
L1. タバコを吸う	***	***	「タバコを吸う」「酒を飲む」「さぼって学校に行かない」「深夜に盛り場を遊び回る」「家族にうそをついて外泊する」「放置されている自転車を勝手に乗る」「店の品物を万引きする」「友達が万引きしたものをもらったり買ったたりする」といった行動は、男女ともに遅刻回数と強い関連がみられるのである。「友達をいじめたり、仲間外れにしたりする」「メールを使って、他人の悪口を言いふらす」という行動は、男子においては遅刻との関連はみられないが、女子において関連がみられる。逆に「他人を殴る」は男子において関連がみられるが、女子においてはみられない。「いやがらせの電話をくりかえしかける」という行動は、遅刻との関連は男女ともみられなかった。
L2. 酒を飲む	***	***	
L3. 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない	***	***	
L4. 深夜に盛り場を遊び回る	***	***	
L5. 家族にうそをついて外泊する	***	***	
L6. 自分の家の金をだまって使う	+	**	
L7. 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする		**	
L8. メールを使って、他人の悪口を言いふらす		**	
L9. いやがらせの電話を繰り返しかける			
L10. 放置されている自転車を、勝手に乗る	***	***	
L11. 店の品物を万引きする	***	***	
L12. 友達が万引きした物をもらったり買ったたりする	***	***	
L13. 学校のを、わざと壊したり傷つける	**	**	
L14. 他人を殴る	**		

「いやがらせの電話をくりかえしかける」という行動は、遅刻との関連は男女ともみられなかった。

6. アルバイト

(1) アルバイト状況

この項では、アルバイト状況について分析する。調査票M6で「あなたは、ふだん学校のあるときに（夏休みや冬休み以外に）アルバイトをしていますか」とたずねた。選択肢は「していない」「週に1日くらい」「週に2～3日くらい」「週に4日以上」の4択である。

中学生で週に1日以上でもアルバイトをしていると回答した者は、男子2.9%（15人）、女子1.2%（6人）とごく少数であるため、ここでは高校生に限定して分析していく。

表6-6-1は、高校生のアルバイト状況を表したものである。男子の30.0%、女子の48.0%が週に1日以上アルバイトをしていると回答した。男女ともに「週に1日くらい」との回答は男子2.3%、女子2.4%と少なく、むしろ「週に2～3日」との回答が男子15.4%、女子26.8%と多い。「週に4日以上」という回答も男子12.3%、女子18.8%と1割強から2割弱を占め、珍しくないことがわかる。

表 6-6-1 高校生のアルバイト状況

(%)

	していない	週に1日 くらい	週に2～3日 くらい	週に4日 以上	無回答	合計	人数(人)
高校生男子	68.5	2.3	15.4	12.3	1.5	100.0	260
高校生女子	51.2	2.4	26.8	18.8	0.7	100.0	287
高校生計	59.4	2.4	21.4	15.7	1.1	100.0	547

補遺

総務庁青少年対策本部に設置された青少年環境問題調査研究会（委員長：矢島正見、委員：佐々木輝美、田村雅幸、耳塚寛明、米里誠司、山本功）によって、宮城県、千葉県、東京都、石川県、奈良県、熊本県の6都県の高校生3,101人に対し、1999（平成11）年11月～12月に行われた「青少年と携帯電話等に関する調査」がある（以下、「総務庁携帯電話調査」と記す）。調査報告書は2000（平成12）年12月、『青少年と携帯電話等に関する調査研究報告書』として刊行されている。アルバイトに関する設問および回答の選択肢は本調査と総務庁携帯電話調査とで同一である。

この調査対象高校生のうち、本調査と同じく普通科のみの高校生を対象にしたアルバイト状況を以下に掲げる。約2年前と現在との比較となるわけであるが、対象が6都県と、本調査とは異なるため、単純な比較はできないが、高校生のアルバイトは2年前の6都県の高校生と比べて、増加しているようである。「週に2～3日」で10.8ポイント増、「週に4日以上」で11.0ポイントの増加がみられる。総務庁携帯電話調査では「無回答」の割合が8.4%と高いが、これは6都県対象の場合、公式にはアルバイトを禁止ないしは許可制としている高校において、アルバイトをしている生徒が答えなかったためではないかと考えられる。

参考表 総務庁青少年対策本部による1999(平成11)年調査による普通科高校生アルバイト状況

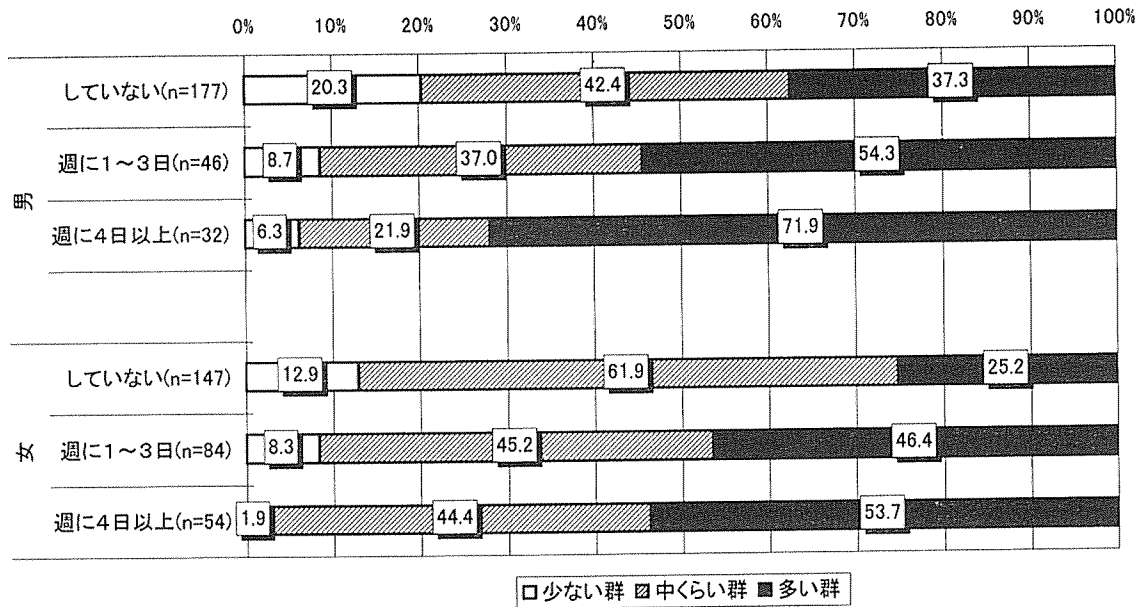
	していない	週に1日くらい	週に2～3日	週に4日以上	無回答	合計	人数(人)
普通科男子	77.7	1.7	7.3	4.5	8.8	100.0	932
普通科女子	70.1	3.3	13.6	5.0	8.0	100.0	1028
普通科計	73.7	2.6	10.6	4.7	8.4	100.0	1960

(2) 高校生のアルバイトとマナー違反行動

前項で、「週に1日くらい」アルバイトをしている高校生はわずかであることがわかった。そこで、この回答を「週に2～3日くらい」という回答と統合し、「週に1～3日くらい」という新たなカテゴリーを作成し、全体を「していない」「週に1～3日」「週に4日以上」の3群に分けて分析していく。

図6-6-1は、アルバイトとマナー違反との関連を男女別に表したものである。マナー違反行動の「多い群」に注目すると、男子でアルバイトを「していない」37.3%、「週に1～3日」54.3%、「週に4日以上」71.9%となる。女子においては「していない」25.2%、「週に1～3日」46.4%、「週に4日以上」53.7%となる。アルバイトをしているほど、マナー違反行動が多くなることがわかる。高校生のアルバイト経験は実際に社会と触れる経験であり、むしろ社会化機能を担う部分も少なからずあるとは思われるが、本調査の結果では、高校生のアルバイトはあまり好ましい結果とは言えないであろう。

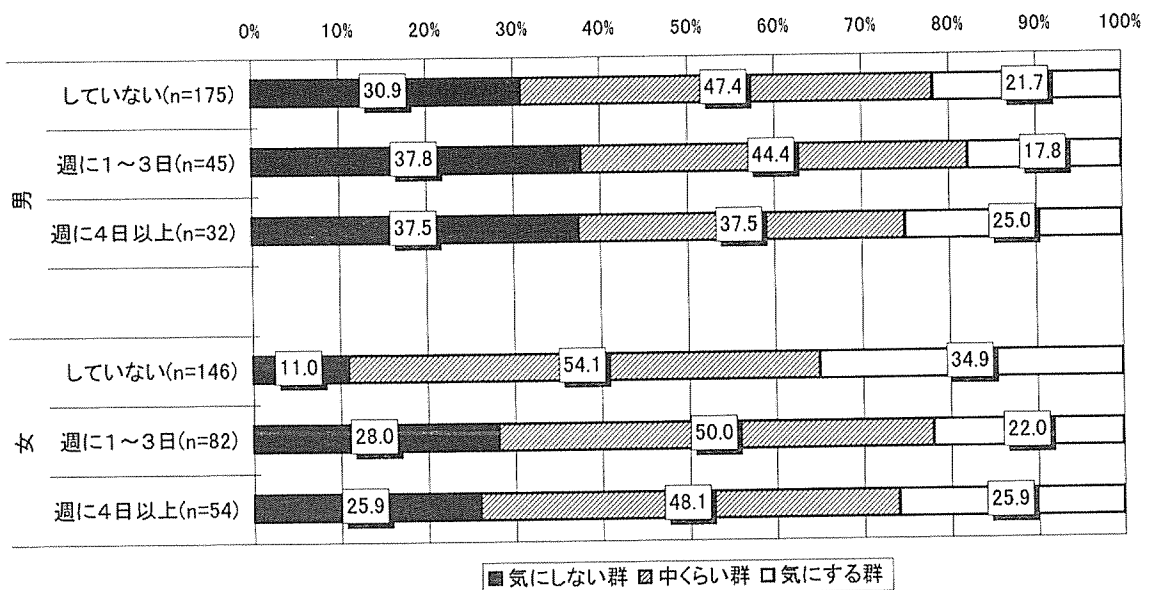
図6-6-1 高校生のアルバイトとマナー違反行動



(3) 高校生のアルバイトと他者の視線

図 6-6-2 は、高校生のアルバイト状況と他者の視線の関連を表したものである。他者の視線を「気にしない群」に注目すると、男子ではアルバイトを「していない」30.9%、「週に1~3日」37.8%、「週に4日以上」37.5%と、関連はみられない。統計的にも有意な差ではない。女子においては「していない」11.0%、「週に1~3日」28.0%、「週に4日以上」25.9%となる。アルバイトの日数とは関連がみられないが、アルバイトをしているか/していないかによる違いがある。アルバイトしている高校生女子は、そうでない女子と比べて他者の視線を気にしない傾向がみられる。

図6-6-2 高校生のアルバイトと他者の視線

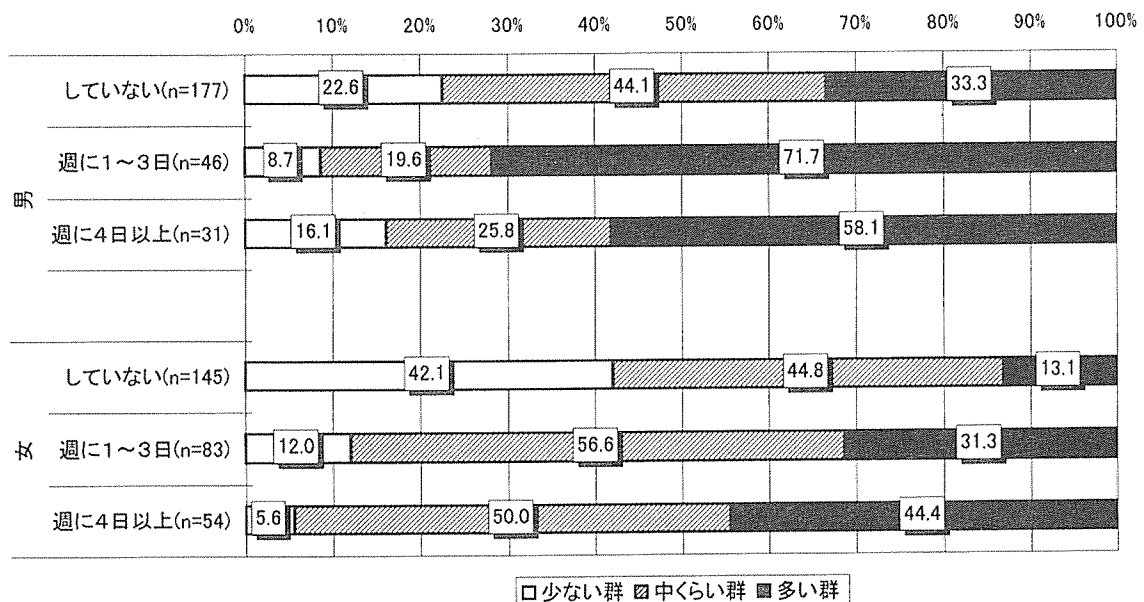


(4) 高校生のアルバイトと逸脱行動

図 6-6-3 は、高校生のアルバイト状況と逸脱行動との関連を男女別に示したものである。逸脱行動の「多い群」に注目して分析すると、男子においてはアルバイトを「していない」33.3%、「週に1～3日」71.7%、「週に4日以上」59.1%となり、アルバイトをしているか、いないかによる違いが大きい。

女子においては、「していない」13.1%、「週に1～3日」31.3%、「週に4日以上」44.4%となっており、アルバイトに関与しているほど逸脱行動の多い者の割合が増えていく。

図6-6-3 高校生のアルバイトと逸脱行動



こうした結果をふまえると、アルバイトは社会化機能を担いつつも、むしろ逸脱行動を促進する方向で機能しているのではないかとさえ思えてくる。より詳細に分析するために、前節で遅刻回数と逸脱行動の関連を分析したのと同じ手続きで、アルバイトと個々の具体的な逸脱行動との関連を分析していく。

表 6-6-2 は、本項で用いているアルバイト関与の3区分と、個々の逸脱行動との関連についてクロス集計し、そのカイ二乗検定の有意水準を表したものである。男子においては、「深夜に盛り場を遊び回る」「家族にうそをついて外泊する」という項目で強い関連がみられ、「店の品物を万引きする」「友達が万引きしたものをもらったり買ったりする」「学校のものを、わざとこわしたり傷つける」がそれにつづく。

女子においては、「タバコを吸う」「特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない」「家族にうそをついて外泊する」という項目との間に強い関連がみられ、「深夜に盛り場を遊び回る」「放置されている自転車を、勝手に乗る」「店の品物を万引きする」「友達が万引きしたものをもらったり買ったりする」がそれにつづく。

表 6-6-2 高校生のアルバイトと逸脱行動の有意水準

	男	女
L1. タバコを吸う	*	***
L2. 酒を飲む		*
L3. 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない	*	***
L4. 深夜に盛り場を遊び回る	***	**
L5. 家族にうそをついて外泊する	***	***

L6. 自分の家の金をだまって使う		
L7. 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする		+
L8. メールを使って、他人の悪口を言いふらす		+
L9. いやがらせの電話を繰り返しかける		
L10. 放置されている自転車を、勝手に乗る	+	**

L11. 店の品物を万引きする	**	**
L12. 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	**	**
L13. 学校のものを、わざと壊したり傷つける	**	
L14. 他人を殴る		

***:p.<0.001 ** :p.<0.01 * :p.<0.05 + :p.<0.1 (カイ二乗検定の有意水準)

7. 携帯電話

(1) 携帯電話所持状況

この節では、携帯電話の所持状況について分析する。表 6-7-1 は、学校別・男女別に携帯電話の所持状況を示したものである。なお、調査票ではM7①において「携帯電話（PHSを含む）を持っている」に「あてはまる」か「あてはまらないか」をたずねている。したがって、これ以降「携帯電話」という表記には PHS も含まれていることをご承知いただきたい。

携帯電話を持っている割合を列举すると、中学生男子 34.3%、中学生女子 53.4%、高校生男子 88.5%、高校生女子 92.3%となる。高校生ではすでに携帯電話の所持はごく当たり前の事態となっており、持っていない者との比較で分析することすら難しくなっている。持っていない者の方が少数なのである。

そこで、本節では中学生に限定して分析していくこととする。

表 6-7-1 携帯電話所持状況

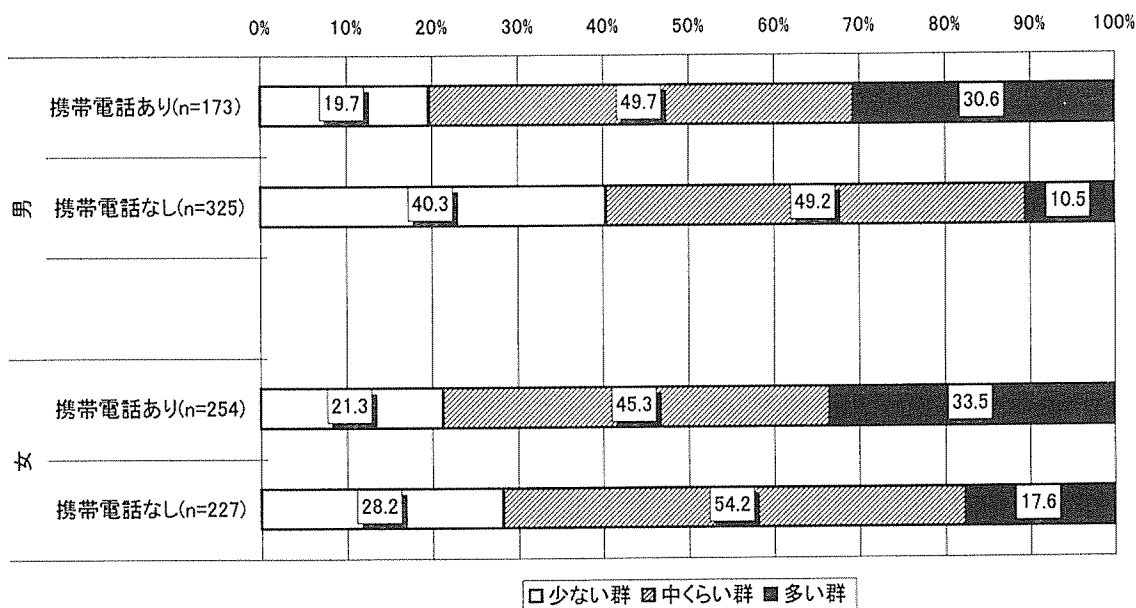
	携帯電話あり	携帯電話なし	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	34.9	64.5	0.6	100.0	510
中学生女子	53.4	46.6	0.0	100.0	491
高校生男子	88.5	11.2	0.4	100.0	260
高校生女子	92.3	7.0	0.7	100.0	287
全体	60.4	39.2	0.4	100.0	1548

(2) 中学生の携帯電話とマナー違反行動

図 6-7-1 は、中学生の携帯電話の有無とマナー違反行動との関連を表したものである。マナー違反

行動の「多い群」に注目すると、男子における携帯電話所持者で 30.6%、非所持者で 10.5%となる。女子においては所持者 33.5%、非所持者 17.6%となる。男女ともに、携帯電話をもっている中学生はそうでない者よりもマナー違反行動が多い傾向にあると言える。

図6-7-1 中学生の携帯電話所持とマナー違反行動



(2) 中学生の携帯電話と他者の視線

図6-7-2 中学生の携帯電話と他者の視線

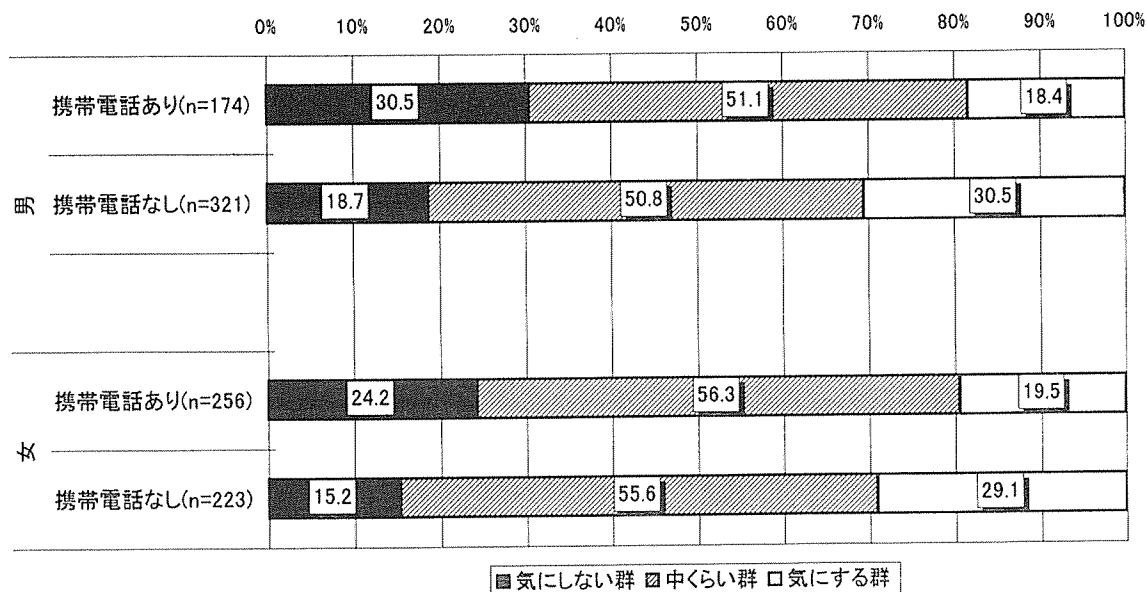
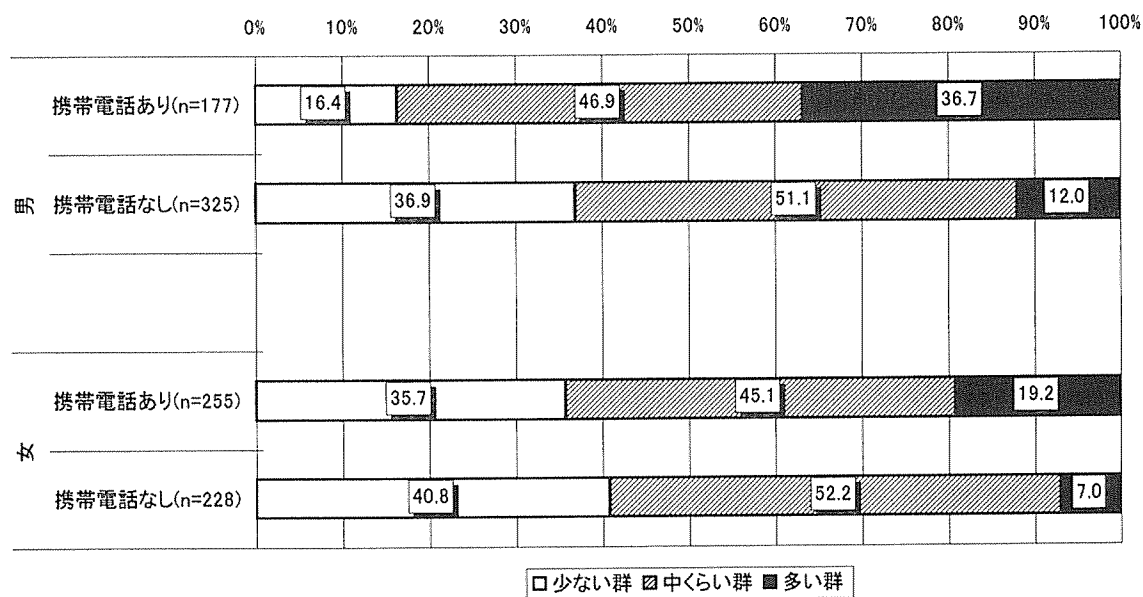


図 6-7-2 は、中学生の携帯電話所持状況と他者の視線との関連を表したものである。他者の視線を「気にしない群」に注目すると、男子においては所持群 30.5%、非所持群 18.7%となっている。女子においては所持群 24.2%、非所持群 15.2%となる。男女ともに、携帯電話所持群の方が他者の視線を気にしない傾向にあると言える。

(4) 中学生の携帯電話と逸脱行動

図 6-7-3 は、中学生の携帯電話所持状況と逸脱行動との関連について表したものである。逸脱行動の「多い群」に注目すると、男子においては所持群 36.7%、非所持群 12.0%であり、女子においては所持群 19.2%、非所持群 7.0%となる。したがって、男女ともに中学生においては携帯電話を所持している者がそうでない者よりも逸脱行動が多い傾向にあると言える。

図6-7-3 中学生の携帯電話と逸脱行動



では、いかなる逸脱行動が携帯電話の所持と関連があるのであろうか。このことを明らかにするために、第5節および第6節と同じ要領で、中学生の携帯電話の所持と個別具体的な逸脱行動との関連をクロス集計し、そのカイ二乗検定の有意水準を表す。表 6-7-2 をごらんいただきたい。

中学生男子において、携帯電話の所持と強い関連のある逸脱行動は、「タバコを吸う」「酒を飲む」「深夜に盛り場を遊び回る」「家族にうそをついて外泊する」「メールを使って、他人の悪口を言いふらす」「いやがらせの電話を繰り返しかける」「放置されている自転車を勝手に乗る」「店の品物を万引きする」「友達が万引きした物をもらったり買ったりする」の9項目であった。これら以外にも、有意水準を10%に設定すれば、有意差のみとめられない項目はなかった。

中学生女子においては、「深夜に盛り場を遊び回る」「メールを使って、他人の悪口を言いふらす」「友達が万引きした物をもらったり買ったりする」の3項目において強い関連がみられる。これらについて、「店の品物を万引きする」ことが1%水準で有意差が認められる。

「メールを使って、他人の悪口を言いふらす」には、メールが使える環境が必要である以上、携帯電話かパソコンのどちらかが必要であるから、携帯電話の有無が重要な要因であることは至極当然であるが、それ以外にも多くの項目で携帯電話と逸脱行動との間に関連がみられることは注目すべきであろう。ひとつには、世の中の流行にとびつきやすいといった性格特性、いまひとつは携帯電話の利用による友人関係や生活構造の変化といったことが逸脱行動の促進要因として考えられる。

表 6-7-2 中学生の携帯電話と逸脱行動の有意水準

	男	女
L1. タバコを吸う	***	*
L2. 酒を飲む	***	+
L3. 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない	**	+
L4. 深夜に盛り場を遊び回る	***	***
L5. 家族にうそをついて外泊する	***	*

L6. 自分の家の金をだまって使う	+	
L7. 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする	+	
L8. メールを使って、他人の悪口を言いふらす	***	***
L9. いやがらせの電話を繰り返しかける	***	
L10. 放置されている自転車を、勝手に乗る	***	*

L11. 店の品物を万引きする	***	**
L12. 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	***	***
L13. 学校のを、わざと壊したり傷つける	*	
L14. 他人を殴る	**	

***:p.<0.001 ** :p.<0.01 * :p.<0.05 +:p.<0.1 (カイ二乗検定の有意水準)

8. 読書

(1) 読書状況

調査票M7②で、「読書好きである」に「あてはまる」か「あてはまらないか」たずねている。本節ではこの問いについて分析する。表 6-7-1 は、学校別・男女別に回答を表したものである。読書好きであると回答した者は、中学生男子 41.0%、中学生女子 50.3%、高校生男子 45.0%、高校生女子 46.0%であった。中学生女子が中学生男子と比べて少し読書好きであるが、高校生では男女の違いはみられない。

表 6-8-1 「読書好きである」かの回答 (%)

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数 (人)
中学生男子	41.0	58.6	0.4	100.0	510
中学生女子	50.3	48.7	1.0	100.0	491
高校生男子	45.0	54.6	0.4	100.0	260
高校生女子	46.0	53.3	0.7	100.0	287
全体	45.5	53.8	0.6	100.0	1548

(2) 読書とマナー違反行動

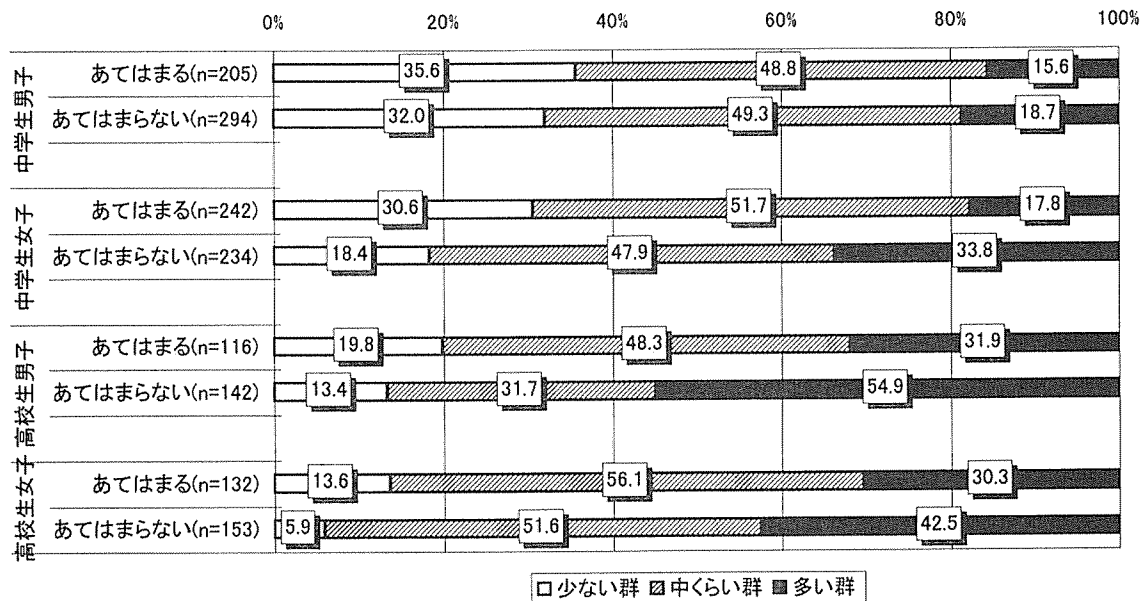
図 6-8-1 は、読書好きであるかどうかとマナー違反行動との関連について、学校別・男女別に表したものである。マナー違反行動の「多い群」に注目すると、中学生男子においては読書好きであれば 15.6%、そうでなければ 18.7%であり、関連はみられない。中学生女子においては、読書好き 17.8%、そうでなければ 33.8%となる。高校生男子では読書好き 31.9%、そうでなければ 54.9%、高校生女子においては読書好き 30.3%、そうでなければ 42.5%となっている。

7. まとめ

問K規範意識と問L逸脱行動を、比較しながら分析した。その結果、問Kの規範意識に関して、高校生男子が意識が低いことがわかった。また、問Lの逸脱行動に関して、高校生男子が逸脱行動を行なう割合が高く、中学生女子が逸脱行動を行なう割合が低いことがわかった。

すなわち、中学生男子以外では、読書好きでない生徒はマナー違反行動が多い傾向にあると言える。カイ二乗検定の結果では、中学生男子では統計的有意差はみられないが、中学生女子では0.1%水準で、高校生男子は1%水準で、高校生女子は5%水準で有意な差がみられた。

図6-8-1 読書好きかどうかとマナー違反行動



(3) 読書と他者の視線

図6-8-2 読書好きかどうかと他者の視線

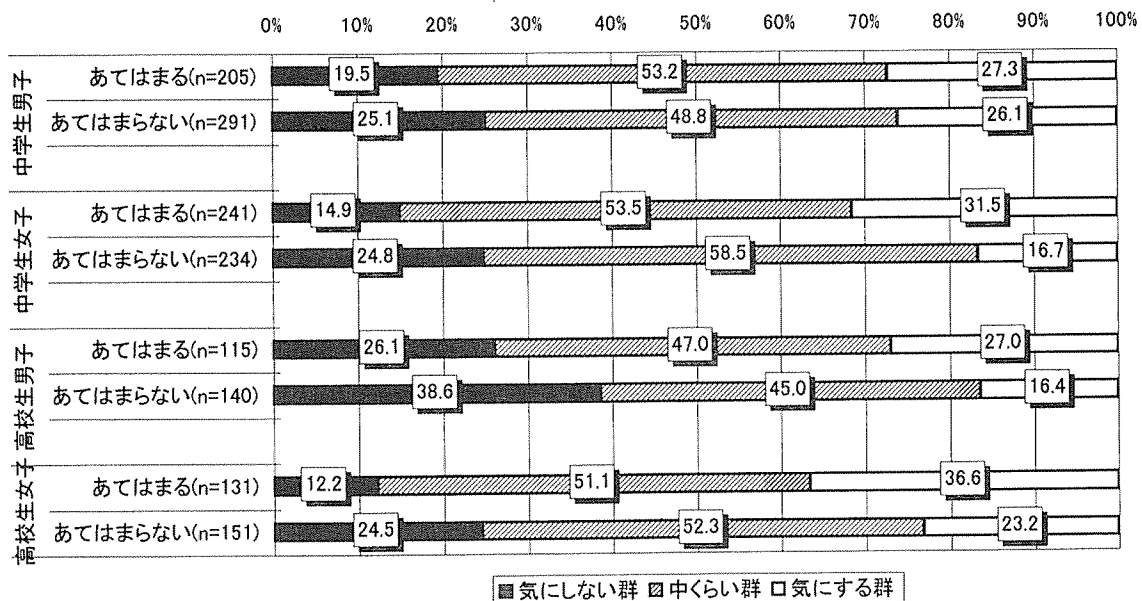


図6-8-2は、読書好きであるかどうかと他者の視線の関連を表したものである。中学生男子においては、読書好きであるか否かで違いはみられない。統計的有意差もない。

中学生女子においては、読書好きであると他者の視線を「気にしない群」14.9%に対し、そうでなければ24.8%と、9.9ポイントの差がみられる。0.1%水準で有意な差である。

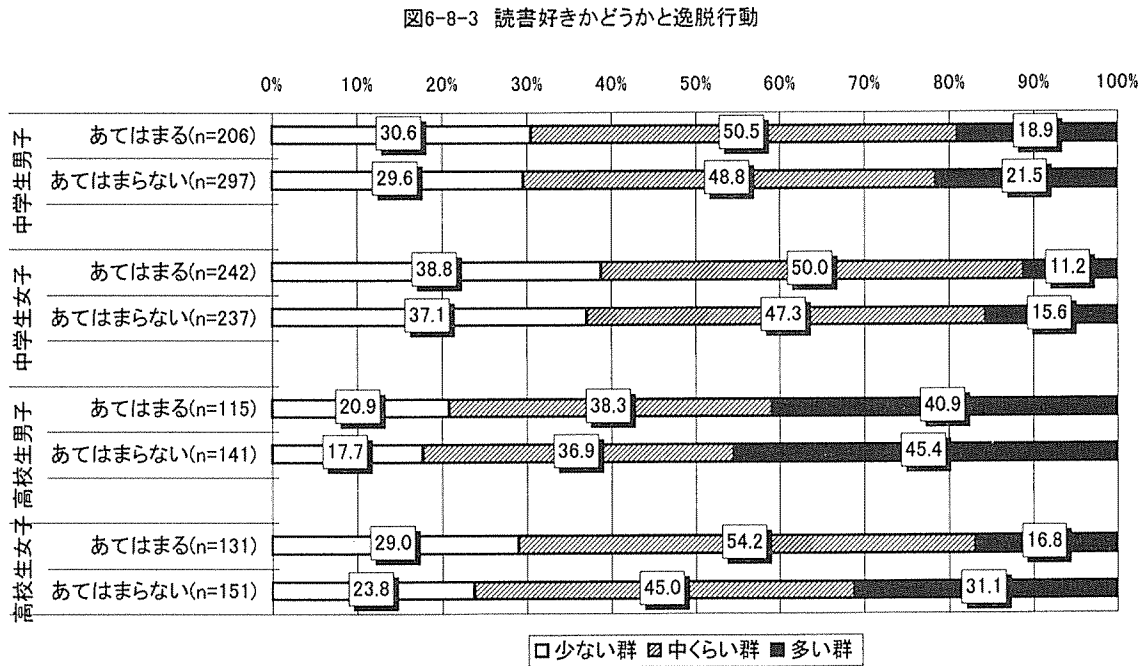
高校生男子においては、読書好きであると「気にしない群」26.1%、そうでなければ38.6%と、12.5ポイント差があり、5%水準で有意である。

高校生女子においては、読書好きであれば「気にしない群」12.2%、そうでなければ24.5%と12.3ポイントの差であり、1%水準で有意である。

したがって、中学生男子以外では、読書好きでない者は、読書好きだと回答した者よりも他者の視線を気にしない傾向にあることになる。

(4) 読書と逸脱行動

図6-8-3は、読書好きであるかどうかと逸脱行動との関連を表したものである。



中学生男子および女子、高校生男子においては統計的に意味のある差はみられなかった。

高校生女子において、逸脱行動の多い群に注目すると、読書好きであると16.8%、そうでなければ31.1%と14.3ポイントの差がみられ、5%水準で有意である。

9. 新聞

(1) 新聞への接触状況

表6-9-1 「新聞を毎日読む」の回答

	あてはまる	あてはまらない	無回答	合計	人数(人)
中学生男子	31.2	68.4	0.4	100.0	510
中学生女子	21.6	78.0	0.4	100.0	491
高校生男子	33.8	65.0	1.2	100.0	260
高校生女子	23.3	75.6	1.0	100.0	287
全体	27.1	72.2	0.6	100.0	1548

調査票M7③において、「テレビ・ラジオ欄以外の新聞記事を毎日読む」に「あてはまる」か「あてはまらない」かをたずねている。この節では、この設問について分析していく。

表6-9-1に、新聞を毎日読むかどうかの回答結果を示している。「あてはまる」という回答比率をみ

ていくと、中学生男子 31.2%、中学生女子 21.6%、高校生男子 33.8%、高校生女子 23.3%となる。概して、男子の方が女子よりも新聞を毎日読むと回答する傾向にある。

(2)新聞との接触とマナー違反行動

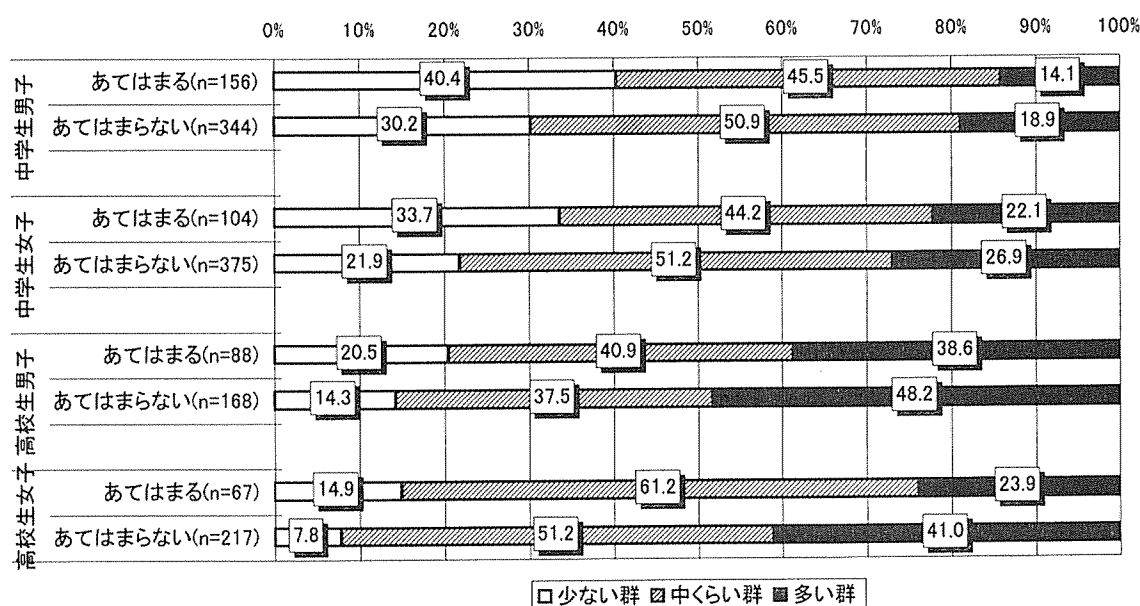
図 6-9-1 は、新聞を毎日よむかどうかとマナー違反行動との関連を表したものである。すべての属性において、概して新聞を読まない青少年ほどマナー違反行動が多いようにみえるが、男子においては中高生ともに統計的有意差はみられない（中学生男子で $p=.069$ 、高校生男子で $p=.260$ ）。

女子においては、新聞を読まないと回答した者ほどマナー違反行動が多い傾向にある。中学生女子では、マナー違反行動の「多い群」にそれほどの差はみられないが、新聞を読まない「少ない群」が 21.9%と、「読む」の 33.7%よりも 11.8 ポイントの差がみられる。5%水準で有意な差である。

高校生女子においては、マナー違反行動の「多い群」が、「読む」と 23.9%、「読まない」と 41.0%と 17.1 ポイントの差である。5%水準で有意である。

したがって、新聞を読むかどうかと公共空間でのマナー違反行動は、男子よりも女子において関連がみられるということになる。

図6-9-1 新聞を毎日読むかどうかとマナー違反行動



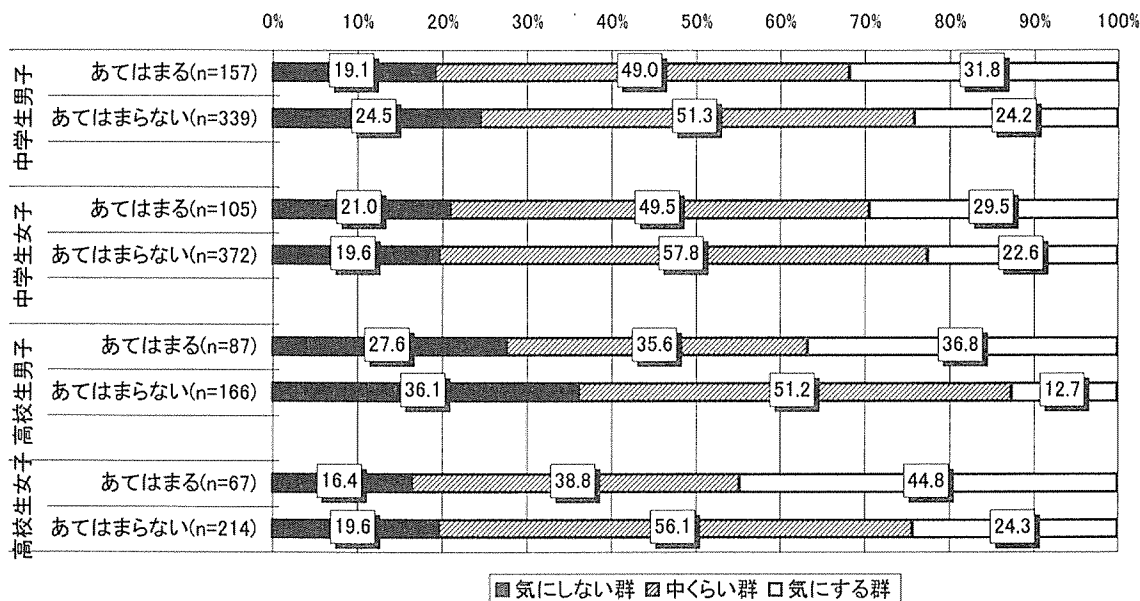
(3)新聞との接触と他者の視線

さらに、新聞との接触と、他者の視線を気にするかどうかとの関連を分析していく。図 6-9-2 をごらんいただきたい。中学生では、男女とも両者の関連はみられないが、高校生では違いがみられる。本調査で問題としている「気にしない群」では差はみられないのであるが、「気にする群」で大きな違いがみられる。

「気にする群」に注目すると、高校生男子においては、「読む」36.8%、「読まない」12.7%であり、24.1 ポイントの差がある。0.1%水準で有意である。高校生女子においては、同じく「気にする群」が、「読む」44.8%、「読まない」24.3%であり、20.5 ポイントの差であり、1%水準の有意差である。

してみると、新聞を読むかどうかと公共空間で他者の視線を気にするか否かは、高校生において強い関連にあるということになる。

図6-9-2 新聞を毎日読むかどうかと他者の視線



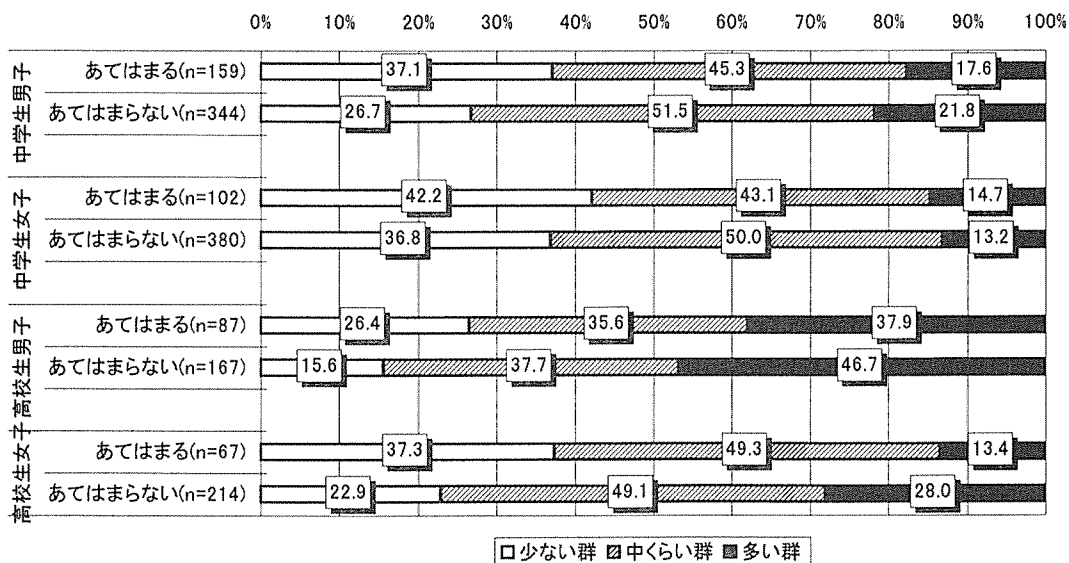
(4)新聞との接触と逸脱行動

図6-9-3は、新聞を毎日読むかどうかと逸脱行動との関連を表したものである。

中学生男子においては、新聞を読まない者の方が逸脱行動が多そうであるが、統計的に意味のある差はなかった(カイ二乗検定の $p=.059$)。中学生女子は、まったく関連がみられない。高校生男子についても、新聞を読まない者の方が逸脱行動が多そうであるが、統計的に意味のある差はない(カイ二乗検定の $p=.101$)。

高校生女子においては、新聞を読まない者の方が逸脱行動が多い傾向にある。逸脱行動の「多い群」に注目すると、「読む」13.4%に対し、「読まない」28.0%と14.6ポイントの差がつき、5%水準で有意な差である。

図6-9-3 新聞を毎日読むかどうかと逸脱行動



第7章 作業仮説の検証

私たちの研究会の代表者である矢島正見は、今回の調査では、冒頭で示したような理論仮説に基づいて、次のような事実および作業仮説の検証を目指した。

1) 事実の検証

a-1. 経験次元での青少年における第三者のヨソ者状況（ヨソ様の喪失状況）

a-2. 意識次元での青少年における第三者のヨソ者状況（ヨソ様の喪失状況）

b-1. 経験次元での青少年の第三者からの恥の喪失状況

b-2. 意識次元での青少年の第三者からの恥の喪失状況

c-1. 経験次元での青少年の諸逸脱状況

c-2. 意識次元での青少年の諸逸脱状況

2) 仮説の検証

d. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、第三者から受ける恥の度合いが低い。

e. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、逸脱の度合いが高い。

f. 第三者から受ける恥の度合いが低い者は、逸脱の度合いが高い。

g. よって、ヨソ者状況と恥状況は相関する。

今回は、初年度の調査ということで、経験および意識の次元でのヨソ者視度（a-1およびa-2）および逸脱度（c-1およびc-2）を中心として、問を設定した。恥度（b-1およびb-2）については、今回の調査では、意識の次元のそれについて問J1および問J2でたずねているに過ぎない。そのために、この調査は、上記の作業仮説を検証する第1歩に過ぎないが、以下の分析において、それが部分的に検証されたことを示しておきたい。

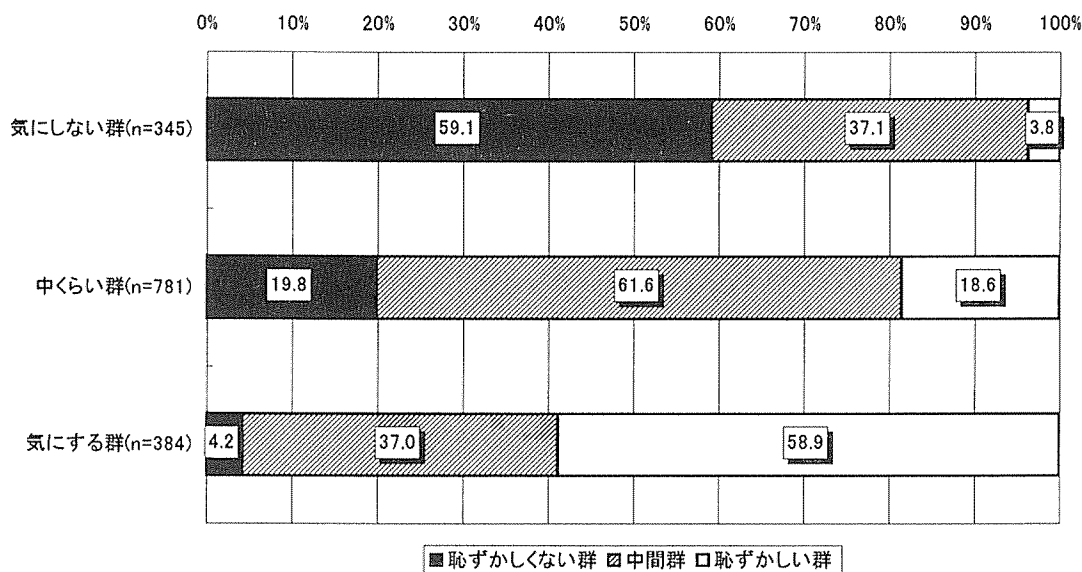
ここでは、知らない人の見ているところでのマナー違反行動（問H）、他者の視線（問I）、逸脱行動を見られたときの恥の意識（問J-1と問J-2）、規範意識（問K）、逸脱行動の経験（問L）について、相互の関係を分析することにする。なお、ここで使うデータは、H、I、K、Lのそれぞれのスコア尺度を利用して、群別化したものである。つまり、スコア尺度で4分位点を取り、両極端の4分の1と、中間の半分とで3つの群を作成して、その群別でクロス表を作成したのである（例えば、H項目の場合では、スコアの低い4分の1が「少ない群」、スコアの高い4分の1が「多い群」、そして、中間の半分が「中くらい群」として群別してある）。

1. ヨソ者視する度合いと恥の度合いの関係の検証

まずは、作業仮説の命題「d. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、第三者から受ける恥の度合いが低い」について検討しておきたい。本調査では、他者の視線（問I）を、意識の次元での青少年における第三者のヨソ者状況をはかる指標とみなしている。つまり、他者の視線を気にしない青少年は、第三者をヨソ者視していると仮定しているのである。そこで、この作業仮説の命題を検証するために、他者の視線（問I）と逸脱行動を見られたときの恥の意識（問J1と問J2）の関係をみてみたい。その関係を示しているのが、図7-1-1である。他者の視線を「気にしない群」では、恥ずかしくない群および恥ずかしい群の割合が、59.1%と3.8%であったのに対して、「気にする群」のそれぞれの割合は、4.2%と58.9%であった。つまり、他者の視線を「気にしない群」では、たばこを吸ったり、電車内で友達数人と大きな声で話したりしているのを、第三者に見られたときに、恥ずかし

くないと感じる者が多く、「気にする群」では、恥ずかしいと感じるものが多いという結果がみられたのである。問 J1 と問 J2 に対する回答は、意識次元での青少年の第三者からの恥の喪失状況をはかる指標とみなせば、上記の作業仮説の命題「d. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、第三者から受ける恥の度合いが低い」は、検証されたということになる。

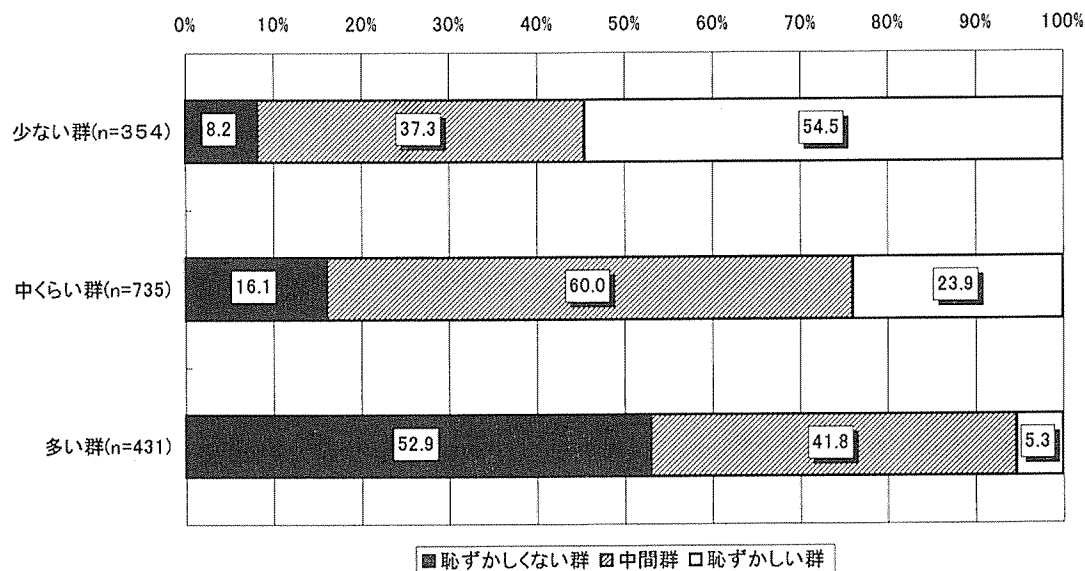
図7-1-1 他者の視線と恥の意識



本調査では、ナマール違反行動（問H）の回答結果を、経験の次元での青少年における第三者のヨソ者状況をはかる指標とみなしている。つまり、不特定多数の人がいるところでマナー違反をする青少年は、第三者をヨソ者視していると仮定しているのである。その仮定の上で、ナマール違反行動（問H）と恥の意識（問J 1 および問J 2）の関係を分析しておきたい。それを示したのが、図 7-1-2 である。

マナー違反行動が「少ない群」では、恥ずかしくない群および恥ずかしい群の割合が、8.2%と 54.5%であったのに対して、「多い群」のそれぞれの割合は、52.9%と 5.3%であった。不特定多数の人がいるところでマナー違反をする青少年は、恥の意識を喪失しているといえよう。この結果からも、作業仮説の命題「d. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、第三者から受ける恥の度合いが低い」は、検証されたといえる。

図7-1-2 マナー違反行動と恥の意識



2. ヨソ者視する度合いと逸脱の度合いの関係の検証

次に、作業仮説の命題「e. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、逸脱の度合いが高い」について検討してみたい。この調査票では、マナー違反行動（問H）と逸脱行動の経験（問L）で、逸脱の度合いをはかっている（ただし、前述したように、「マナー違反行動」は、第一次的には、経験の次元での青少年における第三者のヨソ者状況をはかる指標とみなしている）。

他者の視線（問I）とマナー違反行動（問H）の関係を示したのが、図7-2-1である。他者の視線を「気にしない群」では、マナー違反の少ない群および多い群の割合が、7.4%と58.9%であったのに対して、「気にする群」のそれぞれの割合は、49.9%と6.5%であった。つまり、他者の視線を「気にしない群」では、不特定多数の人がいるところでマナー違反をする者が多く、「気にする群」ではマナー違反行動する者が少ないという結果がみられたのである。つまり、作業仮説の命題「e. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、逸脱の度合いが高い」は、検証されたといえよう。なお、マナー違反行動（問H）を経験の次元での青少年における第三者のヨソ者状況をはかる指標と解釈するならば、このクロス表の結果から、青少年における第三者のヨソ者状況については、意識次元と経験次元とで相関があったといえる。

図7-2-1 他者の視線とマナー違反行動

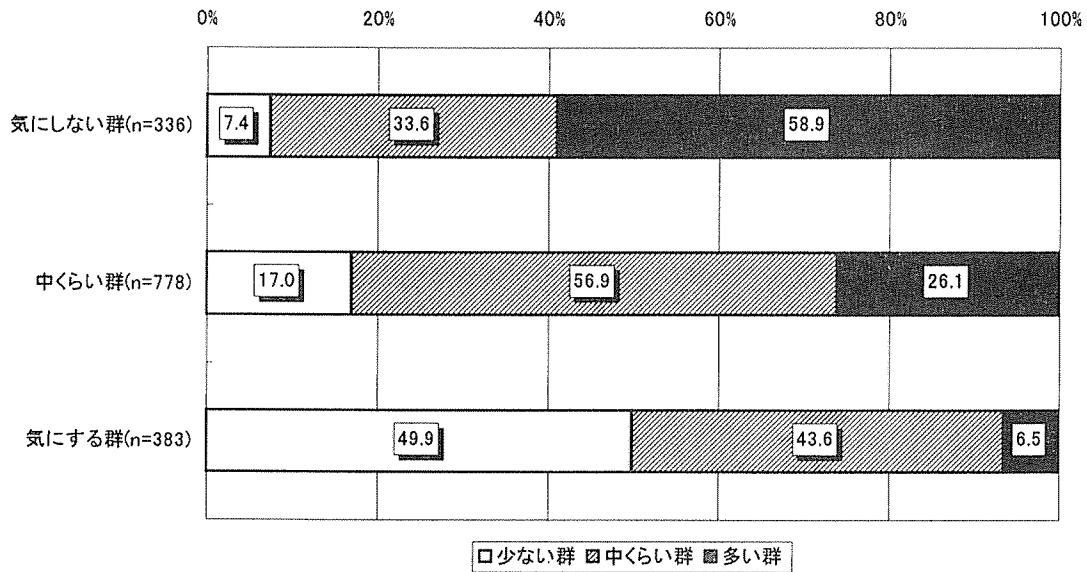
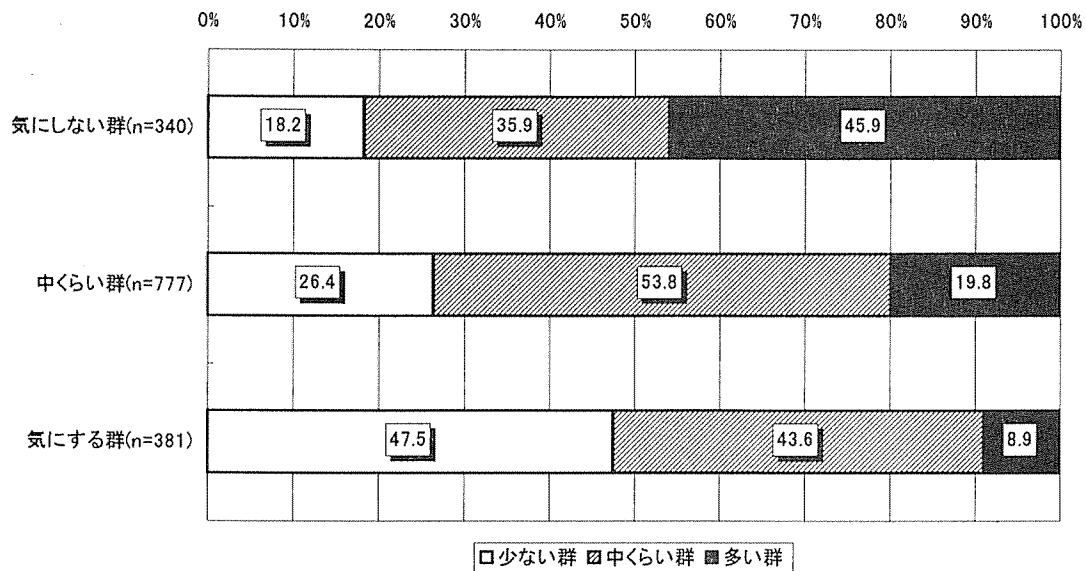


図7-2-2は、他者の視線（問I）と逸脱行動の経験（問L）の関係をみている。他者の視線を「気にならない群」では、逸脱行動の経験が少ない群と多い群の割合が、18.2%と45.9%であったのに対して、「気にする群」のそれぞれの割合は、47.5%と8.9%であった。つまり、他者の視線を「気にならない群」では、逸脱行動をする者が多く、「気にする群」では、逸脱行動をする者が少ないという結果がみられた。この二つの表の分析から、逸脱行動の経験という指標からも、作業仮説の命題「e. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、逸脱の度合いが高い」は検証されたといえよう。

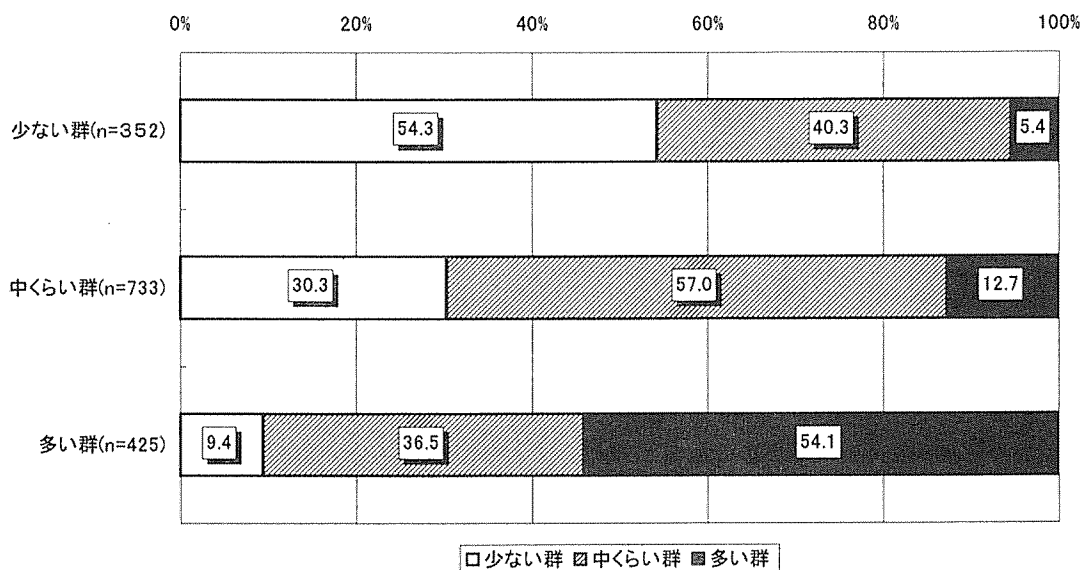
図7-2-2 他者の視線と逸脱行動



次に、マナー違反行動（問H）を経験の次元での青少年における第三者のヨソ者状況をはかる指標と解釈して、それと逸脱行動の経験（問L）の関係をみてみたい。その関係を示したのが、図7-2-3

である。マナー違反行動が「少ない群」では、逸脱行動の少ない群および多い群の割合が、54.3%と5.4%であったのに対して、「多い群」のそれぞれの割合は、9.4%と54.1%であった。つまり、不特定多数の人がいるところでマナー違反を多くする者は、逸脱行動も多くしているという関係がみられたのである。つまり、経験の次元での青少年における第三者のヨソ者状況をはかる指標についても、作業仮説の命題「e. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、逸脱の度合いが高い」は検証されたことになる。

図7-2-3 マナー違反行動と逸脱行動



3. 恥の度合いと逸脱の度合いの関係の検証

ここでは、作業仮説の命題「f. 第三者から受ける恥の度合いが低い者は、逸脱の度合いが高い」について検討してみたい。恥の度合いについての指標は、恥の意識（問J1および問J2）を用いることにして、それを軸にして、マナー違反行動（問H）と逸脱行動の経験（問L）との関係を、それぞれ分析しておきたい。

恥の意識（問J1および問J2）とマナー違反行動（問H）の関係をみたのが、図7-3-1である。「恥ずかしくない群」では、マナー違反するのが少ない群とそれが多い群の割合が、7.7%と60.8%であったのに対して、「恥ずかしい群」のそれぞれの割合は、49.2%と5.9%であった。つまり、恥の意識を喪失している青少年の方が、マナー違反する者が多いという結果がみられ、作業仮説の命題「f. 第三者から受ける恥の度合いが低い者は、逸脱の度合いが高い」は、検証されたといえるのである。

図7-3-1 恥の意識とマナー違反行動

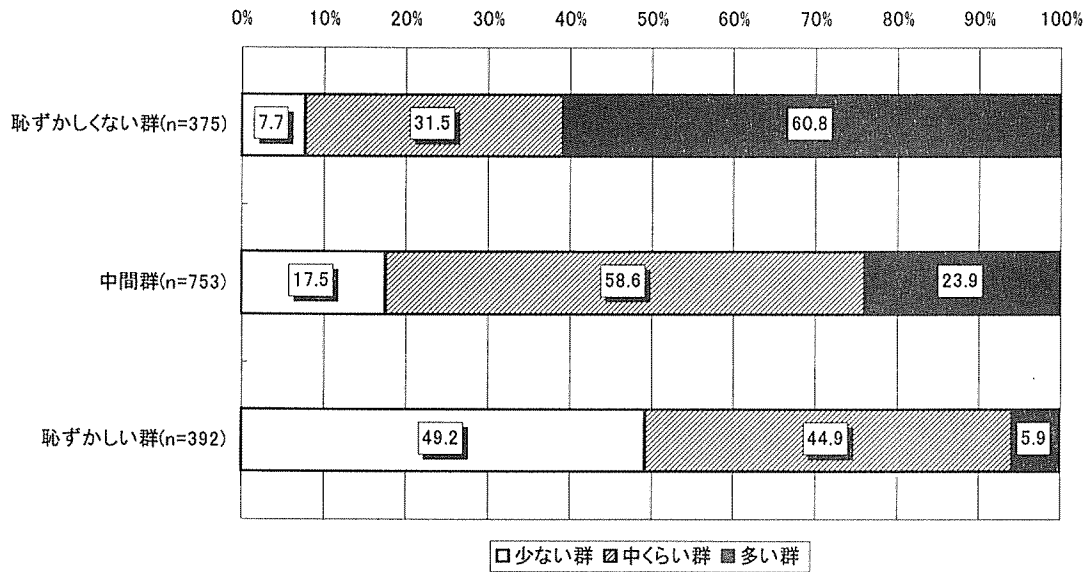
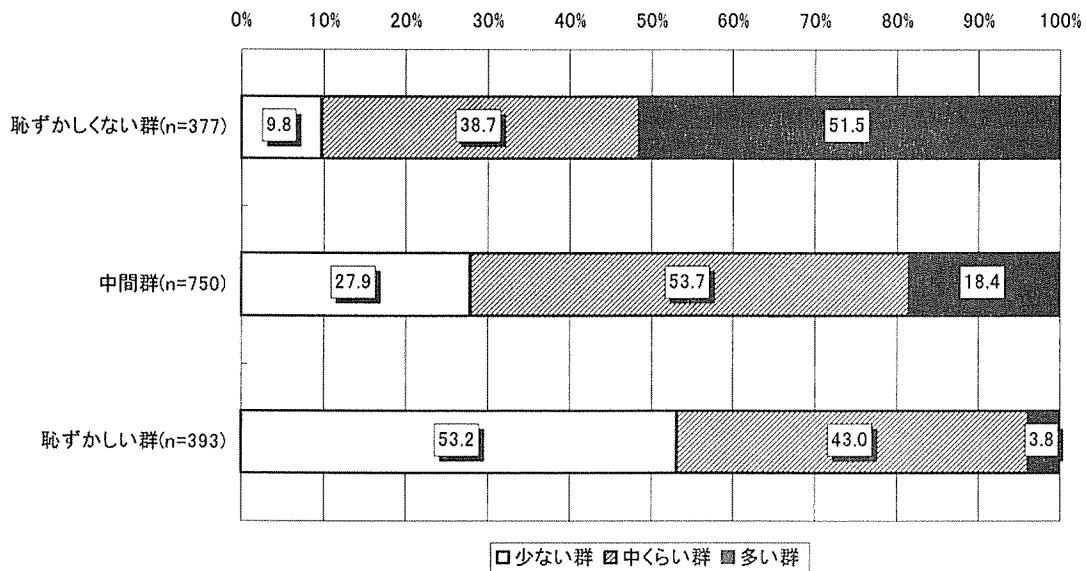


図7-3-2は、恥の意識（問J1および問J2）と逸脱行動の経験（問L）とのクロス表である。「恥ずかしくない群」では、逸脱行動の経験が少ない群とそれが多い群の割合が、9.8%と51.5%であったのに対して、「恥ずかしい群」のそれぞれの割合は、53.2%と3.8%であった。つまり、恥の意識を喪失している青少年の方が、マナー違反のみならず、逸脱行動の経験も多かったのである。この結果からも、作業仮説の命題「f. 第三者から受ける恥の度合いが低い者は、逸脱の度合いが高い」は、検証されたといえよう。

図7-3-2 恥の意識と逸脱行動



4. 規範意識との関係

本調査では、意識次元での青少年の諸逸脱状況を知るために、問Kで規範意識を聞いている。そこで、規範意識（問K）を軸にして、知らない人の見ているところでのマナー違反行動（問 H）、他者の視線（問 I）、逸脱行動を見られたときの恥の意識（問 J-1 と問 J-2）、逸脱行動の経験（問 L）との関係を、それぞれ分析することにする。

規範意識（問K）と他者の視線（問 I）の関係を示しているのが、図 7-4-1 である。低規範意識群では、他者の視線を「気にしない群」および「気にする群」の割合が、47.5%と 8.7%であったのに対して、高規範意識群のそれぞれの割合は、7.3%と 51.5%であった。この結果から、規範意識が低い青少年は、第三者をより一層ヨソ者視して、その視線を気にしていないといえるであろう。

図7-4-1 規範意識と他者の視線

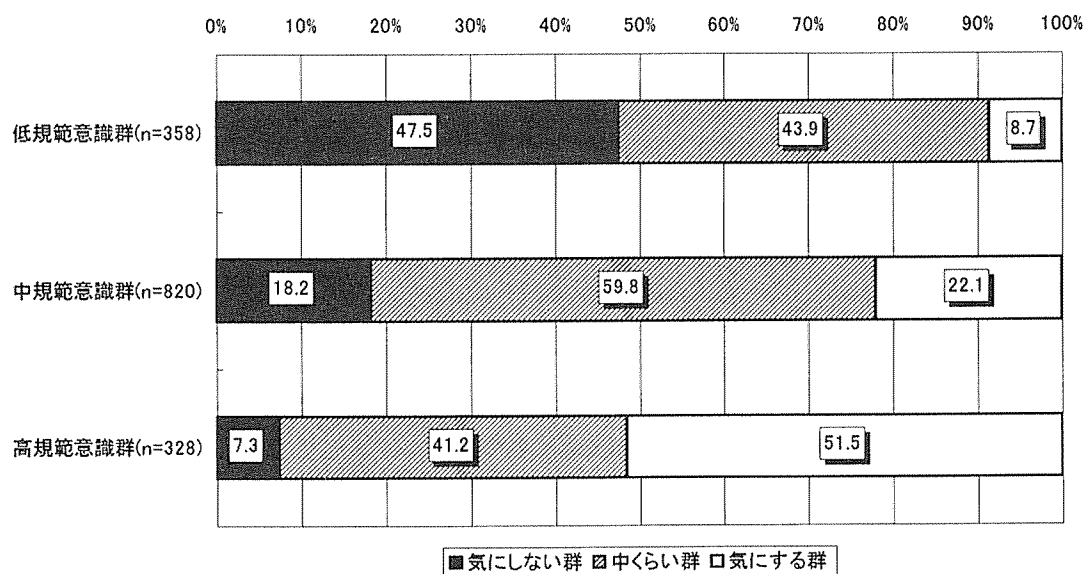
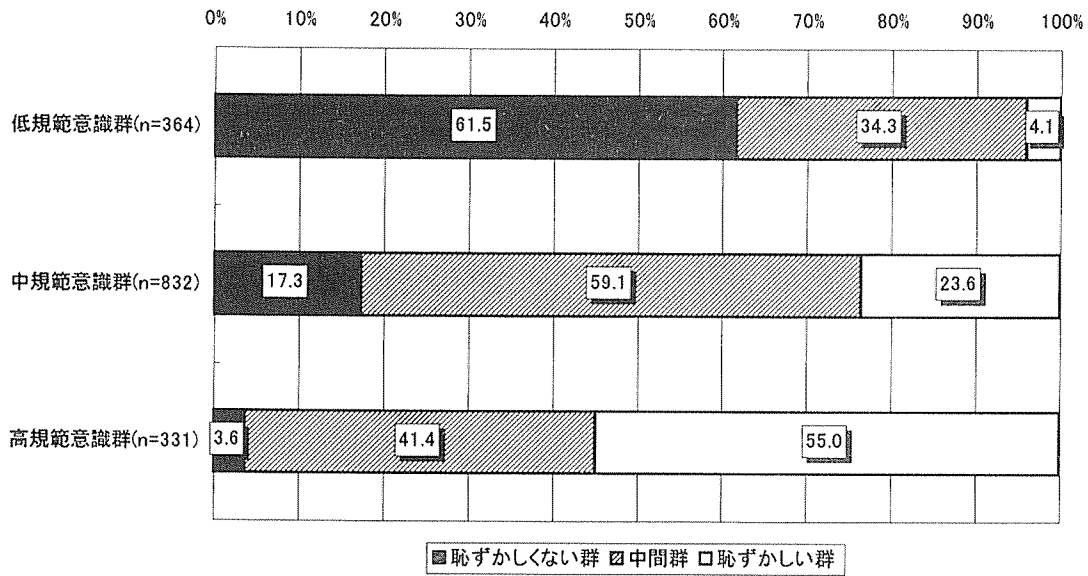


図 7-4-2 は、規範意識（問K）と、逸脱行動を見られたときの恥の意識（問 J-1 と問 J-2）との関係を示している。低規範意識群では、「恥ずかしくない群」および「恥ずかしい群」の割合が、61.5%と 4.1%であったのに対して、高規範意識群のそれぞれの割合は、3.6%と 55.0%であった。規範意識が低い青少年は、第三者に逸脱行動を見られても、恥の意識を持っていなかったのである。

図7-4-2 規範意識と恥の意識



次に、マナー違反行動（問H）と逸脱行動の経験（問L）で、逸脱の度合いをはかっているものとみなして、それらと、規範意識（問K）との関係を分析しておきたい。規範意識（問K）とマナー違反行動（問H）の関係を示しているのが、図7-4-3である。低規範意識群では、マナー違反行動が「少ない群」および「多い群」の割合が、8.7%と57.6%であったのに対して、高規範意識群のそれぞれの割合は、51.2%と7.6%であった。この調査結果から、規範意識が低い青少年は、不特定多数の人がいるところでマナー違反をすることが多いといえるであろう。

図7-4-3 規範意識とマナー違反行動

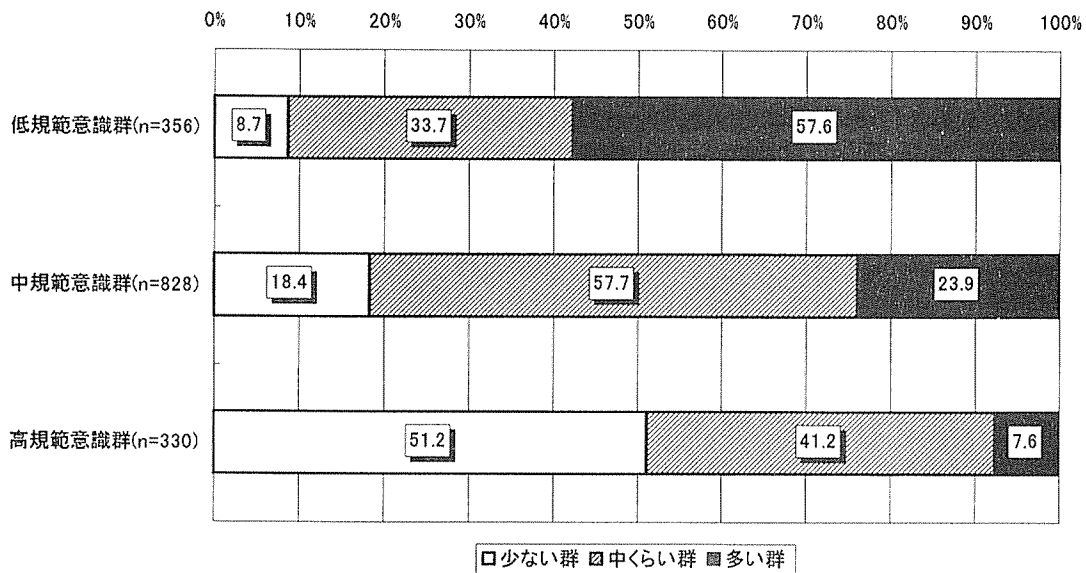
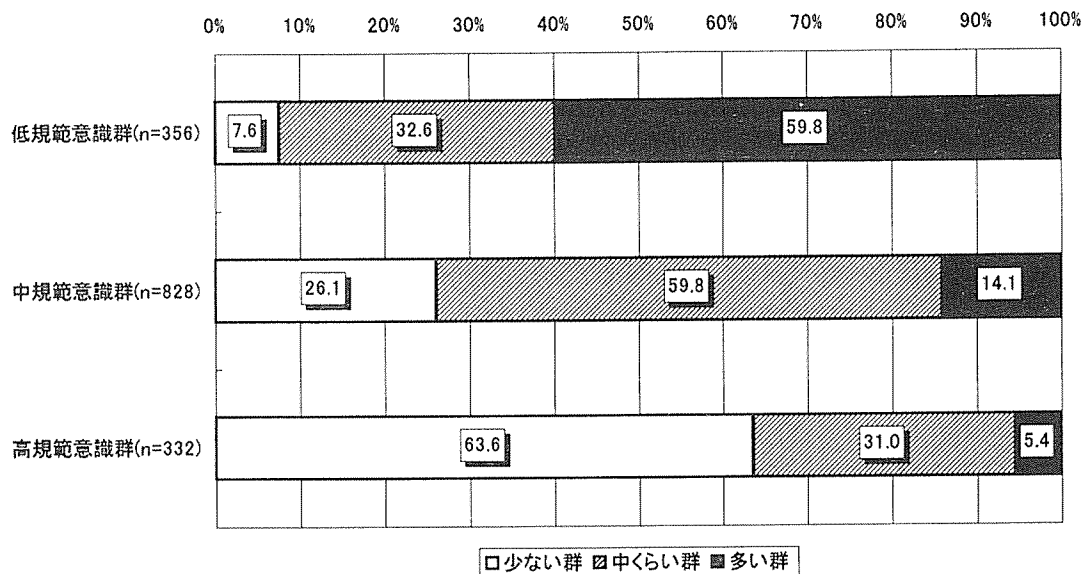


図7-4-4は、規範意識（問K）と逸脱行動の経験（問L）との関係を示している。低規範意識群では、逸脱行動が「少ない群」および「多い群」の割合が、7.6%と59.8%であったのに対して、高規

規範意識群のそれぞれの割合は、63.6%と 5.4%であった。つまり、規範意識が低い青少年の方に、逸脱行動の経験者が多かったのである。表 10と表 11の分析の結果から、規範意識の低い青少年は、マナー違反や逸脱行動を行いがちであるといえそうである。

図7-4-4 規範意識と逸脱行動



以上の分析のより、矢島が提示した 3 つの作業仮説の命題、つまり、「d. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、第三者から受ける恥の度合いが低い」「e. 第三者をヨソ者視する度合いの高い者は、逸脱の度合いが高い」「f. 第三者から受ける恥の度合いが低い者は、逸脱の度合いが高い」は、今回の調査結果からは、いずれも検証されたといえる。また、規範意識の低い青少年は、マナー違反や逸脱行動を行う傾向にあるという結果も見出されたのである。

--	--	--	--	--	--

青少年の人間関係調査

青少年人間関係調査研究会
(代表：中央大学教授 矢島正見)

調査協力をお願い

~~~~~  
この調査は、みなさんの日常生活のなかでの人間関係について、おたずねするものです。また、みなさんの性格や日常のさまざまな意識・体験をおたずねするものです。この回答は、すべてコンピューターによって統計的に処理されますので、どのように答えても、あなたのご迷惑になることは、決してございません。もちろん、名前を書く必要もありません。どうか自分の経験や思っていることを、ありのままに答えてください。  
~~~~~

答え方：当てはまる答えの番号に○をつけてください。また、カッコの中には答えを記入してください。

提出の仕方：記入が終わった調査票は、この調査票が入っていた封筒に入れて、密封の上、提出してください。そうしますと、私どものところに、密封されたまま届きます。

【A】 最初に、基本的なことをおたずねします。

A1. あなたの性別は 1 男 2 女

A2. あなたの学校と学年は
1 中学生・・・()年 2 高校生・・・()年

A3. 高校生にだけ聞きます。あなたの学科は
1 普通科 2 工業科 3 商業科
4 総合科 5 その他 ()

【B】 あなたの家庭についておたずねします。

	そう 思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない
B 1. 親（保護者）は自分のことをわかってくれている	1	2	3
B 2. 家庭のふんいきはあたたかい	1	2	3
B 3. 親（保護者）のことを考えると、悪いことはできない	1	2	3
B 4. 親（保護者）とは話をしにくい	1	2	3

【C】 あなたの生活や興味についておたずねします。

	ある	ない
C 1. 朝ご飯を食べずに学校に行くことが	1	2
C 2. おこづかいが足りず、親にせびることが	1	2
C 3. 衝動（しょうどう）買いをすることが	1	2
C 4. ファッションや流行を気にすることが	1	2
C 5. ピアスをしたことが	1	2
C 6. 髪の毛を脱色したり、染めたりしたことが	1	2

【D】 あなたの交友関係についておたずねします。

	あてはまる	あてはまらない
D 1. 悩みを相談できる親友がいる	1	2
D 2. よく友達の家遊びに行く	1	2
D 3. クラスでは人気のあるほうだ	1	2
D 4. メールだけの知り合いがいる	1	2
D 5. 特定の異性と交際したことがある	1	2

【E】 あなたの近所の人との関係についておたずねします。

	あては まる	あては まらない
E 1. 近所の顔見知りの人には必ずあいさつする	1	2
E 2. 家から5分ほど歩いていると、知っている大人によく会う	1	2
E 3. 今までに悪いことをして近所の人から怒られたことがある	1	2
E 4. 近所の人々は自分がどこの家の子どもか知らない	1	2
E 5. 小学生のころ、夏休みは必ずラジオ体操に参加した	1	2
E 6. 町内会（自治会）や商店街主催の祭りや行事によく行く	1	2

【F】 次のことはあなたにどれだけあてはまりますか。

	あてはまる	あてはまらない
F 1. 知らない人とでも、すぐに会話を始めることができる	1	2
F 2. 気まずいことがあった相手と、上手に仲直りできる	1	2
F 3. 自分の感情や気持ちを、言葉で伝えることができる	1	2
F 4. 何か失敗したときに、すぐにあやまることができる	1	2
F 5. 他人が怒っているときに、うまくなだめることができる	1	2

【G】 あなた自身についておたずねします。

	はい	どちらとも 言えない	いいえ
G 1. ちょっとしたことが気になる	1	2	3
G 2. いやなことはすぐに忘れるほうだ	1	2	3
G 3. 失敗するといつまでもよくよ考える	1	2	3
G 4. 自分つまらない人間だ	1	2	3
G 5. 自分の考えは何かまちがっている気がする	1	2	3
G 6. 自信を持っている	1	2	3
G 7. 人は皆、自分の利益や欲のために働いていると思う	1	2	3
G 8. 誰とでも気軽に話せる	1	2	3
G 9. 話し好きである	1	2	3
G 10. 動作はきびきびしている	1	2	3
G 11. 何かと先頭にたって働くほうだ	1	2	3
G 12. 何事にも積極的に取り組む	1	2	3
G 13. 注目の的になりたい	1	2	3
G 14. 何につけて、人より目立ちたい	1	2	3
G 15. 人が自分を認めてくれないと不満だ	1	2	3
G 16. 気の毒な人をみると、すぐに同情するほうだ	1	2	3
G 17. 他人の苦しみがよくわかる	1	2	3
G 18. 困っている人をみると、すぐに助けてあげたくなる	1	2	3
G 19. 世の中の人、人のことなどかまわないと思っている	1	2	3
G 20. 親友でも本当に信用することはできない	1	2	3
G 21. 自分さえよければいいと思う	1	2	3
G 22. 人にとやかく言われると、必ず言い返す	1	2	3
G 23. 馬鹿にするようなことをされると黙っていない	1	2	3
G 24. 意見が合わないと、相手を批判したくなる	1	2	3
G 25. 友達のためなら、学校や先生に迷惑をかけてもしかたない	1	2	3
G 26. 友達のためなら、周りの人達に迷惑をかけてもしかたない	1	2	3

【H】 あなたは次のことをしたことがありますか。

	よく する	したこと がある	したこと がない
H 1. 電車やバスの中で化粧する	1	2	3
H 2. 電車やバスの中で携帯電話で話をする	1	2	3
H 3. 電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をする	1	2	3
H 4. 電車やバスで脚（あし）を大きく開いて座る	1	2	3
H 5. 混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置く	1	2	3
H 6. 目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続ける	1	2	3
H 7. 人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりする	1	2	3
H 8. 電車内や路上、通路などで地べた座りをする	1	2	3
H 9. 知らない人の見ているところでたばこを吸う	1	2	3
H 10. 人前で鼻くそをほじくる	1	2	3

【I】 仮定として、もしあなた自身が次のことをしたとしたら、あなたは他人の視線を気にしますか。

	気 に す る	少 し 気 に す る	あ ま に し な い	気 に し な い
I 1. 電車やバスの中で化粧する	1	2	3	4
I 2. 電車やバスの中で携帯電話で話をする	1	2	3	4
I 3. 電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をする	1	2	3	4
I 4. 電車やバスで脚（あし）を大きく開いて座る	1	2	3	4
I 5. 混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置く	1	2	3	4
I 6. 目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続ける	1	2	3	4
I 7. 人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりする	1	2	3	4
I 8. 電車内や路上、通路などで地べた座りをする	1	2	3	4
I 9. 知らない人の見ているところでたばこを吸う	1	2	3	4
I 10. 人前で鼻くそをほじくる	1	2	3	4

【J】 もしあなたが、次のことをした場合についておたずねします。

J1. あなたがたばこを吸っていると想定してください。それを、①～④の人に見られたとします。あなたはどう思いますか。

	と 恥 ず も か し い	や 恥 や ず か し い	ど ち 言 ら え と な も い	あ か ま し り く 恥 な ず い	ま か っ し た く く な 恥 い ず
①知らない大人の人に見られたら	1	2	3	4	5
②近所の顔見知りの大人の人に見られたら	1	2	3	4	5
③同じ学校の生徒に見られたら	1	2	3	4	5
④仲のよい友達に見られたら	1	2	3	4	5

J2. あなたが電車内で友達数人と大きな声で話をしていると想定してください。それを、①～④の人に見られたとします。あなたはどう思いますか。

	と 恥 ず も か し い	や 恥 や ず か し い	ど ち 言 ら え と な も い	あ か ま し り く 恥 な ず い	ま か っ し た く く な 恥 い ず
①知らない大人の人に見られたら	1	2	3	4	5
②近所の顔見知りの大人の人に見られたら	1	2	3	4	5
③同じ学校の生徒に見られたら	1	2	3	4	5
④仲のよい友達に見られたら	1	2	3	4	5

J3. あなたがたばこを吸っていると想定してください。それを、①～④の人に注意されたとします。あなたは
どうだと思いますか。

	あ	む	む	もむ
	や	か	か	んか
	ま	つ	やつ	くつ
	やつ	やく	めい	をい
	めて	めが	なて	言て
	る	る	い	う
①知らない大人の人に注意されたら	1	2	3	4
②近所の顔見知りの大人の人に注意されたら	1	2	3	4
③同じ学校の生徒に注意されたら	1	2	3	4
④仲のよい友達に注意されたら	1	2	3	4

J4. あなたが電車内で友達数人と大きな声で話をしていると想定してください。それを、①～④の人に注意されたとします。あなたは
どうだと思いますか。

	あ	む	む	もむ
	や	か	か	んか
	ま	つ	やつ	くつ
	やつ	やく	めい	をい
	めて	めが	なて	言て
	る	る	い	う
①知らない大人の人に注意されたら	1	2	3	4
②近所の顔見知りの大人の人に注意されたら	1	2	3	4
③同じ学校の生徒に注意されたら	1	2	3	4
④仲のよい友達に注意されたら	1	2	3	4

【K】 あなたは、あなたと同じ年くらいの人が次のようなことをするのをどう思いますか。

	しては いけない	いけないことだが 場合によっては してもよい	しても よい
K 1. タバコを吸う	1	2	3
K 2. 酒を飲む	1	2	3
K 3. 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない	1	2	3
K 4. 深夜に盛り場を遊び回る	1	2	3
K 5. 家族にうそをついて外泊する	1	2	3
K 6. 自分の家の金をだまって使う	1	2	3
K 7. 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする	1	2	3
K 8. メールを使って、他人の悪口を言いふらす	1	2	3
K 9. いやがらせの電話を繰り返しかける	1	2	3
K 10. 放置されている自転車を、勝手に乗る	1	2	3
K 11. 店の品物を万引きする	1	2	3
K 12. 友達が万引きした物をもったり買ったりする	1	2	3
K 13. 学校のものを、わざと壊したり傷つける	1	2	3
K 14. 他人を殴る	1	2	3

【L】 あなたは、次のことをしたことがありますか。

	したことがある	したことはない
L 1. タバコを吸う	1	2
L 2. 酒を飲む	1	2
L 3. 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない	1	2
L 4. 深夜に盛り場を遊び回る	1	2
L 5. 家族にうそをついて外泊する	1	2
L 6. 自分の家の金をだまって使う	1	2
L 7. 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする	1	2
L 8. メールを使って、他人の悪口を言いふらす	1	2
L 9. いやがらせの電話を繰り返しかける	1	2
L 10. 放置されている自転車を、勝手に乗る	1	2
L 11. 店の品物を万引きする	1	2
L 12. 友達が万引きした物をもらったり買ったりする	1	2
L 13. 学校のを、わざと壊したり傷つける	1	2
L 14. 他人を殴る	1	2

【M】 あなたの学校での生活についておたずねします。

M1. 学校はたのしいですか。 1 たのしい 2 どちらでもない 3 たのしくない

M2. 成績はクラスでどのくらいですか。 1 よいほう 2 ふつう 3 わるいほう

M3. あなたは学校をどこまで続けるつもりですか。

- 1 中学校まで 2 高校まで 3 短大・専門学校まで
4 大学まで 5 わからない

M4. 学校の放課後の部活動に参加していますか。

- 1 積極的に参加している 2 いちおう参加している 3 参加していない

M5. いまの学年になってから遅刻を何回くらいしましたか。病気などの特別の場合を除きます。

- 1 ぜんぜんしていない 2 5回以内 3 6回から10回
4 11回から20回 5 21回以上

M6. あなたは、ふだん学校のあるときに(夏休みや冬休み以外に)アルバイトをしていますか。

- 1 していない 2 週に1日くらいしている
3 週に2～3日くらいしている 4 週に4日以上している

M7. あなたは、次のことにあてはまりますか。

- ①携帯電話（PHSを含む）を持っている 1 あてはまる 2 あてはまらない
②読書好きである 1 あてはまる 2 あてはまらない
③テレビ・ラジオ欄以外の新聞記事を毎日読む 1 あてはまる 2 あてはまらない

これで終了です。ご協力ありがとうございました。

基礎集計表

B1 親(保護者)は自分のことをわかってきている

		B1 親(保護者)は自分のことをわかってきている				合計	
		そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答		
中学生男子	度数	226	223	60	1	510	
	%	44.3%	43.7%	11.8%	0.2%	100.0%	
中学生女子	度数	200	211	80		491	
	%	40.7%	43.0%	16.3%		100.0%	
高校生男子	度数	109	120	31		260	
	%	41.9%	46.2%	11.9%		100.0%	
高校生女子	度数	123	123	41		287	
	%	42.9%	42.9%	14.3%		100.0%	
合計		658	677	212	1	1548	
		%	42.5%	43.7%	13.7%	0.1%	100.0%

B2 家庭のふんいきはあたたかい

		B2 家庭のふんいきはあたたかい				合計	
		そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答		
中学生男子	度数	281	185	42	2	510	
	%	55.1%	36.3%	8.2%	0.4%	100.0%	
中学生女子	度数	288	148	54	1	491	
	%	58.7%	30.1%	11.0%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	141	105	14		260	
	%	54.2%	40.4%	5.4%		100.0%	
高校生女子	度数	176	92	18	1	287	
	%	61.3%	32.1%	6.3%	0.3%	100.0%	
合計		886	530	128	4	1548	
		%	57.2%	34.2%	8.3%	0.3%	100.0%

B3 親(保護者)のことを考えると、悪いことはできない

		B3 親(保護者)のことを考えると、悪いことはできない				合計	
		そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答		
中学生男子	度数	229	231	46	4	510	
	%	44.9%	45.3%	9.0%	0.8%	100.0%	
中学生女子	度数	245	195	50	1	491	
	%	49.9%	39.7%	10.2%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	145	93	21	1	260	
	%	55.8%	35.8%	8.1%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	167	97	21	2	287	
	%	58.2%	33.8%	7.3%	0.7%	100.0%	
合計		786	616	138	8	1548	
		%	50.8%	39.8%	8.9%	0.5%	100.0%

B4 親(保護者)とは話をしにくい

		B4 親(保護者)とは話をしにくい				合計	
		そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答		
中学生男子	度数	51	140	317	2	510	
	%	10.0%	27.5%	62.2%	0.4%	100.0%	
中学生女子	度数	39	121	331		491	
	%	7.9%	24.6%	67.4%		100.0%	
高校生男子	度数	26	96	137	1	260	
	%	10.0%	36.9%	52.7%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	19	72	195	1	287	
	%	6.6%	25.1%	67.9%	0.3%	100.0%	
合計		135	429	980	4	1548	
		%	8.7%	27.7%	63.3%	0.3%	100.0%

C1 朝ご飯を食べずに学校に行くことが

		C1 朝ご飯を食べずに学校に行くことが			合計	
		ある	ない	無回答		
中学生男子	度数	140	370		510	
	%	27.5%	72.5%		100.0%	
中学生女子	度数	141	349	1	491	
	%	28.7%	71.1%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	101	159		260	
	%	38.8%	61.2%		100.0%	
高校生女子	度数	104	183		287	
	%	36.2%	63.8%		100.0%	
合計		486	1061	1	1548	
		%	31.4%	68.5%	0.1%	100.0%

C2 おこづかいが足りず、親にせびることが

		C2 おこづかいが足りず、親にせびることが			合計	
		ある	ない	無回答		
中学生男子	度数	201	309		510	
	%	39.4%	60.6%		100.0%	
中学生女子	度数	268	221	2	491	
	%	54.6%	45.0%	0.4%	100.0%	
高校生男子	度数	135	125		260	
	%	51.9%	48.1%		100.0%	
高校生女子	度数	131	156		287	
	%	45.6%	54.4%		100.0%	
合計		735	811	2	1548	
		%	47.5%	52.4%	0.1%	100.0%

C3 衝動(しょうどう)買いをすることが

		C3 衝動(しょうどう)買いをすることが			合計	
		ある	ない	無回答		
中学生男子	度数	190	317	3	510	
	%	37.3%	62.2%	0.6%	100.0%	
中学生女子	度数	281	208	2	491	
	%	57.2%	42.4%	0.4%	100.0%	
高校生男子	度数	158	101	1	260	
	%	60.8%	38.8%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	203	83	1	287	
	%	70.7%	28.9%	0.3%	100.0%	
合計		832	709	7	1548	
		%	53.7%	45.8%	0.5%	100.0%

C4 ファッションや流行を気にすることが

		C4 ファッションや流行を気にすることが			合計	
		ある	ない	無回答		
中学生男子	度数	226	281	3	510	
	%	44.3%	55.1%	0.6%	100.0%	
中学生女子	度数	398	92	1	491	
	%	81.1%	18.7%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	153	106	1	260	
	%	58.8%	40.8%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	241	45	1	287	
	%	84.0%	15.7%	0.3%	100.0%	
合計		1018	524	6	1548	
		%	65.8%	33.9%	0.4%	100.0%

C5 ピアスをしたことが

		C5 ピアスをしたことが			合計	
		ある	ない	無回答		
中学生男子	度数	9	501		510	
	%	1.8%	98.2%		100.0%	
中学生女子	度数	31	459	1	491	
	%	6.3%	93.5%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	58	202		260	
	%	22.3%	77.7%		100.0%	
高校生女子	度数	125	162		287	
	%	43.6%	56.4%		100.0%	
合計		223	1324	1	1548	
		%	14.4%	85.5%	0.1%	100.0%

C6 髪の毛を脱色したり、染めたりしたことが

		C6 髪の毛を脱色したり、染めたりしたことが			合計	
		ある	ない	無回答		
中学生男子	度数	81	428	1	510	
	%	15.9%	83.9%	0.2%	100.0%	
中学生女子	度数	128	363		491	
	%	26.1%	73.9%		100.0%	
高校生男子	度数	135	125		260	
	%	51.9%	48.1%		100.0%	
高校生女子	度数	193	94		287	
	%	67.2%	32.8%		100.0%	
合計		537	1010	1	1548	
		%	34.7%	65.2%	0.1%	100.0%

D1 悩みを相談できる親友がいる

			D1 悩みを相談できる親友がいる			合計
			あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数		350	156	4	510
	%		68.6%	30.6%	0.8%	100.0%
中学生女子	度数		421	68	2	491
	%		85.7%	13.8%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数		194	66		260
	%		74.6%	25.4%		100.0%
高校生女子	度数		254	32	1	287
	%		88.5%	11.1%	0.3%	100.0%
合計	度数		1219	322	7	1548
	%		78.7%	20.8%	0.5%	100.0%

D2 よく友達の家遊びに行く

			D2 よく友達の家遊びに行く			合計
			あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数		350	159	1	510
	%		68.6%	31.2%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数		238	253		491
	%		48.5%	51.5%		100.0%
高校生男子	度数		128	132		260
	%		49.2%	50.8%		100.0%
高校生女子	度数		105	182		287
	%		36.6%	63.4%		100.0%
合計	度数		821	726	1	1548
	%		53.0%	46.9%	0.1%	100.0%

D3 クラスでは人気のあるほうだ

			D3 クラスでは人気のあるほうだ			合計
			あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数		105	395	10	510
	%		20.6%	77.5%	2.0%	100.0%
中学生女子	度数		94	371	26	491
	%		19.1%	75.6%	5.3%	100.0%
高校生男子	度数		45	212	3	260
	%		17.3%	81.5%	1.2%	100.0%
高校生女子	度数		40	238	9	287
	%		13.9%	82.9%	3.1%	100.0%
合計	度数		284	1216	48	1548
	%		18.3%	78.6%	3.1%	100.0%

D4 メールだけの知り合いがいる

			D4 メールだけの知り合いがいる			合計
			あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数		40	469	1	510
	%		7.8%	92.0%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数		115	374	2	491
	%		23.4%	76.2%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数		67	193		260
	%		25.8%	74.2%		100.0%
高校生女子	度数		74	212	1	287
	%		25.8%	73.9%	0.3%	100.0%
合計	度数		296	1248	4	1548
	%		19.1%	80.6%	0.3%	100.0%

D5 特定の異性と交際したことがある

			D5 特定の異性と交際したことがある			合計
			あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数		123	381	6	510
	%		24.1%	74.7%	1.2%	100.0%
中学生女子	度数		151	334	6	491
	%		30.8%	68.0%	1.2%	100.0%
高校生男子	度数		140	118	2	260
	%		53.8%	45.4%	0.8%	100.0%
高校生女子	度数		191	96		287
	%		66.6%	33.4%		100.0%
合計	度数		605	929	14	1548
	%		39.1%	60.0%	0.9%	100.0%

E1 近所の顔見知りの人には必ずあいさつする

		E1 近所の顔見知りの人には必ずあいさつする		合計
		あてはまる	あてはまらない	
中学生男子	度数	380	130	510
	%	74.5%	25.5%	100.0%
中学生女子	度数	392	99	491
	%	79.8%	20.2%	100.0%
高校生男子	度数	169	91	260
	%	65.0%	35.0%	100.0%
高校生女子	度数	220	67	287
	%	76.7%	23.3%	100.0%
合計	度数	1161	387	1548
	%	75.0%	25.0%	100.0%

E2 家から5分ほど歩いていると、知っている大人によく会う

		E2 家から5分ほど歩いていると、知っている大人によく会う			合計
		あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数	170	340		510
	%	33.3%	66.7%		100.0%
中学生女子	度数	199	290	2	491
	%	40.5%	59.1%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	92	167	1	260
	%	35.4%	64.2%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	97	188	2	287
	%	33.8%	65.5%	0.7%	100.0%
合計	度数	558	985	5	1548
	%	36.0%	63.6%	0.3%	100.0%

E3 今までに悪いことをして近所の人から怒られたことがある

		E3 今までに悪いことをして近所の人から怒られたことがある			合計
		あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数	209	299	2	510
	%	41.0%	58.6%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	129	358	4	491
	%	26.3%	72.9%	0.8%	100.0%
高校生男子	度数	116	144		260
	%	44.6%	55.4%		100.0%
高校生女子	度数	72	215		287
	%	25.1%	74.9%		100.0%
合計	度数	526	1016	6	1548
	%	34.0%	65.6%	0.4%	100.0%

E4 近所の人々は自分がどこの家の子どもか知らない

		E4 近所の人々は自分がどこの家の子どもか知らない			合計
		あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数	77	430	3	510
	%	15.1%	84.3%	0.6%	100.0%
中学生女子	度数	65	422	4	491
	%	13.2%	85.9%	0.8%	100.0%
高校生男子	度数	59	200	1	260
	%	22.7%	76.9%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	57	227	3	287
	%	19.9%	79.1%	1.0%	100.0%
合計	度数	258	1279	11	1548
	%	16.7%	82.6%	0.7%	100.0%

E5 小学生のころ、夏休みは必ずラジオ体操に参加した

		E5 小学生のころ、夏休みは必ずラジオ体操に参加した			合計
		あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数	233	276	1	510
	%	45.7%	54.1%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	230	261		491
	%	46.8%	53.2%		100.0%
高校生男子	度数	134	126		260
	%	51.5%	48.5%		100.0%
高校生女子	度数	165	122		287
	%	57.5%	42.5%		100.0%
合計	度数	762	785	1	1548
	%	49.2%	50.7%	0.1%	100.0%

E6 町内会(自治会)や商店街主催の祭りや行事によく行く

		E6 町内会(自治会)や商店街主催の祭りや行事によく行く			合計	
		あてはまる	あてはまらない	無回答		
中学生男子	度数	298	212		510	
	%	58.4%	41.6%		100.0%	
中学生女子	度数	271	217	3	491	
	%	55.2%	44.2%	0.6%	100.0%	
高校生男子	度数	103	156	1	260	
	%	39.6%	60.0%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	96	191		287	
	%	33.4%	66.6%		100.0%	
合計		768	776	4	1548	
		%	49.6%	50.1%	0.3%	100.0%

F1 知らない人とも、すぐに会話を始めることができる

		F1 知らない人とも、すぐに会話を始めることができる			合計	
		あてはまる	あてはまらない	無回答		
中学生男子	度数	184	326		510	
	%	36.1%	63.9%		100.0%	
中学生女子	度数	222	269		491	
	%	45.2%	54.8%		100.0%	
高校生男子	度数	96	164		260	
	%	36.9%	63.1%		100.0%	
高校生女子	度数	127	159	1	287	
	%	44.3%	55.4%	0.3%	100.0%	
合計		629	918	1	1548	
		%	40.6%	59.3%	0.1%	100.0%

F2 気まずいことがあった相手と、上手に仲直りできる

		F2 気まずいことがあった相手と、上手に仲直りできる			合計	
		あてはまる	あてはまらない	無回答		
中学生男子	度数	267	243		510	
	%	52.4%	47.6%		100.0%	
中学生女子	度数	279	205	7	491	
	%	56.8%	41.8%	1.4%	100.0%	
高校生男子	度数	120	140		260	
	%	46.2%	53.8%		100.0%	
高校生女子	度数	134	151	2	287	
	%	46.7%	52.6%	0.7%	100.0%	
合計		800	739	9	1548	
		%	51.7%	47.7%	0.6%	100.0%

F3 自分の感情や気持ちを、言葉で伝えることができる

		F3 自分の感情や気持ちを、言葉で伝えることができる			合計	
		あてはまる	あてはまらない	無回答		
中学生男子	度数	275	235		510	
	%	53.9%	46.1%		100.0%	
中学生女子	度数	278	208	5	491	
	%	56.6%	42.4%	1.0%	100.0%	
高校生男子	度数	144	115	1	260	
	%	55.4%	44.2%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	148	137	2	287	
	%	51.6%	47.7%	0.7%	100.0%	
合計		845	695	8	1548	
		%	54.6%	44.9%	0.5%	100.0%

F4 何か失敗したときに、すぐにあやまることができる

		F4 何か失敗したときに、すぐにあやまることができる			合計	
		あてはまる	あてはまらない	無回答		
中学生男子	度数	375	134	1	510	
	%	73.5%	26.3%	0.2%	100.0%	
中学生女子	度数	364	125	2	491	
	%	74.1%	25.5%	0.4%	100.0%	
高校生男子	度数	190	69	1	260	
	%	73.1%	26.5%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	207	80		287	
	%	72.1%	27.9%		100.0%	
合計		1136	408	4	1548	
		%	73.4%	26.4%	0.3%	100.0%

F5 他人が怒っているときに、うまくなだめることができる

		F5 他人が怒っているときに、うまくなだめることができる			合計	
		あてはまる	あてはまらない	無回答		
中学生男子	度数	196	313	1	510	
	%	38.4%	61.4%	0.2%	100.0%	
中学生女子	度数	230	257	4	491	
	%	46.8%	52.3%	0.8%	100.0%	
高校生男子	度数	115	144	1	260	
	%	44.2%	55.4%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	139	145	3	287	
	%	48.4%	50.5%	1.0%	100.0%	
合計		度数	680	859	9	1548
		%	43.9%	55.5%	0.6%	100.0%

G1 ちょっとしたことが気になる

		G1 ちょっとしたことが気になる				合計	
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答		
中学生男子	度数	277	171	61	1	510	
	%	54.3%	33.5%	12.0%	0.2%	100.0%	
中学生女子	度数	293	152	46		491	
	%	59.7%	31.0%	9.4%		100.0%	
高校生男子	度数	175	67	18		260	
	%	67.3%	25.8%	6.9%		100.0%	
高校生女子	度数	203	74	10		287	
	%	70.7%	25.8%	3.5%		100.0%	
合計		度数	948	464	135	1548	
		%	61.2%	30.0%	8.7%	0.1%	100.0%

G2 いやなことはすぐに忘れるほうだ

		G2 いやなことはすぐに忘れるほうだ				合計	
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答		
中学生男子	度数	136	172	202		510	
	%	26.7%	33.7%	39.6%		100.0%	
中学生女子	度数	93	166	231	1	491	
	%	18.9%	33.8%	47.0%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	51	95	114		260	
	%	19.6%	36.5%	43.8%		100.0%	
高校生女子	度数	52	118	117		287	
	%	18.1%	41.1%	40.8%		100.0%	
合計		度数	332	551	664	1	1548
		%	21.4%	35.6%	42.9%	0.1%	100.0%

G3 失敗するといつまでもよくよ考える

		G3 失敗するといつまでもよくよ考える				合計	
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答		
中学生男子	度数	180	181	149		510	
	%	35.3%	35.5%	29.2%		100.0%	
中学生女子	度数	187	178	125	1	491	
	%	38.1%	36.3%	25.5%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	101	105	54		260	
	%	38.8%	40.4%	20.8%		100.0%	
高校生女子	度数	114	112	60	1	287	
	%	39.7%	39.0%	20.9%	0.3%	100.0%	
合計		度数	582	576	388	2	1548
		%	37.6%	37.2%	25.1%	0.1%	100.0%

G4 自分はつまらない人間だ

		G4 自分はつまらない人間だ				合計	
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答		
中学生男子	度数	110	263	137		510	
	%	21.6%	51.6%	26.9%		100.0%	
中学生女子	度数	119	256	116		491	
	%	24.2%	52.1%	23.6%		100.0%	
高校生男子	度数	75	127	58		260	
	%	28.8%	48.8%	22.3%		100.0%	
高校生女子	度数	63	166	57	1	287	
	%	22.0%	57.8%	19.9%	0.3%	100.0%	
合計		度数	367	812	368	1	1548
		%	23.7%	52.5%	23.8%	0.1%	100.0%

G5 自分の考えは何かまちがっている気がする

			G5 自分の考えは何かまちがっている気がする				合計
			はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	98	270	142			510
	%	19.2%	52.9%	27.8%			100.0%
中学生女子	度数	82	282	127			491
	%	16.7%	57.4%	25.9%			100.0%
高校生男子	度数	38	151	71			260
	%	14.6%	58.1%	27.3%			100.0%
高校生女子	度数	34	179	73	1		287
	%	11.8%	62.4%	25.4%	0.3%		100.0%
合計	度数	252	882	413	1		1548
	%	16.3%	57.0%	26.7%	0.1%		100.0%

G6 自信を持っている

			G6 自信を持っている				合計
			はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	154	266	90			510
	%	30.2%	52.2%	17.6%			100.0%
中学生女子	度数	80	263	147	1		491
	%	16.30%	53.6%	29.9%	0.2%		100.0%
高校生男子	度数	60	145	55			260
	%	23.1%	55.8%	21.2%			100.0%
高校生女子	度数	34	156	96	1		287
	%	11.8%	54.4%	33.4%	0.3%		100.0%
合計	度数	328	830	388	2		1548
	%	21.2%	53.6%	25.1%	0.1%		100.0%

G7 人は皆、自分の利益や欲のために働いていると思う

			G7 人は皆、自分の利益や欲のために働いていると思う				合計
			はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	128	231	151			510
	%	25.1%	45.3%	29.6%			100.0%
中学生女子	度数	85	213	191	2		491
	%	17.3%	43.4%	38.9%	0.4%		100.0%
高校生男子	度数	98	99	62	1		260
	%	37.7%	38.1%	23.8%	0.4%		100.0%
高校生女子	度数	54	149	84			287
	%	18.8%	51.9%	29.3%			100.0%
合計	度数	365	692	488	3		1548
	%	23.6%	44.7%	31.5%	0.2%		100.0%

G8 誰とも気軽に話せる

			G8 誰とも気軽に話せる				合計
			はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	181	202	127			510
	%	35.5%	39.6%	24.9%			100.0%
中学生女子	度数	194	190	107			491
	%	39.5%	38.7%	21.8%			100.0%
高校生男子	度数	74	109	76	1		260
	%	28.5%	41.9%	29.2%	0.4%		100.0%
高校生女子	度数	86	119	82			287
	%	30.0%	41.5%	28.6%			100.0%
合計	度数	535	620	392	1		1548
	%	34.6%	40.1%	25.3%	0.1%		100.0%

G9 話し好きである

			G9 話し好きである				合計
			はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	209	203	98			510
	%	41.0%	39.8%	19.2%			100.0%
中学生女子	度数	322	131	36	2		491
	%	65.6%	26.7%	7.3%	0.4%		100.0%
高校生男子	度数	117	96	46	1		260
	%	45.0%	36.9%	17.7%	0.4%		100.0%
高校生女子	度数	170	89	28			287
	%	59.2%	31.0%	9.8%			100.0%
合計	度数	818	519	208	3		1548
	%	52.8%	33.5%	13.4%	0.2%		100.0%

G10 動作はきびきびしている

		G10 動作はきびきびしている				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	65	300	145		510
	%	12.7%	58.8%	28.4%		100.0%
中学生女子	度数	48	279	164		491
	%	9.8%	56.8%	33.4%		100.0%
高校生男子	度数	39	143	76	2	260
	%	15.0%	55.0%	29.2%	0.8%	100.0%
高校生女子	度数	36	153	97	1	287
	%	12.5%	53.3%	33.8%	0.3%	100.0%
合計	度数	188	875	482	3	1548
	%	12.1%	56.5%	31.1%	0.2%	100.0%

G11 何かと先頭にとって働くほうだ

		G11 何かと先頭にとって働くほうだ				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	77	215	217	1	510
	%	15.1%	42.2%	42.5%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	92	200	199		491
	%	18.7%	40.7%	40.5%		100.0%
高校生男子	度数	39	129	91	1	260
	%	15.0%	49.6%	35.0%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	44	108	135		287
	%	15.3%	37.6%	47.0%		100.0%
合計	度数	252	652	642	2	1548
	%	16.3%	42.1%	41.5%	0.1%	100.0%

G12 何事にも積極的に取り組む

		G12 何事にも積極的に取り組む				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	157	228	125		510
	%	30.8%	44.7%	24.5%		100.0%
中学生女子	度数	159	232	100		491
	%	32.4%	47.3%	20.4%		100.0%
高校生男子	度数	63	137	59	1	260
	%	24.2%	52.7%	22.7%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	74	153	60		287
	%	25.8%	53.3%	20.9%		100.0%
合計	度数	453	750	344	1	1548
	%	29.3%	48.4%	22.2%	0.1%	100.0%

G13 注目の的になりたい

		G13 注目の的になりたい				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	97	223	189	1	510
	%	19.0%	43.7%	37.1%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	98	210	183		491
	%	20.0%	42.8%	37.3%		100.0%
高校生男子	度数	58	120	81	1	260
	%	22.3%	46.2%	31.2%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	60	107	120		287
	%	20.9%	37.3%	41.8%		100.0%
合計	度数	313	660	573	2	1548
	%	20.2%	42.6%	37.0%	0.1%	100.0%

G14 何につけて、人より目立ちたい

		G14 何につけて、人より目立ちたい				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	81	208	221		510
	%	15.9%	40.8%	43.3%		100.0%
中学生女子	度数	76	197	218		491
	%	15.5%	40.1%	44.4%		100.0%
高校生男子	度数	50	108	101	1	260
	%	19.2%	41.5%	38.8%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	52	106	129		287
	%	18.1%	36.9%	44.9%		100.0%
合計	度数	259	619	669	1	1548
	%	16.7%	40.0%	43.2%	0.1%	100.0%

G15 人が自分を認めてくれないと不満だ

		G15 人が自分を認めてくれないと不満だ				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	138	226	146		510
	%	27.1%	44.3%	28.6%		100.0%
中学生女子	度数	150	218	122	1	491
	%	30.5%	44.4%	24.8%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	90	121	49		260
	%	34.6%	46.5%	18.8%		100.0%
高校生女子	度数	101	132	54		287
	%	35.2%	46.0%	18.8%		100.0%
合計	度数	479	697	371	1	1548
	%	30.9%	45.0%	24.0%	0.1%	100.0%

G16 気の毒な人を見ると、すぐに同情するほうだ

		G16 気の毒な人を見ると、すぐに同情するほうだ				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	216	213	81		510
	%	42.4%	41.8%	15.9%		100.0%
中学生女子	度数	231	194	65	1	491
	%	47.0%	39.5%	13.2%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	127	102	30	1	260
	%	48.8%	39.2%	11.5%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	145	115	27		287
	%	50.5%	40.1%	9.4%		100.0%
合計	度数	719	624	203	2	1548
	%	46.4%	40.3%	13.1%	0.1%	100.0%

G17 他人の苦しみがよくわかる

		G17 他人の苦しみがよくわかる				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	202	235	73		510
	%	39.6%	46.1%	14.3%		100.0%
中学生女子	度数	183	257	50	1	491
	%	37.3%	52.3%	10.2%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	90	140	30		260
	%	34.6%	53.8%	11.5%		100.0%
高校生女子	度数	101	171	15		287
	%	35.2%	59.6%	5.2%		100.0%
合計	度数	576	803	168	1	1548
	%	37.2%	51.9%	10.9%	0.1%	100.0%

G18 困っている人を見ると、すぐに助けてあげたい

		G18 困っている人を見ると、すぐに助けてあげたい				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	180	267	63		510
	%	35.3%	52.4%	12.4%		100.0%
中学生女子	度数	235	216	38	2	491
	%	47.9%	44.0%	7.7%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	102	131	26	1	260
	%	39.2%	50.4%	10.0%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	145	122	20		287
	%	50.5%	42.5%	7.0%		100.0%
合計	度数	662	736	147	3	1548
	%	42.8%	47.5%	9.5%	0.2%	100.0%

G19 世の中の人は、人のことなどかまわないと思っている

		G19 世の中の人は、人のことなどかまわないと思っている				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	138	234	138		510
	%	27.1%	45.9%	27.1%		100.0%
中学生女子	度数	105	230	154	2	491
	%	21.4%	46.8%	31.4%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	67	129	63	1	260
	%	25.8%	49.6%	24.2%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	54	164	69		287
	%	18.8%	57.1%	24.0%		100.0%
合計	度数	364	757	424	3	1548
	%	23.5%	48.9%	27.4%	0.2%	100.0%

G20 親友でも本当に信用することはできない

		G20 親友でも本当に信用することはできない				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	83	154	272	1	510
	%	16.3%	30.2%	53.3%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	98	151	242		491
	%	20.0%	30.8%	49.3%		100.0%
高校生男子	度数	47	81	131	1	260
	%	18.1%	31.2%	50.4%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	39	93	154	1	287
	%	13.6%	32.4%	53.7%	0.3%	100.0%
合計	度数	267	479	799	3	1548
	%	17.2%	30.9%	51.6%	0.2%	100.0%

G21 自分さえよければいいと思う

		G21 自分さえよければいいと思う				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	43	177	289	1	510
	%	8.4%	34.7%	56.7%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	25	152	313	1	491
	%	5.1%	31.0%	63.7%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	33	110	116	1	260
	%	12.7%	42.3%	44.6%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	16	113	157	1	287
	%	5.6%	39.4%	54.7%	0.3%	100.0%
合計	度数	117	552	875	4	1548
	%	7.6%	35.7%	56.5%	0.3%	100.0%

G22 人にとやかく言われると、必ず言い返す

		G22 人にとやかく言われると、必ず言い返す				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	235	211	62	2	510
	%	46.1%	41.4%	12.2%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	196	205	89	1	491
	%	39.9%	41.8%	18.1%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	98	120	41	1	260
	%	37.7%	46.2%	15.8%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	78	149	60		287
	%	27.2%	51.9%	20.9%		100.0%
合計	度数	607	685	252	4	1548
	%	39.2%	44.3%	16.3%	0.3%	100.0%

G23 馬鹿にするようなことをされると黙っていない

		G23 馬鹿にするようなことをされると黙っていない				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	279	170	60	1	510
	%	54.7%	33.3%	11.8%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	238	184	68	1	491
	%	48.5%	37.5%	13.8%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	118	108	34		260
	%	45.4%	41.5%	13.1%		100.0%
高校生女子	度数	125	131	31		287
	%	43.6%	45.6%	10.8%		100.0%
合計	度数	760	593	193	2	1548
	%	49.1%	38.3%	12.5%	0.1%	100.0%

G24 意見が合わないと、相手を批判したくなる

		G24 意見が合わないと、相手を批判したくなる				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	140	222	146	2	510
	%	27.50%	43.50%	28.60%	0.40%	100.00%
中学生女子	度数	102	210	177	2	491
	%	20.80%	42.80%	36.00%	0.40%	100.00%
高校生男子	度数	80	119	61		260
	%	30.80%	45.80%	23.50%		100.00%
高校生女子	度数	57	145	85		287
	%	19.90%	50.50%	29.60%		100.00%
合計	度数	379	696	469	4	1548
	%	24.50%	45.00%	30.30%	0.30%	100.00%

G25 友達のためなら、学校や先生に迷惑をかけてもしかたない

		G25 友達のためなら、学校や先生に迷惑をかけてもしかたない				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	91	241	177	1	510
	%	17.8%	47.3%	34.7%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	112	214	163	2	491
	%	22.8%	43.6%	33.2%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	74	135	50	1	260
	%	28.5%	51.9%	19.2%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	69	150	68		287
	%	24.0%	52.3%	23.7%		100.0%
合計	度数	346	740	458	4	1548
	%	22.4%	47.8%	29.6%	0.3%	100.0%

G26 友達のためなら、周りの人達に迷惑をかけてもしかたない

		G26 友達のためなら、周りの人達に迷惑をかけてもしかたない				合計
		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答	
中学生男子	度数	58	261	190	1	510
	%	11.4%	51.2%	37.3%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	73	219	196	3	491
	%	14.9%	44.6%	39.9%	0.6%	100.0%
高校生男子	度数	50	145	64	1	260
	%	19.2%	55.8%	24.6%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	46	161	80		287
	%	16.0%	56.1%	27.9%		100.0%
合計	度数	227	786	530	5	1548
	%	14.7%	50.8%	34.2%	0.3%	100.0%

H1 電車やバスの中で化粧する

		H1 電車やバスの中で化粧する				合計
		よくする	したことがある	したことがない	無回答	
中学生男子	度数	3		506	1	510
	%	0.6%		99.2%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	10	54	425	2	491
	%	2.0%	11.0%	86.6%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	1	2	257		260
	%	0.4%	0.8%	98.8%		100.0%
高校生女子	度数	21	94	172		287
	%	7.3%	32.8%	59.9%		100.0%
合計	度数	35	150	1360	3	1548
	%	2.3%	9.7%	87.9%	0.2%	100.0%

H2 電車やバスの中で携帯電話で話をする

		H2 電車やバスの中で携帯電話で話をする				合計
		よくする	したことがある	したことがない	無回答	
中学生男子	度数	21	55	434		510
	%	4.1%	10.8%	85.1%		100.0%
中学生女子	度数	26	126	338	1	491
	%	5.3%	25.7%	68.8%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	36	122	102		260
	%	13.8%	46.9%	39.2%		100.0%
高校生女子	度数	28	186	73		287
	%	9.8%	64.8%	25.4%		100.0%
合計	度数	111	489	947	1	1548
	%	7.2%	31.6%	61.2%	0.1%	100.0%

H3 電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をする

		H3 電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をする				合計
		よくする	したことがある	したことがない	無回答	
中学生男子	度数	65	246	198	1	510
	%	12.7%	48.2%	38.8%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	108	258	125		491
	%	22.0%	52.5%	25.5%		100.0%
高校生男子	度数	57	139	64		260
	%	21.9%	53.5%	24.6%		100.0%
高校生女子	度数	60	192	35		287
	%	20.9%	66.9%	12.2%		100.0%
合計	度数	290	835	422	1	1548
	%	18.7%	53.9%	27.3%	0.1%	100.0%

H4 電車やバスで脚(あし)を大きく開いて座る

		H4 電車やバスで脚(あし)を大きく開いて座る				合計
		よくする	したことがある	したことがない	無回答	
中学生男子	度数	36	117	354	3	510
	%	7.1%	22.9%	69.4%	0.6%	100.0%
中学生女子	度数	40	119	330	2	491
	%	8.1%	24.2%	67.2%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	44	107	109		260
	%	16.9%	41.2%	41.9%		100.0%
高校生女子	度数	18	82	187		287
	%	6.3%	28.6%	65.2%		100.0%
合計	度数	138	425	980	5	1548
	%	8.9%	27.5%	63.3%	0.3%	100.0%

H5 混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置く

		H5 混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置く			合計
		よくする	したことがある	したことがない	
中学生男子	度数	18	66	426	510
	%	3.5%	12.9%	83.5%	100.0%
中学生女子	度数	13	65	413	491
	%	2.6%	13.2%	84.1%	100.0%
高校生男子	度数	20	55	185	260
	%	7.7%	21.2%	71.2%	100.0%
高校生女子	度数	9	39	239	287
	%	3.1%	13.6%	83.3%	100.0%
合計	度数	60	225	1263	1548
	%	3.9%	14.5%	81.6%	100.0%

H6 目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続ける

		H6 目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続ける				合計
		よくする	したことがある	したことがない	無回答	
中学生男子	度数	14	50	444	2	510
	%	2.7%	9.8%	87.1%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	10	45	435	1	491
	%	2.0%	9.2%	88.6%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	7	46	207		260
	%	2.7%	17.7%	79.6%		100.0%
高校生女子	度数	6	43	238		287
	%	2.1%	15.0%	82.9%		100.0%
合計	度数	37	184	1324	3	1548
	%	2.4%	11.9%	85.5%	0.2%	100.0%

H7 人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりする

		H7 人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりする				合計
		よくする	したことがある	したことがない	無回答	
中学生男子	度数	100	203	207		510
	%	19.6%	39.8%	40.6%		100.0%
中学生女子	度数	132	225	133	1	491
	%	26.9%	45.8%	27.1%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	58	127	75		260
	%	22.3%	48.8%	28.8%		100.0%
高校生女子	度数	51	167	69		287
	%	17.8%	58.2%	24.0%		100.0%
合計	度数	341	722	484	1	1548
	%	22.0%	46.6%	31.3%	0.1%	100.0%

H8 電車内や路上、通路などで地べた座りをする

		H8 電車内や路上、通路などで地べた座りをする				合計
		よくする	したことがある	したことがない	無回答	
中学生男子	度数	61	139	310		510
	%	12.0%	27.3%	60.8%		100.0%
中学生女子	度数	79	160	250	2	491
	%	16.1%	32.6%	50.9%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	57	112	91		260
	%	21.9%	43.1%	35.0%		100.0%
高校生女子	度数	34	124	129		287
	%	11.8%	43.2%	44.9%		100.0%
合計	度数	231	535	780	2	1548
	%	14.9%	34.6%	50.4%	0.1%	100.0%

H9 知らない人の見ているところでたばこを吸う

		H9 知らない人の見ているところでたばこを吸う				合計	
		よくする	したことがある	したことがない	無回答		
中学生男子	度数	15	19	474	2	510	
	%	2.9%	3.7%	92.9%	0.4%	100.0%	
中学生女子	度数	9	20	461	1	491	
	%	1.8%	4.1%	93.9%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	38	37	184	1	260	
	%	14.6%	14.2%	70.8%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	24	14	249		287	
	%	8.4%	4.9%	86.8%		100.0%	
合計		86	90	1368	4	1548	
		%	5.6%	5.8%	88.4%	0.3%	100.0%

H10 人前で鼻くそをほじくる

		H10 人前で鼻くそをほじくる			合計	
		よくする	したことがある	したことがない		
中学生男子	度数	8	47	455	510	
	%	1.6%	9.2%	89.2%	100.0%	
中学生女子	度数	2	22	467	491	
	%	0.4%	4.5%	95.1%	100.0%	
高校生男子	度数	7	40	213	260	
	%	2.7%	15.4%	81.9%	100.0%	
高校生女子	度数	9	13	265	287	
	%	3.1%	4.5%	92.3%	100.0%	
合計		26	122	1400	1548	
		%	1.7%	7.9%	90.4%	100.0%

I1 電車やバスの中で化粧する

		I1 電車やバスの中で化粧する					合計	
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答		
中学生男子	度数	238	126	75	69	2	510	
	%	46.7%	24.7%	14.7%	13.5%	0.4%	100.0%	
中学生女子	度数	194	165	77	55		491	
	%	39.5%	33.6%	15.7%	11.2%		100.0%	
高校生男子	度数	109	54	46	50	1	260	
	%	41.9%	20.8%	17.7%	19.2%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	123	93	41	30		287	
	%	42.9%	32.4%	14.3%	10.5%		100.0%	
合計		664	438	239	204	3	1548	
		%	42.9%	28.3%	15.4%	13.2%	0.2%	100.0%

I2 電車やバスの中で携帯電話で話をする

		I2 電車やバスの中で携帯電話で話をする					合計	
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答		
中学生男子	度数	219	138	73	80		510	
	%	42.9%	27.1%	14.3%	15.7%		100.0%	
中学生女子	度数	171	172	95	52	1	491	
	%	34.8%	35.0%	19.3%	10.6%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	83	82	53	42		260	
	%	31.9%	31.5%	20.4%	16.2%		100.0%	
高校生女子	度数	108	102	50	27		287	
	%	37.6%	35.5%	17.4%	9.4%		100.0%	
合計		581	494	271	201	1	1548	
		%	37.5%	31.9%	17.5%	13.0%	0.1%	100.0%

I3 電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をする

		I3 電車やバスの中で友達数人と大きな声で話をする					合計	
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答		
中学生男子	度数	167	166	89	87	1	510	
	%	32.7%	32.5%	17.5%	17.1%	0.2%	100.0%	
中学生女子	度数	138	169	105	75	4	491	
	%	28.1%	34.4%	21.4%	15.3%	0.8%	100.0%	
高校生男子	度数	74	80	54	51	1	260	
	%	28.5%	30.8%	20.8%	19.6%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	81	102	68	35	1	287	
	%	28.2%	35.5%	23.7%	12.2%	0.3%	100.0%	
合計		460	517	316	248	7	1548	
		%	29.7%	33.4%	20.4%	16.0%	0.5%	100.0%

14 電車やバスで脚(あし)を大きく開いて座る

		14 電車やバスで脚(あし)を大きく開いて座る					合計
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答	
中学生男子	度数	179	137	104	87	3	510
	%	35.1%	26.9%	20.4%	17.1%	0.6%	100.0%
中学生女子	度数	205	131	96	56	3	491
	%	41.8%	26.7%	19.6%	11.4%	0.6%	100.0%
高校生男子	度数	74	77	61	47	1	260
	%	28.5%	29.6%	23.5%	18.1%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	151	63	48	25		287
	%	52.6%	22.0%	16.7%	8.7%		100.0%
合計	度数	609	408	309	215	7	1548
	%	39.3%	26.4%	20.0%	13.9%	0.5%	100.0%

15 混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置く

		15 混んでいる電車やバスで荷物を隣の席に置く					合計
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答	
中学生男子	度数	272	140	58	39	1	510
	%	53.3%	27.5%	11.4%	7.6%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	284	114	62	30	1	491
	%	57.8%	23.2%	12.6%	6.1%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	131	64	42	23		260
	%	50.4%	24.6%	16.2%	8.8%		100.0%
高校生女子	度数	194	56	25	12		287
	%	67.6%	19.5%	8.7%	4.2%		100.0%
合計	度数	881	374	187	104	2	1548
	%	56.9%	24.2%	12.1%	6.7%	0.1%	100.0%

16 目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続ける

		16 目の前に年寄りがいるのに、シルバーシートに座り続ける					合計
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答	
中学生男子	度数	353	91	29	35	2	510
	%	69.2%	17.8%	5.7%	6.9%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	344	94	25	24	4	491
	%	70.1%	19.1%	5.1%	4.9%	0.8%	100.0%
高校生男子	度数	157	54	26	23		260
	%	60.4%	20.8%	10.0%	8.8%		100.0%
高校生女子	度数	216	51	10	10		287
	%	75.3%	17.8%	3.5%	3.5%		100.0%
合計	度数	1070	290	90	92	6	1548
	%	69.1%	18.7%	5.8%	5.9%	0.4%	100.0%

17 人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりする

		17 人混みの中で歩きながら飲んだり食べたりする					合計
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答	
中学生男子	度数	105	115	121	168	1	510
	%	20.6%	22.5%	23.7%	32.9%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	66	93	147	183	2	491
	%	13.4%	18.9%	29.9%	37.3%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	53	56	66	84	1	260
	%	20.4%	21.5%	25.4%	32.3%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	45	67	102	73		287
	%	15.7%	23.3%	35.5%	25.4%		100.0%
合計	度数	269	331	436	508	4	1548
	%	17.4%	21.4%	28.2%	32.8%	0.3%	100.0%

18 電車内や路上、通路などで地べた座りをする

		18 電車内や路上、通路などで地べた座りをする					合計
		気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答	
中学生男子	度数	192	125	99	93	1	510
	%	37.6%	24.5%	19.4%	18.2%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	161	144	101	83	2	491
	%	32.8%	29.3%	20.6%	16.9%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	70	65	64	61		260
	%	26.9%	25.0%	24.6%	23.5%		100.0%
高校生女子	度数	94	85	64	44		287
	%	32.8%	29.6%	22.3%	15.3%		100.0%
合計	度数	517	419	328	281	3	1548
	%	33.4%	27.1%	21.2%	18.2%	0.2%	100.0%

19 知らない人の見ているところでたばこを吸う

			19 知らない人の見ているところでたばこを吸う					合計
			気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答	
中学生男子	度数		306	79	35	90		510
	%		60.0%	15.5%	6.9%	17.6%		100.0%
中学生女子	度数		285	81	62	62	1	491
	%		58.0%	16.5%	12.6%	12.6%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数		93	53	40	74		260
	%		35.8%	20.4%	15.4%	28.5%		100.0%
高校生女子	度数		146	41	45	53	2	287
	%		50.9%	14.3%	15.7%	18.5%	0.7%	100.0%
合計		度数	830	254	182	279	3	1548
		%	53.6%	16.4%	11.8%	18.0%	0.2%	100.0%

110 人前で鼻くそをほじくる

			110 人前で鼻くそをほじくる					合計
			気にする	少し気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答	
中学生男子	度数		415	50	14	30	1	510
	%		81.4%	9.8%	2.7%	5.9%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数		436	35	6	14		491
	%		88.8%	7.1%	1.2%	2.9%		100.0%
高校生男子	度数		187	36	20	17		260
	%		71.9%	13.8%	7.7%	6.5%		100.0%
高校生女子	度数		240	29	9	9		287
	%		83.6%	10.1%	3.1%	3.1%		100.0%
合計		度数	1278	150	49	70	1	1548
		%	82.6%	9.7%	3.2%	4.5%	0.1%	100.0%

J11 【たばこ】知らない大人の人に見られたら

			J11 【たばこ】知らない大人の人に見られたら					合計	
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	まったく恥ずかしくない	無回答	
中学生男子	度数		102	99	79	83	145	2	510
	%		20.0%	19.4%	15.5%	16.3%	28.4%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数		67	93	113	115	103		491
	%		13.6%	18.9%	23.0%	23.4%	21.0%		100.0%
高校生男子	度数		19	20	45	50	126		260
	%		7.3%	7.7%	17.3%	19.2%	48.5%		100.0%
高校生女子	度数		26	35	51	67	108		287
	%		9.1%	12.2%	17.8%	23.3%	37.6%		100.0%
合計		度数	214	247	288	315	482	2	1548
		%	13.8%	16.0%	18.6%	20.3%	31.1%	0.1%	100.0%

J12 【たばこ】近所の顔見知りの大人の人に見られたら

			J12 【たばこ】近所の顔見知りの大人の人に見られたら					合計	
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	まったく恥ずかしくない	無回答	
中学生男子	度数		260	105	67	23	52	3	510
	%		51.0%	20.6%	13.1%	4.5%	10.2%	0.6%	100.0%
中学生女子	度数		234	132	60	35	30		491
	%		47.7%	26.9%	12.2%	7.1%	6.1%		100.0%
高校生男子	度数		68	59	43	31	59		260
	%		26.2%	22.7%	16.5%	11.9%	22.7%		100.0%
高校生女子	度数		105	63	60	25	34		287
	%		36.6%	22.0%	20.9%	8.7%	11.8%		100.0%
合計		度数	667	359	230	114	175	3	1548
		%	43.1%	23.2%	14.9%	7.4%	11.3%	0.2%	100.0%

J13【たばこ】同じ学校の生徒に見られたら

			J13【たばこ】同じ学校の生徒に見られたら					合計
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	まったく恥ずかしくない	
中学生男子	度数	196	82	81	50	99	2	510
	%	38.4%	16.1%	15.9%	9.8%	19.4%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	190	108	75	62	55	1	491
	%	38.7%	22.0%	15.3%	12.6%	11.2%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	31	27	54	49	99		260
	%	11.9%	10.4%	20.8%	18.8%	38.1%		100.0%
高校生女子	度数	65	55	55	40	72		287
	%	22.6%	19.2%	19.2%	13.9%	25.1%		100.0%
合計	度数	482	272	265	201	325	3	1548
	%	31.1%	17.6%	17.1%	13.0%	21.0%	0.2%	100.0%

J14【たばこ】仲のよい友達に見られたら

			J14【たばこ】仲のよい友達に見られたら					合計
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	まったく恥ずかしくない	
中学生男子	度数	194	57	80	54	123	2	510
	%	38.0%	11.2%	15.7%	10.6%	24.1%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	196	66	73	60	95	1	491
	%	39.9%	13.4%	14.9%	12.2%	19.3%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	35	21	44	37	123		260
	%	13.5%	8.1%	16.9%	14.2%	47.3%		100.0%
高校生女子	度数	60	36	57	39	95		287
	%	20.9%	12.5%	19.9%	13.6%	33.1%		100.0%
合計	度数	485	180	254	190	436	3	1548
	%	31.3%	11.6%	16.4%	12.3%	28.2%	0.2%	100.0%

J21【大声】知らない大人の人に見られたら

			J21【大声】知らない大人の人に見られたら				合計
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	
中学生男子	度数	66	121	80	84	159	510
	%	12.9%	23.7%	15.7%	16.5%	31.2%	100.0%
中学生女子	度数	56	106	85	117	127	491
	%	11.4%	21.6%	17.3%	23.8%	25.9%	100.0%
高校生男子	度数	22	40	43	59	96	260
	%	8.5%	15.4%	16.5%	22.7%	36.9%	100.0%
高校生女子	度数	24	63	36	70	94	287
	%	8.4%	22.0%	12.5%	24.4%	32.8%	100.0%
合計	度数	168	330	244	330	476	1548
	%	10.9%	21.3%	15.8%	21.3%	30.7%	100.0%

J22【大声】近所の顔見知りの大人の人に見られたら

			J22【大声】近所の顔見知りの大人の人に見られたら				合計
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	
中学生男子	度数	134	162	78	56	80	510
	%	26.3%	31.8%	15.3%	11.0%	15.7%	100.0%
中学生女子	度数	122	181	73	63	52	491
	%	24.8%	36.9%	14.9%	12.8%	10.6%	100.0%
高校生男子	度数	42	65	47	47	59	260
	%	16.2%	25.0%	18.1%	18.1%	22.7%	100.0%
高校生女子	度数	59	90	48	39	51	287
	%	20.6%	31.4%	16.7%	13.6%	17.8%	100.0%
合計	度数	357	498	246	205	242	1548
	%	23.1%	32.2%	15.9%	13.2%	15.6%	100.0%

J23【大声】同じ学校の生徒に見られたら

			J23【大声】同じ学校の生徒に見られたら					合計
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	まったく恥ずかしくない	
中学生男子	度数	87	80	100	85	158	510	
	%	17.1%	15.7%	19.6%	16.7%	31.0%	100.0%	
中学生女子	度数	77	81	97	103	133	491	
	%	15.7%	16.5%	19.8%	21.0%	27.1%	100.0%	
高校生男子	度数	25	27	45	44	119	260	
	%	9.6%	10.4%	17.3%	16.9%	45.8%	100.0%	
高校生女子	度数	25	57	48	52	104	287	
	%	8.7%	19.9%	16.7%	18.1%	36.2%	0.3%	
合計	度数	214	245	290	284	514	1548	
	%	13.8%	15.8%	18.7%	18.3%	33.2%	0.1%	

J24【大声】仲のよい友達に見られたら

			J24【大声】仲のよい友達に見られたら					合計
			とても恥ずかしい	やや恥ずかしい	どちらとも言えない	あまり恥ずかしくない	まったく恥ずかしくない	
中学生男子	度数	89	57	79	79	204	510	
	%	17.5%	11.2%	15.5%	15.5%	40.0%	0.4%	
中学生女子	度数	69	67	97	85	173	491	
	%	14.1%	13.6%	19.8%	17.3%	35.2%	100.0%	
高校生男子	度数	24	18	42	36	140	260	
	%	9.2%	6.9%	16.2%	13.8%	53.8%	100.0%	
高校生女子	度数	20	43	43	57	123	287	
	%	7.0%	15.0%	15.0%	19.9%	42.9%	0.3%	
合計	度数	202	185	261	257	640	1548	
	%	13.0%	12.0%	16.9%	16.6%	41.3%	0.2%	

J31【たばこ】知らない大人のの人に注意されたら

			J31【たばこ】知らない大人のの人に注意されたら				合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかついてもめない	むかついてもんくを言う	
中学生男子	度数	193	189	57	67	4	510
	%	37.8%	37.1%	11.2%	13.1%	0.8%	100.0%
中学生女子	度数	138	204	91	57	1	491
	%	28.1%	41.5%	18.5%	11.6%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	73	85	59	41	2	260
	%	28.1%	32.7%	22.7%	15.8%	0.8%	100.0%
高校生女子	度数	74	114	68	31		287
	%	25.8%	39.7%	23.7%	10.8%		100.0%
合計	度数	478	592	275	196	7	1548
	%	30.9%	38.2%	17.8%	12.7%	0.5%	100.0%

J32【たばこ】近所の顔見知りの大人のの人に注意されたら

			J32【たばこ】近所の顔見知りの大人のの人に注意されたら				合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかついてもめない	むかついてもんくを言う	
中学生男子	度数	338	124	25	20	3	510
	%	66.3%	24.3%	4.9%	3.9%	0.6%	100.0%
中学生女子	度数	268	171	43	8	1	491
	%	54.6%	34.8%	8.8%	1.6%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	136	80	25	19		260
	%	52.3%	30.8%	9.6%	7.3%		100.0%
高校生女子	度数	158	97	25	7		287
	%	55.1%	33.8%	8.7%	2.4%		100.0%
合計	度数	900	472	118	54	4	1548
	%	58.1%	30.5%	7.6%	3.5%	0.3%	100.0%

J33【たばこ】同じ学校の生徒に注意されたら

			J33【たばこ】同じ学校の生徒に注意されたら					合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかつてやめな い	むかつてもんく を言う	無回答	
中学生男子	度数	207	153	66	81	3	510	
	%	40.6%	30.0%	12.9%	15.9%	0.6%	100.0%	
中学生女子	度数	165	154	96	75	1	491	
	%	33.6%	31.4%	19.6%	15.3%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	80	59	61	60		260	
	%	30.8%	22.7%	23.5%	23.1%		100.0%	
高校生女子	度数	101	79	61	46		287	
	%	35.2%	27.5%	21.3%	16.0%		100.0%	
合計	度数	553	445	284	262	4	1548	
	%	35.7%	28.7%	18.3%	16.9%	0.3%	100.0%	

J34【たばこ】仲のよい友達に注意されたら

			J34【たばこ】仲のよい友達に注意されたら					合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかつてやめな い	むかつてもんく を言う	無回答	
中学生男子	度数	324	105	38	40	3	510	
	%	63.5%	20.6%	7.5%	7.8%	0.6%	100.0%	
中学生女子	度数	297	119	46	29		491	
	%	60.5%	24.2%	9.4%	5.9%		100.0%	
高校生男子	度数	139	46	42	32	1	260	
	%	53.5%	17.7%	16.2%	12.3%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	180	51	29	27		287	
	%	62.7%	17.8%	10.1%	9.4%		100.0%	
合計	度数	940	321	155	128	4	1548	
	%	60.7%	20.7%	10.0%	8.3%	0.3%	100.0%	

J41【大声】知らない大人の人に注意されたら

			J41【大声】知らない大人の人に注意されたら					合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかつてやめな い	むかつてもんく を言う	無回答	
中学生男子	度数	200	178	65	67		510	
	%	39.2%	34.9%	12.7%	13.1%		100.0%	
中学生女子	度数	154	177	99	60	1	491	
	%	31.4%	36.0%	20.2%	12.2%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	80	91	49	40		260	
	%	30.8%	35.0%	18.8%	15.4%		100.0%	
高校生女子	度数	90	111	55	31		287	
	%	31.4%	38.7%	19.2%	10.8%		100.0%	
合計	度数	524	557	268	198	1	1548	
	%	33.9%	36.0%	17.3%	12.8%	0.1%	100.0%	

J42【大声】近所の顔見知りの大人の人に注意されたら

			J42【大声】近所の顔見知りの大人の人に注意されたら				合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかつてやめな い	むかつてもんく を言う	
中学生男子	度数	311	141	34	24	510	
	%	61.0%	27.6%	6.7%	4.7%	100.0%	
中学生女子	度数	253	171	53	14	491	
	%	51.5%	34.8%	10.8%	2.9%	100.0%	
高校生男子	度数	134	78	29	19	260	
	%	51.5%	30.0%	11.2%	7.3%	100.0%	
高校生女子	度数	146	113	18	10	287	
	%	50.9%	39.4%	6.3%	3.5%	100.0%	
合計	度数	844	503	134	67	1548	
	%	54.5%	32.5%	8.7%	4.3%	100.0%	

J43【大声】同じ学校の生徒に注意されたら

			J43【大声】同じ学校の生徒に注意されたら				合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかついてやめな い	むかついてもんく を言う	
中学生男子	度数	198	161	74	77		510
	%	38.8%	31.6%	14.5%	15.1%		100.0%
中学生女子	度数	144	194	92	60	1	491
	%	29.3%	39.5%	18.7%	12.2%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	84	72	47	56	1	260
	%	32.3%	27.7%	18.1%	21.5%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	100	94	49	44		287
	%	34.8%	32.8%	17.1%	15.3%		100.0%
合計	度数	526	521	262	237	2	1548
	%	34.0%	33.7%	16.9%	15.3%	0.1%	100.0%

J44【大声】仲のよい友達に注意されたら

			J44【大声】仲のよい友達に注意されたら				合計
			あやまってやめる	むかつくがやめる	むかついてやめな い	むかついてもんく を言う	
中学生男子	度数	309	112	46	43		510
	%	60.6%	22.0%	9.0%	8.4%		100.0%
中学生女子	度数	282	126	57	25	1	491
	%	57.4%	25.7%	11.6%	5.1%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	136	60	31	32	1	260
	%	52.3%	23.1%	11.9%	12.3%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	163	71	23	29	1	287
	%	56.8%	24.7%	8.0%	10.1%	0.3%	100.0%
合計	度数	890	369	157	129	3	1548
	%	57.5%	23.8%	10.1%	8.3%	0.2%	100.0%

K1 タバコを吸う

			K1 タバコを吸う				合計
			してはいけない	いけないことだが場 合によってはしても よい	してもよい	無回答	
中学生男子	度数	408	46	56		510	
	%	80.0%	9.0%	11.0%		100.0%	
中学生女子	度数	382	57	51	1	491	
	%	77.8%	11.6%	10.4%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	131	51	76	2	260	
	%	50.4%	19.6%	29.2%	0.8%	100.0%	
高校生女子	度数	163	50	74		287	
	%	56.8%	17.4%	25.8%		100.0%	
合計	度数	1084	204	257	3	1548	
	%	70.0%	13.2%	16.6%	0.2%	100.0%	

K2 酒を飲む

			K2 酒を飲む				合計
			してはいけない	いけないことだが場 合によってはしても よい	してもよい	無回答	
中学生男子	度数	286	136	88		510	
	%	56.1%	26.7%	17.3%		100.0%	
中学生女子	度数	266	139	84	2	491	
	%	54.2%	28.3%	17.1%	0.4%	100.0%	
高校生男子	度数	63	85	110	2	260	
	%	24.2%	32.7%	42.3%	0.8%	100.0%	
高校生女子	度数	68	116	103		287	
	%	23.7%	40.4%	35.9%		100.0%	
合計	度数	683	476	385	4	1548	
	%	44.1%	30.7%	24.9%	0.3%	100.0%	

K3 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない

		K3 特別な理由がないのに、さぼって学校に行かない				合計
		してはいけない	いけないことだが場合によってはしてもよい	してもよい	無回答	
中学生男子	度数	306	135	69		510
	%	60.0%	26.5%	13.5%		100.0%
中学生女子	度数	198	212	80	1	491
	%	40.3%	43.2%	16.3%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数	71	102	85	2	260
	%	27.3%	39.2%	32.7%	0.8%	100.0%
高校生女子	度数	66	142	79		287
	%	23.0%	49.5%	27.5%		100.0%
合計	度数	641	591	313	3	1548
	%	41.4%	38.2%	20.2%	0.2%	100.0%

L7 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする

		L7 友達をいじめたり、仲間外れにしたりする			合計
		したことがある	したことはない	無回答	
中学生男子	度数	251	258	1	510
	%	49.2%	50.6%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数	242	247	2	491
	%	49.3%	50.3%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	105	153	2	260
	%	40.4%	58.8%	0.8%	100.0%
高校生女子	度数	111	174	2	287
	%	38.7%	60.6%	0.7%	100.0%
合計	度数	709	832	7	1548
	%	45.8%	53.7%	0.5%	100.0%

L8 メールを使って、他人の悪口を言いふらす

		L8 メールを使って、他人の悪口を言いふらす			合計
		したことがある	したことはない	無回答	
中学生男子	度数	51	459		510
	%	10.0%	90.0%		100.0%
中学生女子	度数	90	401		491
	%	18.3%	81.7%		100.0%
高校生男子	度数	41	218	1	260
	%	15.8%	83.8%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	29	257	1	287
	%	10.1%	89.5%	0.3%	100.0%
合計	度数	211	1335	2	1548
	%	13.6%	86.2%	0.1%	100.0%

L9 いやがらせの電話を繰り返しかける

		L9 いやがらせの電話を繰り返しかける			合計
		したことがある	したことはない	無回答	
中学生男子	度数	48	462		510
	%	9.4%	90.6%		100.0%
中学生女子	度数	32	459		491
	%	6.5%	93.5%		100.0%
高校生男子	度数	20	240		260
	%	7.7%	92.3%		100.0%
高校生女子	度数	9	277	1	287
	%	3.1%	96.5%	0.3%	100.0%
合計	度数	109	1438	1	1548
	%	7.0%	92.9%	0.1%	100.0%

L10 放置されている自転車を、勝手に乗る

			L10 放置されている自転車を、勝手に乗る			合計
			したことがある	したことはない	無回答	
中学生男子	度数		88	422		510
	%		17.3%	82.7%		100.0%
中学生女子	度数		26	465		491
	%		5.3%	94.7%		100.0%
高校生男子	度数		84	176		260
	%		32.3%	67.7%		100.0%
高校生女子	度数		47	239	1	287
	%		16.4%	83.3%	0.3%	100.0%
合計	度数		245	1302	1	1548
	%		15.8%	84.1%	0.1%	100.0%

L11 店の品物を万引きする

			L11 店の品物を万引きする			合計
			したことがある	したことはない	無回答	
中学生男子	度数		122	388		510
	%		23.9%	76.1%		100.0%
中学生女子	度数		69	420	2	491
	%		14.1%	85.5%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数		98	162		260
	%		37.7%	62.3%		100.0%
高校生女子	度数		73	213	1	287
	%		25.4%	74.2%	0.3%	100.0%
合計	度数		362	1183	3	1548
	%		23.4%	76.4%	0.2%	100.0%

M1 学校はたのしいですか

			M1 学校はたのしいですか				合計
			たのしい	どちらでもない	たのしくない	無回答	
中学生男子	度数		266	171	72	1	510
	%		52.2%	33.5%	14.1%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数		247	175	68	1	491
	%		50.3%	35.6%	13.8%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数		110	94	55	1	260
	%		42.3%	36.2%	21.2%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数		109	119	56	3	287
	%		38.0%	41.5%	19.5%	1.0%	100.0%
合計	度数		732	559	251	6	1548
	%		47.3%	36.1%	16.2%	0.4%	100.0%

M2 成績はクラスでどのくらいですか

			M2 成績はクラスでどのくらいですか				合計
			よいほう	ふつう	わるいほう	無回答	
中学生男子	度数		91	207	211	1	510
	%		17.8%	40.6%	41.4%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数		70	245	174	2	491
	%		14.3%	49.9%	35.4%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数		45	116	98	1	260
	%		17.3%	44.6%	37.7%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数		56	135	94	2	287
	%		19.5%	47.0%	32.8%	0.7%	100.0%
合計	度数		262	703	577	6	1548
	%		16.9%	45.4%	37.3%	0.4%	100.0%

M3 あなたは学校をどこまで続けるつもりですか

			M3 あなたは学校をどこまで続けるつもりですか						合計
			中学校まで	高校まで	短大・専門学校まで	大学まで	わからない	無回答	
中学生男子	度数		8	113	59	218	111	1	510
	%		1.6%	22.2%	11.6%	42.7%	21.8%	0.2%	100.0%
中学生女子	度数		5	86	133	159	107	1	491
	%		1.0%	17.5%	27.1%	32.4%	21.8%	0.2%	100.0%
高校生男子	度数		1	44	40	130	44	1	260
	%		0.4%	16.9%	15.4%	50.0%	16.9%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数			45	68	134	38	2	287
	%			15.7%	23.7%	46.7%	13.2%	0.7%	100.0%
合計	度数		14	288	300	641	300	5	1548

□□	%	0.9%	18.6%	19.4%	41.4%	19.4%	0.3%	100.0%
----	---	------	-------	-------	-------	-------	------	--------

M4 学校の放課後の部活動に参加していますか

		M4 学校の放課後の部活動に参加していますか				合計	
		積極的に参加している	いちおう参加している	参加していない	無回答		
中学生男子	度数	300	120	90		510	
	%	58.8%	23.5%	17.6%		100.0%	
中学生女子	度数	258	147	81	5	491	
	%	52.5%	29.9%	16.5%	1.0%	100.0%	
高校生男子	度数	97	38	124	1	260	
	%	37.3%	14.6%	47.7%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	93	47	144	3	287	
	%	32.4%	16.4%	50.2%	1.0%	100.0%	
合計		度数	748	352	439	9	1548
		%	48.3%	22.7%	28.4%	0.6%	100.0%

M5 いまの学年になってから遅刻を何回くらいしましたか

		M5 いまの学年になってから遅刻を何回くらいしましたか						合計	
		していない	5回以内	6回から10回	11回から20回	21回以上	無回答		
中学生男子	度数	318	120	40	12	20		510	
	%	62.4%	23.5%	7.8%	2.4%	3.9%		100.0%	
中学生女子	度数	331	110	24	16	9	1	491	
	%	67.4%	22.4%	4.9%	3.3%	1.8%	0.2%	100.0%	
高校生男子	度数	92	61	33	31	41	2	260	
	%	35.4%	23.5%	12.7%	11.9%	15.8%	0.8%	100.0%	
高校生女子	度数	106	75	38	29	36	3	287	
	%	36.9%	26.1%	13.2%	10.1%	12.5%	1.0%	100.0%	
合計		度数	847	366	135	88	106	6	1548
		%	54.7%	23.6%	8.7%	5.7%	6.8%	0.4%	100.0%

M6 ふだん学校のあるときにアルバイトを

		M6 ふだん学校のあるときにアルバイトを					合計	
		していない	週に1日くらい	週に2~3日くらい	週に4日以上	無回答		
中学生男子	度数	491	6	4	5	4	510	
	%	96.3%	1.2%	0.8%	1.0%	0.8%	100.0%	
中学生女子	度数	485	3	1	2		491	
	%	98.8%	0.6%	0.2%	0.4%		100.0%	
高校生男子	度数	178	6	40	32	4	260	
	%	68.5%	2.3%	15.4%	12.3%	1.5%	100.0%	
高校生女子	度数	147	7	77	54	2	287	
	%	51.2%	2.4%	26.8%	18.8%	0.7%	100.0%	
合計		度数	1301	22	122	93	10	1548
		%	84.0%	1.4%	7.9%	6.0%	0.6%	100.0%

M71 携帯電話を持っている

		M71 携帯電話を持っている			合計	
		あてはまる	あてはまらない	無回答		
中学生男子	度数	178	329	3	510	
	%	34.9%	64.5%	0.6%	100.0%	
中学生女子	度数	262	229		491	
	%	53.4%	46.6%		100.0%	
高校生男子	度数	230	29	1	260	
	%	88.5%	11.2%	0.4%	100.0%	
高校生女子	度数	265	20	2	287	
	%	92.3%	7.0%	0.7%	100.0%	
合計		度数	935	607	6	1548
		%	60.4%	39.2%	0.4%	100.0%

M72 読書好きである

		M72 読書好きである			合計
		あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数	209	299	2	510
	%	41.0%	58.6%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	247	239	5	491
	%	50.3%	48.7%	1.0%	100.0%
高校生男子	度数	117	142	1	260
	%	45.0%	54.6%	0.4%	100.0%
高校生女子	度数	132	153	2	287
	%	46.0%	53.3%	0.7%	100.0%
合計	度数	705	833	10	1548
	%	45.5%	53.8%	0.6%	100.0%

M73 テレビ・ラジオ欄以外の新聞記事を毎日読む

		M73 テレビ・ラジオ欄以外の新聞記事を毎日読む			合計
		あてはまる	あてはまらない	無回答	
中学生男子	度数	159	349	2	510
	%	31.2%	68.4%	0.4%	100.0%
中学生女子	度数	106	383	2	491
	%	21.6%	78.0%	0.4%	100.0%
高校生男子	度数	88	169	3	260
	%	33.8%	65.0%	1.2%	100.0%
高校生女子	度数	67	217	3	287
	%	23.3%	75.6%	1.0%	100.0%
合計	度数	420	1118	10	1548
	%	27.1%	72.2%	0.6%	100.0%

青少年の人間関係に関する調査研究報告書

発行者 青少年人間関係調査研究会（代表 矢島正見）

発行日 2002年3月31日

編集者 横山 実・山本 功

本報告書は、財団法人 社会安全研究財団の助成を受けて刊行したものである。